

ク之部 久(我、喜、下)

(※印は姻族関係)

ク九

久我於菟二郎 資産家 岡山縣在籍...

久我 俊一 材木商 大阪府在籍...

久我 貞三郎 三菱商事 金庫部部長...

久喜 豊彦 從五位勳四等、神戸商會銀行...

久喜 文重郎 埼玉縣多額納稅者、秩父織物...

久下 武治郎 自轉車製造業 大阪府在籍...

久喜 辨藏 瀧野川區會議員、地主...

久下 武治郎 自轉車製造業 大阪府在籍...

久世 崇徳 川崎第百銀行 小山支店長...

久下 豊忠 勳八等、和歌山新報社...

久家 常藏 大分縣多額納稅者、樹屋、酒造業...

久慈 美枝 從五位勳四等、地方技師、岡山縣...

久郷 梅松 正五位勳四等、地方技師、岡山縣...

久次米 定助 阿波商業銀行、阿波貯蓄銀行...

久慈 巳代藏 北海道多額納稅者、地主...

久慈 學 從五位勳四等、奈良縣書記官、學務部長...

久慈 美枝 從五位勳四等、奈良縣書記官、學務部長...

ク之部 久(下家、婚次、慈、世)

(※印は姻族関係)

ク九

久(世、通、野)

とあり(東京市蒲田區蒲田町七二六)

久世 庸夫

正七位、福岡市長 妻 申代 明一七、一生、工學博士片岡安美

久世 廣武

從五位、子爵 當家は太政大臣久我通博の男久世古太夫の後なり三世

久世 通章

從二位勳四等、子爵、殿掌 妻 眞子 明三九、一生、庶子章葉妻、大阪

久邇 邦久

正四位勳一等、侯爵、陸軍歩兵大 妻 眞子 明四九、一生、子爵松浦清二

久野 五十志

九州送電線取締役 妻 小松 明二三、七生、新潟、本儀正妹

久能 銀次郎

不二川、料理業 妻 眞子 明一〇、五生、東京、吉川かめ妹

久能 木宇兵衛

久能木本店、石油燭燻吸入器商 妻 眞子 明三六、七生、東京、橋本長一郎

久能 木孝則

日本度量衡協理理事、度量衡器販 妻 眞子 明三七、九生、長男得一妻、東京

久芳 小六

岩山商店事務取締役 妻 眞子 明二八、八生、養父清長女

(※印は姻族關係)

ク一〇

久野 浩一

正五位勳六等、千葉醫科大學附屬 妻 眞子 明二三、五生、東京、肥田密三四

久野 松次郎

大君勳業勳務取締役、三好鐵業 妻 眞子 明一五、一生、福岡、永沼敬三

久原 房之助

從三位勳二等、衆議院議員(山口 妻 眞子 明一六、四生、山口、鮎川義介妹

久原 光夫

久原本店代表社員 妻 眞子 明二三、五生、東京、肥田密三四

久原 光夫

久原本店代表社員 妻 眞子 明二三、五生、東京、肥田密三四

ク之部

(※印は姻族關係)

ク一一

久世 庸夫

正七位、福岡市長 妻 申代 明一七、一生、工學博士片岡安美

久世 廣武

從五位、子爵 當家は太政大臣久我通博の男久世古太夫の後なり三世

久世 通章

從二位勳四等、子爵、殿掌 妻 眞子 明三九、一生、庶子章葉妻、大阪

久邇 邦久

正四位勳一等、侯爵、陸軍歩兵大 妻 眞子 明四九、一生、子爵松浦清二

久野 五十志

九州送電線取締役 妻 小松 明二三、七生、新潟、本儀正妹

久(布保)

君は大阪府人久原房之助の長男にして明治三十八年九月十三日を以て生る昭和四年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し現時久原本店代表社員たり(東京市芝區白金今里町一八電高橋九八〇)

久布白兼治

君は佐賀縣士族久布白兼興の長男にして明治十九年二月を以て生る同四十四年熊本第五高等學校工學部土木工學科を卒業し臺灣基隆築港局技師臺灣工部局技師臺灣總督府技師等を勤勞し大正八年臺灣電力會社に技師を命ぜられ同十三年再び臺灣總督府技師地方技師に兼任し現時新竹州内務部土木課長たり(家族は尙二女姉子(大正九年生)三女玲子(同十二年生)二男兼任(昭和三年生)四女京子(同六年生)あり(臺灣新竹市新竹廳内務部土木課内))

久保猪之吉

君は代々二本松藩に仕へたる家柄なり君は先代常保の長男にして明治七年十二月を以て生れ同四十四年家督を相続す先是同三十三年東京帝國大學醫學科大學を卒業し更に大學院に入り耳鼻喉科を専攻し同三十六年獨逸兩國に留學す後京都帝國大學醫學科大學助教授に任じ同四十年歸朝後同教授に就き現在に及ぶ同年醫學博士の學位を受く義に本邦代表として外國の醫學會議に出張す事數回現時獨逸柏林咽喉科學會及獨逸維納咽喉科學會のコレスボンチレンデス・ミットグリード英國王立醫學會咽喉科學部の名譽通信會員にして昭和三年獨逸レオポルチナ學士院會員に推さる又昭和七年學術研究會議員に任ぜられ「雜誌耳鼻喉科」主幹たり

久保孝三

君は東京府人久保五郎の二男にして明治二十六年十月二十七日を以て生れ大正四年兄五郎方より分れて一家を創立す村木商を營む家族は尙二女富美江(大一一三二生)三女美代子(同四一四、六生)四女静恵(昭二、一三)五女育代(同三、三三)三男榮三(同四、四生)六女喜久惠(同五、一三)四男圭四郎(同七、八生)ありA三〇一B一三九(東京市澁谷區大和田町一電青山一七四〇)

久保志遊吉

君は岐阜縣人渡邊久三郎の二男にして明治十六年一月十九日を以て生れ先代榮七の養子となり大正元年家督を相続す夙に松坂屋に入り同社上野支店商品部長に進む現時同地に在り家族は尙三男喜男(大六、一三)二女美枝(同二、一三)三女榮子(同四、一三)あり

久保和夫

君は埼玉縣人小澤七右衛門の二男にして慶應三年七月十日を以て生れ先代三郎の養子となり明治四十年家督を相続す同二十五年慶應義塾理財科を卒業し日本銀行に勤務し後家業に従ふ現時前記銀行の重役に擧げられ栃木縣多額納稅者に列し直接國稅千九百九十六圓を納め貴族院議員に選ぜらる事二回現に其任に在り義に宇都宮商會特別議員栃木縣社會事業協會副會長中村長等に推さる家族は尙孫京一(昭四、八生)二男九助(昭五、五生)日本女大出身あり長男有養妹セイ(同三、八、五生)日本女大出身あり長男有吉(昭四、一三)同妻ヨネ(同三、六、八生)栃木、柳哲は栃木縣人醫學士和田彪二郎に嫁せり(栃木縣芳賀郡中村電字都宮九七二) 参照||田中穂積田中周衛田中庄一郎の項

久保市三郎

貴族院議員、栃木縣多額納稅者、栃木縣農工銀行頭取、下野新聞社取締役、農業、栃木縣在籍 元治元、一生、栃木、鹿野敬次郎 明七、九生、福島、伊藤隆三郎 明三、五、三生、早大出身 明四、二、一、生、二男九助妻、法學博士 土田中徳二女、日本女大附屬高女出身

久保正吉

君は東京府士族久保之昌の庶子同正吉の兄にして明治十六年十一月を以て生れ同三十七年兄方より分れて一家を創立す同三十六年東京高等工業學校機械科を卒業し現時芝浦製作所取締役たり家族は尙二男弘吉(大一一〇、八生)三男康夫(同二、二、生)ハ女八重子(同二、一、五、三生)六女富美(昭五、七生)ありA九〇八(東京市大森區田園調布三ノ三〇一電田園調布七七) 参照||久保正助次羽英二電田園調布七七の項

久保正助

君は東京府士族久保之昌の庶子同正吉の兄にして明治十二年二月一日を以て生れ同三十三年兄方より分れて一家を創立す同年東京高等商業學校を卒業し現時松商會無限責任社員にして義にベルベツト石神戸瓦斯尼崎瓦斯各社の重役を兼ねる家族は尙三男龍雄(大五、一三)四男昌平(同七、八、生)五男八郎(同二、一、二、生)ありA一〇六(神戸市神戶區神戶港地方山後一六電元町三〇五四) 参照||阿部金次郎、久保正吉次羽英二電中島資朋の項

久保甚吉

君は千葉縣人久保藤太郎の二男にして明治二十年七月を以て生る同四十三年東京高等工業學校電氣科を卒業し通信技術師兼電信局長臨時調査局技師大日本電球會社技師兼實験課長熊本高等工業學校教授等に任じ大正十年廣島高等工業學校教授に任じ今日に至る義に英米佛國に留學す家族は尙二男彰治(大一一、三、生)三女春子(昭四、五、生)兄十三郎(明一八、三、生)同妻かつ(同二、二、五、生)千葉、久保兵衛姉)及其子女あり弟彌太郎(同二、七、四、生)は分家せり(廣島市千田町二ノ七二四)

久保九兵衛

君は福井縣人齋藤清兵衛の三男にして嘉永五年三月四日を以て生れ先代九兵衛の養子となり明治十二年家督を相続す農業を營み直接國稅二千二百圓を納め縣下の多額納稅者に列す義に福井縣農工銀行取締役たり事あり家族は尙孫一郎(大一一、二、七、生)四男附長男)同敏雄(同二、一、一、生)同三男)同壽子(昭三、一、一、生)同長女)同誠也(同五、七、生)同四男)あり二男明(明一八、二、生)は分家し二女り(同二、六、一、生)は福井縣人伊吹長兵衛に嫁せり(福井市玉井町)

久保勘治

君は大阪府人松並資太郎の弟にして明治十七年三月を以て生れ大正十四年久保榮次郎の養子となり昭和九年家督を相続す現に日本足袋會社代表取締役たり(大阪府南區豐通二ノ二電船場二四〇九) 参照||松並資太郎の項

久保謙

君は岩手縣人飯岡定吉の三男にして明治二十六年十一月を以て生れ久保誠之の養子となり現に現住主 養父 誠之 嘉永四、一生、東京、飯岡ノメ 養母 ミツ 明元、一生、東京、飯岡ノメ 妻 光 明三、四、五、生、北海道、逸見文雄 弟 道也 大一一、一、生

ク之部 久(保)

久保甚吉

久保清兵衛

地主 兵庫縣在籍

妻 元治元、七生、兵庫、高岡米藏妹
男 永太郎 明三、一、三、長男水太郎妻、大
婦 富美 明三、一、三、長男水太郎妻、大
男 保清 明三、一、三、長男水太郎妻、大
女 吉榮 明三、一、三、長男水太郎妻、大

久保盛徳

醫學博士、慶應義塾大學助教、
醫學部勤務、大阪府士族

妻 政子 明三、一、三、長男水太郎妻、大
男 盛唯 昭六、二、生、陸軍大尉渡邊鏡太
昭六、二、生、陸軍大尉渡邊鏡太

久保武三郎

地主主 大阪府在籍

妻 房子 明二、六、二、生、男爵北島千秋姉
男 武造 明四、五、三、生、大阪電話研究會第
二部書記

久保健慶

正四位勳三等、九州帝國大學教授
農學部長、福岡縣在籍

妻 登美 嘉永四、一、生、高知、土、田島正
實妹
男 健彌 明四、三、一、生
女 健子 明四、三、一、生

久保種一

足利市長 福井縣在籍

妻 ミノ 明二、四、三、生、栃木、吉田信一郎
男 健三 明三、一、四、生、弟嘉七三男
女 健子 明三、一、四、生、弟嘉七三男

久保種松

和歌山縣在籍

妻 千重 明三、五、一、生、養子健三妻、和歌
山、和歌山縣人久保吉平の長男にして文久三年十月を
以て生れ明治十三年祖父傳之右衛門の後を承け家督を

久保信之

從四位勳三等、醫學博士、臺北醫
學專門學校教授、佐賀縣士族

妻 本女 明四、二、二、生
女 タツ子 明四、一、一、生
女 ヌキ子 明四、三、一、二、生

久保綱彦

正五位勳三等、海軍造船少將、横
濱船渠事務所、熊本縣在籍

妻 菊枝 明三、一、一、生、長男、水野茂八
男 桂 明四、四、一、生
女 米 明四、四、一、生

久保貞次郎

正五位勳三等、地方技術、群馬縣
内務部勤務、群馬縣立農事試験場
長、群馬縣在籍

妻 貞子 明一、〇、九、生、群馬、品川爲七孫
男 明三、四、五、生、山士、山士
女 武 明三、六、七、生、山士、山士

久保彦次郎

教習港倉庫取扱役、久保登代
表社員、福井縣在籍

妻 のぶ 明三、一、一、生、養母きぬ私生子
養子 文藏 明三、一、一、生、養母きぬ私生子
養子 喜美子 明三、九、三、生、養子文藏妻、石川
士、久保彦兵衛長女

久保彦助

海産物商 石川縣士族

妻 小太郎 明三、三、四、生、生母、石川、今井
シナ、久一久保商店取扱役、石
川、藤森しう養子
男 甲 龍 明三、七、一、生、庶子小太郎妻、石
川、藤森しう養子

久保藤吾

武田長兵衛商店社員 大阪府在籍

妻 菊野 明二、四、五、生、東京、吉村俊一妹
男 藤野 大一一、六、生
女 富美子 大四、四、生

久保徳太郎

聖路加國藥病院副院長、婦人科醫
師愛媛縣在籍

妻 良知 明四、四、三、生
男 文子 明三、九、三、生
女 慎三 大三、一、生
女 美佐子 大九、三、生

久保仁吉

福井縣多額納税者、酒造油鹽業
福井縣在籍

妻 ヒサ 明九、六、生、福井、楳田四郎左衛
門妹
男 直正 明四、四、一、二、生
女 靜子 明四、三、二、生

久保豊四郎

從四位勳三等、前岩手縣知事
東京府在籍

妻 もと 義妹 明一、八、一、二、生、東京、渡邊一郎
男 正彦 大元、一、二、生
女 博子 大六、一、一、生

久保種三郎

從四位勳三等、醫學博士、臺北醫
學專門學校教授、佐賀縣士族

妻 本女 明一、六、二、生、岡山、戸田江三郎
長女
女 タツ子 明四、一、一、生
女 ヌキ子 明四、三、一、二、生

久保彦次郎

教習港倉庫取扱役、久保登代
表社員、福井縣在籍

妻 のぶ 明三、一、一、生、養母きぬ私生子
養子 文藏 明三、一、一、生、養母きぬ私生子
養子 喜美子 明三、九、三、生、養子文藏妻、石川
士、久保彦兵衛長女

男 信之 明三〇、一七生、安田銀行本店勤務、早大法科出身。
男 國衛 明三六、一七生、東京自動車工業會社員、工學士。

久保田 吉律

君は香川縣久保田太助の二男にして明治十五年十月を以て生れ同四十五年家督を相続す同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し...

久保田 清

君は東京府久保田太助の二男にして明治十五年十月を以て生れ同四十二年久保田家に入大正三年東京帝國大學工學科大學機械工學科を卒業し...

久保田 敬

君は香川縣久保田太助の二男にして明治十五年十月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し...

三、二生)あり亡妻見勝美幸くみ(明一九、八生、東京松山岡太郎妹)は其子女を伴ひ分家せりA一(一、東京市品川區大井町二九二〇〇〇電話四〇八四)
參照II四谷常太郎、松山岡太郎の項

久保田 金五郎

君は岐阜縣久保田先代金五郎の長男にして慶應三年一月三十一日を以て生れ明治三十二年家督を相続し前名桑次郎を改む...

久保田 敬

君は香川縣久保田太助の二男にして明治十五年十月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し...

久保田 權四郎

君は香川縣久保田太助の二男にして明治十五年十月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し...

久保田 助太郎

君は兵庫縣久保田太助の二男にして明治十五年十月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し...

久保田 惣右衛門

君は香川縣久保田太助の二男にして明治十五年十月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し...

久保田 省三

君は長野縣久保田新兵衛の庶子にして明治十五年五月十五日を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す同四十二年東京帝國大學理工學科大學探査冶金學科を卒業し...

長男(一長女)あり長女シツエ(明二八、一七生)は其夫篤次郎(同二四、七生、大阪、土、東山篤義二男)及其三子と共に分家し二男藤造(同三〇、一七生)も亦其妻を伴ひ分家し四女ミチ子(同四三、八生、夕陽丘高女出身)は大阪府人天野三郎に五女子鶴子大元、八生、出身同上)は同府人井野大介に嫁せりA一八一七、大阪府浪速區船場町二ノ二電話三五〇一參照II天野三郎、久保田藤造、久保田篤次郎參照高木義一の項

久保田家の遠祖は源頼朝の臣たり傳ふ世々滋賀縣日橋村に住せしが中世京都に移住し榮母商を營み傍ら製菓運販を製菓販賣し資産を成す君は先代庄左衛門の二男にして明治二年六月二十七日を以て生れ同十六年家督を相続し前名幸次郎を改む...

ク之部 久保

久保田 峻

從五位勳六等、群馬縣書記官、警察部長、熊本縣十族...

久保田 種吉

久保田組、土木建築師、大阪府在籍...

久保田 てつ

金物商、東京府在籍、君は東京府人久保田鐵太郎の三女にして...

久保田 藤造

四田川精鐵所専務取締役、玉川水道、久保田鐵工所、久保田鐵工所...

久保田 藤造

君は大阪府人久保田藤造の二男同篤次郎の養弟にして...

久保田 登

京都府在籍、妻 エン、明九、九生、京都、矢木芳太郎姉...

久保田 晴太郎

勳八等、藤原銀行取締役、同縣在籍...

久保田 勉之助

正五位勳四等、理學博士、東京帝國大學教授、理學部助務、理化學研究所研究員...

久保田 篤次郎

日本自動車取締役兼大阪工場長、久保田鐵工所各廠監査役...

久保田 富三

明治製糖取締役、東京府在籍、父 信平、安政四、一〇生、現戸主...

久保田 豊吉

山陰産産業、日本酒造各種取締役、島根縣在籍...

久保田 直己

高知縣多額納税者、染織製造乾物雜貨卸商、高知信用組合監事...

ク之部 久保

久保田 篤次郎

日本自動車取締役兼大阪工場長、久保田鐵工所各廠監査役...

久保田 富三

明治製糖取締役、東京府在籍、父 信平、安政四、一〇生、現戸主...

久保田 豊吉

山陰産産業、日本酒造各種取締役、島根縣在籍...

久保田 直己

高知縣多額納税者、染織製造乾物雜貨卸商、高知信用組合監事...

久保田 直己

高知縣多額納税者、染織製造乾物雜貨卸商、高知信用組合監事...

久保田 松之助

勳七等功七級、淺草ビルディング取締役、帝中央屠場、カフエ...

久保田 萬太郎

日本放送協會理事、業務局演藝課長兼音楽課長、劇作家...

久保田 與市

浪速扇、みのや久保田扇舖、扇子商、大阪府在籍...

久保田 與市

君は大阪府人久保田與市の長男にして明治三十五年八月一日を以て生れ...

久保田 與市

君は大阪府人久保田與市の長男にして明治三十五年八月一日を以て生れ...

久保田 與市

君は大阪府人久保田與市の長男にして明治三十五年八月一日を以て生れ...

久保田 與市

君は大阪府人久保田與市の長男にして明治三十五年八月一日を以て生れ...

ク之部 久保

ク之部 久保

治二十八年以來臺灣に諸般の事業を經營し群馬縣より選出せられたる衆議院議員たること數次又議會の重役に擧げらるる君は其三男にして明治三十一年十一月二十日...

久米 正雄 鎌倉町會議員、小説家 君は福島縣土族久米由太郎の二男にして明治二十四年...

久米田 新太郎 鹿兒島商工會議所會頭、鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島製米、大隅鐵道、鹿兒島製糖、枕崎製米、山崎製米、鹿兒島水産市場代表取締役、鹿兒島電氣、鹿兒島製糖、日向製糖、加治木電氣各取締役、日向製糖、加治木電氣各取締役、日向製糖、加治木電氣各取締役...

久山 淳一 醬油醸造業、岡山縣在籍 君は岡山縣人久山政三郎の長男にして萬延元年八月を以て生れ後家督を相続す農務を營み傍ら前記會社の重役たり...

久山 知之 衆議院議員(岡山縣選出) 君は岡山縣人久山茂樹の長男にして明治二十二年四月一日を以て生れ同四十二年家督を相続す農に中國民報社員高信銀行支店長西美鐵道美作電化工業各會社重役に歷任し...

久山 重治 藏内礦業取締役 君は岡山縣人久山知政の長男にして明治十三年六月を以て生れ同十五年家督を繼承し現時藏内礦業會社取締役たり...

久山 益喜 正五位勳六等、判事、東京控訴院判事、高知縣在籍 君は高知縣人久山禮田金馬の二男にして明治二十六年一月を以て生れ大正七年京都帝國大學法學部法律學科を卒業し...

久留島 健三郎 從四位、子爵 當家は河野野馬守通有の末葉稻葉田雲守通康の孫右衛門佐康親の後なり...

久留島 武彦 早歲幼稚園主、著述家 君は東京府人久留島通寛の長男子爵久留島健三郎の再從兄なり...

久留島 通彦 矢作水力發電取締役、金城證券取締役、愛知縣在籍 君は大分縣人久留島通興の四男同政治の弟にして明治十九年二月二十日...

久留島 政治 排葉川電氣、石川電氣各取締役、特種製糖、大垣瓦斯電氣各取締役、長良川電化電氣各取締役、東邦電力顧問、愛知縣土族 君は大分縣土族久留島通興の二男同通彦の兄にして明治六年十月十日...

久留島 通彦 矢作水力發電取締役、金城證券取締役、愛知縣在籍 君は大分縣人久留島通興の四男同政治の弟にして明治十九年二月二十日...

久留島 留三郎 東京新法研究所代表社員 君は東京府人久留島留文の三男にして明治二十六年十一月を以て生れ大正七年京都帝國大學法學部法律學科を卒業し...

公莊 惟和 辯護士、京都府在籍 君は京都府土族公莊幸藏の長男にして同惟和の兄なり...

ク之部 草(川、野、場)

正勝 明三八、六生
吉清 明四三、一八生
君は三重縣人田中桑蔵の二男にして清水義一の兄に當る...

草川 藤二郎
電氣器具製造業
京都府在籍

草川 求馬
草川商會社長、大阪商會理事
大阪府在籍

草野 俊助
正四位勳三等、理學博士、前東京帝國大學教授
福岡縣在籍

草野 嶽男
正五位勳五等、陸軍歩兵少尉、鹿兒島縣立農學校教授
鹿兒島縣在籍

草場 榮喜
正四位勳三等、岐阜高等農林學校長
岐阜縣在籍

(※印は姻族關係)

ク二八

草野 俊助
正四位勳三等、理學博士、前東京帝國大學教授
福岡縣在籍

草野 嶽男
正五位勳五等、陸軍歩兵少尉、鹿兒島縣立農學校教授
鹿兒島縣在籍

草野 豹一郎
從四位勳二等、判事、大審院判事
明治大學教授、東京府在籍

草場 榮喜
正四位勳三等、岐阜高等農林學校長
岐阜縣在籍

ク之部 草(川、野、場)

正勝 明三八、六生
吉清 明四三、一八生
君は三重縣人田中桑蔵の二男にして清水義一の兄に當る...

草川 藤二郎
電氣器具製造業
京都府在籍

草川 求馬
草川商會社長、大阪商會理事
大阪府在籍

草野 俊助
正四位勳三等、理學博士、前東京帝國大學教授
福岡縣在籍

草野 嶽男
正五位勳五等、陸軍歩兵少尉、鹿兒島縣立農學校教授
鹿兒島縣在籍

草場 榮喜
正四位勳三等、岐阜高等農林學校長
岐阜縣在籍

草場 茂一
西妻汽船、西宮土地各代表取締役
東京府在籍

草場 義夫
古賀銀行事務取締役、員島炭礦
佐賀縣在籍

草深 六治郎
三重銀行事務取締役
三重縣在籍

草間 滋
醫學博士、慶應義塾大學教授、北里研究所理事、長野縣在籍

草間 偉
正四位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授、兼工學部助教授
東京府在籍

草間 弘司
從五位勳六等、醫學博士、防疫官
長野縣在籍

草間 秀雄
正四位勳三等、滿洲探金探銅理事
福岡縣在籍

草間 偉
正四位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授、兼工學部助教授
東京府在籍

草間 滋
醫學博士、慶應義塾大學教授、北里研究所理事、長野縣在籍

草間 弘司
從五位勳六等、醫學博士、防疫官
長野縣在籍

ク之部 草(川、野、場)

(※印は姻族關係)

ク二九

君は長野縣人草間安三の三男にして明治二十四年二月を以て生る大正四年新潟醫學專門學校を卒業し同校衛生細菌學教室に勤務す同十一年防疫官に任ぜられマニラ總領事館附となり同十三年米國ジョンス・ホプキンス大學に學び次で國際聯盟保健部員となり昭和四年九月歸朝し現時内務技師を兼任し衛生局勤務たり同四年醫學博士の學位を受く(東京市目黒區原町一・二一五電高輪一〇四四)

草間 良男

醫學博士、慶應義塾大學教授、醫學部勤務、東京府在籍

君は東京府人にして明治二十一年四月三日を以て生る大正五年米國スタンフォード大學を卒業し同年パチエラー・ネッ・アーツ同九年ドクトル・オブ・メディスンの學位を受け慶應義塾大學醫學部講師同助教を経て教授に進み醫學部に勤務し今日に至る義に醫學博士の學位を受けジョンス・ホプキンス大學よりドクトル・オブ・パブリック・ヘルスの學位を授けらるる家族は尙一男三女あり(東京市世田谷區北澤四ノ五九〇電松濤六〇九)

日下 伊兵衛

大阪府在籍、地圖出版業

君は福島縣人佐藤廣治の二男にして明治四年五月八日を以て生れ先代伊兵衛の養子となり同三十一年家督を相續し前名市三郎を改め襲名すわらち屋と稱し地圖出版業を營む家族は尙孫徳藏(大・一、二生)、同養子寅藏(二男)同つね(同三、七生、同二女)同好(同八生、同三女)同福藏(昭三、七生、同三男)ありA五二四B一三(大阪府西區新町通三ノ二〇電新町四六八)

日下 亥太郎

從五位勳四等、前廣瀨郵便局長、東京府土族

君は大阪府人覺道作右衛門の弟にして明治十一年一月十日を以て生れ先代久悦の養子となり同三十七年家督を相續し前名作次郎を改め襲名す府下住吉に幼稚園を設け自ら園長となり尙家傳たる打身薬を製劑販賣す三女静(昭三、八生)は大阪府人園根秀造の養子となれりA一〇〇〇(大阪府浪速區元町四ノ二九四電戎二一三)

君は静岡縣土族日下周の長男にして明治八年十一月を以て生れ同十七年家督を相續す同二十六年東京郵便電信學校を卒業し郵便電信局書記通信書記を経て同三十五年厦門郵便局長となり爾來神戸郵便局外國郵便課長通信事務官補東京中央郵便局外國郵便課長通信事務官上海郵便局長等に歴任し大正十年通信事務官に任じ横濱郵便局長にして通信局事務官を兼任せしも現時退官す義に第七回萬國郵便會議に政府委員に隨行して英獨佛各國に出張す家族は尙三女和惠(大・一、三生)あり(横濱市神奈川區高島三三電本局一一一〇)

日下一郎

正五位勳五等、判事、岡崎區裁判所監督判事兼名古屋地方裁判所岡崎支部長

君は宮城縣土族日下博道の長男にして明治十八年三月を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し判事に任じ下關區水戸區兼岡崎地方下妻區土浦區橫濱地方各裁判所判事函館地方裁判所部長名古屋區兼岡崎地方裁判所部長に補せられ現時前記の職に在り家族は尙二女笑子(大・一、一生)二男進昭四、一生あり(岡崎市康生町岡崎區裁判所内)

日下 巖

正五位勳四等、判事、長崎控訴院判事

君は福島縣土族日下順良の六男にして明治十七年五月を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し大正元年判事に任じ爾來若松區古川區仙臺地方福島地方郡山區盛岡地方各裁判所判事東京控訴院判事に歴補し昭和三年浦和地方裁判所部長に補せられ現時前記の職に在り家族は

尙二女潔(大・一〇、八生)あり(長崎市萬歲町長崎控訴院内)

日下 喜三

家主、大阪府在籍

君は大阪府人先代鶴吉の二男にして明治三十七年三月一日を以て生れ大正十年家督を相續す家主たり家族は尙長女明子(昭四、五生)二女欣子(同七、一生)弟義雄(昭四三、九生)妹茂子(大・二四生)同喜美子(同八、九生)あり(大阪府豊能郡箕面村)

日下 吉平

東京商工會議所常議員、鶴見倉庫代表取締役、大和毛織專務取締役、東京府在籍

君は岡山縣小田郡美山村の舊山室價助の二男にして應應元年一月二十七日を以て生れ明治二十年先代貞五郎の養子となり家督を相續す同二十六年東京法學院を卒業し日本製布東京電氣硝子日本フェルト三國紡績等諸會社の重役に擧げられ現時鶴見倉庫會社代表取締役大和毛織專務取締役にして東京商工會議所常議員たり岡基に趣味を有す長女勝(昭四〇、三生)御茶の水高女專攻科出身)は富山縣人今牧醫院院長兼に嫁せりA四三四(東京市麹町區三丁目二電銀座三二七)

日下 久悦

賣藥業、大阪府在籍

君は岐阜縣人日下部吉右衛門の二男にして明治四年六月を以て生れ同二十三年分れて一家を創立す現時日下部汽船會社岐阜信託會社社長にして前記銀行の重役たり昭和三年結婚義章を賜ふ庶子ハツ(昭三七、四生)生母、北海道、稻葉タカ(同夫彌三郎(同二八、三生)宮田彌助長男)と共に同千代(同三九、九生)生母、北海道、稻葉タカ(同夫春三(同二九、一生)新潟、佐藤伊助弟)と共に各分家せり(岐阜市米屋町電八六八)

日下部 久太郎

十六銀行取締役、岐阜縣在籍

君は岐阜縣人日下部順助の四男にして明治十六年九月一日を以て生れ先代九兵衛の養子となり同三十九年家督を相續す現時飛州貯蓄銀行頭取にして前記各銀行會社の重役を兼ね義に飛州貯蓄銀行頭取等各會社の重役たりし事あり直接間接千四百五十五圓を納め縣下の多額納税者に列す(岐阜縣大野郡高山町電二九)

日下部 九兵衛

岐阜縣多額納税者、飛州貯蓄銀行頭取、飛州貯蓄銀行取締役、岐阜縣在籍

君は岐阜縣人日下部順助の四男にして明治十六年九月一日を以て生れ先代九兵衛の養子となり同三十九年家督を相續す現時飛州貯蓄銀行頭取にして前記各銀行會社の重役を兼ね義に飛州貯蓄銀行頭取等各會社の重役たりし事あり直接間接千四百五十五圓を納め縣下の多額納税者に列す(岐阜縣大野郡高山町電二九)

日下部 彌三郎

日下部汽船取締役、岐阜信託專務取締役、岐阜縣在籍

君は岐阜縣人宮田彌助の長男にして明治二十八年三月を以て生れ日下部久太郎の養子となり大正十三年分れ

日下 辰太

正五位勳四等、關東廳内務局長、博物館長、岡山縣在籍

君は岡山縣人日下部太の長男にして明治二十三年十一月十九日を以て生れ同三十一年家督を相續す大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し農商務局となり同文官高等試験に合格す爾來臨時産業調査局事務官水産局書記官兼水産講習所教授水産局事務官兼農商務省書記官農商務省事務官特許局事務官法制局事務官農商務省書記官等に歴任し關東廳事務官官房文書課長となり昭和五年關東廳事務官に任じ内務局殖産課長兼議室長務となり同七年關東廳内務局長に任ぜられ同八年博物館長兼任となり大正十五年歐米各國に出張を命ぜられ昭和二年歸朝す家族は尙二女千鶴子(大九、四生)四女安佐子(同二、一生)五女仁世(同三、六生)六女弘子(同五、三生)あり三女愛子(同二、一生)は岡山縣人日下部治郎の死跡を相續し父謙太(慶應三一生)は絶家角南氏を再興し母常(同元、一生)亡祖父龜三郎(長女)は分家し叔母歌(昭二、三生、同三女)も亦其三子を伴ひ分家し姉萬子(昭一七、三生)は東京府人桑田豊藏に同照子(昭二二、一〇生)は山口縣人増野純亮に嫁せり(旅順市日通町關東廳内務局長官舎電四二〇)

日下 安太郎

日下商店社長、岡山織物組合長、岡山縣在籍

君は岡山縣人日下部太の長男にして明治二十三年十一月十九日を以て生れ同三十一年家督を相續す大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し農商務局となり同文官高等試験に合格す爾來臨時産業調査局事務官水産局書記官兼水産講習所教授水産局事務官兼農商務省書記官農商務省事務官特許局事務官法制局事務官農商務省書記官等に歴任し關東廳事務官官房文書課長となり昭和五年關東廳事務官に任じ内務局殖産課長兼議室長務となり同七年關東廳内務局長に任ぜられ同八年博物館長兼任となり大正十五年歐米各國に出張を命ぜられ昭和二年歸朝す家族は尙二女千鶴子(大九、四生)四女安佐子(同二、一生)五女仁世(同三、六生)六女弘子(同五、三生)あり三女愛子(同二、一生)は岡山縣人日下部治郎の死跡を相續し父謙太(慶應三一生)は絶家角南氏を再興し母常(同元、一生)亡祖父龜三郎(長女)は分家し叔母歌(昭二、三生、同三女)も亦其三子を伴ひ分家し姉萬子(昭一七、三生)は東京府人桑田豊藏に同照子(昭二二、一〇生)は山口縣人増野純亮に嫁せり(旅順市日通町關東廳内務局長官舎電四二〇)

ク之部 日(下、柳) 串、櫛(筒、田)

(※印は姻族関係) ク三二

て一家を創立す現時下部汽船會社取締役の外前記會社

日下部 義一 愛三商船、日乃出、トラス、名古屋合同運送各種監査役、山奥登代表社員、愛知縣在籍

日下部 義夫 正五位勲三等、判事、大審院判事 東京府士族

日柳 彦九郎 從五位勲六等、山口高等商業學校 教員、香川縣在籍

務し大正二年歐米に留學し歸朝後日本油腦糖製産各會社に入り東京醫學會社事務長に擧げられたり

串田 萬藏 東京商工會議所議員、三菱銀行取締役會長、百十銀行、三菱海上火災保險、東京海上火災保險、東京生命保險

櫛筒 隆督 三位勳三等、子爵、金澤電氣軌道總務、日新洋行、新島洋行、各職

葛川 助三郎 萬川名代表社員、大和屋、津商 京都府在籍

男 隆智 大正、六生、從五位 女 麗子 明四、九生

櫛田 伊之助 正五位勲四等、公認人 愛知縣在籍

櫛田 和助 櫛田島上郷名代表社員、捺染 京都府在籍

葛原 猪平 東洋冷蔵取締役 東京府在籍

ク之部 櫛(部) 鯨、葛(生、川、野、原、谷)

(※印は姻族関係) ク三三

櫛部 荒熊 辯護士 慶應、一一生、東京、林馬作養 妻 きく

鯨井 恒太郎 正四位勲二等、工學博士、東京帝國大學教授、東京工業大學教授、東京電氣研究所長

葛生 睦 丸川運輸社長、豊國セメント、三和自動車各種取締役、日華實代表社員、東京府在籍

養子 清 明五、六生、千葉、小倉與一三 男 明四、五、六生、千葉、小倉與一三

葛野 友槌 神戸商工會議所常議員、浪速製材 神戶市製材株式會社社長、神戶市市場取締役、葛生實代表社員、神戶市材木商同業組合長、神戶包裝協會副會長、兵庫縣在籍

葛谷 貞二 葛谷眼科院、醫師 愛知縣在籍

ク之部 葛和 楠

醫學博士(同三〇、六生、愛知、柴田廣右衛門四男)及其一男と共に分家し二女花子(同四三、三三)は愛知縣人大島醫學博士に嫁せりA八八一(名古屋市中區南園町一ノ三電本局七六〇)

葛和 安太郎 土木建築請負業
東京府在籍
妻 アトマ 明二〇、九生、富山、佐伯主尾長
男 榮一 明四五、三三
女 ウタ子 明四三、三三

君は東京府人葛和源太郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同四十二年家督を相続す土木建築請負業を営む家族は尙三男國太郎(大六、七生、四男幸作(同四一、二生)ありA二二八B二二〇(東京市麹町區麹町九ノ一四電九段一六五〇)

ク之部 楠 正治

運輸課長及教習所々長に歷任交通事業に専念せりA三七〇(東京府北多摩郡狹間村岩戸一三二九)

楠 正治 大阪製材、楠商店各務社長、楠靈代表社員、材木問屋業
兵庫縣在籍
母 文久二、三生、兵庫、西山二兵衛
妻 こはる 明二六、二二生、兵庫、名村與三郎三女
男 富美治 大六、四生

君は兵庫縣人楠彌助の長男にして明治二十年五月を以て生れ同二十三年家督を相続す材木問屋業を營み前記各會社社長たり姉たか(明一八、二生)は兵庫縣人進藤市之助の養子となり(大阪府港區千鳥町四六電櫻川一四二五)

楠 喜助

大阪府在籍
妻 ハル 明一四、一三、養父喜助二女
男 喜太郎 明三六、三三、神戸高商出身
男 先子 明三九、九生、長男喜太郎妻、大島、小寺篤兵衛長女
男 勇次 明四〇、四生、神戸高商出身
女 喜代子 明四二、二二生

君は石川縣人堀岡忠助の長男にして明治七年九月三日を以て生れ同三十二年先代喜助の養子となり大正元年家督を相続す同四年前山太郎を改め襲名す家主たり諸曲淨瑠璃に興味を有す家族は尙孫喜一(昭三、一三、長男喜太郎長男)同二郎(同四、九生、二男)あり(大阪市東區南久寶寺町四ノ一六電船場四六七)

楠 能治郎 小田原急行電鐵取締役、帝都電鐵理事、東京府在籍
妻 たま 明一、一三、東京、長尾忠國
男 義基 大三、一三

君は山梨縣人楠正有の六男にして明治七年四月二日を以て生れ同三十三年兄七太郎方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役に舉られ茲に東京市主事電氣局

楠 久接

山九商會總取締役、東京電燈總主事、經理係長
山梨縣在籍
妻 たけよ 明二三、一〇生、長野、堀内桂造三女
男 正久 明四五、七生、山形高商出身
女 文代 大二、一三、自由學園出身

君は山梨縣人楠正接の二男にして明治九年二月を以て生れ大正十二年兄正雄の後を承け家督を相続す明治三十五年中央大學を卒業し現時東京電燈會社主事同經理係長たる外前記會社の重役たり茲に濱松證券電氣力各會社監査役東京電氣會社社長たりしことあり家族は尙四女睦子(大一一、一三)あり姉滿壽(明一一、六坂區青山町五ノ二七電青山四七八)

楠 太 醫學博士、楠病院長、醫師
愛知縣在籍
妻 ふく 明一七、三三、愛知、丹羽氏任姓
男 隆光 明三九、一二生、長男隆光妻、東京、木下正中五女、御茶の水高女出身

楠 基道

正五位勳四等、衆議院議員(岐阜縣選出)、岐阜縣在籍
妻 はる子 明二七、三三、千葉、海老原干城
男 正信 大二、三三

君は岐阜縣人楠眞道の二男にして明治十六年八月を以て生れ大正七年兄基道方より分れて一家を創立す明治四十三年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し富山山形兵庫各縣技師島根岡山佐賀長崎各縣土木課長及内務技師等に歷任昭和八年退官し同九年工學博士の學位を授けらるる家族は尙二男正之(大四、一三)三男正孝(同六、一〇)四男正俊(同一〇、六)あり(東京市中區區宮園通五ノ二九)

君は岐阜縣人楠眞道の長男同眞道の兄にして明治十四年六月九日を以て生れ大正五年家督を相続す明治四十二年京都帝國大學文學科大學東洋史學科を卒業し同二年各高等女學校校長兼第一中學校校長兼南高等商業學校講師佛教大學教授兼同校園圖書館長支那山東省國立

濟南高等師範學校教授等を歴任し昭和七年郷黨より兼れて衆議院議員に當選し立憲政友會所屬たり茲に歐米推し留學して「西藏文法書」の一著あり家族は尙二男道忠(大六、一二)三男忠尚(同一〇、六)四男尙史(同一六、三)五男史剛(昭四、三)あり弟正允(明二七、二)は分家し妹とめ(同二九、八)は滋賀縣人特元齋雲に嫁し弟正洪(同三三、八)は東京府人藤田武夫の養子となり妹あや(同三五、二)は同府人兒玉一郎に同じ(同三八、七)は岐阜縣人野村了本に嫁せり(岐阜縣掛妻郡大野町)

參照「楠宗道」の項

男 寛治 明四二、六生、大阪府水道部勤務工學士
男 道元 明四五、二生、歐洲國外交通部勤務日露協成學校出身
男 正巳 大二、一〇生、東亞同文書院在學

君は鳥取縣人西垣新太郎の三男にして明治十六年十月三日を以て生れ先代助太郎の養子となり同四十二年家督を相続す同三十五年早稲田大學法科を卒業し夙に協立銀行取締役を擧げられ現に推されて鳥取市長鳥取商工會社顧問たり茲に鳥取市會議長に當選する事(二)に及ぶ家族は尙四男敏成(大五、六)生、日大工學部在學(同三一、一〇)生、八男康男(昭二、三)あり長女素代(明四四、三)は鳥取縣人加藤文雄に嫁し六男嘉雄(大一一、二)生、は同縣人杉本秀雄の養子となり(鳥取市立川町四ノ二〇電八八)

楠 如龍 高知新聞主筆
高知縣在籍
妻 春 明三一、三三、高知、長尾景積長女
男 龍 大一、二二生

君は高知縣人楠瀬貞六の二男にして明治十四年十月を以て生れ後前名幸吉を改め大正十二年家督を相続す明治四十二年早稲田大學文科を卒業し現時高知新聞主筆たり家族は尙姉益衛(明一一、一)あり(高知市西唐人町一八電七六〇)

母 靜 明八、一二生、高知、土、下村賢八長女
妻 君子 明四三、八、生、滋賀、原元藏長女、第六高女出身
女 千羽枝 大元、九生

君は高知縣人楠田一兄の長男にして明治十三年十月を以て生れ同十四年家督を相続す林業を營み直接國稅八百六十四圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙二男郁夫(大五、一〇)生、四男助夫(同一二、一)生、弟彌次郎(明一六、二)生、同妻ツヤ(同二二、八)生、熊本、士楠田宗春(二女)及其二男一男弟三郎(同一七、一)生、同妻ユウ(同二五、九)生、熊本、士、尾方清間(二女)及其三男弟日出四郎(同二〇、三)生、同妻ミサヲ(同三五、一二)生、熊本、矢島篤宜(二女)及其三男二女弟集五郎(同二二、九)生、同妻靜枝(同三四、八)生、高知、松田良穗(弟宗光(同三三、一〇)生)同妻加賀子(同三七、四)生、熊本、内藤敬一(長女)及其一女弟紀元(同三三、二)生、あり長女ヌメ(同三五、八)生、は熊本縣人藤井石泉に二女男子(同二九、一)生、は東京府人坂内順榮に妹ま(同二七、五)生、は熊本縣人田上一忠に嫁し同(同三七、三)生、は分家せり(熊本市本山町電六六)

楠 郁太郎 熊本縣多額納稅者、林業
熊本縣在籍
母 知 安政三、一三、生、楠田武一郎二女
男 農林夫 明四四、八生

楠井 伊三郎 山口商店總取締役
兵庫縣在籍
妻 三子 明二四、五生、兵庫、久竹直之介長女
男 新三 大六、一〇生
女 新三 大六、一〇生

君は滋賀縣人楠井喜三郎の二男にして明治十八年十一月十八日を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す現時山口商店取締役たり家族は尙五男正雄(大一一、〇)五生(六男健藏(同一三、二)生)七男康夫(昭四、一)生)ありA二四三(西宮市御所町四六電一一二)

參照「楠宗道」の項

楠瀬 正一 鈴木薄荷專務取締役、日本樟腦株監査役、高知縣在籍
妻 千代子 明四二、二二生、滋賀、八田知明長女
男 正太郎 大四、三三
女 光子 大七、五生

君は高知縣人楠瀬常之助の二男にして明治二十二年七月二十六日を以て生れ大正三年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男敏彦(大一一、〇)八生(三男正明(昭四、八)生)ありA七七七八(神戸市葺合區上筒井七ノ一電合一二七五)

楠田 郁太郎 熊本縣多額納稅者、林業
熊本縣在籍
妻 知 安政三、一三、生、楠田武一郎二女
男 農林夫 明四四、八生

楠井 辰治良 大阪堂島米穀取引所取引員、大阪府在籍
妻 英一 明二四、三三
男 英一 明二八、四生、長男英一妻、奈良、榊、ウタ 木村善治郎三女

君は大阪府人楠井重藏の長男にして慶應二年十一月一日を以て生れ明治二十九年家督を相続す、現時大阪堂島米穀取引所清算部正米部取引員たり家族は尙孫美子(大九、四)生、長男英一(長女)あり長女ヌメ(明二六、七)生、は大阪府人長崎仙太郎弟義照に嫁せり A二二七(大九、二〇)六(大阪府北區堂島濱通一ノ一〇一電北三三一一)

參照「長崎仙太郎」の項

楠城 嘉一 鳥取市長、鳥取商工會館顧問
鳥取縣在籍
妻 菊野 明二四、一〇生、養父助太郎長女

楠瀬 雄次郎 從九位、工學博士、逓信省電氣試驗場技師、第四部長、高知縣在籍

楠田 市藏 粉商
兵庫縣在籍
妻 好子 明四三、一二生
女 とめ子 大二、三三

ク之部 楠(井、城、瀬、田)
(※印は姻族關係)
タ三五

楠田 九郎 從四位勳四等、陸軍工兵少尉、奥村組顧問、東京府在籍
 妻 ヒシ 長女
 男 正 夫 大三、一一生
 君は故男爵楠田英世の二男同秀夫の養大尉にして明治十一年四月を以て生れ大正八年兄申八郎より分れて一家を創立す粉商を營む養子松枝(明四〇、三三、兵庫楠岡貞太郎七女)は兵庫縣人灰谷與助子泰平に嫁せり(四七四) (神戸市兵庫區淡町一ノ六一一電漢川二八二)

楠田 竹治郎 機械商、大阪府在籍
 妻 ヨシ 女
 男 竹 治 明三六、一一生
 妻 佳子 明三八、三三、長男竹治妻、奈良男 善二郎 明四一、八生
 男 善 二郎 明四一、八生
 女 善 子 明四一、八生
 君は奈良縣人楠田善七の三男にして明治十年九月三十日を以て生れ後分れて一家を創立す機械商を營む家族は尙女とみ(大一一、五五、女ね(同一四、一二)孫喜美枝(同一四、九生、長男竹治長女(同一二、八生、同長男)あり(六六九(大阪府西區本田一ノ六一一〇電西二二四五)

楠田 秀夫 資産家、東京府在籍
 妻 ヒシ 長女
 男 正 夫 大三、一一生
 君は故男爵楠田英世の二男同秀夫の養大尉にして明治十一年四月を以て生れ大正八年兄申八郎より分れて一家を創立す粉商を營む養子松枝(明四〇、三三、兵庫楠岡貞太郎七女)は兵庫縣人灰谷與助子泰平に嫁せり(四七四) (神戸市兵庫區淡町一ノ六一一電漢川二八二)

楠原 正秀 從五位、農林技術師、米穀部勤務、東京府在籍
 妻 ヨシ 長女
 男 正 夫 大三、一一生
 君は東京府人楠原正三の長男にして明治二十五年六月二十一日を以て生れ大正七年家督を相続す同年東京帝國大學農科大學農藝部卒業し臨時米穀部事務取扱職に任じ爾來名古屋大販各米穀事務所長を歴任し現時本省米穀部勤務たり兼て佛領印度支那及香港暹羅海峽殖民地英領印度並に歐州各國に出張す家族は尙二男邦夫(大一一、〇生)三男淳郎(同一四、九生)あり姉ツヨ(明三三、六生)は静岡縣人榎葉孝平に姉ツヨ(同一二、七生)は東京府人坂田榎三郎に嫁せり(東京市麹町區大手町農林省米穀部)

楠見 暉男 川崎第一銀行務銀座支店長、東京府在籍
 妻 シシ 長女
 男 志 郎 大一一、〇生
 君は岡山縣士族楠見暉平の四男にして明治二十五年二月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す同七年京

養母 ヒシ 明一二、二生、養祖父後次郎長女
 妻 洲 明四四、五生、養父成次郎長女、學習院女學校出身、現戸主
 楠田家は代々佐賀藩に仕へたる中士の家に於いて曾祖父英世に至り成展の役に任和寺宮の参謀として功あり後新潟府判事同縣知事大學大史司法大史司法頭三等判事元老院議員等に歴任し明治二十三年華族に列し男爵を授けらる君實は男爵山内豊政の三男にして楠田九郎の養再男なり明治三十六年四月を以て生れ昭和二年楠田洲の人夫となる風に學習院高等科を経て東京帝國大學農学部卒業す資産家たり養妹相子(明四二、一三、女子學習院出身)は神奈川縣人田實涉に嫁せり(東京市赤坂區淡町六三電青山三五〇) 參照(男爵山内豊政、楠田九郎の項)

楠本 正敏 從三、勳三等、男爵、東京府 族
 妻 ア イ 明二、四生、長崎、士、野澤俊
 男 中 三 明四一、一五
 女 大 助 明二九、三三、正五位
 當家は先代正隆より名を掲げ正隆は萬能大村藩士にして風を尊の大家を唱へ國事に奔走し後仕官して外務大丞新潟縣令内務大丞東京府知事元老院議員副議長等に歴任し東京市會議議長に當り明治二十三年衆議院議員に當選し其副議長に推される事四回同二十九年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして慶應二年十月一日を以て生れ同三十五年襲爵し同三十八年舊名清七郎を改む並に都新聞社長に舉げられ又貴族院議員に當選する事三回に及べり日獨事の功に依り勳功等に大正十三年勳三等に叙せらる二男邦雄(明三三、九生)は分家せり(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町極樂寺砂子坂三九九號二二六)

楠本 彌太二郎 みの吉、川魚料理業、大阪府在籍
 妻 ヨシ 女
 男 隆 義 明四五、六生
 女 和 子 大八、一一生
 君は大阪府人楠本彌助の二男にして明治十六年五月二十日を以て生れ同四十年分れて一家を創立すみの吉と稱し川魚料理業を營む家族は尙三男光三(大四、一五)三女季子(同一、六生)四男龍平(同一三、七生)あり(三三六八B八七(大阪府北區堂島道通一ノ八〇電北二一一一))

楠本 利八 兵庫縣在籍
 妻 リツ 明八、八生、兵庫、楠本利七長女
 君は故兵庫縣多額納税者先代利八の二男にして明治三十八年二月を以て生れ昭和二年家督を相続し前名正忠を改め名を主たり家族は尙弟孝次郎(明四〇、一三、三和銀行神戸支店員、法學士)同德三(同四二、二生)

楠本 吉太郎 看板製造業、彌生ビルディング代表社員、大阪府在籍
 妻 ミチエ 明一八、一一生、大阪、田淵由太
 男 成 一 明四三、二生
 女 ヨシ 明四四、三三、徳島、鈴木功長女
 君は大阪府人楠本庄七の長男にして明治十年二月二十四日を以て生れ同三十八年家督を相続す風に看板製造業に従事し尙現時前記彌生ビルディング合資會社代表社員たり家族は尙孫一郎(昭六、四生、長男成一、男)孫敬子(昭八、一一生、同長女)あり姉トヲ(同一、八生)は大阪府人奥村福蔵に姉トヲ(同一、一一生)は同府人進重三郎に嫁し長女フミ子(同四〇、九生)弟庄治郎(明二〇、八生)姉キキ(明二四、一〇生)二女ミチ子(大同、八生)は何れも分家せり(三八八(大阪府西區京町堀道二ノ二電西住五八八)) 參照(田淵榮次郎の項)

楠本 長三郎 正四位勳三等、醫學博士、大阪帝國大學總長、長崎縣士族

君は長崎縣士族楠本國太郎の長男同長吉の兄にして明治四年一月を以て生れ同十六年祖父正伯の後を承け家督を相続す同三十三年東京帝國大學醫學科大學を卒業し同大學病院助手大阪高等醫學校教授同病院長を命ぜらる昭和六年同大學の官立となるや同大學教授に任じ醫學部長及附屬醫院長に補せられ次で帝國大學となるに及び長岡博士の後を承けて大阪帝國大學總長に舉げられ今日に至る傍ら日本生命衛生會理事監督たり明治四十二年醫學博士の學位を受て獨逸に留學す家族は尙五男四郎(大四、五生)六男五郎(同八、三三)あり二男健次(明四三、一一生)は分家し長女菊江(同三八、九生)は醫學博士長岡半太郎の二男正男に二女八重(同四五、五生)は醫學博士高安道成長男彰に姉トサ(同六、九生)は長崎縣人田川隆一に姉トサ(同一〇、二生)は同縣人服部登四郎に姉トサ(同一三、六生)は同縣人隈房太郎弟彦太郎に嫁せり(一九七九(大阪府北區堂島上通三ノ二電北七五九)) 參照(楠本長吉、高安道成、長岡半太郎の項)

楠本 兵吉 東京府在籍
 妻 キシ 女
 男 進 明四三、二生
 男 雄 明四四、一〇生
 女 八 重 大七、八生
 君は徳島縣人楠本國太郎の三男同長三郎の弟にして明治十九年三月一日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す家主たり家族は尙四男一男(大九、八生)五男芳男(同一二、八生)六男周作(昭三、三三)あり(九四一六三) 參照(楠本長三郎の項)

楠本 正敏 從三、勳三等、男爵、東京府 族
 妻 ア イ 明二、四生、長崎、士、野澤俊
 男 中 三 明四一、一五
 女 大 助 明二九、三三、正五位
 當家は先代正隆より名を掲げ正隆は萬能大村藩士にして風を尊の大家を唱へ國事に奔走し後仕官して外務大丞新潟縣令内務大丞東京府知事元老院議員副議長等に歴任し東京市會議議長に當り明治二十三年衆議院議員に當選し其副議長に推される事四回同二十九年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして慶應二年十月一日を以て生れ同三十五年襲爵し同三十八年舊名清七郎を改む並に都新聞社長に舉げられ又貴族院議員に當選する事三回に及べり日獨事の功に依り勳功等に大正十三年勳三等に叙せらる二男邦雄(明三三、九生)は分家せり(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町極樂寺砂子坂三九九號二二六)

楠本 彌太二郎 みの吉、川魚料理業、大阪府在籍
 妻 ヨシ 女
 男 隆 義 明四五、六生
 女 和 子 大八、一一生
 君は大阪府人楠本彌助の二男にして明治十六年五月二十日を以て生れ同四十年分れて一家を創立すみの吉と稱し川魚料理業を營む家族は尙三男光三(大四、一五)三女季子(同一、六生)四男龍平(同一三、七生)あり(三三六八B八七(大阪府北區堂島道通一ノ八〇電北二一一一))

楠本 利八 兵庫縣在籍
 妻 リツ 明八、八生、兵庫、楠本利七長女
 君は故兵庫縣多額納税者先代利八の二男にして明治三十八年二月を以て生れ昭和二年家督を相続し前名正忠を改め名を主たり家族は尙弟孝次郎(明四〇、一三、三和銀行神戸支店員、法學士)同德三(同四二、二生)

楠本 吉治郎 東京モリスン紡績總務取務役、和歌山縣在籍
 妻 ヒシ 妹
 男 忠 次 大元、一一生、養父武俊長女
 女 花 子 大元、一一生
 女 ヌミ 大八、三三
 君は京都府人佐々木藤七郎の二男にして明治十五年一月を以て生れ先代武俊の養子となり昭和三年家督を相続す明治三十七年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり兼て日本綿花紡績各會社重役たりし事あり家族は尙三男繁六(一一生)四男俊吉(同九、九生)五男明(同一、一一生)六男登(同一四、四生)三女和子(昭二、一一生)四女百合子(同三、六生)あり養叔母美賀恵(明一〇、七生)は和歌山縣人田淵榮次郎に嫁せり(四五三(東京市中區區住吉町二七)) 參照(田淵榮次郎の項)

楠本 吉太郎 看板製造業、彌生ビルディング代表社員、大阪府在籍
 妻 ミチエ 明一八、一一生、大阪、田淵由太
 男 成 一 明四三、二生
 女 ヨシ 明四四、三三、徳島、鈴木功長女
 君は大阪府人楠本庄七の長男にして明治十年二月二十四日を以て生れ同三十八年家督を相続す風に看板製造業に従事し尙現時前記彌生ビルディング合資會社代表社員たり家族は尙孫一郎(昭六、四生、長男成一、男)孫敬子(昭八、一一生、同長女)あり姉トヲ(同一、八生)は大阪府人奥村福蔵に姉トヲ(同一、一一生)は同府人進重三郎に嫁し長女フミ子(同四〇、九生)弟庄治郎(明二〇、八生)姉キキ(明二四、一〇生)二女ミチ子(大同、八生)は何れも分家せり(三八八(大阪府西區京町堀道二ノ二電西住五八八)) 參照(田淵榮次郎の項)

楠本 龍太郎 兵庫縣在籍
 妻 久 子 明三九、一一生、兵庫、楠本利八妹
 男 鷹 大 一 一五、八生
 君は兵庫縣人大時利右衛門の三男同利一郎の弟にして明治三十五年十二月十五日を以て生れ先代とよの養子となり同三十八年家督を相続す家主たり家族は尙長女典子(昭三、一一生)あり(二三三(神戸市兵庫區切戸町七)) 參照(大時利一郎、楠本利八、黒田左武郎の項)

楠山 正雄 早稲田大學文學部講師、著述業、東京府士族
 妻 リん 明二九、六生、東京、成川彦太郎
 男 春 樹 大一一、一一生、青山學院中學部在籍
 君は東京府士族楠山鐵三郎の長男にして楠山又助の甥なり明治十七年十一月を以て生れ同二十年家督を相続す同三十九年早稲田大學文學部英文學科を卒業早稲田文學社編輯新聞社に記者となり又故大隈侯の雜誌「新日本」に編輯主任たり爾來書肆富山房と關係する事二十餘年に及び演劇評論家並に童話作家として廣く知られシニユツレル・イフセン・ストランド・ベルヒ其他他逸及北歐文學に關する著述遺稿多あり現に早稲田大學文學部講師にして富山房百科辭典を主宰す家族は尙長女富美(大八、一一生、東洋英和女學校在籍)二男芳男(同一三、三三)三男三香男(同一五、五五)四男成樹男(同一三、八生)あり養妹コイトは和歌山縣人田淵榮三郎(昭三、八生)未亡夫たり(九四〇〇(東京市東區區霞町一九)) 參照(楠山又助、田淵榮三郎の項)

楠山 又助 正四位勳二等功四級、陸軍中將、東京府在籍
 妻 リツ 明八、八生、兵庫、楠本利七長女
 君は故兵庫縣多額納税者先代利八の二男にして明治三十八年二月を以て生れ昭和二年家督を相続し前名正忠を改め名を主たり家族は尙弟孝次郎(明四〇、一三、三和銀行神戸支店員、法學士)同德三(同四二、二生)

妻 ヤス 明二六、二生、福岡、青木連治妹
君は和歌山縣土佐郡山崎次郎の三男にして明治六年四月を以て生れ昭和二年男正夫より分れて一家を創立す明治二十七年陸軍歩少尉に任じ後陸軍大學校を卒業し累進して陸軍中將に昇る其間參謀本部出仕參謀本部員第十二師團參謀步兵第八師團附大阪警備隊司令官歩兵第四十五師團參謀本部課長歩兵第二十一旅團長關東軍參謀長爾哈特務機關長第三師團長に歷補す現時豫備役たり曾て清國滿洲露國等に派遣せらるる家族に尙妾子賤子(六一〇、一生、岡山、吉岡卯右衛門孫、櫻庭高女在學)ありA二一五(東京市中野區桃園町一七)

君は山口縣人口羽良介の四男にして明治十六年二月十五日を以て生れ昭和八年男良道方より分れて一家を創立す先是明治四十二年應慈會醫學專門學校を卒業す内科醫師にして口羽醫院長たり又昭和七年以來高輪病院内科を擔任す義に大正二年より同三年に至る迄歐米漫遊々々醫學觀察の爲め高輪病院より派遣せらるる家族は尙二男(大七、九生)二女百合子(同九、四生)ありA三七五(東京市芝區二本木四町二電高輪三七〇六)

君は長野縣人香掛權右衛門の長男にして明治十一年八月八日を以て生れ三十年家督を相續す酒造業を營み長野縣多額納税者に列し直接國稅五百八十四圓を納むる家族は尙二男(大六、一〇生)三女(同二一、一〇、三)四女小枝(同二一、三)三男信敏(同二一、一〇)一男あり長女ゆづり(明三五、九生)は長野縣人中山武三郎長男一に妹ひて(同二一、九生)は同縣人松岡牧太郎に同か(同二二、一〇生)は同縣人小松衛に嫁し叔母みち(嘉永五、三)は同縣人岡崎末二の母たり(長野縣小縣郡鹽尻村電上鹽尻三)

君は山口縣土佐郡百濟忠敬の二男にして明治十六年四月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し文官高等試驗に合格す大正二年關東都府參事官となり爾來大阪府事務官三重縣警務部長馬場愛媛各縣内務部長東京府産業部長内務部長に歷補し後北海道廳内務部長長崎縣長各縣知事を經て臺灣總督府殖産局長同營林所長となり昭和六年川崎市長に推され後之を辭し同九年小倉市長に就任し現に其任に在り家族は尙二男忠文(大七、八生)三女三重子(同二〇、九生)四女松子(同二二、八生)五女和子(同三三、二生)あり弟正夫(明二二、一〇生)は金澤家 繼ぎ現時海軍大佐たり(小 市役所内)

君は山口縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は故秋田縣多額納税者香澤其長衛の長男にして明治七年十月を以て生れ大正十五年家督を相續す最上屋と稱し酒造業を營み酒造日のカニ元として知られしが後之を株式組織に改め現時日の九龍造會社にして尙前記銀行會社の重役たり家族は尙二男康次郎(大二、〇八生)二女セツ(同二四、一〇生)三女長子(昭二、一〇生)の外弟武三郎(明三二、二生)同妻サツ(同四〇九生、秋田、高岡久助五女)同武之助(同三四、一〇生)同勝太郎(同三七、六生)同才太郎(同四二、八生)妹ヨシ(同四五、三)再從兄徳吉(慶應三、二)生、香澤徳治(二男)のり妹トク(明一九、八生)は秋田縣人最上源

君は山口縣土佐郡百濟忠敬の二男にして明治十六年四月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し文官高等試驗に合格す大正二年關東都府參事官となり爾來大阪府事務官三重縣警務部長馬場愛媛各縣内務部長東京府産業部長内務部長に歷補し後北海道廳内務部長長崎縣長各縣知事を經て臺灣總督府殖産局長同營林所長となり昭和六年川崎市長に推され後之を辭し同九年小倉市長に就任し現に其任に在り家族は尙二男忠文(大七、八生)三女三重子(同二〇、九生)四女松子(同二二、八生)五女和子(同三三、二生)あり弟正夫(明二二、一〇生)は金澤家 繼ぎ現時海軍大佐たり(小 市役所内)

君は山口縣人口羽良介の四男にして明治十六年二月十五日を以て生れ昭和八年男良道方より分れて一家を創立す先是明治四十二年應慈會醫學專門學校を卒業す内科醫師にして口羽醫院長たり又昭和七年以來高輪病院内科を擔任す義に大正二年より同三年に至る迄歐米漫遊々々醫學觀察の爲め高輪病院より派遣せらるる家族は尙二男(大七、九生)二女百合子(同九、四生)ありA三七五(東京市芝區二本木四町二電高輪三七〇六)

君は故秋田縣多額納税者香澤其長衛の長男にして明治七年十月を以て生れ大正十五年家督を相續す最上屋と稱し酒造業を營み酒造日のカニ元として知られしが後之を株式組織に改め現時日の九龍造會社にして尙前記銀行會社の重役たり家族は尙二男康次郎(大二、〇八生)二女セツ(同二四、一〇生)三女長子(昭二、一〇生)の外弟武三郎(明三二、二生)同妻サツ(同四〇九生、秋田、高岡久助五女)同武之助(同三四、一〇生)同勝太郎(同三七、六生)同才太郎(同四二、八生)妹ヨシ(同四五、三)再從兄徳吉(慶應三、二)生、香澤徳治(二男)のり妹トク(明一九、八生)は秋田縣人最上源

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

君は山形縣人先代門三郎の二男にして明治四年二月を以て生れ同三十年家督を相續し前名鎌作を改め鎌名す縣下の豪農として知られ兼に縣下の多額納税者たり又夙に國井酒造會社の代表取締役として同社の改組と共に之が主宰者として經營の中樞に在り今日に至る家族は尙五男(大七、五生)六男(同二一、四生)七男大藏(同二一、一〇生)孫ヨシ(同七、二生)亡長男俊太郎長女あり長女とキ(明二三、二生)は山形縣人高橋内藏之助に二女セツ(同三三、二生)は同縣人國井七右衛門弟道之助に二女敏子(同三五、一〇生)は同縣人市村小二郎に養子とキ(同二〇、五生)山形、丸谷喜之助長女は東京府人太倉弘堂弟各同に姉たり(同二、九生)は山形縣人鈴木清助叔父婿太郎に妹(同九、八生)は同縣人市村吉太郎に弟(同二四、四)あり(其同妻すみ(同二九、一〇生)山形、仲野半四郎)は其一子すを伴ひ分家せり(山形縣西村山郡寒河江町電一八) 參照 仲野半四郎の項

國枝

大阪農工銀行取締役兼支配人、關西土地稅監査役、岐阜縣士族、母 嘉永六、九生、鼓阜、淺井喜一郎

國枝捨次郎

衆議院議員(東京府選出)、帝國塗料總務取締役、田中電線製造株式會社取締役、東京商會、丸榮回漕店各務監査役、東京府在籍

國枝元治

從三位勳三等、理學博士、東京文理科大学教授兼東京高等師範學校教授、東京府士族

國方新吉

國方レックス店、エンプロイダリー、大阪府在籍

國定勇吉

誠實、誠實、誠實、誠實、誠實、誠實、誠實、誠實

國澤健雄

正四位勳三等、地方技師、大阪府警察廳衛生課長、高知縣在籍

國澤新兵衛

正四位勳二等、工學博士、朝鮮京畿道總督府技師會會長、東京府在籍

國富信一

從五位勳六等、朝鮮總督府技師兼氣象臺技師、學務局觀測所長

國友鼎

從三位勳二等、醫學博士、長崎醫科大學教授、長崎縣在籍

國司伍七

從三位勳二等功四級、陸軍中將、山口縣士族

國司浩助

旭水産、共同漁業、三共水産、曙漁業、日本捕鯊、日本食料工業、南米水産各務取締役、長崎海運、日本合同造船、江ノ島電氣鐵道、山口縣在籍

國武史郎

國武名社員、編輯卸商、福岡縣在籍

國武金太郎

久留米商工會議所顧問、福岡縣多額納稅者、國武特許掛名者、代表社員、織物製造業、地家主、福岡縣在籍

ク之部

國(司、武、富、友)

(※印は姻族關係)

夕四一

ク之部 隈、熊(谷)

(※印は姻族關係)

(明四三、一)は東京府人... 隈部種樹

隈本繁吉 從三位勳二等、大阪高等學校長

熊谷三太郎 福井縣會議員、福井市會議長

熊谷次八 京都府多額納稅者、熊谷次商店

君は兵庫縣人古船... 熊谷榮三郎

君は秋田縣人熊谷... 熊谷強助

君は京都府人熊谷... 熊谷順之助

君は京都府人熊谷... 熊谷信太郎

君は秋田縣人熊谷... 熊谷堅藏

君は山形縣人熊谷... 熊谷謙三郎

君は山形縣人熊谷... 熊谷五右衛門

君は京都府人熊谷... 熊谷直樹

熊谷三太郎 福井縣會議員、福井市會議長

熊谷次八 京都府多額納稅者、熊谷次商店

熊谷直樹 正四位勳三等、醫學博士

ク之部 熊(谷)

(※印は姻族關係)

君は福井縣人先代... 吉野 明三、四生、二男淳二郎妻

君は福井縣人藤原... 熊谷三太郎

君は京都府人熊谷... 熊谷次八

君は京都府人熊谷... 熊谷順之助

君は京都府人熊谷... 熊谷信太郎

君は京都府人熊谷... 熊谷信太郎

君は長野縣人熊谷... 熊谷德兵衛

君は京都府人熊谷... 熊谷直樹

君は京都府人熊谷... 熊谷直樹

熊谷 直次 東京府在籍
君は東京府人熊谷直次郎の二男にして大正四年二月十九日...

熊谷 直太 正五位勳三等、衆議院議員(山形縣選出)
君は山形縣土族熊谷直治の長男にして慶應二年七月...

熊谷 直之 正十位勳六等、陸軍騎兵大尉、京師多額納税者
君は岩手縣人先代平助の長男にして熊谷直之の兄なり...

熊谷 直之 正十位勳六等、陸軍騎兵大尉、京師多額納税者
君は岩手縣人先代平助の長男にして熊谷直之の兄なり...

熊谷 萬次郎 丹羽織物取扱役、布袋屋、金福
君は岩手縣人熊谷萬次郎の長男にして明治八年二月六日...

熊谷 治男 名古屋ホテル務監督
君は岩手縣人熊谷治男の長男にして明治二十年二月...

熊谷 好衛 宮尾炭礦務社長
君は岩手縣人熊谷好衛の長男にして明治九年十一月...

熊谷 萬助 表具地書制商
君は岩手縣人熊谷萬助の長男にして明治二十年二月...

熊谷 半兵衛 岩手縣多額納税者、東北電燈、岩手縣製絲各取捨役
君は岩手縣人熊谷半兵衛の長男にして明治十二年四月...

熊谷 平助 東北漁業、岩手銀行取捨役、岩手縣製絲各取捨役
君は岩手縣人熊谷平助の長男にして明治二十年二月...

熊谷 治平 從六位勳六等、熊本保安會代表社員
君は岩手縣人熊谷治平の長男にして明治四年三月...

熊谷 彌造 三菱銀行取捨役、支配人席副長
君は岩手縣人熊谷彌造の長男にして明治二十三年三月...

熊谷 誠 正五位勳五等、検事、札幌控訴院
君は岩手縣人熊谷誠の長男にして明治二十二年五月...

熊谷 好衛 宮尾炭礦務社長
君は岩手縣人熊谷好衛の長男にして明治九年十一月...

熊谷 民助 多額銀行取捨役、礦業
君は岩手縣人熊谷民助の長男にして明治二十年二月...

ク之部 熊澤

妻 ルイ 明三、七生、長崎、白水海軍母
養子 敏 明三九、一〇生、一女春江夫、佐賀、士、田中文、三女、養子敏妻
女 春江 明三五、一、生、養子敏妻
君は佐賀縣土族熊澤繁の長男にして嘉永三年六月を以て生れ明治二十五年家督を相続す礦業を営み傍ら多行銀行取締役たり兼に佐賀縣多額納税者たり妹ムネ(明一七、一一生)は佐賀縣人南里喜左衛門に嫁せり(佐賀縣小城郡北多村助原三)

熊澤 一衛

父 市兵衛 弘化三、五生
母 市兵衛 安政四、一、生、三重、中川啓次郎
妻 三子 明九、九生、三重、高田順允長女
養子 てる 明三一、一、生、三重、高田隆平六女

熊澤九右衛門

四日市商工會議所議員、四日市土地建物採取取締役、熊澤製油社社長、製油業、三重縣在籍
妻 龍太郎 慶應三、二、生、三重、加藤八郎右衛門二女
男 龍太郎 明二五、五、生
男 孝平 明三四、四、生、從六位、神戸裁判所檢察、法學士
女 わかば 明四三、三、生、愛知、熊澤鏡之介五女

(※印は姻族關係)

熊澤 周助

横濱商工會議所議員、熊澤回漕店各務社長、神奈川縣在籍
妻 スズ 明一三、三、生、芳賀清吉女
男 光治 明四三、四、生
養子 茂 明三三、七、生、養子トメ夫、神奈川、岡崎信吉弟
養子 トメ 明四〇、五、生、養子茂妻、神奈川、釜田兵三郎三女

熊澤 宗一

保險代理業、地主
妻 のぶ 明二四、六、生、東京、上野和吉三女
女 八千代 大四、一、生

熊澤 龍太郎

從七位、陸軍二等主計、四日市市會議議員、四日市商工會議所常務議員、三重縣在籍
妻 九右衛門 元治元、一〇、生、現戶主
女 三子 明三四、三、生、三重、伊藤啓治郎
男 眞清 明一三、一、生

ク五〇

ク之部 熊田

熊田 榮作

須賀川酒造社長、岩瀬興業銀行取締役、須賀川倉庫運送取締役、福島縣在籍
妻 ヲネ 明一六、三、生、福島、池浦米吉二女
女 長良 明三四、二、生、生母、福島、鈴木ワリ

熊田 慶次郎

大阪府在籍
妻 マサ 慶應元、四、生、大阪、辻吉吉從姉
妻 ヤギノ 明二四、二、生、先代慶次郎長女
男 好郎 大三四、一、生
男 好三 大三四、一、生

熊田 源太郎

石川貯蓄銀行頭取、越中運送、金澤合同運送各務社長、西出商事、温泉電軌、石川縣物産館各務取締役、奥竹文庫長、石川縣在籍
妻 昭子 明二三、六、生、子爵松平春元養伯
男 卓良 大八、一、生
女 倫子 大二三、三、生

ク之部 熊田

熊田 孝太郎

宮城縣在籍
妻 ハツ 安政五、六、生、福島、大河原尙友
妻 てう 明二〇、一〇、生、東京、神谷彌七
女 二子 明三四、一、生、長女神奈天、福島、大河原健藏二男
女 神奈 明四〇、一、生、養子二子妻
女 雪 大六、一、二、生

熊田 周八

正七位、陸軍歩兵少尉、鶴岡市長
君は福島縣人にして明治二十一年三月一日を以て生れ同四十二年福島縣立安積中學校を卒業し大正二年栃木縣屬に任じ山形縣屬地方事務官を経て昭和五年鶴岡市長に就任し今日に至る(鶴岡市若葉電五三〇)

熊田 長造

朝野實業各務取締役、香川縣在籍
君は香川縣人熊田秀平の長男にして明治四年十一月を以て生れ同二十四年家督を相続す現時朝野實業社専務取締役たる外前記各務社に重役たり兼に朝野勸業社重役に擧げらるる(明二六、二、生、生母、香川大山ヌイ)は香川縣人長尾嘉代太に弟清七(同二〇、七、生)は同縣人土屋八長男徳太に嫁し弟妻平(同二一、九、生)は分家せり(高松市四番丁五一)

ク之部 熊野

熊野 英

從五位、岐阜縣書記官、内務部長
妻 眞津子 明二七、一、生、府立第一高女出身
女 淑彦 大五、六、生

熊野 惠賜

神戸衛生實驗所務取締役
妻 惠一 明四四、一、二、生
男 惠夫 大三四、一、生
女 惠美子 大七、一、生

熊野 武敏

明三二、七、生
明三三、五、一〇、生
明三九、五、生
君は香川縣人熊田秀平の長男にして明治四年十一月を以て生れ同二十四年家督を相続す現時朝野實業社専務取締役たる外前記各務社に重役たり兼に朝野勸業社重役に擧げらるる(明二六、二、生、生母、香川大山ヌイ)は香川縣人長尾嘉代太に弟清七(同二〇、七、生)は同縣人土屋八長男徳太に嫁し弟妻平(同二一、九、生)は分家せり(高松市四番丁五一)

ク之部 熊澤

熊澤 治郎吉

從四位勳四等、東京工業試驗所囑託、岐阜縣土族
妻 ひで 明一三、三、生、岐阜、鈴木近三郎
養子 誠三 明三六、一、生、長女丈夫、岐阜、坪井誠爾三男
女 文 明三一、二、生、養子誠三妻
女 時子 明四一、九、生
女 とみ子 大三四、六、生

熊澤 宗一

君は東京府人熊澤太四郎の長男にして明治十七年七月二日を以て生れ大正十四年家督を相続す保險代理業を營み地主たり家族は尙二女彌生子(大一二、三、生)弟兵二(明二八、一、生)同妻濱子(同三六、四、生、京都、土、鍋田健三郎二女)及び其子女あり妹サキ(同二二、八、生)は東京府人室田清次郎に同妻子(同三四、四、生)は同府人高田秀弘に嫁せり(明四三、三、生、東京市中野區江古田町一ノ二一三三電中野二六八三)

熊澤 龍太郎

從七位、陸軍二等主計、四日市市會議議員、四日市商工會議所常務議員、三重縣在籍
妻 九右衛門 元治元、一〇、生、現戶主
女 三子 明三四、三、生、三重、伊藤啓治郎
男 眞清 明一三、一、生

ク之部 熊田

熊田 孝太郎

宮城縣在籍
妻 ハツ 安政五、六、生、福島、大河原尙友
妻 てう 明二〇、一〇、生、東京、神谷彌七
女 二子 明三四、一、生、長女神奈天、福島、大河原健藏二男
女 神奈 明四〇、一、生、養子二子妻
女 雪 大六、一、二、生

熊田 周八

正七位、陸軍歩兵少尉、鶴岡市長
君は福島縣人にして明治二十一年三月一日を以て生れ同四十二年福島縣立安積中學校を卒業し大正二年栃木縣屬に任じ山形縣屬地方事務官を経て昭和五年鶴岡市長に就任し今日に至る(鶴岡市若葉電五三〇)

熊田 長造

朝野實業各務取締役、香川縣在籍
君は香川縣人熊田秀平の長男にして明治四年十一月を以て生れ同二十四年家督を相続す現時朝野實業社専務取締役たる外前記各務社に重役たり兼に朝野勸業社重役に擧げらるる(明二六、二、生、生母、香川大山ヌイ)は香川縣人長尾嘉代太に弟清七(同二〇、七、生)は同縣人土屋八長男徳太に嫁し弟妻平(同二一、九、生)は分家せり(高松市四番丁五一)

ク之部 熊田

(※印は姻族關係)

ク五一

ク之部 熊(野、原、平、已、本)

(※印は姻族關係)

熊野 與太郎 日本電機製造株式取締役、大阪電機工業所社長

熊原 重太郎 宮崎縣多額納稅者、都城魚市場取締役、大府在籍

熊原 壯次 日向製氷株式取締役、吳服商

熊平 源藏 廣島縣多額納稅者、金庫部顧問、松井忠兵衛

熊本 石造 野村銀行常務取締役、福岡縣在籍

熊本 專司 熊本店京町堀支店、奈良濱商大阪府在籍

熊原 重太郎 (續) 君は宮崎縣人熊原謙次郎の長男同莊次に於て明治四年十月を以て生れ、大正九年熊野野方より分れて一家を創立す

熊已 義憲 廣島縣商會常務委員、廣島縣多額納稅者、廣島縣道務局長、三次銀行頭取、廣島農工銀行、廣島銀行、廣島信託、廣島電氣、廣島證券各株式取締役、農業

熊本 專司 (續) 君は福岡縣人熊本孫作の長男にして明治十八年二月一日を以て生れ、同四十四年早稲田大學商學科を卒業し

熊本 專治 奈良濱商大阪府在籍

熊本 專司 熊本店京町堀支店、奈良濱商大阪府在籍

熊本 專司 (續) 君は大阪府人熊本專治の長男にして明治十九年五月五日を以て生れ、先代久藏の養子となり、明治二十一年家督を相続す

熊本 專治 奈良濱商大阪府在籍

熊本 專治 明一七、六生、奈良、喜田八三郎

糸源 三郎 奈良濱商大阪府在籍

糸源 三郎 安政六、三生、養父源七長女

雲井 憲二郎 四日市、津各商工會議所議員、百五銀行常務取締役、養川憲代表社員、三重縣在籍

雲井 憲二郎 四日市、津各商工會議所議員、百五銀行常務取締役、養川憲代表社員、三重縣在籍

熊本 專祐 大阪府在籍

熊本 專祐 明九、一、二生、現戶主

糸田 幸次郎 日光社七條營業所、自動車附屬品商、京都府在籍

糸田 幸次郎 明一、二、三生、京都、小山末吉姉

雲井 密爾 廣島縣在籍

雲井 密爾 廣島縣在籍

汲田 元之丞 醫學博士、汲田外科醫院、醫師、岐阜縣在籍

汲田 元之丞 醫學博士、汲田外科醫院、醫師、岐阜縣在籍

糸野 緋太郎 花糸、七寶製造業、愛知縣在籍

糸野 緋太郎 花糸、七寶製造業、愛知縣在籍

倉井 敏慶 日本勲業銀行藤高知支店長、北海道在籍

倉井 敏慶 日本勲業銀行藤高知支店長、北海道在籍

ク之部 熊(本)汲、糸、雲、倉(井)

(※印は姻族關係)

倉岡 秀夫 昭五、七生、長野、小坂三津藏... 倉岡 今太郎 從七位、倉岡商會理事長...

倉岡 彦助 正四位勳二等、醫學博士、臺灣總督府醫院院長兼同總督府技術師...

倉岡 定吉 植木商、地主... 倉岡 爲藏 安田銀行藤岩國支店長...

倉岡 喜作 佐賀縣多額納稅者、森共同肥料廠取締役、農業、佐賀縣士族...

倉岡 弘信 明治海運取締役、大正海運監査役、内田商事取締役...

倉岡 喜雄 大八、二生... 倉岡 敬三 大日本紡績常務取締役...

倉岡 喜雄 大八、二生... 倉岡 敬三 大日本紡績常務取締役... 倉岡 喜作 佐賀縣多額納稅者...

倉敷 福太郎 正四位勳三等、學習院教授、教務課長、鳥取縣在籍...

倉重 理良 忠南電氣、平澤電氣各取締役、朝日電氣、南河野水力電氣各取締役...

倉品 幸吉 正五位勳五等、農林技術師、農務局耕地課勤務、茨城縣在籍...

倉島 柳太郎 倉島製絲廠取締役、長野縣在籍... 倉田 龜之助 警視廳警務課長...

倉田 庫太 東洋汽船、帝國海上火災保險各取締役、早稻田大學商學部講師...

倉田 喜二 正五位勳五等、鐵道技術師、秋田建設事務所長、東京府在籍...

倉田 喜雄 大八、二生... 倉田 敬三 大日本紡績常務取締役... 倉田 喜作 佐賀縣多額納稅者...

倉田 耿介
日本耐火防務事務取締役、三重
人造絹絲、日本電氣工業各取締役
役、日本美術寫真印刷所監査役
榮和商會、越山各代表社員、
三重縣在籍

妻 とし
明二、九生、三重、士、高畑柳
二郎、九生、三重、士、高畑柳
二郎、九生、三重、士、高畑柳
二郎、九生、三重、士、高畑柳

君は三重縣人倉田太三郎の長男にして明治十六年六
月を以て生れ同十九年先代貞次郎の跡を承け家督を相
續す同三十七年商船學校機關科を卒業し現時日本耐火
防務事務取締役たる外前掲諸會社の重役にして義
に銀座高田商會志智工業所各會社の重役たりし事あり
家族は尙三女(大、四、六)あり(東京市大森區新
井宿一ノ二七〇電大森三〇七)

倉田 四郎三郎
日本冷蔵社社長
大阪府在籍

母 すゑ
明一、九生、一、生、大阪、山中甚兵
衛五、長女

妻 ヒサ
明一、九生、一、生、大阪、山中甚兵
衛五、長女

養子 一平
明三、七、二、生、養子一平妻
龍三、七、二、生、養子一平妻

君は大阪府人倉田四郎兵衛の長男にして明治九年四月
を以て生れ同三十年家督を相續す現時日本冷蔵會社社
長にして義に又藤浦清道會社取締役たりし事あり家族
は尙孫吉郎(大、四、一、生、養子一平長男)同二郎(昭
二、二、生、同二郎)同富子(同三、八、生、同長女)同剛三
(同五、一、生、同三男)同剛之助(同八、一、生、同四男)
あり妹きぬ(明一、三、六、生)は大阪府人宮谷惣右衛門に
嫁せりA一四二(大阪府天王寺區眞法院町二電天王寺
三八〇六)

倉田 繁太郎
十字屋樂器店、樂器商
東京府在籍

母 モン
明三、三、四、生、東京、海部敏次郎
四女

君は東京府人先代繁太郎の孫にして鈴木三郎の甥に
當り明治四十三年五月十三日を以て生れ大正十二年家
督を相續し前名一右衛門を改め繁太郎に父業を承け

倉田 新助
土屋酒造取締役、倉田帆布船具
店、帆布製造販賣並船具商
廣島縣在籍

妻 サ、
明六、八、生、愛媛、南若次郎妹
豊三郎、
明三、四、四、生、二男豊三郎妻、廣
島、藤井不吉長女

君は廣島縣人倉田重兵衛の四男にして明治三年九月を
以て生れ同三十四年甥東一方より分れて一家を創立す
現時前記各會社の重役にして義に豊橋商會議所議員
田中鐵道各會社の重役たりしことあり(豊橋市花田町
齊藤電四一〇七)

倉田 信太郎
廣島瓦斯電機社長、昭和證券、
廣島縣在籍

母 ヒサ
慶應三、七、生、祖父米藏長女
アヤメ
明一、九、六、生、廣島、荒木靜衛二
女

君は廣島縣人倉田幾藏の長男にして明治十九年三月を
以て生れ後ち家督を相續す履物商を營み傍ら前記各會
社の重役たり父幾藏は義に廣島縣多額納税者にして山
陽機寸藝備銀行廣島興業日本麻紡織會社等の重役に舉
げらるる家族は尙弟圭祐(明三、一、生)同妻敏子(同三
六、二、生、廣島、倉下亮吉長女)及其二子同義充(同三
二、七、生)同妻つね(同三、七、一、生、兵庫、寺島寅三
郎二女)及其一子あり妹イト(同二、五、五、生)は廣島縣
人平尾雅次郎に同嫁り(同三、八、三、生)は同縣人荒木學
に嫁し叔母イト(同九、七、七、生)は其夫好太郎(慶應二、四
生、廣島、森分色衛門二男)と共に其一男二女を伴ひ
分家せり(廣島市大手町)

倉田 惣兵衛
新炭問屋業
千葉縣在籍

母 か、
明八、二、生、千葉、長島マツ養母
倉田家先代惣兵衛は明治十年千葉縣松戸町に於て新炭
商を創り後能く産を成せり君は其長男にして明治四十
三年六月十八日を以て生れ大正九年家督を相續し翌十
年前名文太郎を改め親名父業を繼ぎ新炭問屋を營業
す家族は尙妹とき(大、三、七、生)あり亡姉きく夫保(明三
〇、三、生)は一子捷資(大、四、二、生)を伴ひ分家せり
A四〇六(千葉縣東葛飾郡松戸町松戸一ノ一九三九)

倉田 泰藏
つちや足袋社長
福岡縣在籍

母 モト
萬延元、二、生、福岡、木村八郎兵
衛長女

妻 ハツ
明二、五、九、生、福岡、田中恒太郎
四女

君は廣島縣人代先新助の三男にして明治六年二月を以
て生れ大正二年家督を相續し前名卯吉を改め親名倉
田帆布船具店と稱し帆布製造販賣並船具商を營み傍ら
前記各會社の重役にして義に尾道銀行重役たり家族は尙
孫道太(大、四、八、生、二男豊三郎長男)同叔子(昭二、
一、生、同長女)あり二女品子(明三、二、六、生)は廣島
縣人伊藤起に四女多美子(同三、九、五、生)は同縣人植松
政雄に嫁せり(尾道市土堂町六八三電四二四)

倉田 猛郎
倉田組鐵工所、横濱塗料工商會各
務社長、倉田組代表社員
神奈川縣在籍

妻 ツル
明三、二、七、生、神奈川、今井清方
妹

君は神奈川縣人倉田喜作の二男にして明治十八年七月
を以て生れ大正九年兄東大方より分れて一家を創立す
明治三十二年米國に留學し同四十四年歸朝亡父の遺業
に従事す後業務を會社組織に改め現に其社長たり同縣
武術を好む家族は尙長女昌子(大、一、三、一、生)ありA七
六(横濱市神奈川區澤渡町二電本局三七二二)

倉田 徳三郎
福山市會議員、福山商會議所議
員、山陽鐵道取締役、福山鐵
絲紡績取締役、廣島縣在籍

妻 憲一
長四、二、六、生、福山、東澤津郵便局
明四、二、六、生、福山、東澤津郵便局

君は廣島縣人大町吉兵衛の二男にして明治十一年七月
を以て生れ先代ノブの養子となり同二十年家督を相續
す現時山陽鐵道會社取締役及福山鐵絲紡績會社取締
役にして前記各會社に舉げらるる長女カホル(明三、六、二
生)同夫藏六(同二、九、一、生、重政雄造二男)は其子女
を伴ひ分家せり(福山市東澤津町)

倉田 吉雄
從五位勳六等、帝室林野局技師
東京府在籍

妻 篤子
學校出身
明二、一、一、生、遠藤毅四女、實錢女
女 光子
大八、一、生

君は東京府人倉田吉嗣の長男にして明治二十三年八月
を以て生れ同三十年家督を相續す大正三年東京帝國大
學農科大學林學科を卒業し帝室林野管理局技師に任じ
同七年陸軍砲兵少尉に任ず後帝室林野管理局技師に進
み上松田所長に補せられ昭和六年帝室林野局技師兼
内務技師に任ぜらるる同二年歐米各國を巡遊す家族は尙
二男連雄(大、一、四、生)あり(東京市墨谷區大町一七)

倉田 登一
廣島商事務取締役、廣島瓦斯電氣
監査役、廣島縣在籍

妻 イヲ
明三、四、八、生、廣島、倉田勇母
明三、四、八、生、長女千代子、廣
島、山本増太郎三男

君は廣島縣人倉田直市の子にして明治十三年十月を以
て生れ同三十二年先代イヲの夫となり家督を相續す
現時前記各會社の重役にして義に廣島聯合自動車會社の
取締役たりし事あり家族は尙孫栄子(昭三、九、生、養子
雄三郎長女)あり(廣島市堺町一ノ一)

倉田 正男
ゼラチン工業事務取締役、大阪
計器務監査役、高知縣土族

妻 芳
明一、〇、五、生、高知、北村良次長
女

君は高知縣土族倉田五十馬の長男にして明治八年二月
を以て生れ同三十八年家督を相續す現時前記各會社の
重役にして義に攝津ゴム會社事務取締役たり弟正吉
(明一、六、八、生)同妻末(同二、九、一、生、高知、土、北
岡信房四女)は其子女を伴ひ分家せり(大阪府東成區生
野田町二七一電國天王寺一六六)

倉田 誠夫
三越取締役
石川縣在籍

妻 俊夫
明三、三、三、生
男 一馬
明三、九、九、生
男 録郎
大、二、四、生

君は石川縣土族倉田新善の二男にして慶應三年三月十
八日を以て生れ明治四十五年甥豊方より分れて一家
を創立す同二十三年慶應義塾を卒業し直に米國に渡り
商業に従事すること五年同二十七年歸朝す後明治火災
保險會社に入り京都支店長に舉げらるる又嘗て英米煙草
會社の韓國に於ける一手販賣を託さるるや倉田商會を
起し之が經營に力む同四十三年再び歐米各國を歴遊し
大正六年三度米國に赴く此間村井兄弟商會商業部長に
就任し又共同火災保險會社事務取締役たる事多年に及
ぶ後三越取締役會長に舉げられ現に同社取締役たり長
女春江(明三、七、二、生)は東京府人河合勝夫に二女咲枝
(同四、二、四、生)は同府人中條精一郎長男男に嫁せり
A一三四一(東京市芝區三田綱町一電高輪一九八四)

倉田 藤四郎
山口鐵道、風來寺鐵道、日東貿易
各務社長、豊川鐵道事務取締役
三信鐵道事務取締役、名古屋乘
合自動車事務取締役、
三重縣在籍

妻 ツル
明三、四、一、〇、生
男 豊
明四、五、三、生、長男豊妻、三重、
女 中川九左衛門七女

倉田 安吉
明治生命保險本店助役
東京府在籍

妻 サタ
明二、一、一、生、神奈川、古西元次
女

君は三重縣人倉田捨藏の三男にして明治十三年十月を
以て生れ後分れて一家を創立す現時明治生命保險會社
助役たり家族は尙二男昌造(大、六、七、生)三男泰造(同
一、三、一、生)あり長女ふさ(明四、五、一、生)は東京府人
石黒政義養子武雄に嫁せりA二〇七(東京市小石川區

倉知 鏡吉
正四位勳二等、錦織間祇候、貴族
院議員、錦華紡績、金剛山電氣鐵
道、北海道炭礦汽船、中日實業、
西鮮合同電氣、日本硬質陶器、太
平洋海上火災保險各取締役、日
興商事、朝鮮ドレッシング、藤田
泰役、鐵道會議々員、對露輸出組
合理事長、東京府土族

ク之部 倉(塚、富、成、根、橋)

(※印は姻族關係)

ク五八

男 善一 明四四、一〇生
君は舊金澤藩士倉知行徳の長男にして明治三年十二月
を以て生れ同二十七年家督を相続す同年東京帝國大學
法科大學英法科を卒業し直に内務省に入り同二十九年
文官高等試験に合格し同三十年外務省参事官に任ぜら
る爾來公使館三等書記官同二十九年外務省参事官農
商務書記官統監府書記官補兼検査官外務省参事官農
局長外務次官等に歴任し後官を罷め貴族院議員に勅選
せられ錦鶏間祇候に任ぜられ今日に至る傍ら錦華紡績
會社の外前記各會社の重役として實業界に重きをなし
對露輸出組合理事長の要職に在り長女光子(明三一、一
二生)は神奈川縣人三留藏兄喜之の養子となり二女英
子(同三五、九生)女子學院出身は同縣人上野吉二
郎養子芳三郎に三女雅子(同三八、一一)出身校同上
は東京府人木下義隆に四女敦子(同四〇、一〇)出身
校同上は同府人町田豊千代二男明に嫁せり(東京市臨
谷區原宿二ノ一七〇電番山三三三)
参照 上野吉二郎、町田豊千代の項

倉富 鈞
從五位、産業組合中央金庫理事
福岡縣華族
父 勇三郎 嘉永六、七生、現戸主
妻 フチ 賢太郎長女、跡見女學校出身
男 幹郎 大六、一〇生、學習院在學
女 寛子 大八、一〇生、女子學院高等科
出身
女 眞子 大八、一〇生、女子學院在學
君は男爵倉富勇三郎の長男にして明治十八年二月二十
日を生れ同四十二年東京帝國大學法政科大學政治學
科を卒業産業組合中央金庫参事官付課長兼預金課長た
りしが現時同理事の職に在り兼に朝鮮銀行検査役たり
家族は尙二男英郎(大一一、八生、學習院在學)あり(東
京市淀橋區戸塚町四ノ七八四電番六五八五)
参照 荒井賢太郎、倉富勇三郎、多田常太郎の項

倉成 綱作
對馬銀行頭取、對馬商船務常務
取締役、長崎縣華族
男 謙治 明二八、七生
妻 イト 相部太夫平四女
君は長崎縣人倉成興作の長男にして明治四年一月を以
て生れ同二十年家督を相続す現時前記各銀行會社の重
役にして兼に嚴原魚市場會社々長北九州商船會社常務
取締役對馬商船會社取締役たりし事あり家族は尙
孫和子(大一一、五生)二男謙治長女(同直子)同(一五、
二生)同(二女)同(三子)昭五、一〇生、同(三女)弟淺吉(明
七、一〇生)同(四子)和歌山、士、吉田
兼(三女)及其一女あり(長崎縣下縣郡嚴原町今屋敷電
四四)
参照 加野野宗三郎の項

倉塚 良夫
正四位勳二等、工學博士、北海道
帝國大學教授、工學部勤務
福岡縣士族
母 ヤエ 嘉永六、三生、福岡、士、竹内與
妻 アラ 明一七、六生、福岡、白石英治長女
男 憲一 明四二、一〇生
女 アヤ 明四四、四生
女 フミ子 大二、六生
女 芳子 大四、一〇生
君は福岡縣士族倉塚久三郎の長男にして明治十二年十
月を以て生れ同三十四年家督を相続す同三十七年東京
帝國大學工學部工學科を卒業し關東廳技師に任
じ民政部土木課大連出張所長に補す現時北海道帝國大
學教授にして工學部勤務たり兼に工學博士の學位を受
け家族は尙二男顯二(大六、一〇生)六女俊子(同二〇、
一〇生)七女房子(昭三、三〇生)弟知喜(明二三、四生)
同妻ケサノ(同三七、九生、佐賀、田岡龜吉三女)及其
一女あり妹トミ(同二五、八生)は福岡縣人川南吉郎に
同マサノ(同二六、一〇生)は愛知縣人加藤明春三に
嫁せり(札幌市外圓山三ノ二四三電番三七七)
参照 加藤明の項

倉富 勇三郎
正二位勳一等、法學博士、男爵、
前官禮遇(樞密院議長)
福岡縣華族
妻 ノブ 慶應三、六生、東京、士、廣津弘
男 鈞 明一八、二生
男 隆 明二三、七生
女 ミチ子 松岡淳一姉
孫 助子 大八、八生、三男隆長女
君は福岡縣士族倉富胤厚の二男にして嘉永六年七月を
以て生れ明治二十七年分れて一家を創立す先是同十二
年司法省法律學校を卒業し判事司法省参事官同民刑局
長同參事官大審院檢事大府東京各控訴院檢事同法務長
官法務總長官貴族院議員帝室會計審査局長官樞密顧問
官樞密院副議長等に歴任し大正十五年樞密院議長に陞
任し昭和九年推定するや特に前官の禮遇を賜る明治四
十年法學博士の學位を受け大正十五年十月多年の勤功
に依り華族に列し男爵を授けらる議定官王公族審
議會總長たり家族は尙孫逸雄(大一一、二〇生)三男隆
長男(同倫子)昭三、八生、同(同好雄)同(二八、一一
生)同(二男)あり(東京市淀橋區戸塚町四ノ七八四)
参照 倉富鈞の項

倉根 是翼
正五位勳五等、大洲町長
愛媛縣士族
妻 トモ 明三、一〇生、廣島、松島寛三郎
男 是和 明四四、一〇生
君は愛媛縣士族倉根根の長男にして慶應元年九月を以
て生れ明治十四年家督を相続す同三十五年明治大學を
卒業し現時大洲町長にして兼に愛媛報社事務取締役
兼營業局長たり長女静子(明二五、二〇生)は愛媛縣人
早瀬儀作三男佐十郎に妹ヨシ(同二二、二〇生)は高知縣人
田内丑太郎に伯母ノブ(同三三、九生)は愛媛縣人宮久
五郎に嫁せり(愛媛縣喜多郡大洲町)
参照 松島寛三郎の項

倉橋 咲藏
倉橋工務所、土木建築請負業
大阪府華族
妻 タキヨ 元治元、八生、大阪、中村ウタ二
女 一、一〇生、大阪、關岡たゞ
妻 まさ 女 明一九、一〇生、大阪、關岡たゞ
男 與藏 明二四、一〇生
男 幸三郎 明四四、一〇生
君は大阪府人島藤五郎の四男にして明治十四年十二月
十日を以て生れ先代與三郎の養子となり大正十二年家
督を相続す倉橋工務所と稱し土木建築請負業を營むA
二八五B一五六(大阪府大正區今木町二ノ二八電本局
一八四五)

倉橋 秀代
莫大小商
東京府華族
妻 綾子 大一一、一〇生、東京、鶴川新長
君は東京府人藤瀬太郎の長女にして明治二十六年八
月二十九日を以て生れ昭和九年亡夫爲繼の後を承け家
督を相続す前記莫大小商を營むA五八〇B一九一(東
京市本所區東兩國三ノ三八電本所五五一四三)

倉林 清吉
正五位勳四等、地方技師、廣島縣
内務部山林課長、愛知縣士族
妻 しやう 高永四、四生、愛知、士、大澤繁
女 ヒサ 明二二、三〇生、東京、土屋軍治長
女 典義 大四、一〇生
女 秀子 大元、九生
君は愛知縣士族倉林忠乾の二男にして明治十五年六月
八日を以て生れ同三十八年東京帝國大學農科大學實科
を卒業し翌年山林技師に任じ林務技師秋田縣技師を経て
大正十三年地方技師に任じ秋田縣内務部技師に任じ
補せられ昭和七年轉じて廣島縣勤務となり現に前記の
職に在り家族は尙三男健二(大九、八生)兄龍吉(明一
〇、四生、現戸主)同妻ツ(同二四、一〇生、愛知、長
谷川與三吉妹)及其子女あり庶子義直(昭二、九生、生
谷川、東京、土屋ヒサ)は其外祖父土屋軍治に甥(昭三、大
六、五生、兄龍吉三男)は北海道入大澤繁に同忠夫(同
一〇、三〇生、同四男)は愛知縣人長谷川與三吉に各養子
となれり(廣島市縣内務部山林課内電四五三)

倉橋 惣三
正五位勳六等、陸軍歩兵少尉、東
京女子高等師範學校教授兼文部省
社會教育官、靜岡縣士族
妻 トク 明二六、一〇生、東京、内田アサ
女 直子 大八、六生
君は靜岡縣士族倉橋政直の長男にして明治十五年十二
月を以て生れ大正九年家督を相続す明治三十九年東京
帝國大學文科大學哲學科を卒業し陸軍歩兵少尉に任じ
大正六年東京女子高等師範學校教授に任ぜられ昭和四
年文部省社會教育官兼任となり同五年附屬幼稚園主事
に補せらる家族は尙二男文雄(大五、一〇生)あり(東京市
中野區千光前一〇町電中野二四八七)

倉橋 豊
東京府華族
妻 その 明三八、一二生
君は東京府人倉橋林五郎の五男にして明治四十三年十
一月二十二日を以て生れ大正十二年分れて一家を創立
す家主として知らるA七四八(東京市杉並區高圓寺四
ノ五三五)

倉光 康利
鳥取縣多額納稅者、農業
鳥取縣華族
妻 千七 明二〇、三〇生、先々代必明長女
女 麗子 明三八、三〇生、養母チセ長女
君は鳥取縣人船越純太郎の二男にして明治二十九年十
二月十三日を以て生れ昭和三年先代チセの養子となり
同四年家督を相続す大正十一年慶應義塾大學經濟學部
を卒業後同十三年より昭和四年に至る迄明治生命保險
會社名古屋支店に勤む家を繼ぎ農業を業とし縣下の多
額納稅者にして直接國稅六百九十一圓を納む釣魚日本
音楽繪畫園藝等々趣味とす家族は尙長女迪子(昭四、四

倉橋 武三
倉橋組、運送業
兵庫縣華族
妻 とら 慶應二、一〇生、兵庫、小野寺秀兼
女 長女 明一六、一〇生、大阪、中島治良
君は兵庫縣人倉橋武三郎の長男にして明治十一年一月を
以て生れ先代元次郎の養子となり大正十二年家督を相

倉林 源四郎
從四位勳四等、文部省督學官
埼玉縣華族
妻 敏治 明四四、九生
君は埼玉縣人木本三郎の弟にして明治十一年一月を
以て生れ先代元次郎の養子となり大正十二年家督を相

倉橋 幸之助
愛知縣華族
妻 つね 慶應元、五生、愛知、柳原七三郎
女 長女 明一九、七生、養父源兵衛三女
男 源之助 明三九、一〇生
男 阪 明四三、一〇生
女 まつ 大四、一〇生
君は愛知縣人神谷岩右衛門の二男にして明治十年五月
を以て生れ同三十七年同縣人倉橋源兵衛の養子となる

ク之部 倉(橋、林、光)

(※印は姻族關係)

ク五九

現時同縣合同運送會社監査役に任じ大八運輸倉庫
會社の重役たり家族は尙四女久子(昭二、九生)姪ハマ
(明三五、六生、養妹しげ長女、現戸主)及其一女同ゆ
き(同四三、一〇生、同私生子)あり五男鏡平(大一一、
八生)は愛知縣人神谷常太郎の養子となり姪さだ(明四
一、七生、養妹しげ私生子)は同縣人小野義郎に嫁せり
(岡崎市普生町元宮二〇電二二三)

ク之部 倉持、元、本

鞍、藏(内)

(※印は姻族関係)

倉持 長吉 東京府多額納税者、豊田屋、玩具商、東京府在籍

倉本 周警 廣島聯合自動車検査役、廣島縣在籍

倉本 周三 醫學博士、縣立廣島病院内科第一部長、廣島縣在籍

倉本 彦五郎 東京市品川區會議員、園藝業、東京府在籍

倉本 周三 醫學博士、縣立廣島病院内科第一部長、廣島縣在籍

倉本 周三 醫學博士、縣立廣島病院内科第一部長、廣島縣在籍

倉本 彦五郎 東京市品川區會議員、園藝業、東京府在籍

倉本 彦五郎 東京市品川區會議員、園藝業、東京府在籍

鞍田 竹太郎 兵庫發働機製造所事務取締役、兵庫縣在籍

鞍田 竹太郎 兵庫發働機製造所事務取締役、兵庫縣在籍

藏内 次郎兵衛 福岡縣多額納税者、藏内鐵業株式會社取締役、福岡縣在籍

藏内 次郎兵衛 福岡縣多額納税者、藏内鐵業株式會社取締役、福岡縣在籍

藏内 正次

藏内鐵業株式會社取締役、福岡縣在籍

藏川 永充 滿洲化學工業株式會社取締役、大阪府在籍

藏重 哲三 正五位勳三等、四國水力電氣株式會社取締役、山口縣在籍

藏園 三四郎 衆議院議員(鹿兒島縣選出)、薩摩製絲株式會社取締役、鹿兒島縣在籍

藏重 久兵衛 山口縣多額納税者、船城銀行頭取、山口縣在籍

藏重 久 正五位勳四等、兵庫縣書記官、内務部長、山口縣在籍

藏野 啓之助 天滿屋、實商、東京府在籍

藏重 久兵衛 山口縣多額納税者、船城銀行頭取、山口縣在籍

藏重 久 正五位勳四等、兵庫縣書記官、内務部長、山口縣在籍

藏野 啓之助 天滿屋、實商、東京府在籍

藏重 久兵衛 山口縣多額納税者、船城銀行頭取、山口縣在籍

藏重 久 正五位勳四等、兵庫縣書記官、内務部長、山口縣在籍

藏野 啓之助 天滿屋、實商、東京府在籍

ク之部

藏(内、川、重、岡、田、野)

(※印は姻族関係)

君は千葉縣人青木又七の二男同謙の弟にして明治九年一月三日を以て生れ同十四年弟源之助方より分れて一家を創立す天満屋と稱し質商を營む家族は尙三男保治(大六、三生あり二女光惠(同二、九生)は東京府人齊藤金三郎の養子となりA三二二(東京市芝區白金三光町二九電高橋七〇〇)

藏野 芳樹

東京府在籍 祖父母 嘉永六、一生 養母 ひき 明一〇、七生、藏野西藏長女 妻 綾子 明三四、八生、東京、棚橋友三郎

君は東京府人齊藤宗治郎の二男にして明治二十九年四月を以て生れ大正十一年先代藏野芳樹の養子となり昭和二年家督を相続す明治二十七年慶應義塾別科を卒業し質商を營むA三〇一(東京市芝區三田四町二ノ四電三四〇九)

藏原 敏捷

正五位勳四等、前和歌山縣知事 熊本縣土族 母 ソデ 明治元、二生、藏原小太郎四女 妻 フジエ 明三七、五生、熊本、士、藤井敬 男 千秋 大二三、九生 女 治子 大七、五生

君は熊本縣土族藏原敏の長男にして明治二十一年八月を以て生れ同十五年家督を相続す大正二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同年文官高等試験に合格し大阪府警部兼同府警視廳東京府理事官千葉秋田神奈川大阪各府縣警務部長和歌山縣知事等に歴任し後之を辭し現に閑居に在り家族は尙五男正昭(昭二、一〇生)六男直和(生年月同上)弟史樹(明二三、九生)同妻住子(同三二、一〇生)東京、瀨尾外與藏二女及其一子叔母マキ(同二、九生)あり(東京市淀橋區上落合一ノ二〇六) 參照 安達謙藏家譜方求太郎の項

藏滿 良之助

日向無差縣取給役、日肥林業株式會社 查役、都城信用組合監査役、都城實業信用組合理事、宮崎縣在籍

君は宮崎縣人藏滿柳助の二男にして明治元年七月を以て生れ大正二年兄柳之進方より分れて一家を創立す現時前記諸會社の重役にして傍ら前記の公職に在り兼に都城市會議員に選ばれ都城製氷會社の重役たりし事あり長女オシエ(明二九、二生)は福岡縣人渡邊賢吉に二女ミツ(同三二、一〇生)は山梨縣人望月泰男に嫁せり(都城市八幡町電三六八)

栗生 藤三

山形縣警務取給役、東京株式取引所取引員、山梨株式會社、株式仲買 業、東京府在籍 妻 てる 明二四、一〇生、東京、栗生武右衛門二女 男 陽太郎 大七、一〇生 女 小夜子 大七、一〇生

君は岐阜縣人武内末吉の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正二年先代末吉の長男となり家督を相続す山梨株式會社と稱し株式仲買業を營み現に東京株式取引所一般短期買物取引員たる傍ら前記會社の重役たり兼に東京府多額納税者にして又山梨商會社無責任社員たりしことあり家族は尙二男正次郎(大四、一〇生)二女滋子(同二、一〇生)三女信子(同三、一〇生)三男謙三(同五、八生)ありA二八五B一四四(東京市豊島區西巢鴨三ノ八一電大塚一三三)

栗岡 己八

樺太時事新聞社長 新瀉縣土族 妻 綾子 明二二、一〇生、樺太、杉本健之助二女

君は新瀉縣土族栗岡彌兵衛の三男にして明治二年八月を以て生れ同三十八年母シイの後を承けて家督を相続す現時樺太時事新聞社長たり(樺太真岡郡眞岡町樺太時事新聞社内)

栗岡 善一郎

辯護士 兵川縣在籍 君は奈良縣人栗岡善三郎の二男にして明治二十七年三月三十一日を以て生れ大正八年兄善次郎方より分れて一家を創立す大正四年明治大學法律科を卒業し辯護士を開業し今日に及ぶ家族は庶子園枝(大九、三三、生母

小平系(よ)あり(神戸市神戶區北長狭通五ノ七八四電元町一四二四)

栗岡 忠治

南和軒、洋服商 大阪府在籍 母 たけの 明元、一〇生、奈良、向井鐵造長 妻 房子 明三六、一〇生、大阪、大澤秀吉三男 男 忠 幸 大七、九生

君は大阪府人栗岡治太郎の二男にして明治二十六年三月十五日を以て生れ昭和三年家督を相続す南和軒と稱し洋服商及絨服賣業を營む家族は尙二男敏雄(大九、四生)三男義明(同二、一〇生)妹雪子(明四四、二生)亡弟謙三(同四、一〇生)五生、和歌山、勝木徳松長女)及其一子ありA七二二B一二二(大阪府西區京町堀通一ノ二電土佐堀二七八)

栗木 榮太郎

大連新用社専任監査役 愛知縣在籍 妻 すら 明一、八生、愛知、武田金吾長 男 元一郎 大九、七生

君は愛知縣人栗木榮八の長男にして明治九年一月を以て生れ同十五年家督を相続す夙に鐵道院に入り日露戰役に際し臨時軍用鐵道監督部として出征し戦後南滿洲鐵道會社に入社總務部調査課勤務となり専ら統計事務を管掌す大正九年之を辭し大連新聞社に當り同社に入社副社長たりしが副社長職務停止後常任監査役として今日に至り現に關東廳方面委員大連市警務局長等の名譽職にあり志士聖賢の書畫に趣味を有す家族は尙妹よね(明二、四生)弟宗嗣(同五、五生)同妻カネ(同三、九生)北海道、池田國一郎(一〇生)亡伯父長女しつゝ(同二九、一〇生)神奈川縣立高女出身)は廣島縣人土井和一に姉やす(同六、一〇生)は靜岡縣人袴田種次郎に嫁せり(大連市神町九八電七四六一)

栗木 智堂

永平寺鐵道監査役、曹洞宗務院 職員、東京府在籍 妻 公次 明三〇、六生、新潟、長谷川孝太 庶子 てい 明四〇、一〇生、生母、淺野よし

庶子 はる 明四五、三生、生母、淺野よし 君は愛知縣人中村佐藏の二男にして明治元年二月を以て生れ先代はまの養子となり同十八年家督を相続す同三十三年東京帝國大學文科大學漢文學科を卒業し現時永平寺鐵道會社監査役にして曹洞宗務院職員たり庶子たか(明三七、八生)生母、淺野よし)は愛知縣人加藤萬太郎長男藤助に嫁し同(大五、一〇生)生母同上)は東京府人淺野せんの養子となり(東京市麻布區斧町九九電青山五二二)

栗崎 康太郎

小田原銀行鐵道務取給役、共榮社取締役、東京府在籍 母 マキ 文久二、七生、福島、佐藤清之助 妻 貞 明二九、二生、大阪、松田千馬妹 男 遠 大七、九生 女 百合野 大七、九生

君は福島縣人栗崎重次郎の長男にして明治十三年六月十二日を以て生れ現時小田原銀行鐵道會社務取給役にして共榮社取締役たり家族は尙二女道子(昭三、一〇生)及三女碧(同六、九生)あり(東京府北多摩郡狹江村和泉二六二五)

栗栖 平三郎

勳八等、大同銀行、熊野蠶絲、熊野自動車各務取締役 和歌山縣在籍 妻 かめ 明七、八生、養父半右衛門長女 男 爲 治 明三四、一〇生 男 正 一 明三八、一〇生

君は和歌山縣人清水林之助の弟にして明治元年五月を以て生れ先代半右衛門の養子となり同二十四年家督を相続す現時大同銀行取締役たる外前記各會社の重役にし義に推されて三里村長たりしことあり長女もとを(明二四、八生)は兄清水林之助長男長義に二女ユキエ(同三一、一〇生)は和歌山縣人大江直之助に養妹まさの(同三一、八生)は同縣人野下利兵衛二男虎彦に嫁せり(和歌山縣東牟婁郡三井村)

栗田 丑太郎

二俣銀行務取締役 静岡縣在籍 養母 はる 元治元、四生、静岡、栗田源三郎妹

妻 たね 明一九、六生、養父幾三郎長女 男 清 明三九、二生 婦 翠子 明四四、二生、長男清美、静岡、男 爲 次 明四二、七生 君は静岡縣人栗田梅吉の三男にして明治十三年十月を以て生れ先代幾三郎の養子となり同三十七年家督を相続す現時二俣銀行取締役にして兼に同社務取給役光製材會社重役たり家族は尙孫文哉(昭四、一〇生)長男清長男(昭三六、五生)は山梨縣人萩原義直に妹こん(同三四、一〇生)は愛知縣人大谷亨司に嫁せり(静岡縣磐田郡光明村)

栗田 金太郎

東京石川島造船所務取締役、自動車工業務取締役、東京府土族 母 モト 弘化二、一〇生、佐賀、土、戸田鐵 妻 マサ 明一四、九生、佐賀、栗田正次二女 男 實 雄 明三五、六生 女 純 江 大二、一〇生

君は東京府土族栗田丹藏の長男にして明治六年十一月を以て生れ同十九年家督を相続す同二十六年東京高等工業學校機械科を卒業し現時東京石川島造船所務取締役自動車工業會社取締役たり家族は尙二男健一(大六、八生)あり長女直子(明三七、一〇生)は岡山縣人土光菊次郎二男敏夫に二女松子(同四一、一〇生)東京府立第三高女出身)は東京府人尾間明長男一彦に嫁し弟正巳(同二一、一〇生)同進(同二七、一〇生)は各分家せりA三〇一(東京市澁谷區原宿二ノ一七〇ノ二〇電青山一二六八) 參照 栗田進の項

栗田 敬治郎

大洲銀行務取締役 愛媛縣在籍 母 キクノ 元治元、七生、愛媛、安達玄杏長女 妻 キヨ 明二一、一〇生、愛媛、佐伯文五郎 男 文 夫 大二、一〇生 女 梅 子 大二、一〇生 女 積 子 大四、八生 女 幸 子 大六、五生

君は愛媛縣人栗田熊雄の二男にして明治二十一年九月を以て生れ大正十四年家督を相続す現時大洲銀行取給役にして兼に新谷銀行取締役たりし事あり家族は尙五女俊子(大一一、八生)弟温雄(明三〇、一〇生)亡伯父邦住妻タカヨ(弘化二、九生)愛媛、曾根屋三郎(昭四)あり弟德輔(明三二、六生)は分家し妹梯子(同四一、六生)は愛媛縣人池田鐵太郎に嫁せり(愛媛縣喜多郡天神村電内子四〇) 參照 池田鐵太郎の項

栗田 淳一

日本石油株式會社課長 山口縣在籍 祖母 ミチ 弘化三、三三、山口、山田忠右衛門二女 母 スマ 明三、八生、山口、山田龜太郎妹 妻 キク 明二六、三三、山口、高橋藤五女 男 淨 爾 大七、五生

君は山口縣人栗田當信の男にして明治二十一年五月を以て生れ昭和三年家督を相続す現時日本石油株式會社課長たり家族は尙長女千加子(大九、六生)二女まり子(同二三、三三)二男昭平(昭二、一〇生)ありA二二二(東京市淀橋區上落合一ノ五七一電大塚三七〇五) 參照 山田龜太郎の項

栗田 末松

土木請負業 愛知縣在籍 妻 八重子 明四二、八生、愛知、丹羽市藏孫 男 伸之助 大九、一〇生 女 一子 大七、四生

君は愛知縣人先代末松の長男にして明治二十三年十一月二十八日を以て生れ大正八年家督を相続す前名悦治郎を改め襲名す土木請負業を營む家族は尙二男泰吉(大一一、九生)二女光子(同二二、一〇生)三男久雄(昭三、一〇生)ありA四四二(名古屋市中區志摩町五九電西六二八)

栗田 進

從四位勳四等、專賣局參事、徳島地方專賣局長、東京府在籍 妻 藤 江 明二九、四生、佐賀、草場猪之吉 二女

栗田 貞次 栗田、茶商
君は茨城縣人上野翁之介の長男にして明治三十六年一月十日を以て生れ大正六年父栗田貞次を以て後継を受けて家督を相続す栗田園と稱して茶商を営むA九三二B七四(東京市下谷區大門町四電下谷五一三八)

栗田 傳兵衛 從五位勳七等、小坂郵便局長、鎌倉銀行頭取、神奈川縣在籍
養母 キノ 嘉永六、一、生、神奈川、小山五兵衛長女

栗田 傳兵衛 從五位勳七等、小坂郵便局長、鎌倉銀行頭取、神奈川縣在籍
養母 キノ 嘉永六、一、生、神奈川、小山五兵衛長女
妻 傳 作 明三、四、生、長男傳作妻神奈川、森林造長女
男 アイ 明四、一、生、長男傳作妻神奈川、森林造長女
女 シゲ 明二、二、生、長男傳作妻神奈川、森林造長女

一B八七(神奈川縣鎌倉郡大船町之内電三四三) 参照|| 稻垣丹次郎の項

栗田 茂兵衛 栗田家代表社員、華濃屋、吳服商、愛知縣在籍
妻 綾 子 明二、三、生、愛知、吉田兵衛長女、栗田家代表社員
男 一朗 昭四、一、生、愛知、岩田勘一妹

栗田 元次 正五位勳四等、廣島文理科大學教授、愛知縣土庫

栗田 元次 正五位勳四等、廣島文理科大學教授、愛知縣土庫
父 元左衛門 萬延元、一、生、現戶主
妻 せつ 明三、二、生、愛知、齋田鐵次郎長女、愛知縣立第一高女出身
男 憲 次 大四、二、生、愛知縣土庫
君は愛知縣土庫栗田元左衛門の男にして明治二十三年十一月三日を以て生れ大正三年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し第八高等學校廣島高等師範學校教授に歴任し現時前記の職にあり昭和八年歐米各國に出張す家族は尙女前子(大一一、一)生、男次(昭三、一)生、女次(昭五、一)生、男次(昭八、一)生、あり(廣島市上河川町五〇)

栗谷 源次郎 中島屋、銅貨鑄造商、東京府在籍
妻 柳 明四、四、生、東京、福崎和吉妹
男 正 明三、七、一、生、東京、福崎和吉妹
女 絹 明三、七、一、生、東京、福崎和吉妹

栗谷 毅 秋田市参事、羽後銀行頭取、秋田縣土庫
妻 サタ 明二、五、一、生、秋田、益子忠三女
男 信 明四、四、一〇、生、秋田、益子忠三女
女 タ 明三、三、三、生、秋田、益子忠三女

栗谷 毅 秋田市参事、羽後銀行頭取、秋田縣土庫
妻 サタ 明二、五、一、生、秋田、益子忠三女
男 信 明四、四、一〇、生、秋田、益子忠三女
女 タ 明三、三、三、生、秋田、益子忠三女

栗野 慎一郎 正二位勳一等、子爵、福密顧問官、東京府華族
妻 齊 次郎 明一九、一〇、生、從五位、文學士

栗林 今朝吉 從五位勳三等、海軍大佐、水路部第二課長、長野縣在籍
妻 晴 江 明二、五、一、生、長野、山本為次郎長女、長野高女出身
男 滋 男 大七、三、生、從五位勳五等、海軍少尉
女 榮 子 大五、九、生、從五位勳五等、海軍少尉
君は長野縣人栗林臨太の二男にして明治十九年二月一日を以て生れ同四十年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ大正五年海軍大學校を卒業し爾來果して海軍大佐に陞り現に水路部第二課長たり義に鹿島分隊長平戸航海水路部員満洲副長和特務艦長流長等に歴補す讀書散步に趣味を有す家族は尙三女前子(大九、七)

栗林 徳一 北海道多額納税者、登別温泉、栗林商會、室蘭埠頭、室蘭運送社各社長、室蘭埠頭、室蘭運送社、室蘭石炭船長、海運業、北海道在籍
妻 カズ 明三、五、五、生、北海道、高島佐吉長女
男 徳 光 大一一、二、生、北海道、高島佐吉長女

栗林 直治 秋田縣多額納税者、醸造業、秋田縣在籍
妻 ツル 明九、八、生、秋田、阪大工學部在籍

栗林 友二 栗林商船運送社事務取扱役、登別製鏡所、登別温泉、室蘭埠頭、芝浦運送社、北海道在籍
妻 ワカ 精三七、一〇、生、東京、土、大澤

栗原 和光 日本勸業銀行遷千葉支店長、東京府土庫
妻 ミツ 明二、八、二、生、新潟、木島孝藏長女
君は東京府人栗原萬造の長男にして明治四十年一月を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして土地の名望あり家族は尙妹ツル(昭四三、一)生、弟松平(大六、九)生、妹春子(昭五、二)生、同正子(昭七、二)生、同綾子(昭一〇、一)生、弟一郎(昭一四、一)生、ありA六一七(東京市淀橋橋下落合四ノ一九二)

栗原 角太郎 地主、東京府在籍
妻 明 一八、二、生、東京、鴨下六郎妹
君は東京府人栗原萬造の長男にして明治四十年一月を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして土地の名望あり家族は尙妹ツル(昭四三、一)生、弟松平(大六、九)生、妹春子(昭五、二)生、同正子(昭七、二)生、同綾子(昭一〇、一)生、弟一郎(昭一四、一)生、ありA六一七(東京市淀橋橋下落合四ノ一九二)

栗林 友二 栗林商船運送社事務取扱役、登別製鏡所、登別温泉、室蘭埠頭、芝浦運送社、北海道在籍
妻 ワカ 精三七、一〇、生、東京、土、大澤

栗原 和光 日本勸業銀行遷千葉支店長、東京府土庫
妻 ミツ 明二、八、二、生、新潟、木島孝藏長女
君は東京府人栗原萬造の長男にして明治四十年一月を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして土地の名望あり家族は尙妹ツル(昭四三、一)生、弟松平(大六、九)生、妹春子(昭五、二)生、同正子(昭七、二)生、同綾子(昭一〇、一)生、弟一郎(昭一四、一)生、ありA六一七(東京市淀橋橋下落合四ノ一九二)

栗原 和光 日本勸業銀行遷千葉支店長、東京府土庫
妻 ミツ 明二、八、二、生、新潟、木島孝藏長女
君は東京府人栗原萬造の長男にして明治四十年一月を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして土地の名望あり家族は尙妹ツル(昭四三、一)生、弟松平(大六、九)生、妹春子(昭五、二)生、同正子(昭七、二)生、同綾子(昭一〇、一)生、弟一郎(昭一四、一)生、ありA六一七(東京市淀橋橋下落合四ノ一九二)

妻 みつ 明二八、一生、三重、土、竹内泰
男 龍雄 大五、六生
君は三重縣土佐原原一の長男にして明治十九年十一
月を以て生れ同十四年家督を相續す大正二年東京帝國
大學法科大學經濟學科を卒業す兼に朝鮮銀行東洋生命
保險會社等に勤務し後日本勸業銀行に轉じ預金課長を
經て熊本支店長となり現時同銀行前橋出張所長たり家族
は尙二男建雄(大八、五生)長女蘭子(昭四、一、二生)
弟國雄(明二五、六生)同妻越枝(同三三、三、石川、
堀大次郎長女)及其一男弟宮雄(同三〇、八生)あり(前
橋市神明町一)

栗原 貞吉 陶器商 東京府在籍
妻 ツネ 元治元、一〇生、東京、栗原和子
母 はな 門長女 明二四、四生、東京、鈴木八左衛
男 芳郎 大三、一、生

君は東京府人栗原和子の男にして明治十九年一月十五
日を以て生れ昭和二年家督を相續す陶器商を營む家族
は尙二男貞次(大五、五生)三男常雄(同七、五、五、四男
長四郎(同九、一、生)あり長女綾子(明四四、三、生)は東
京府人平塚守二長男清に嫁せり(東京市本所區平川橋
三ノ六ノ三〇番田三三九)

栗原 彦三郎 衆議院議員(栃木縣選出)、日本刀
鍛錬傳習所長、著述家
妻 うめ 明二、二生、茨城、厚綿廣次郎
女 道子 大三、七、二〇生、實踐女學校出身
女 義子 大五、四、一八生、實踐女學校出身
君は栃木縣人栗原喜藏の二男にして明治十二年三月を
以て生れ昭和二年家督を相續す大正十二年三月を以て
論社を經營し東京市議會議員並に赤坂區會議員に選ばれ
昭和三年以來推されて衆議院議員に當選す事三回現
に其任に在り國民同盟所屬にして又日本刀鍛錬傳習所
長たり家族は尙兄弟吉(明四、三、生、現主)同妻クヲ
(同一、一、一、生、群馬、石島文十郎二女)あり(東京市
赤坂區水川町二八電青山五八三六)

栗原 武右衛門 川武、製粉業 東京府在籍
妻 ハル 明三六、一〇生、長男武英妻、東
男 武英 明三三、五生
女 武三郎 明四二、五生
君は東京府人先代武右衛門の二男にして明治九年二月
十二日を以て生れ大正十三年家督を相續し前名廣吉を
改め襲名す川武と稱し製粉業を營み同業者間の一流を
以て知らるる家族は尙五男武英(大二〇、七生)孫武弘(昭
二、二、生、長男武英妻同子)同子(同五、七生、同二女)
同牧子(同八、二生、同三女)あり二男武之助(明三五、
九生)は分家し三女ケイ(同四四、七生)は東京府人秋
元鐵吉二男光雄に嫁せりA一四七(一)東京市中野區本
町通五ノ七電四谷一三七二)
參照 秋元鐵吉の項

栗原 宗治 東京府在籍
妻 ムメ 明一七、三、生、東京、石原繁三郎
養子 よね 明二六、五、生、養子よね夫、埼玉、東
養子 よね 明二六、五、生、養子よね夫、埼玉、東
女 子 明二六、五、生、養子よね夫、埼玉、東

君は埼玉縣人栗原代八の二男にして明治十年二月六日
を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同三十五年
以來栗原家を營み今日及び同居者間に重きをなす家
族は尙孫健太郎(大八、一〇生、養子二、三、五、五男)
同子(同二、五、同長女)同妻次郎(昭二、一〇生、同二
男)ありA一八九九B三二七(東京市日本橋區通運町
一一二電濱花一四六六・五三九〇)
參照 栗原武右衛門の項

栗原 紋次郎 地主 東京府在籍
妻 ツタ 文久元、三生、東京、井川鎌太郎
男 信雄 明四五、五、生、東京、井川鎌太郎
男 信雄 大三、三、生

君は東京府人栗原豊吉の長男にして明治二十一年十月
を以て生れ同三十四年家督を相續す地主たり家族は尙
三男良吉(大六、一、生)四男四十治(同九、五、五、五男
文五郎(同一、二、二、生)長女フジ江(同一、五、七、生)あり
姉フタ(明一五、五、五)は新潟縣津南津南平二男勝太郎
に同サダは山梨縣人佐野榮輝に嫁せり(同二六、三、生)
は東京府人酒井春之助に嫁し弟重藏(同二八、七、生)同
長太郎(同三二、九、生)は各分家せりA三五五(一)東京市
淀橋區下落合三ノ一七四)

栗本 茂 松坂屋上野店員 東京府在籍
妻 きみ 明二七、二、生、東京、鈴木友吉長
男 雄吉 大五、七、生

栗本 武三 従三位勳三等、辯護士 福岡縣在籍
妻 サト 嘉永五、九、生、養祖父佐助二女
男 雄三 明二八、一、二、生、朝鮮銀行員
女 子 明四〇、一、一、生、二男雄三妻、熊

君は福岡縣人栗原武三の男にして明治二十二年七月を
以て生れ先代又造の養子となり大正七年家督を相續す
先是明治二十四年東京法學院を卒業し検事任用試験に
及第司法官試験となり次で判事に任じ大分縣長官栗原
本八代各區裁判所判事を經て熊本長崎各地方裁判所判
事長崎福岡各地方裁判所判事長崎控訴院判事山形佐賀
各地方裁判所判事に任じ更に大分地方裁判所判事とな
り昭和五年退職し現時辯護士を開業す家族は尙孫昭雄
(昭二、一、一、生、二男雄三長男)同妻(同七、一、一、生、同二
男)あり長女君子(明二六、九、生)は長崎縣人山崎喜誠
に嫁せり(同三一、一、一、生、福岡、龍美一治)は福岡
縣人宮井井太郎長男法學士親造に嫁せりA二六四(福

同市藥院編三電三七〇七八)
參照 宮井親造、渡邊豊日子の項

栗本 稔 従五位、検事、木更津區裁判所檢
事、大分縣在籍
妻 静子 明三六、一、一、生、大分、二宮氏妹
男 博光 大三一、一、二、生

君は大分縣人にして明治二十一年七月二十九日を以て
生れる大正五年日本大學を卒業し同六年辯護士試験に合
格辯護士を開業す同十一年検事に任ぜられ岡山縣水戸
地方木更津區八日市場區各裁判所長岡縣新潟縣地方裁
判所長岡支那支隊等に檢事を兼任現時前記の官職に在り家
族は尙二男喜勝(大五一、〇、一、一、生)三男高幸(昭六、七、生)
あり(千葉縣君津郡木更津町區裁判所檢事局内)

栗本 勇之助 大阪商工會議所議員、大阪鐵工業
會館理事長、白濱温泉土地俱樂部
代表取締役、大阪製鐵所事務取
締役、栗本鐵管管務取締役、栗
本鐵工所日本鐵管管務代表社員
妻 ヒテ 明一七、四、生、和歌山、加納川郎
明三三、四、生、和歌山、花岡五
三長女、栗本鐵工所社員
養子 順三 明三四、一、生、和歌山、花岡五
三長女、工學士
妻 鈴子 明四五、一、生、養子順三妻、和歌
山、岡田一雄妹

君は和歌山縣人栗本半三郎の二男にして明治八年八月
を以て生れ同二十四年家督を相續す同三十二年東京帝
國大學法科大學英法科を卒業し鐵工業を營み栗本鐵工
所主宰者にして傍ら前掲各會社の重役を兼ね推されて
大阪商工會議所議員たり兼に能勢電氣鐵道關西鐵工大
阪鐵工業會館等各會社の重役たりし事あり昭和五年
鐵工業會館等各會社の重役たりし事あり昭和五年
ネバに於ける國際労働會議に日本使用者代表として列
席す家族は尙孫一(昭九、五、生、養子順三長男)同裕(同
六、七、生、同二男)同美枝子(同九、七、生、同長女)あ
り養子花子(明四二、六、生、大阪、貴田大和妹、樟蔭
高女出身)は奈良縣人林元貞三男醫學士部長に同桃代
(同四五、三、生、大阪、市橋彌吉孫)は大阪府人兒島義
次に嫁し兄弟太郎(同三、一〇、一、〇、生)は分家せりA一三七
二(大阪府天王寺區上ノ宮三五電南五六三〇)

參照 栗原吉兵衛の項

栗山 喜三郎 北海道運送社顧問、運送業
妻 ヤス 明一三、四、生、養父朝三郎長女
男 正吉 明三〇、一、生
男 健吉 明三二、九、生
男 孝吉 明三五、五、生
女 節子 明四〇、四、生

君は北海道人栗山喜三郎の男にして明治六年七月を以
て生れ栗山朝三郎の養子となり同三十九年分れて一家
を創立す運送業を營み傍ら北海道運送會社顧問たり兼
に同會社社長及小樽合同運送會社社長に擧げられし事あり
家族は尙五女芳子(大一一、一、一、生)あり(小樽市沙見
寮畑電三九三)

栗山 錦次郎 木炭問屋業 大阪府在籍
妻 ハマ 慶應三、三、生、現戸主
母 ハマ 明二、二、生、兵庫、尾野彌兵衛長
妻 ヤスノ 明二六、八、生、奈良、廣原岩吉二
女 金太郎 大七、一、生

君は大阪府人栗山錦吉の長男にして明治二十三年十月
十九日を以て生れる木炭問屋たり家族は尙三女幸子(大
一三、五、生)四女光子(同一、一、一、一、生)二男幸治(昭
六、一〇、生)あり妹天(昭三二、四、生)は同夫庄治(同二
九、二、生、兵庫、小段三三郎五男)と共に分家せりA
四一五(大阪府南區松屋町六九電東四八二九)

栗山 五郎 正五位勳四等、判事、東京區裁判
所判事、東京府士族
君は東京府人鈴木庸正の五男にして明治七年三月を以
て生れ先代ひさの入夫となり大正十年家督を相續す先
是明治三十九年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し
判事に任ず爾來南館岡地方新潟縣地方木更津千葉各區
同地方東京府地方同區十浦太田前橋各區裁判所判事東

京控訴院判事に任じ大正十三年東京府裁判所判事に
補せられ爾來調停裁判事務に専心し今日に至るA一二
三(東京市牛込區北町八)

栗山 耕作 奈良縣多額納稅者、金久商店總
長、金久商事代表取締役、奈良
信託、大和索道各務取締役、林業、
奈良縣在籍
妻 静 明三五、五、生、三重、川喜田四郎
兵衛妹
男 亮 昭三、一、一、生

君は奈良縣人西山藤作の長男にして明治二十八年八月
を以て生れ大正十五年家督を相續す先代藤作兵衛と
り出で林業を營み同家今日の基礎を作る君亦父業を繼
ぎ現時前記會社の重役にして縣下の多額納稅者に列じ
直接間接一萬二千六百六十圓を納むる家族は尙長女康
直(大一一、五、七、生)弟雄次郎(明二九、一〇、生)同妻和子(同
四二、一、一、生、奈良、栗田權右衛門孫)あり母ヒロ(安
政六、八、生、祖父藤作長女)は分家し姉種(明一八、四
生)は滋賀縣人森五郎兵衛に同民(同二三、九、五)は三重
縣人小津清左衛門に妹作(同三三、一〇、生)は愛知縣人
關戶守彦長男有彦に嫁せり(同二〇、一、一、生)は大正府人
豊田省三に嫁せり(奈良縣宇都郡五條町電三八)
參照 川喜田四郎兵衛、關戶有彦、豊田省三、森五
郎兵衛栗川喜田久太夫次郎次郎二の項

栗山 佐助 東京府在籍
妻 金太郎 明二九、七、生、長男金太郎妻、東
男 まさ 明四一、六、生、京、日高喜助長女
男 六之助 明四一、六、生

君は東京府人竹本彌吉の二男にして明治六年十一月十
四日を以て生れ同二十八年栗山長太郎の養子となり大
正二年家督を相續す地主たり家族は尙六男長吉(大四、
八、生)孫彰夫(同八、一、一、生、長男金太郎長男)同スミ
二(同二、一、一、生、同長女)同孝司(同一、四、一、生、同
二男)同昭一(昭四、一〇、生、同四男)同京子(同八、五
生、同二女)あり二男雄次郎(明三三、三、三、三男鐵三
郎(同三八、一一、一)は各分家し長女ま(同三四、一
三)は東京府人木村新吉三男松次郎に二女か(同三

ク之部 栗(山)

六、八生は東京府人小栗繁吉長男宗平に三女やま(大...)

栗山 重信

正五位勳四等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部勤務、宮内省御用掛、東京府在籍

栗山 茂

正五位勳四等、外務省條約局長、東京府在籍

栗山 俊一

正四位勳四等、建設省建築材料研究所主査、東京府在籍

栗山 千代

正四位勳四等、建設省建築材料研究所主査、東京府在籍

栗山 徳藏

地主、東京府在籍

栗山 敏雄

昭和三十二年、新湯、高野作衛三、東京府在籍

栗山 富次郎

日本燃料株式会社、東京府在籍

ク之部 栗(山)

君は福井縣人栗山英哉の長男にして明治十五年六月を以て生れ大正八年家督を相続す

栗山 捨三

正五位勳四等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務、大阪府在籍

栗山 拾三

正五位勳四等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務、大阪府在籍

栗山 捨三

君は和歌山縣人栗山長衛の四男にして明治二十四年六月を以て生れ同三十五年栗山寛一の養子となる

栗山 正雄

正五位勳五等、大藏技師、主税局長、東京府在籍

栗山 正雄

君は東京府人栗山銚次郎の二男にして明治二十年二月二十八日を以て生れ大正六年家督を相続す

栗山 安平

栗山商店代表社員、莫大小商、東京府在籍

栗山 安平

君は新潟縣人里見民彌の五男にして明治三十二年六月一日を以て生れ大正十五年先代安平の養子となり

ク之部 栗(山)

君は東京府人栗山善之助の二男にして同善太郎の弟同善次郎の兄なり

栗山 善四郎

八百善、料理業、東京府在籍

栗山 善之助

竹内金庫店無限責任社員、東京府在籍

栗山 善兵衛

大阪府多額納税者、家主、大阪府在籍

栗山 忠治

米穀商、東京府在籍

栗山 正時

山海堂出版部、書籍出版業、福島縣在籍

栗山 三郎

從四位勳三等、外務省通商局長、神奈川縣在籍

栗山 均

從五位勳四等、大藏省同僚官、奈良縣在籍

ク之部

栗(山)

栗(山)

ク之部

栗(山)

栗(山)

君は福井縣人にして明治七年二月を以て生るる...

來馬道憲

高岩寺住職、僧侶 東京府在籍

車安治郎

石炭商 東京府在籍

車谷馬太郎

日本信託銀行事務取締役、大阪株式取引所取...

君は本邦統計學の泰斗故吳文聰の長男にして醫學博士...

吳建

正四位勳三等、醫學博士、東京帝國大學教授...

吳安

山口實業責任社員 大阪府在籍

吳登喜

山口實業責任社員 大阪府在籍

君は代々信州松本藩士にして曾祖父定時藩の郡奉行...

畔田明

長野縣在籍

畔柳昇三

岡崎商工會議所副會頭、東海製菓 岡崎縣在籍

黒井梯次郎

正三位勳一等功三級、海軍大將 東京府在籍

滋明

男 滋明一〇、八生、男爵細川一之助妹...

黒井直良

東京市會議員、東京市芝區會議員...

黒石卯之助

大阪府在籍、藥種商並製藥業

黒板勝美

從三位勳二等、文學博士、東京帝國大學教授...

黒岩伊八郎

鹿兒島勸業銀行取締役、倉庫業 鹿兒島縣在籍

黒岩岩太郎

勳七等功七級、日本ドロマイト 鹿兒島縣在籍

黒岩岩太郎

勳七等功七級、日本ドロマイト 鹿兒島縣在籍

ク之部 黒岩(川)

尙庶子禮(大)〇、七生、生母、兵庫、相山(山)の同正妻(昭二、一)生、生母同上)あり二女(明四、二、四生)は大分縣人清井浦に嫁せり(大分縣北海部郡津久見町)

黒岩 清治 大阪アルミニウム製作所取締役 兼工場管理人、兵庫縣在籍 妻 明一八、一〇生、兵庫、竹内辰助 男 健 明四四、七生 女 明六六、六生

君は兵庫縣人黒岩彌五郎の二男にして明治十四年七月を以て生れ同三十年家督を相続す同三十七年大阪高等商業學校を卒業し現時大阪アルミニウム製作所取締役兼工場管理人たり家族は尙二男博(大)一、三三(三男)男三郎(同)一四、九生)あり長女秀子(明四一、一、二生)は大阪府人三宅庄藏長男莊太郎に妹(同)一七、二生)は兵庫縣人飯塚直次に嫁せり(兵庫縣武庫郡鳴尾村電話一七一八) 参照 三宅庄藏の項

黒岩 常平 都城商工會議所顧問、宮崎縣多額納税者、日向中央銀行、球摩川電氣、電氣證券保有各務取締役、金融業、宮崎縣在籍 父 常次郎 高永五、一〇生 妻 カノ 明二一、一〇生、宮崎、平沼正一 男 常 明三四、四生 女 千 明四〇、一〇生、長男常衛妻、宮崎 男 常 明四五、四生 女 常吉 大三、一〇生

君は宮崎縣人黒岩常次郎の長男にして明治八年十二月十三日を以て生れ大正十四年家督を相続す金融業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして宮崎縣多額納税者に列し直接國稅二千七百六圓納む又推されて都城商工會議所顧問たり兼に北諸縣都府製絲會社取締役たり家族は尙六男常郎(大)六、二生)七男常利(同)八、一(生)四女アイ子(同)一〇、二生)五女アエ子(同)一〇、二(生)九生)孫常善(昭四、一)生、長男常衛長男)弟重男(明三〇、一) 参照 石崎喜兵衛、黒川福三郎の項

君は宮崎縣人黒岩常次郎の長男にして明治二十年四月二十六日を以て生れ大正十三年家督を相続す明治四十二年明治大學商學科を卒業し材木商並に金融業を營む兼に都城電氣會社取締役に擧げられ宮崎縣多額納税者たり家族は尙二男謙(大)二、六(生)三男一明(昭五、六)生)妹須美(昭三九、一)生)あり弟常雄(同)二九、二(生)同妻マサ(同)三五、一(生)宮崎、前原福太郎(二)女)は其一女子を伴ひ分家し弟謙之助(同)三二、八(生)も亦分家し妹富子(同)三七、七(生)は宮崎縣人稻垣雅雄に嫁せりA三三六(東京市中野區小宮町五二電中野四六七五)

君は大阪府人黒川勝次郎の二男にして明治三年十一月を以て生れ同二十六年家督を相続す父祖の業を承けて播磨と稱し薪炭商を營みしも現に之を廢す妹まち(明) 参照 石崎喜兵衛、黒川福三郎の項

黒川 耕作 地主 愛知縣土族 妻 明一四、二生、東京、土、細野辰 男 晴次郎 明四四、三三 女 正流子 大四、三三 女 千 大八、九生 女 友子 大八、四生

君は岐阜縣人黒川三郎の四男にして明治八年七月二十八日を以て生れ後先代治屋の養子となり同三十年家督を相続す同三十四年東京帝國大學文部科學部科を卒業し地主たり家族は尙四男夏來(大)三、五(生)あり養母みね(慶應元、二)生、愛知、太田三郎右衛門女)は愛知縣人太田貞成の家籍に入り長女(明三三、四、一)生)は京都府人柴田彌兵衛に三女(同)三三、七(一〇生)は神奈川縣人柳下秀雄に四女(同)四三、三(生)は千葉県松戸丸尾に養妹(同)一八、五(生)は岐阜縣人黒川治家(衛)に嫁し三男乃武(大)三、八(生)は愛知縣人黒川治家の死跡を相続せりA三六九(名古屋市中區東外堀町二ノ四電東六〇三) 参照 柳下秀雄の項

君は先々代位四位勳四等黒川眞前より家名を揚ぐ眞前は群馬縣人金子吉右衛門の長男にして後國學者黒川春村の養子となる明治四年文部省權大教授に任じ爾來元考院權大書記官内省四等勳を経て農商務省權少書記官に轉じ尋で御歌所寄人東京美術學校教授兼東京音樂學

ク之部 黒川

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

君は宮崎縣人黒岩金作の長男にして明治二十年四月二十六日を以て生れ大正十三年家督を相続す明治四十二年明治大學商學科を卒業し材木商並に金融業を營む兼に都城電氣會社取締役に擧げられ宮崎縣多額納税者たり家族は尙二男謙(大)二、六(生)三男一明(昭五、六)生)妹須美(昭三九、一)生)あり弟常雄(同)二九、二(生)同妻マサ(同)三五、一(生)宮崎、前原福太郎(二)女)は其一女子を伴ひ分家し弟謙之助(同)三二、八(生)も亦分家し妹富子(同)三七、七(生)は宮崎縣人稻垣雅雄に嫁せりA三三六(東京市中野區小宮町五二電中野四六七五)

君は大阪府人黒川勝次郎の二男にして明治三年十一月を以て生れ同二十六年家督を相続す父祖の業を承けて播磨と稱し薪炭商を營みしも現に之を廢す妹まち(明) 参照 石崎喜兵衛、黒川福三郎の項

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

ク之部 黒川

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

君は東京府人黒川新次郎の長男にして大正二年二月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す地主にして現時東京帝國大學經濟學部に在學す家族は尙弟廣二(大)三、三(生)東大工學部在學)同武(同)五、五(生)あり(東京市麹町區九段一ノ一四ノ二電九段三二二七)

ク之部 黒川

ク之部 黒川

ク之部 黒川

(※印は姻族關係)

ク七五

ク之部 黒川

(※印は姻族関係)

ク七六

黒川 誠一 大田、三子
 女 榮美子 大田、一〇生
 君は京都府人藤清兵衛の四男にして明治十七年一月を以て生れ同四十五年黒川榮次郎の養子となる同三十八年京都高等工芸学校を卒業し同三十九年英蘭に留學マンチエスター高等工業学校に入學在學二ヶ年後佛蘭各國を視察す現時福井精練加工會社常務取締役たり家族は尙二男健次(大田、一〇、九生)三男昭(昭二、八生)あり福井市寶永上町電六九〇)

黒川 善一 正五位勳五等、東京商科大学事務官、庶務會計課長、東京府士族
 妻 明二、五生、東京、黒川とく二
 女 たつ子 大五、一、二生
 君は東京府人山中熊吉の長男にして明治二十二年一月二十四日を以て生れ大正四年先代淳の夫となり家督を相続す明治三十六年東京高等商業学校教員養成所を卒業し同四十二年第一商業補習学校校長東京商業学校校長を経て大正十二年東京商科大学事務官庶務會計課長となる昭和四年歐米各國に出張を命ぜられ翌五年歸朝す家族は尙一男知子(大田、一五、五生)あり(東京市小石川西丸町三電大塚二〇七三)

黒川 卓 兵庫大同信託取締役兼大阪支店長、東京府在籍
 妻 明二、一、一、東京、黒川新次郎
 男 久 明四、一、一、三菱銀行員、経済學士
 男 實 大、三、六、六生
 君は京都府人砂野米藏の弟にして明治十二年十月十八日を以て生れ同四十二年先代イネの夫となり家督を相続す同四十四年東京帝國大学法学部博士となり現に兵庫大同信託會社取締役兼大阪支店長たり卒業し現に銀行神戸大阪各支店長たりし事あり名望家として知らるる家族は尙三男勉(大田、六、九生)長女濱子(同九、一、二生)あり(大田、六、五三)兵庫縣武庫郡住吉村花田電御影二七二)

黒川 秀雄 從五位、男爵、東京府華族
 君は先々代通軌より家名を揚し通軌は舊豫州小松藩士にして明治六年陸軍大佐に任じ陸軍中將に累進し廣島名古屋各領事司令官第四各師團長東京武官長東宮大夫等に歷す西南の役旅團參謀長同司令官を以て勲功を顯し同二十年華族に列じ男爵を授けられたる先代幹太郎は帝國林野管理技術師同局東京出張所長となり大正七年以來貴族院議員に擧げらるる事二回に及べり君實は東京府人黒川通幸の長男にして明治四十二年五月を以て生れ先代幹太郎の養子となり昭和六年家督を

黒川 德藏 東京府在籍
 母 弘長女 助長女
 妻 晴夫 明四、四、生、福井、士、久世耕
 女 幸子 大五、二、生
 君は東京府人黒川伊太夫の長男にして明治八年二月七日を以て生れ同三十五年家督を相続す地家主たり長女元子(明三、七、七生)は東京府人谷田清作長男清に三女清子(大田、三、七、七生)は同府人山本茂三郎長男茂太郎に嫁まつ(明一、六、一〇生)は福井縣士族清水清藏に同く(同二、八、八生)は佐賀縣士族川副安一に嫁し弟茂隆(同二、三、六、六生)は分家せり(大田、六、二、一)東京市麻布區常盤町二九電赤坂一〇一四
 參照川副安一、山本茂三郎の項

黒川 直吉 萬直、果物問屋業、東京府在籍
 妻 元治元、一、一、東京、鈴木吉右衛門
 妻 幸子 大、四、九、東京、鈴木かね長女
 君は東京府人先代直吉の長男にして明治十七年十月十九日を以て生れ大正十年家督を相続し前名金藏を改め號名十萬直と稱し果物問屋業を營む弟菊太郎(明三、三、九生)は同妻きく(同三、七、一〇生、東京、星野壽作三女)及其子女を併ひ分家せり(大田、六、六、二、二七)東京市神田區須田町一〇一〇電神田三三三
 參照須田町一〇一〇電神田三三三

黒川 松右衛門 京都府多額納稅者、黒川松右衛門商店名義執行社員、白鶴屋、酒類商、京都府在籍
 妻 天保二、一、二、生、大阪、田中久兵衛
 妻 慶應三、一、一、生、先々代松右衛門二女
 妻 リニユ 明二、四、一、生、大阪、奥田六兵衛長女
 男 弘一 明四、四、一〇生
 君は京都府人先代松右衛門の二男にして明治十九年十二月二十八日を以て生れ大正九年家督を相続し前名久次郎を改め號名す白鶴屋と稱し酒類商を營む黒川松右衛門商店名義執行社員にして現に京都府多額納稅者に

黒川 福三郎 大阪商工會議所議員、黒川商店總社長、石橋製菓取締役、木村徳兵衛商店、電氣化學工業、新理人絹各業、大阪府在籍
 妻 明二、一、二、生、現戸主
 妻 明二、四、四、生、養父幸七郎子、生母、龍池シナ
 養子 幸七 大五、二、二、生、東京、木村孝太郎長子
 君は東京府人木村徳兵衛の三男同孝太郎の弟同孝太郎の兄にして明治二十六年一月十八日を以て生れ大正六年黒川幸七の養子となる現時大阪株式取引所一般取引員にして同商議員同國債取引員副委員長に擧げられ傍ら前記各會社の重役に就任し推されて大阪商工會議所議員たり昭和二年三月經濟狀態視察の爲南亞米利加北米合衆國及歐洲諸國を歴遊同七年四月大阪工業會員として新興滿洲國を視察す(大田、五、一、八、二〇)大阪府天王寺區上本町八ノ八電船場三八一六
 參照木村孝太郎、木村徳兵衛、黒川幸七、木村孝太郎の項

黒川 光景 東京府多額納稅者、虎屋、菓子商、東京府在籍
 妻 明二、一、一、生、東京、士、江口忠次姉
 妻 光榮 明二、一、一、生、東京、士、江口忠次姉
 妻 武雄 明二、六、三、生、長女算子夫、熊本藩田代藩弟、法學士
 女 算子 明三、〇、一、二、生、養子武雄妻
 君は京都府人黒川備軒の二男同光正の弟にして明治四年二月九日を以て生れ同二十九年兄光正の死より分れて一家を創立し後前名算雄を改む宮内省御用御菓子舖にして虎屋と稱し東京府多額納稅者に列す巖に赤坂區會議員たりし事あり家族は尙孫光朝(大田、七、七、七生)養子武雄長男あり(大田、三、一、一、一、一)東京市赤坂區傳馬町三ノ九電青山五〇一五)

黒川 安兵衛 大阪府在籍
 妻 明二、七、一、二、生、大阪、西浦清吉
 妻 イト 明二、七、一、二、生、大阪、西浦清吉
 男 安一 大、一〇、九、生
 君は大阪府人先代安兵衛の長男にして明治二十七年八月十七日を以て生れ大正九年家督を相続し同十年前名算久造を改め號名す家主たり家族は尙長女富紀子(昭三、久、二、二、女)喜久子(同四、九、九、生)妹フジ(明二、九、三、三、二、生)二女喜久子(同四、九、九、生)同健三(同三、七、一、生)は各分家せり(大田、五、八、二)大阪府東淀川區三國本町九五)

黒川 雄之進 關西漆塗匠社長、日本絹織紡績取締役、伊豫鐵道電氣務監督、農業、愛媛縣在籍
 妻 明二、〇、一、二、生、愛媛、工藤榮次郎
 妻 ヨシ 明二、〇、一、二、生、愛媛、工藤榮次郎

黒川 雄之進 關西漆塗匠社長、日本絹織紡績取締役、伊豫鐵道電氣務監督、農業、愛媛縣在籍
 妻 明二、〇、一、二、生、愛媛、工藤榮次郎
 妻 ヨシ 明二、〇、一、二、生、愛媛、工藤榮次郎

黒川 與兵衛 新與、乾物商、大阪府在籍
 妻 明三、九、一〇、生、京都、藤井市之助長女
 君は大阪府人先代與兵衛の長男にして明治三十三年五月三十一日を以て生れ大正三年家督を相続し前名新太郎を改め號名す新與と稱し乾物商を營む家族は尙長女歌子(大田、一、五、五、生)弟與三郎(明三、七、二、生)あり姉ヒロ(同三、九、九、生)は大阪府人與田耕治郎に嫁しヒロ(同三、九、九、生)は同府人清水和一郎に同く(同四、一、一、一、一)は同府人杉本榮助長男誠三に嫁せり(大田、六、六、二)大阪府北區樋上町七電豊北七九三五
 參照杉本榮助、藤井市之助の項

黒川 沙 從五位勳五等、司法書記官、大臣官房會計課長、東京府在籍
 妻 明三、一、一、生、男爵黒川秀雄伯母
 妻 かね代 明三、四、一、二、生、東京、西郷佐助
 君は東京府人黒川權の長男にして明治二十五年五月を以て生れ後家督を相続す大正六年東京帝國大学法学部法律科を卒業し檢察事に任じ神戸地方同區東京地方兼同區各裁判所檢察を歴補し同十五年司法書記官に任ぜられ刑務局に勤務し現時前記の職に在り昭和四年歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尙長女洋子(昭二、四、生)妹冬子(明三、八、一、一、生)あり(東京市品川區五反田町五ノ六〇電高輪二五六九)
 參照男爵黒川秀雄、藤井清水谷實英の項

黒河内 信彌 神戸市神戸區會議員、兵庫縣在籍
 妻 明一、六、六、生、長野、黒河内猪之吉姉
 妻 信一郎 明三、六、三、生
 妻 信江 明四、〇、一、一、生
 妻 文雄 明四、三、一、一、生
 養子 知子 明四、二、一、一、生、兵庫、黒河内秀太郎長女
 君は兵庫縣人黒河内丹治の長男にして明治十年十二月四日を以て生れ同十七年家督を相続し現時神戸市神戸區會議員たり二男信二郎(明三、七、一、一、生)は兵庫縣人黒河内かゝの養子となり弟榮治(同二、一、一、一、一、一)は分家(同二、六、二、二)は茨城縣人武井大助に嫁せり(大田、一、三、三、三)神戸市神戸區北長狭通七ノ七九電元町二六五七
 參照木下國明、武井大助の項

黒河内 四郎 從四位勳三等、工學博士、東京高等鐵道技術師、東京府士族
 妻 明一、七、二、生、養父源治四女
 妻 みよ子 明四、三、八、生
 君は福島縣士族香川源左衛門の二男にして明治十五年七月十三日を以て生れ同縣士族黒河内源治の養子となり同四十四年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工學科大學士工學科を卒業し同四十二年鐵道技術師に任ぜられ大正四年米國に留學す歸朝後鐵道技術師となり工務局改良課勤務信濃川電氣事務所所長工務局千葉出張所長同局保線課長建設局計畫課長兼工務局長等に歴任し昭和四年建設局長となり同五年工學博士の學位を受く同六年十月鐵道省工務局長を命ぜられ同九年九月退官し現時前記の職にあり家族は尙三男登(大田、二、九、九、生)四男實(昭二、八、八、生)あり(東京市澁野川區田端五三七電小石川五二七九)

黒木 榮太郎 前住友大産生鐵業所支配人、宮崎縣在籍
 妻 明二、一、一、生、深水正史長女
 男 正人 大元、九、生

黒川 雄之進 關西漆塗匠社長、日本絹織紡績取締役、伊豫鐵道電氣務監督、農業、愛媛縣在籍
 妻 明二、〇、一、二、生、愛媛、工藤榮次郎
 妻 ヨシ 明二、〇、一、二、生、愛媛、工藤榮次郎

ク之部 黒川、河、木

(※印は姻族關係)

ク七七

君は宮崎縣人黒木紋藏の三男にして明治十一年二月を以て生れ同十四年分れて一家を創立す先是同三十四年東京法學院を卒業し同三十七年住友合資會社に入り大倉生鐵業所支配人とたりしが退きて現開地に在り家族は尙二男龍郎(大五、三三)男幹夫(同七、八)二女榮子(同二〇、五五)四男節夫(同二二、一〇)三女ミチ子(同二五、九八)四女茂里子(昭四、五五)あり(東京市中野區沼袋北一ノ五七二)

黒木佐久馬

九州水力電氣株式會社主任監査役、延岡電氣、九州土地興業、九州電氣軌道、博多電氣軌道、九州保全、神都電氣、別府大分電氣、筑後電氣、昭和三十七年、福岡、野田茂一姉

妻 マス 昭和三十七年、福岡、野田茂一姉

男 隆斗 昭和三十七年、福岡、野田茂一姉

男 政斗 昭和三十七年、福岡、野田茂一姉

男 政斗 昭和三十七年、福岡、野田茂一姉

男 政斗 昭和三十七年、福岡、野田茂一姉

黒木三三

正四位、伯爵、貴族院議員

東京府麻生

妻 ヒサコ 昭和三十七年、東京、松方長女

妻 子 昭和三十七年、東京、松方長女

黒木重也

正五位勳六等、鹿兒島高等農林學科教授、鹿兒島縣士族

松本左衛門長女

妻 ヒサコ 昭和三十七年、鹿兒島、永谷義

妻 子 昭和三十七年、鹿兒島、永谷義

黒木長太郎

正五位勳六等、第七高等學校造士

館生主事兼教授、宮崎縣在籍

妻 ヨシ 昭和三十七年、美父重藏四女

妻 子 昭和三十七年、美父重藏四女

黒坂静一

從四位勳三等功四級、陸軍少將

兵隊在籍

妻 静子 昭和三十七年、兵隊、兒島謙治姉

妻 子 昭和三十七年、兵隊、兒島謙治姉

黒越正

黒越イッキ製造會社員

大阪府在籍

妻 シナ 昭和三十七年、一、兵隊、下岡龜一

妻 子 昭和三十七年、一、兵隊、下岡龜一

黒澤源七郎

從七位勳七等、水濱電車務取役

茨城縣士族

妻 とく 昭和三十七年、一、生、茨城、須田文之助

妻 子 昭和三十七年、一、生、茨城、須田文之助

黒澤源七

王子醫院、醫師

東京府在籍

妻 やす 昭和三十七年、東京、加藤クニ妹

妻 子 昭和三十七年、東京、加藤クニ妹

黒澤剛

丸興製糖社長、佐久鐵道、共榮土地電氣各務監督、片倉製糸紡績、長野縣在籍

妻 やす 昭和三十七年、一、生、養父廣次郎長女

妻 子 昭和三十七年、一、生、養父廣次郎長女

ク之部 黒(崎、澤)

(※印は姻族關係)

杉並區清水町五〇

正四位勳二等功五級、陸軍中將、奉天商工會所特別議員、奉天造兵所總長、奉天監査人、東京府在籍

妻 歌子 昭和三十七年、東京、鶴澤茂登

妻 子 昭和三十七年、東京、鶴澤茂登

黒崎延次郎

正四位勳二等功五級、陸軍中將、奉天商工會所特別議員、奉天造兵所總長、奉天監査人、東京府在籍

妻 歌子 昭和三十七年、東京、鶴澤茂登

妻 子 昭和三十七年、東京、鶴澤茂登

黒崎真也

正五位勳四等、前山口縣知事

山形縣士族

妻 ナチ 昭和三十七年、秋田、川井鐵也

妻 子 昭和三十七年、秋田、川井鐵也

黒崎眞也

正五位勳四等、前山口縣知事

山形縣士族

妻 ナチ 昭和三十七年、秋田、川井鐵也

妻 子 昭和三十七年、秋田、川井鐵也

黒崎定三

從三位勳二等、貴族院議員

京都府在籍

妻 弘子 昭和三十七年、貴族院議員和田彦次郎長女、學習院女學部出身

妻 子 昭和三十七年、貴族院議員和田彦次郎長女、學習院女學部出身

黒澤源七

王子醫院、醫師

東京府在籍

妻 やす 昭和三十七年、東京、加藤クニ妹

妻 子 昭和三十七年、東京、加藤クニ妹

黒澤源七

王子醫院、醫師

東京府在籍

妻 やす 昭和三十七年、東京、加藤クニ妹

妻 子 昭和三十七年、東京、加藤クニ妹

興製糖會社々長たる前記各會社の重役たり家族は尚孫みち子昭四、二生、長男末太長女あり(長野縣南佐久郡穂積村電燈八三三)

参照 黒澤利重、黒澤陸之助の項

黒澤 二郎 正五位勳四等、大使館一等書記官
妻 キヨ 明二八、四生、秋田、又井藤太郎
男 皓 大四、七生
女 綾子 大六、八生、フェリス女學校出身
君は秋田縣人黒澤熊雄の三男にして明治二十三年六月を以て生れ大正十三年家督を相続す同五年東京帝國大學法政學部政治學科を卒業し外交官及領事官試験に合格同年外交官補に任じ支那在勤となり爾來領事官補ハルビン、モスクワ各在勤外交官補白耳義國瑞典各國在勤公使館三等書記官瑞典國支那國在勤公使館二等書記官支那國波蘭國西班牙國在勤各在勤公使館二等書記官となり河内在勤し同六年大使館一等書記官に任じブラジル國在勤を経て昭和九年四月土耳其國在勤に轉ず家族は尙三女珍子(大一一、一〇生)二男紀明(同一五、二生)四女洋子(昭二、一一生)あり(在土耳其大使館内留守宅)東京市赤坂區青山北町四ノ六六電膏山六五〇三)

黒澤 潤三 醫學博士、小川眼科病院長、杉山
妻 明七、八生、女子美術學校出身
君は埼玉縣人堀口新右衛門の二男にして明治二十七年七月二十七日を以て生れ黒澤家の養子となり後家督を相続す大正十年東京帝國大學醫學部を卒業し同大學醫學部眼科學教室に勤務し爾來東京女子醫學專門學校講師日本醫學科大學教授及附屬醫院眼科部長を経て現時前記の職に在り義に醫學博士の學位を授けらるるスポーツ旅行音楽に興味を有す家族は尙長女珍子(大九、八生、

雙葉高女在學(二女詢子(同一二、四生)三男孝夫(昭四、三生)ありA四九九(東京市下谷區池ノ端仲町一五電下谷四五八・四七九八)

参照 黒澤利重、黒澤陸之助の項

黒澤 次久 正四位勳三等、東京倉庫、共濟火
妻 千代子 明二一、七生、男爵周布兼道妹
男 勳 明四二、一一生
男 實 明四三、一一生
君は長野縣人黒澤次郎の長男にして明治十三年八月を以て生れ大正十年家督を相続す明治三十九年東京帝國大學法政學部法政科を卒業し官界に在ること十五年後辭して實業界に入り現時前記各會社の重役にして義に商業倉庫日本火災保險帝國火災保險各會社の重役たりし事あり義叔母に(安政六、四生)は長野縣人島田金井清の母たり(東京市四谷區東信濃町二八電四谷二一〇〇)

参照 男爵周布兼道、※小平権一の項

黒澤 恒太郎 長野縣多額納稅者、酒造業
妻 文 明一七、一一生、長野、母袋忠一
男 太郎 明四三、三生
女 おちよ 大二、一〇生
君は長野縣人黒澤嘉四郎の長男にして明治十一年三月三日を以て生れ大正十三年家督を相続す酒造業を營み義に黒澤合名會社社員たりし事あり直接國稅六百十九圓を納め長野縣多額納稅者として知らるる家族は尙三男三三(大八、八生)四男三三(同一〇生)三女喜彌子(同一三、三生)四女善恵子(同一五、二生)妹は(明三〇、九生)姪貴美子(大一一、一〇生、亡弟多七郎長女)同嘉代子(明四、七生、二生)あり弟直治(明三〇、三生)同妻し(同一二、六生)長野、並木直次郎三女弟益五郎(同一二、一〇生)同妻久(同一九、三生)長野、高見澤和子(同一二、一〇生)は各其子女を伴ひ分家し弟已之作

(同一七、一〇生)も亦分家し妹なつ(同一五、六生)は長野縣人武重一祐弟英祐に嫁せり(長野縣南佐久郡穂積村)参照 武重一祐の項

黒澤 貞次郎 タイアライター事務用機械器具商
妻 敬一 明三六、九生
男 明三九、一〇生、東京、竹中善枝
女 敬一 明四一、一〇生、東京、藤村新太郎妹
君は東京府人黒澤慶助の長男にして明治八年一月五日を以て生れ同三十五年家督を相続すタイアライター事務用器具商を營む家族は尙孫宏(昭五、九生、長男敬一)長男(明四、五生)同長女(明二、二生)あり長女ゆき(同一三、三生)は東京府人尙井喜平長男専太郎に嫁し(同一三、一〇生)は同府人服部孫右衛門二男幸太郎に嫁せり(東京市京橋區銀座六ノ二ノ一電銀座一六三八)

黒澤 利重 上田商會議所議員、諏訪倉庫
妻 金 大八、五生
女 浩一 大八、五生
君は長野縣人黒澤慶助の長男にして同兩の養弟同陸之助の甥なり明治十九年十月を以て生れ大正八年家督を相続す現時諏訪倉庫會社社長たる前記前記各會社の重役にして上田商會議所議員に舉げらるる義に黒澤銀行頭取第十九銀行常務取締役上田商會議所特別議員多額納稅議員たりしことあり家族は尙三女優子(大一一、三生)四女とも子(同一五、一〇生)五女のり子(昭二、一〇生)あり(大八、一〇生)

一)あり妹みよ(明二、八生)は長野縣人宮原清に同た(同一三、七生)は同縣人其輪保に嫁せり(長野縣南佐久郡穂積村)参照 黒澤利重、黒澤陸之助の項

黒澤 直太郎 北海道殖産銀行取締役兼支配人
妻 明一五、九生、青森、太田子之松
君は北海道人黒澤直右衛門の長男にして明治十三年十月を以て生れ先代ソノの養子となり大正五年家督を相続す明治二十八年通信講習所を卒業し通信事務員となり後北海道銀行に入り各地支店長に就任し爾來同行在勤二十年に及び大正十五年聘せられて北海道殖産銀行に轉じ現時取締役兼支配人たり同族に趣味を有す家族は尙五男直江(大八、二生)六男直登(同一、四生)七男直美(同一三、四)あり四男直志(同一八、二生)は北海道人黒澤ミキの養子となれり(北海道夕張郡角田村)

黒澤 陸之助 佐久鐵道社長、長野電鐵取締役
妻 慶應三、三生
君は長野縣人黒澤利左衛門の四男同利重の叔父同期の養父にして文久元年五月を以て生れ明治二十八年分科の重役にして義に千曲川電力會社の重役に舉げらるる昭和五年附設養老を授けらるる家族は尙孫鶴子(大一一、八生)長男富次郎(昭二、九生)同長男(同一二、一〇生)同五、三生、同二男あり長女ひさ(明二、二生)一〇(二)は長野縣人白田登に二女八重子(同一三、六、二生)は

同縣人小林毅に嫁し二男徳三郎(同一二、一〇生)は同妻初江(同一三、四、一〇生)長野、神津好雄長女)と共に同縣人黒澤景一の養子となり五男六助(同一三、一〇生)は同妻登美子(同一三、七、二生)長野、小宮山健二妹)と共に六男拾松(同一三、四、四生)は同妻あき(同一四、〇、八生)長野、大井信太郎妹)と共に各分家せり(長野縣南佐久郡穂積村電燈八三三)

黒須 七郎 正七位、前大阪府技師
妻 明一八、一〇生、長野、久保常男二
君は長野縣人市瀬信の五男にして明治十二年十二月を以て生れ先代藤三郎の養子となり大正六年家督を相続す明治三十八年東京帝國大學工學部土木工學科を卒業し大阪府技師電氣局技術部工務課長たりしも現時地に在り家族は尙三男洋三(大一一、三生)あり(大阪市住吉區帝塚山中四ノ六電住吉三七〇)

黒須 巳之吉 醫師
妻 安政五、九生
君は千葉縣人黒須重次郎の長男にして明治十八年三月十日を以て生れ後家督を相続す大正二年東京帝國大學醫學部を卒業し後英獨瑞各國に留學し金杉病院副院長兼東京帝國大學講師を経て大正十三年現地に醫を開業し今日に至る耳鼻咽喉科醫師たり家族は尙二男英二(大六、一〇生)成城學園在學(三男正三(同一八、二生)同上在學)四男文夫(同一九、一〇生)同上在學)長女ゆり子(同一二、一〇生)同上在學)五男吉夫(同一四、一〇生)同上在學)ありA一六二八(東京市麹町區永田町二ノ一電銀座三五八〇)

黒瀬 勘一 從五位勳六等、專賣局參事、金澤
妻 弘子 明四三、八生、伯耆長谷川猪三郎
君は福岡縣人黒瀬才二郎の長男にして明治二十九年二月を以て生れ大正十二年家督を相続す同九年東京帝國大學法政學部政治學科を卒業し文官高等試験に合格す大藏省專賣局に入り副參事に任ぜられ爾後高崎水戸大阪各地方專賣局事務課長に任じ専賣局參事に進み郡山地地方專賣局長を経て昭和七年金澤地方專賣局長に轉じ現在に至る家族は尙長女武子(大一一、二生)二女静子(昭二、一〇生)三男三郎(同一四、七生)三男照夫(同一八、一〇生)四男次郎(同一三、二生)五男浦和船渠會社社員、工學士同平八郎(同一三、八生)福岡中學出身)同乾二(大三、六生)金澤高工在學)ありA二二三(金澤市長町一番丁一五電九七〇)

黒瀬 義一 從四位勳六等、男爵、岡山縣工業學
妻 明一八、四生、岡山、土、岡村正
君は先代義門より顯る義門は舊岡山藩士にして明治四年陸軍砲兵少尉に任じ果敢陸軍中將に陞る其間砲兵射撃學校長砲工學校長下關守備隊司令官第二軍砲兵部長野砲兵監要塞砲兵監臺灣守備司令官留守第七師團長等に歴補し日清日露兩役の功により勳一等に敘し特

に親族に列し男爵を授けられ後貴族院議員に列す君は其の長男にして明治七年一月十一日を以て生れ大正八年...

黒瀬 寅吉

前柳太拓殖鐵道社長 妻 イシ 養子 明二五、五生、北海道、高坂政吉...

黒瀬 増太郎

備前銀行取締役 妻 タツヨ 明一五、四生、廣島、高橋嘉一郎...

常議員たりし事あり家族は尙三男大興、四生、六女由久子(同一〇)、一孫孫千鶴子(昭三、六生、長男...

黒田 伊勢松

伊豫木村長、伊豫長濱銀行常務取締役、大洲銀行、伊豫鐵道各務取締役、愛媛縣在籍...

黒田 市之助

カタバミ總代表取締役、桂屋商店、工業藥品商、東京府在籍...

黒田 喜代子

地主 大阪府在籍 母 コイシ 明一七、一〇生、廣島、津久井英...

黒田 吉郎

三和銀行藤原橋支店長 母 ふく 慶應二、七生、神岡、望月紀平二...

黒田 清

正四位、伯爵、國際文化協會理事 當家は先々代從一位大勳位清隆より顯る清隆は萬應兒...

か相續し前名與三郎を改め與三才田中屋號と稱し繪具染料及工業藥品商を營み傍ら前記カタバミ會社代表取締役...

黒田 榮助

九二人造肥料店員 妻 ミノ 明二五、三生、山形、佐藤助次妹...

黒田 榮太郎

酒類仲買業 妻 ます 明二二、四生、兵庫、鹽谷宗右衛...

黒田 延太郎

地主 大阪府在籍 妻 マス 衛一八、七生、大阪、岩井與治兵...

黒田 清秀

地主 東京府士族 妻 つぎ 明一四、四生、山梨、大木喬策妹...

黒田 藏之助

勳八等、埼玉縣會議員、熊谷合同運送倉庫監査役、埼玉縣在籍...

ク之部 黒田

京府人富田次郎に嫁せり(熊谷市熊谷三二二七) 参照 黒田小源治の項

黒田 敬 伊豆銀行、伊豆相互貯蓄銀行、眞植護各務取締役、静岡縣在籍

父 重兵衛 文久二、九生、現戸主
妻 千代子 明二七、五生、静岡、精明圭造長
男 善也 昭三、五生
女 八千代 大八、四生

君は静岡縣人黒田重兵衛の長男にして明治十四年十二月を以て生れ同四十年慶應義塾大學部理財科を卒業し實業界に入り現時前記銀行會社の重役たり(静岡縣田方郡三島町) 参照 精明圭造、黒田重兵衛中井光次之項

黒田 馨介 東洋火災保險株式會社支店支配人 東京府土族

妻 とみ 明一四、一二生、東京、瀬戸治郎 吉養母

君は山口縣土族伊藤藏の庶子にして明治十四年十月を以て生れ先代吉政の養子となり同三十五年家督を相続す同三十六年東京高等商業學校を卒業し現時東洋火災保險株式會社大阪支店支配人たり(兵庫縣武庫郡鳴尾村西畑二五ノ五)

黒田 小源治 埼玉縣多額納稅者、熊谷合同運送會社取締役、村木商 埼玉縣在籍

妻 よし 明二七、一一生、叔父寛之助長女 義治 大七、九生 女 まち 大五、四生

君は埼玉縣人黒田豊之進の長男同藏之助の甥にして明治二十二年三月を以て生れ同三十七年祖父小源治の後を承け家督を相続し前名豊治を改め養子村木商を營み傍ら前記會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅六百六十五圓を納む義に下田銀行取立にして静岡縣會議員衆議院議員等に擧げらるる地方に於ける有力者として重望あり二女あり(明三〇、六生)は静岡縣人中井光次に養子富子同二七、一一生、静岡、石井節三妹)は同縣人小川基に嫁せり(静岡縣加茂郡下河津村) 参照 黒田敬、中井光次、仁田大八郎 仁田直一の項

黒田 庄太郎 西陣織商會 京都府在籍

妻 キミ 明一四、二生、京都、遠藤五郎助 長女

男 庄五郎 明三三、五生
男 シツエ 京都、若井藤四郎二女

君は京都府人黒田庄三郎の長男にして明治九年十一月九日を以て生れ同十六年家督を相続す西陣織物商を營む家族は尙六男八郎(大六、九生)三女あり(同九、九生)孫勝一(同二五、一〇生)長男庄五郎長男(同四一、四生)は同府人川瀬勝に嫁し五男勝藏(大四、二生)は同府人谷利茂助の養子となり姉ヨウ(明五、一一生)は同府人船越長兵衛に嫁せりA二九〇B八二(京都市下京區醒ヶ井佛光寺下電下一〇六九)

黒田 豊太郎 大阪府在籍

妻 シツメ 明六、八生、大阪、荒木淺吉妹

男 俊雄 明四三、四生、野村證券會社調査 勤務、經濟學士

君は大阪府人黒田松三郎の二男にして明治八年八月五日を以て生れ兄常太郎より分れて一家を創立す家主

(※印は姻族關係)

元、四生)同妻に(同八、一〇生、杉山又兵衛二女)は其子女を伴ひ分家せり(熊谷市熊谷町電一〇五) 参照 相澤米太郎、黒田藏之助の項

黒田 鴻五 從五位勳六等、商工書記官兼臨時産業會同理事官、貿易局貿易課長、岡山縣在籍

妻 多嘉子 明三六、一〇生、福岡、白仁武二 男 克巳 昭四、六生 女 淑徳高女出身

君は岡山縣人にして明治二十九年十一月を以て生れる大正九年東京帝國大學法學部法科を卒業し直ちに保險事務官補となり同年文官高等試驗行政科に合格す爾來農商務事務官商工事務官書記官兼臨時産業會同理事官に任じ現時貿易局貿易課長たり趣味にゴルフあり家族は尙長女文子(昭六、一一生)ありA一〇五(東京市四谷區左門町九七電四谷五五九一) 参照 白仁武の項

黒田 左武郎 承土地地籍取締役 兵庫縣在籍

妻 幸 明一九、二生、兵庫、大崎利右衛門 弟 明三八、四生、兵庫、大崎利一郎

君は兵庫縣人黒田伊三郎の二男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同三十九年日本法律學校を卒業し實業界に入り現時承土地地籍取締役に任じ(神戸市兵庫區戸場町四五電兵庫一三七〇) 参照 幸本龍太郎の項

黒田 靜 從四位勳五等、日本製鐵理事、八幡製鐵所病院長兼内科醫長、和歌山縣在籍

妻 ミツエ 助三女 明九、一二生、和歌山、妹背勝 女 ユキエ 妹、日本女大出身

君は大阪府人黒田善三郎の長男にして明治十四年二月七日を以て生れ同二十五年家督を相続す國光堂と稱し帳簿製造業を營む家族は尙二男敏之助(大六、一〇生)三男端之助(同八、四生)長女登子(同九、一一生)同二女美津子(同二四、七生)妹セキ(明一四、四生)あり同二女(同二五、一一生)は分家せりA一二二五B二二七(大阪府南區安堂寺橋通二ノ三電船場三三〇九)

黒田 善太郎 國光堂、帳簿製造業 大阪府在籍

妻 マサ 明一九、一一生、大阪、中野要蔵妹 男 晴之助 大五、六生

君は大阪府人先代善太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名三郎を改め聖名す同四十四年早稲田大學商科を卒業し祖業を繼承して村木問屋業を營む義に東京木材市場東京外國木材各會社の重役にして東京商工會議所議員東京外國木材輸入協會長東京木材問屋同業組合長等に推され昭和二年六月北米加奈陀に木材産地視察の爲渡航す家族は尙三女敬子(大一一、一〇生)二男善雄(同二四、二生)三男善昭(昭三、三生)弟榮亮(明三五、三生)同妻みどり(同四〇、七生)神奈川、小野良三長女)及其一子あり妹美津(同二五、四生、三輪山高女出身)は東京府人橋本直一長男慶大理財科出身直正に同愛(同二七、八生、東京女學院出身)は群馬縣人生市市太郎に嫁せり(東京市澁谷區代々木本町八〇八電四谷六八九四)店舖(東京市澁谷區木場町二ノ二電本所三四八五) 参照 橋本直一、榮亮善雄之助の項

黒田 善太郎 村木問屋業 東京府在籍

妻 芳枝子 明二五、八生、埼玉、渡邊二女 女 善和 大六、二生

君は徳島縣人先代善太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名三郎を改め聖名す同四十四年早稲田大學商科を卒業し祖業を繼承して村木問屋業を營む義に東京木材市場東京外國木材各會社の重役にして東京商工會議所議員東京外國木材輸入協會長東京木材問屋同業組合長等に推され昭和二年六月北米加奈陀に木材産地視察の爲渡航す家族は尙三女敬子(大一一、一〇生)二男善雄(同二四、二生)三男善昭(昭三、三生)弟榮亮(明三五、三生)同妻みどり(同四〇、七生)神奈川、小野良三長女)及其一子あり妹美津(同二五、四生、三輪山高女出身)は東京府人橋本直一長男慶大理財科出身直正に同愛(同二七、八生、東京女學院出身)は群馬縣人生市市太郎に嫁せり(東京市澁谷區代々木本町八〇八電四谷六八九四)店舖(東京市澁谷區木場町二ノ二電本所三四八五) 参照 橋本直一、榮亮善雄之助の項

黒田 莊次郎 關西大學理事、辯護士 大阪府在籍

妻 一 夫 明三三、一〇生、法學士 女 文 明四〇、九生、辯護士、法學士

君は大阪府人千歳莊三郎の長男にして明治元年七月三日を以て生れ同十五年家督を相続す同三十二年分れて一家を創立す先是同二十二年關西法律學校を同二十四年和佛法律學校を卒業し次で辯護士試験に合格し列事に任じ米子區邊區神戶地方各裁判所判事に歴補し後官を辭して辯護士を開業し以て今日及ぶ現時關西大學理事に擧げらるる家族は尙孫直行(昭八、七生)長男一夫長男)あり二女あり(明三八、一一生)は和歌山縣土族山本節介に三男三千雄(同四四、一一生)京大工學部在學)は同縣人山本ノブに執れも養子となれりA六〇八(大阪府西區土佐堀通一ノ二三電土佐堀二二三)

黒田 泰造 正四位勳三等、日本製鐵取締役 福岡縣在籍

妻 仁造 明二一、一二生、東京、士、目下 女 貴美子 大七、二生

君は大阪府人黒田吉三郎の二男にして明治十六年五月を以て生れ大正十一年兄慶太郎より分れて一家を創立す明治三十九年東京帝國大學工學部化學科を卒業し製鐵所技手となり尋で同技師に任じ同四十五年歐洲各國に出張を命ぜらるる歸朝後農商務技師を兼任し米國及支那を視察す大正十二年製鐵所副部長となり後九州帝國大學教授を兼任し尋で化工部部長に轉じ研究所第三研究室室長を兼ね昭和九年二月製鐵所の日本製鐵會社に合併せらるるや取締役に擧げられ現に其任に在り家族は尙四男泰郎(大八、五生)あり長女妙子(明四三、三生)は静岡縣人植村重好に嫁せり(東京市澁谷區諏訪町一八三)

ク之部 黒田

(※印は姻族關係)

ク之部 黒田

(※印は姻族關係)

黒田 琢磨 正四位勳二等功五級、海軍中將、淺野造船所取締役、岡山縣士族...

黒田 爲助 家主、愛知縣在籍、妻 千代、明六、一〇生、愛知、柳原孝平長...

黒田 忠讓 名古屋商工會議所議員、名古屋商工組合長、硬質漆器及一開張漆器商...

黒田 武定 正五位、鐵道技師兼商工技師、鐵道工務局改良課長、新潟縣士族...

黒田 千力 正五位勳五等、理學博士、東京女史は佐賀縣士族黒田平八の三女吉村吉郎の妹にして...

黒田 恒次郎 岡山縣多額納稅者、黒田吳服店代表社員、吳服商、岡山縣在籍...

黒田 辰五郎 地主、東京府在籍、妻 こと、明九、六生、東京、大西新藏二女...

豊國會及若公會を起し其會長に推され其他公共事業に盡力するところ影射り又直接國稅五千四百二十圓を納めて東京府多額納稅者之列、國稅を好み造詣亦深し...

公爵近衛文麿侯爵波島義隆侯爵鍋島直映侯爵前田利爲侯爵子爵近衛秀磨侯爵子爵高倉永...

黒田 長成 正二位勳一等、侯爵、攝政顧問官、貴族院議員、宗族院議員、宗族院議定官、東京府多額納稅者、舊福岡藩...

黒田 長和 從三位勳三等、男爵、貴族院議員、宗族院議員、宗族院議定官、宗族院議定官、宗族院議定官、宗族院議定官...

黒田 廣志 正四位、子爵、舊上總久留里藩、妻 千枝、明二、七生、静岡、七兒玉利行妹...

黒田 長成 (continued) 當家は佐々木秀義の曾孫孫近江守信の孫左衛門宗清の後なり...

當家は黒田甲斐守長政の三男筑前直方藩主黒田高政の後なり後世長清の長子繼高本藩宣政の養子となるに及び絶家す君は從三位黒田長和の四男侯爵黒田長成の弟...

黒田 廣治 愛媛縣多額納稅者、周桑製絲漆代表取締役、五十二銀行取締役、農林、愛媛縣在籍...

ク之部 黒田

(※印は姻族關係)

君は岡山縣士族黒田一道の二男現戸主英雄の弟にして明治十五年九月を以て生る同三十六年海軍機關學校を卒業し海軍機關少尉に任じ昭和五年海軍中將に昇進す...

君は愛知縣人黒田勘藏の三男にして安政六年九月二十二日を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す家主たり...

君は岡山縣人先代黒田恒次郎の二男にして文久元年七月六日を以て生れ明治二十五年家督を相續し前名紋三郎を改め襲名す...

取替役たり家族は尚孫千榮子(大一〇、二生、長男竹五郎長女)同竹男(同一二、五生、同二男)同五郎(同一三、七生、同三男)同美枝子(同一四、一〇生、同二女)同妙子(昭二、一〇生、同三女)あり二女トヨ(昭二、八、一〇生)は鹿兒島縣尾辻國吉に四女トヨ(昭三、三、三、三)は同縣人川崎熊吉に七女ツル(同三九、九生)は同縣人八色光男に嫁せり(鹿兒島縣尾辻郡藤目村電九)

黒松 勇藏

黒松商店、文房具商
大阪府在籍
妻 ヌリ子 明一七、二生、大阪、水谷榮吉二女
養子 ヌリ子 大九、九生、兵庫、平田留蔵二女
君は徳島縣人平田竹藏の四男にして明治十年十月二日を以て生れ黒松梅次郎の養子となり同三十四年分れて一家を創立す凡に商業を研修黒松商店と稱し文房具商を營むA五〇二四B八〇四(大阪府東區南久寶寺町三ノ二八船場七〇三)

黒柳 久太郎

岡崎織布採取取締役、綿布商
愛知縣在籍
妻 たつ 明二五、九生、愛知、磯貝譽一郎妹
男 享 大二三、一〇生、一〇生
養子 章 明三六、八生、愛知、蜂須賀淺吉
婦 一子 明四三、一〇生、養子章妻、岐阜、岡秀雄妹
女 チエ 大七、一〇生、一〇生
君は愛知縣人蜂須賀佐七の長男にして明治十三年十月を以て生れ黒柳なみとの養子となり後家督を相續す綿布商を營み岡崎織布會社の取締役たり家族は尚二女チサ子(大九、二生)三女チヨ子(昭二、一〇生)四女なみ(同四、三、三)孫昌子(同五、四生、養子章長女)あり養妹チカ(昭三八、七生)は分家せり(岡崎市松木町電一〇一四)

黒柳 謙吉

正五位勳五等、鐵道局技師、東京鐵道局新橋電力事務所長
岐阜縣土佐郡在籍
父 房 吉 萬延元、七生、現戸主
妻 雪 明三三、一〇生、東京、安野謙長女
男 喬 大一一、一〇生、一〇生

黒柳 米吉

地主
東京府在籍
男 長 壽 大二三、八生
君は東京府人黒柳五郎吉の三男にして明治二十二年七月四日を以て生れ大正十一年家督を相續す地主たり家族は尚姉タケ(明六、三)あり長女タキ(明四、四)は東京府人田島豊作に嫁ば(同三三、六生、東京黒柳丑五郎長女)は東京府人安井惣太郎に嫁せりA三七九(東京市杉並區高圓寺三ノ一九八電中野三七九四)参照||安井惣太郎の項

桑木 或雄

從三位勳二等、理學博士、學術研究會委員、九州帝國大學教授、工学部勤務、福岡縣在籍
妻 チ 長女 明一九、一〇生、福岡、江森盛孝
男 務 大二三、六生
君は舊金澤藩士桑木愛信の二男にして文學博士桑木殿翼の弟同桑吉の兄同崇明の從兄なり明治十一年九月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同三十一年東京帝國大學理學科大學物理學科を卒業し更に大学院に入り同四年同大學理學科大學助手同講師となり同四十年明治專門學校より學術研究の爲海外に留學を命ぜられ歸朝後大正三年九州帝國大學工學科大學教授に任ぜられ又學術研究會委員たり義に理學博士の學位を受け昭和二年歐米に出張を命ぜらるる家族は尚二男道生(大八、八生)五女新子(同一四、九生)あり長女歌子(昭三九、一〇生)あり

君は東京帝國大學理學部助教理學博士末綱忍一(二生)は東京帝國大學理學部助教理學博士末綱忍一に二女夏子(同四三、七生)は東京文理科大學助教理學士中村幸四郎に三女亮子(同四四、一〇生)は九州帝國大學助教理學士矢崎美盛に嫁せり(福岡市地行西町一〇電二五四六)参照||桑木殿翼、桑木崇明、桑木來吉、桑木來吉、桑木來吉の項

桑木 殿翼

從三位勳一等、陸軍歩兵中尉、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學教授、文學部勤務、東京府土佐郡在籍
妻 誠 明一六、二〇生、男爵安東貞美二女
男 信 一 明三九、二〇生、三愛商會社員、工學士
婦 朝子 大四、一〇生、長男信一妻、理學士上野繁長女、女子學院出身
君は舊金澤藩士桑木愛信の長男にして同或雄同桑吉の兄同崇明の從兄なり明治七年六月を以て生れ同三十三年家督を相續す同二十九年帝國大學文理科大學哲學科を卒業し更に大学院に入る同三十二年第一高等學校教授に任ぜり同三十五年文學博士の學位を授けらるる同年東京帝國大學文理科大學助教に兼任し同三十九年京都帝國大學文理科大學教授に轉じ同四十年哲學研究の爲獨逸米各國に留學し大正三年東京帝國大學教授に任ぜらるる又同十四年帝國學士院會員被仰付今日に至る傍ら早稲田大學學院大學等の講師を兼ね哲學に關する著書數種あり本邦學術界の權威として知らる大正十五年學事視察の爲昭和五年萬國學士院聯合會議出席の爲歐米に出張す家族は尚二男久雄(大八、八生)あり長女素子(昭三五、六生)は醫學博士小金井良一に二女繁子(同三六、八生)は埼玉縣人松澤康三郎長男理學博士武雄に嫁せり(東京市牛込區北町三四電牛込三三〇九)参照||男爵安東貞美、桑木或雄、桑木崇明、桑木來吉、小金井良一、桑吉田屋の項

桑木 崇明

正五位勳三等功五級、陸軍少將、臺灣軍參謀長、東京府在籍
妻 ひる 明二八、一〇生、愛知、熊澤鏡之助
男 崇 秀 大五、四生

桑木 崇明

正五位勳三等功五級、陸軍少將、臺灣軍參謀長、東京府在籍
妻 ひる 明二八、一〇生、愛知、熊澤鏡之助
男 崇 秀 大五、四生

桑田 一夫

倉吉銀行理事事務取締役
鳥取縣在籍
妻 たつ 明一四、二〇生、東京、士、小栗東十郎長女、東京女高師出身
男 正 明三〇、一〇生、海軍中將川島令次郎長女、東洋英和女學校出身
女 恭 子 大八、一〇生、一〇生

桑田 一夫

倉吉銀行理事事務取締役
鳥取縣在籍
妻 たつ 明一四、二〇生、東京、士、小栗東十郎長女、東京女高師出身
男 正 明三〇、一〇生、海軍中將川島令次郎長女、東洋英和女學校出身
女 恭 子 大八、一〇生、一〇生

桑島 主計

從四位勳三等、外務省東亞局長
香川縣在籍
妻 ヤエ子 明三二、三〇生、東京、相浦多三郎
男 健 一 大七、九生
君は香川縣人桑島康三の三男にして明治十七年三月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十九年早稲田大學政治科を卒業し外務省書記生試験に合格外務書記生として清國に在勤す同四十四年文官高等試験に合格外務書記生となり同四十四年外交官及領事官試験に合格領事官補となる爾來領事官兼常務領事官兼書記官大使館一等書記官兼天津漢口桑港孟買シカゴ華盛頓各在勤總領事官、駐在等に派任し漢口在勤を経て昭和三年大使館參事官に任じ同五年總領事となり天津に在勤し同八年亞細亞局長に轉じ同九年六月東亞局長に就任して今日に至る家族は尚二男和夫(大九、一〇生)三男春彦(同一二、三)長女園子(同一五、四生)あり父康三(弘化三、一〇生)母ヒサ(安政六、八生、香川、古川嘉三)同三二、二生、三好字佐美二女及其子女妹タカ(同三五、一〇生)は共に其家籍に入れり(東京市港區原宿二ノ一七電青山三三三四)参照||桑島光雄、桑島貞直の項

桑久保 俊次

從五位勳三等、海軍主計大佐、海軍火藥廠會計部長、栃木縣在籍
妻 ムツ子 昭四、七生
君は栃木縣人にして明治十九年十一月十八日を以て生れる同十四年東京高等商業學校を卒業し海軍に入り海軍少主計に任じ大正十年海軍主計少佐に過む爾來海軍造兵廠會計部工場主任兼製造部職員研究部職員海軍技術研究所職員須賀海軍經理部職員須賀須賀守府附出雲主計長兼分隊長海軍燃料廠會計部職員須賀海軍各需部職員兼第三課長海軍省軍需局職員練習艦隊司令官等を経て昭和六年海軍主計大佐に陞り同七年現職に補せらる(神奈川県鎌倉郡鎌倉町大町一〇七六)

桑澤 松吉

護謄製造業
東京府在籍
妻 しう 明一七、一〇生、高澤宇吉長女
男 武 次 明三二、二〇生

段二九七二)

參照：桑和田恒彦の項

桑畑彌十郎

桑畑電機製作所、電氣機械器具製...

君は兵庫縣人桑畑芳蔵の長男にして明治三十二年一月...

桑原猪之助

吉田忠商店事務取締役...

桑原卯之助

大六、魚類商...

桑原七兵衛

東京府多額納税者、鐵業銀行務取...

桑原重治

正五位勳三等、海軍造船少將、吳...

桑原省吾

從五位勳五等、地方技師、秋田縣...

代二ノ六〇ノ三電原本所一八一)

桑原馬吉

肥後物産事務取締役...

君は佐賀縣人桑原庄太郎の二男にして明治十七年八月...

桑原貫一

福岡足袋製靴取締役...

桑原吉太郎

從五位勳五等、前豊原區裁判所監...

桑原眞一

十六銀行總取締役、農工銀行、...

桑原眞瑞

僧侶、大阪府在籍...

桑原甚六

從七位勳七等、前電氣製糖取締役...

て生れ大正七年家督を相続す通稱桑原と云ふ明治二十...

桑原小三郎

福岡縣多額納税者...

桑原幸吉

群馬縣多額納税者、吳服商...

桑原善兵衛

家主、大阪府在籍...

桑原莊吉

正四位勳三等功四級、海軍少將...

桑原博隆

君は岐阜縣人桑原庄左衛門の長男にして文久元年六月...

桑原省吾

從五位勳五等、地方技師、秋田縣...

ク之部 桑(原)

二女)は其三子を伴ひ分家せりA五三四(東京市渋谷區羽澤町三八電青山三五九)

桑原 惣五郎 大分合同銀行監察役、櫻屋、醬油醸造業、大分縣在籍
妻 イダ 明一四、七生、大分、河野一郎二
養子 專一 明二九、一一生、養子通子夫、大分、收率太郎三男
養子 通子 明三五、一一生、養子一妻、大分、河野義男長女

桑原 武夫 從七位、大阪高等學校教授
母 しん 明一八、一一生、兵庫、田中榮長女
妻 田鶴 親和高女出身
君は福井縣人文學博士桑原若の長男にして明治三十七年五月十日を以て生れ昭和六年家督を相續す同三年京都帝國大學文學部佛文學科を卒業し同六年同大學講師同七年大阪高校教授に任ぜられ以て今日に至る譯書二三あり家族は尙長女知子(昭九、四生)ありA六八〇(京都市上京區塔子町四二一)
參照田中榮の項

桑原 年彦 三共株式會社社員
母 ミヨ 明一、一一生、神奈川、山井直楠
君は岐阜縣土族桑原益太郎の長男にして明治三十五年十月二十三日を以て生れ慶應義塾理財科を卒業し現に三共株式會社社員たり父益太郎は松坂屋朝日興業等各會社の重役に擧げらるる家族は尙弟裕(明三、九生)、大日本麥酒會社員、東京商大專門部出身あり(大阪府住吉區天下通一ノ五八電天下茶屋三五五四)

ク之部 桑(原)

桑原 虎治 上海製造絹絲廠社長、公大公用
妻 ヤス 明四、二生、大分、藤田仙次郎長女
養子 健之助 明四五、六生
養子 朝久 明二六、二生
養子 喜久 明四〇、四生
君は東京府土族桑原善治の長男にして萬延元年八月を以て生れ明治二年家督を相續す同十七年慶應義塾本科を卒業し現時前記諸會社の重役にして兼に藤本ビルプロカー銀行重役たりしことあり(東京府北多摩郡三鷹村幸禮三五九ノ七電吉祥寺五五五)

桑原 直太郎 大坪岩次郎商店取締役、三菱海上火災保險總代理店、三菱清酒利久並食料品燒酎商
母 ルイ 鹿兒島、大坪武兵衛長女
妻 ヨシ 明一二、三生、鹿兒島、松村孫四郎長女
養子 静一 明四三、七生
養子 フヂ 明四四、一一生
養子 菜二 明四四、一一生
養子 キク 大八、三生
君は鹿兒島縣人桑原静左衛門の長男にして明治四年七月を以て生れ同十八年家督を相續す現時前記會社の重役並に三菱海上火災保險會社代理店經營者にして理化學研究所清酒利久並食料品燒酎商を營む兼に鹿兒島共同倉庫會社取締役たり三女トク(大五、六生)は鹿兒島縣人松村孫四郎の養子となり妹イツ(明七、一一生)は同縣人緒方清に同エヒ(同二、三生)は同縣人福田巳之助に嫁せり(鹿兒島市仲町一三四電二八三八)

桑原 寛砥 從五位勳六等、鐵道技師、札幌鐵道局苗穂工場長、福岡縣土族
妻 タカ 安政元、一一生、福岡、土、伊勢田信長長女
養父 信 明三、三生、福岡、土、伊勢田宗七二男、現戸主

ク之部 桑(原)

桑原 幹根 從五位、兵庫縣書記官、學務部長
妻 タカ子 明三六、生、岩手、鎌澤權一長女
君は山梨縣人桑原德長の七男にして明治二十八年八月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す同十一年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し同年文官高等考試に合格す爾來宮城縣屬山形縣事務官地方事務官地方警視廳警務所教授授内務書記官兼鐵道事務官等に歷任し警保局圖書課長鳥取縣學務部長を経て昭和九年兵庫縣書記官に任じ學務部長に補せらるる家族は尙二男義和(昭四、一一生)あり鹿球水泳讀書旅行等に趣味を有す(神戸市神戶區中山手通學務部長官舎電話二〇八一)
參照田中榮の項

桑原 守道 千代田生命保險(五)神戸支部長
妻 清野 明二八、三生、新潟、小野梅吉二女
君は新潟縣人桑原良道の二男にして明治二十年二月を以て生れ大正三年見良貞方より分れて一家を創立す現時千代田生命保險會社神戸支部長にして兼に同社大阪支部次長たり家族は尙三女惠美子(大六、一一生)四女瑞子(昭一三、一一生)五女和子(昭二七、七生)ありA七八

桑山 鐵男 從三位勳三等、貴族院議員
妻 タミ 明二三、一一生、鹿兒島、土、森孝男 明四三、一一生
君は愛媛縣人桑山吉輝の長男にして明治十四年十一月一日を以て生れ昭和三年家督を相續す先是明治三十九年東京帝國大學法學部法學科を卒業し文官高等考試に合格す爾來通事官事務官選任書記官選任信務官事務官選任書記官兼選任信務官事務官選任書記官選任信務官事務官等に歷任し昭和四年貴族院議員に勅選せらるる兼に獨逸等國に留學し又支那に出張す家族は尙長女静子(大一一、四生)三男正三(昭四、四生)あり弟龜雄(明一三、三生)は同妻ツル(昭二九、一一生)、愛媛、堀部俊介(妹)及其一女を伴ひ分家し妹愛子(昭二四、一一生)は山形縣土族加勢清雄に嫁せりA一七八(東京市大森區新井宿四ノ九七六電大森一五〇〇)
參照堀部俊介の項

桑原 羊次郎 鳥根縣多額納稅者、農業
妻 ツネ 明一六、一一生、鳥根、馬場愷輔妹
養子 太 明二二、一一生、三女静緒夫
養子 裕 明三〇、一〇生、養子太郎長女
孫 香美子 大四、二生、養子太郎長女
君は鳥根縣人桑原愛三郎の二男にして明治元年四月十八日を以て生れ同二十二年家督を相續す農業を業とし縣下の多額納稅者にして直接國稅一千三百三十六圓を納む家族は尙孫敦子(大一一、三生)、養子太郎三女(昭二、三、八生)、鳥根、田部林左衛門二女)あり養子キミコ(明一八、二生)、亡兄太郎三女)は兵庫縣人横尾孝之亮弟香一郎に長女トシヲ(同二五、一一生)は奈良縣人玉井芳藏弟光三に二女同生(同二七、九生)は東京府人渡干城弟久雄に嫁し長男操(同二六、六生)は分家せり(松江市東茶町一九電九)

桑原 謙次 婦人子供服商
妻 とよ 明三五、二生、東京、花前龍男妹
君は徳島縣人桑村彦太郎の三男にして明治二十八年七月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す婦人子供服商を營む家族は尙二男眞司(大一一、一一生)三男智久(昭四、七生)四男忠宏(同七、五生)ありA五六六B二五六(東京市下谷區竹町一〇電下谷三三三三、三四二二)
參照堀部俊介の項

桑山 政五郎 清心堂、藥種商
妻 ぬい 明二一、一一生、愛知、水野九三郎長女
君は愛知縣人桑山銀次郎の叔父にして明治十七年十月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す清心堂と稱し藥種商を營む家族は尙四女輝子(大一一、一一生)、府立第八高女在學)三男利男(同二二、一一生)四男政男(同二四、三生)五女和子(昭二、三生)六女昭子(同四、二生)

桑原 芳樹 正四位勳五等、官幣大社熱田神宮
妻 まさ 明一〇、一一生、養父謙甫二女
養子 一 明二八、五生
養子 澄江 明三二、四生、長男廉一郎妻、福岡、小林俊材妹
養子 愛二郎 明三三、一一生
養子 喜代子 明三九、生、二男愛二郎妻、古谷若松二女
君は福岡縣人小林良種の長男にして文久元年十二月を以て生れ桑原謙甫の養子となり明治二十四年養母與志の没を受け家督を相續す神宮少宮司神宮學堂館長熱田神宮々司皇典講究所國學院大學事務理事を経て昭和四年官幣大社熱田神宮司となり同五年現職に轉じ今日に至る家族は尙六男香(大四、三生)七男清(同一二、三生)孫春子(同一二、二生、長男廉一郎長女)同

桑本 澄 松尾螺子製作所社長、ヒールン
妻 しげ 明二六、六生、埼玉、増田俊三妹
君は舊高田藩士桑本實の長男にして明治二十一年五月十五日を以て生れ同四十四年家督を相續す現時前記會社の重役たり寫眞長頭テニス等に趣味を有し兼に日本軟球協會關東本部長日本軟球聯盟副會長たりし事あり現在關東學生軟球聯盟會長九ノ内運動協會副會長たり

桑山 鐵男 從三位勳三等、貴族院議員
妻 タミ 明二三、一一生、鹿兒島、土、森孝男 明四三、一一生
君は愛媛縣人桑山吉輝の長男にして明治十四年十一月一日を以て生れ昭和三年家督を相續す先是明治三十九年東京帝國大學法學部法學科を卒業し文官高等考試に合格す爾來通事官事務官選任書記官選任信務官事務官選任書記官兼選任信務官事務官選任書記官選任信務官事務官等に歷任し昭和四年貴族院議員に勅選せらるる兼に獨逸等國に留學し又支那に出張す家族は尙長女静子(大一一、四生)三男正三(昭四、四生)あり弟龜雄(明一三、三生)は同妻ツル(昭二九、一一生)、愛媛、堀部俊介(妹)及其一女を伴ひ分家し妹愛子(昭二四、一一生)は山形縣土族加勢清雄に嫁せりA一七八(東京市大森區新井宿四ノ九七六電大森一五〇〇)
參照堀部俊介の項

ク之部 桑(原、村、木、山)

(※印は姻族關係)

ク之部 桑(原)

ケ之部 鐵、郡

(※印は姻族關係)

あり長女孝子(明四四、一)は神奈川縣人坂田寅一に嫁せりA三〇B八七(東京市芝區新町一三三三田三五二〇)

鐵田 武三 鐵田鐵造社長、鐵路共榮社取締役、酒造油鹽造業、兵庫縣在籍

妻 廣子 明三二、四生、兵庫、篠原忠兵衛長女

女 千代子 明四二、一

君は兵庫縣人鐵田武作の三男にして明治十八年三月を以て生れ大正七年家督を相続す酒造油鹽造業を營み現に鐵田會社社長にして鐵路共榮社取締役を兼ね鐵田に下の多額納稅者たり(兵庫縣飾磨郡余部村飾西九)

鐵間 長平 丸長組、土木建築請負業、東京府在籍

妻 つね 明四、四生、東京、大竹忠太郎妻

郡司 市藏 近江屋、吳服商、東京府在籍

妻 いせ 明二八、九生、東京、永岡豊藏五女

男 雅夫 大四、六生

君は東京府人市原兼吉の二男にして明治二十二年九月十七日を以て生れ先代コヨの養子となり後家督を相続す同四十四年慶應義塾商工學校を卒業す近江屋と稱し吳服商を營む家族は尙二男雄介(大五、一)生)三男兼男(同二〇、三)生)二女榮子(同二四、五)生)三女淑子(昭三、五)生)ありA九八B三三三三(東京市淀橋區角宮一ノ四電四谷一〇八三)

郡司 半助 東北電燈監査役、嶺山業、岩手縣在籍

妻 イマ 明一三、九生、岩手、村田元十郎妹

男 信太郎 明三四、一一生、明大出身

婦 ふさ 明四〇、七生、長男信太郎妻、岩手、米谷久左衛門二女、家政學院出身

男 伴七 明四〇、一一生、日本商科醫專出身

女 マサ 明四三、三生、家政學院出身

君は岩手縣人米谷久左衛門の四男にして明治十年七月を以て生れ先代萬七の養子となり大正八年家督を相続す嶺山業を營み尙前記會社の重役にして鐵田に下の多額納稅者に列し又黒澤尻電力會社黒澤尻銀行各重役たり家族は尙孫和雄(昭二、五)生、長男信太郎(長男)あり(岩手縣和賀郡黒澤尻町電一)

郡島 正治 住友炭礦事務所長、昭和石炭鐵監査役、福岡縣在籍

妻 野州子 明三一、七生、栃木、篠崎友三長女、東京華高女出身

男 正義 大八、三生、神戶親和女學校在學

女 春子 大六、二生、大阪北野中學校在學

君は福岡縣人郡島德三郎の三男松居其市郎の弟にして明治二十一年五月二日を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治四十二年長崎高等商業學校を卒業し後兵役を了(同四十四年住友炭礦事務所に入り累進して現時住友炭礦事務所部長たる傍ら前記會社の重役たり家族は尙二女節子(大二〇、四)生)二男正(昭二、九)生)三男敬(同六、一)生)あり(兵庫縣武庫郡精道村打出針ノ木一四)

ケ之部

毛塚清兵衛 佐野屋、賣商、東京府在籍

妻 わか 明四、一一生、東京、坂本平吉長女

養子 益太郎 明四二、七生、栃木、毛塚勝藏男

君は栃木縣人毛塚太吉の長男同善平の兄にして明治二年四月二十四日を以て生れ先代しげの養子となり同二十九年家督を相続し前名由太郎を改む佐野屋と稱し賣商を營むA一九九B二〇四(東京市淺草區馬道町八ノ五電淺草一六一)

參照 毛塚善平の項

毛塚 善平 佐野屋、賣商、東京府在籍

妻 みほ 明三二、一一生、東京、進藤由五第三女

男 由太郎 大七、九生

君は栃木縣人毛塚太吉の五男同清兵衛の弟にして明治二十三年六月十七日を以て生れ大正四年兄勝藏方より分れて一家を創立す佐野屋と號し賣商を營む家族は尙長女三和子(大二〇、二)生)ありA一九九B一九三(東京市城區龜戸六ノ二五電龜田二五〇六)

參照 毛塚清兵衛の項

毛戸 勝元 法學博士、大阪商工會議所顧問、安田信託、兵庫大同信託各取締役、昭和三十七年、日本毛織、共立モスリン各取締役、辯護士

妻 しん 明四二、四生、兵庫、小野山善太第四女

男 勝治 明四一、一〇生

女 敦子 明四四、一〇生

君は兵庫縣人毛戸勝右衛門の長男にして明治七年三月十七日を以て生れ同三十三年家督を相続す同三十一年

東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十三年京都帝國大學法科大學助教授に任じ商法研究の爲め獨逸英各國に留學し歸朝後同大學教授に任じ法學博士の學位を授けらる大正五年官を辭し辯護士となり傍ら前記各銀行會社の重役にして又大阪商工會議所顧問に擧げらる長女順子(明三九、一〇)生)は東北帝國大學助教授、本文雄に嫁し弟清太郎(同九、二)生)同妻よし(同五、八)生、兵庫、吉田龜太郎妹)は共に其子女を伴ひ分家し第四郎(同三、四)生)も亦分家せりA八一四四(兵庫縣武庫郡精道村蘆屋西新田四八電蘆屋三四〇一)

食満 藤吉 桃谷順天領事相談役、大阪府在籍

妻 エイ 明二二、五生、和歌山、桃谷順一叔母

男 幹雄 明四〇、一一生、大松興業會社員、藥學士

女 富美子 明四四、二生、樟蔭高女出身

女 正子 大六、三生

君は大阪府人食満藤藏の長男にして明治十一年五月十八日を以て生れ先代コノの養子となり同三十年家督を相続す夙に桃谷順天館に入り支配人に進み現時同社相談役たり家族は尙三男文平(大四、一)生)四男悦三(同一、一)生)あり長女千代(明四二、二)生、樟蔭高女專攻科出身)は大阪府人藤岡貞次郎長男に嫁せりA七六二(大阪府天王寺區藤山通四ノ一四電天王寺四六二)

參照 藤岡貞次郎、桃谷順一、桃谷幹次郎、桃谷勸三郎、桃谷恒彦、湯澤義興、湯澤義隆、井長兵衛、湯澤山利藏の項

氣賀 勸重 法學博士、慶應義塾大學教授、福岡縣在籍

妻 やす 明一二、二生、養父敬太郎長女

男 眞一郎 明三六、九生、千代田生命保險相會社員

男 眞一郎 明四一、七生、長男眞一郎妻、靜岡、齊藤重五郎妹

女 健三 明四一、一〇生、慶應義塾大學經濟學部助手

女 光 大元、一一生

氣賀 高次 正四位勳三等、飯山鐵道事務取締役、富山縣在籍

妻 キミ 明二〇、六生、現戸主

男 道郎 明四三、一一生

女 道代 大二、五生

君は富山縣人氣賀清次郎の二男にして明治十五年十二月を以て生れ同四十年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同四十四年鐵道局長に任ぜられ大正同參事鐵道書記官鐵道監察官鐵道局會計課長大臣官房保健課長に歴任し大正十五年鐵道局長に任ぜられ札幌鐵道局長となりし後之を辭し現時前記各會社の重役たり家族は尙兄清作(明一三、二)生)同妻巳八子(同一八、四)生、長野、伊藤西夫婦)及其三男弟義次(同一七、九)生)同良次(同一九、一〇)生)同妻淺(同二二、二)生)及其一男あり姉ナホ(同一二、四)生)は富山縣人太田庄藏(同二七、二)生)は同縣人谷野重信の養子となり弟修次(同二九、一〇)生)は分家せりA七八三(東京市淀橋區下落合一ノ四二二電大塚三六六〇)

參照 田卷堅太郎、齊藤重五郎の項

ケ之部 毛、食、氣

(※印は姻族關係)

ケ之部 外、慶、樺、見、釵、劍、元

(※印は姻族關係)

ケ二

外記甚之丞

慶應義塾商工學校教員 東京府士族 母とき 安政六、八生、高知、白井倍孝二 妻ふみ 明一九、六生、滋賀、外記康昌長 男康之 明四〇、一五生 男謙 明四二、五生

慶光院利敬

從四位勳四等、神宮司、神宮司 慶光院主事兼庶務課長 三重縣士族 男利彰 大二、二生、京大法學部在學 女敏子 明三三、二生、宇治山田市立高女

櫻田襄

君は兵庫縣人原口鏡一の二男にして明治二十五年六月を以て生れ先代倉藏の養子となり大正九年家督を相続す夙に養父倉藏の經營せる淡陶會社に入り常任監査役を経て現職に轉ず家族は尙長女迪子(六一、一〇生)ありA一六〇(大阪市西區新町三ノ一九電新町一八二)

見目清

君は栃木縣人先代清の長男にして明治十六年十一月十六日を以て生れ同三十七年家督を相続し前名清三を改め養子農業者を以て下野中央銀行頭取たる外前記各會社の重役にして縣下の多額納税者に列し直轄國稅三千三十一圓を納む家族は尙二男(大一一、三三)三男(同一八、八生)叔母ミチ(明一四、五生)あり妹ヒロ(同一八、一〇生)は其子女を伴ひ叔父竹次郎(同一八、三三)同妻ミノ(同一四、四生、栃木、池田繁三妹)は共に分家せり(栃木縣鹽谷郡北高根澤村)

見城重平

三井銀行常務取締役 群馬縣在籍 妻ふさ 明一九、五生、福井、北川禮彌長 男重夫 明四一、一五生 男敏夫 大二、五生 女清子 大七、九生

源田善右衛門

八木善、水引紙製品商 京都府在籍 母ハナ 長女 妻タミ 長女 男善一 大元、一一生

源間保三

住友炭礦鐵道若松支店長 東京府在籍 妻とら 安政元、八生、佐藤金次郎二女 男晴 明二五、七生、東京、福井與三郎 長女

源敬烈

寧越郡兩邊面長、江原道評議員 江原道在籍 妻丁賢鏡 明一二、三三、全羅南道、丁晉燮女 男延 明三九、一〇生 男延 明三九、一〇生 男延 明三三、四生

源俊

從四位勳四等、朝鮮總督府中樞院 參議、京畿道在籍 君は京城府西小川町の出身にして安政二年三月を以て生れ明治三十三年中樞院議官となり次で内閣院種收課長に補せられしが同三十四年退職して漢城府判官に任ぜらる其後軍部協同隊參謀元帥府秘書局長を経て同三十七年軍制議定官に擧げられ參謀部第二局長に任ぜられ翌年憲兵司令官に就任し同三十九年進明女學校長に轉じ後典務司長新明學校長等に任ぜられ退きて閑地に在りしが大正十年四月中樞院參議に任ぜられ今日に至る(京城府昌昌洞一七六電光化門一〇〇三)

源善右衛門

八木善、水引紙製品商 京都府在籍 母ハナ 長女 妻タミ 長女 男善一 大元、一一生

元應常

正七位、朝鮮總督府中樞院參議、金融組合長、醫師、京畿道在籍 妻惠 明一五、五五、忠清南道、朴時和女 男容寬 明四四、四生、京城法學專門學校在籍

元憲

君は京城府安國洞人元世亨の四男にして明治十六年十一月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す同元年千葉醫學專門學校を卒業し直に京城府に德濟醫院を開業同九年京城府協議會員となり同時に京城道評議員に擧げられ京城商業會議所特別評議員金融制度調査委員に兼ねしが昭和二年中樞院參議に擧げられ今日に至る山林會及都市研究會常任幹事朝鮮生命保險會社事務取締役鐵道金融組合長を兼ね衛生狀況調査の爲め内地及南北滿洲の各地方を巡遊せしことあり讀書園藝を趣味とす家族は尙一男一女あり(京城府八洞洞五二電光化門一三八)

元朝江

林邊信用購買販賣組合長、屏東信 高雄州在籍 妻姚氏 明二四、四生 女海 大四年生、臺南長老女學校在學 女珠 大八年生、臺北第三高女在學 君は高雄州人阮達天の二男にして明治二十三年一月を以て生れ大正三年總督府農事試驗場を卒業後直に林邊庄長たり父達天の下に役場事務に携はり大正十二年林邊庄助役に推擧され昭和三年庄長に拔擢さる此の間武徳會より有功章州知事より銀盃一個を受けたる事あり昭和六年林邊信用組合長に當選す翌年庄長を辭任して事業界に専念す現時屏東信託會社及び高雄青果各會社の重役たり家族は尙二男一女あり(高雄州東港郡林邊竹子脚二一九)

ケ之部 元、阮、玄、源、嚴

(※印は姻族關係)

ケ三

見城重平

三井銀行常務取締役 群馬縣在籍 妻ふさ 明一九、五生、福井、北川禮彌長 男重夫 明四一、一五生 男敏夫 大二、五生 女清子 大七、九生

見目清

君は栃木縣人先代清の長男にして明治十六年十一月十六日を以て生れ同三十七年家督を相続し前名清三を改め養子農業者を以て下野中央銀行頭取たる外前記各會社の重役にして縣下の多額納税者に列し直轄國稅三千三十一圓を納む家族は尙二男(大一一、三三)三男(同一八、八生)叔母ミチ(明一四、五生)あり妹ヒロ(同一八、一〇生)は其子女を伴ひ叔父竹次郎(同一八、三三)同妻ミノ(同一四、四生、栃木、池田繁三妹)は共に分家せり(栃木縣鹽谷郡北高根澤村)

源田善右衛門

八木善、水引紙製品商 京都府在籍 母ハナ 長女 妻タミ 長女 男善一 大元、一一生

源間保三

住友炭礦鐵道若松支店長 東京府在籍 妻とら 安政元、八生、佐藤金次郎二女 男晴 明二五、七生、東京、福井與三郎 長女

源敬烈

寧越郡兩邊面長、江原道評議員 江原道在籍 妻丁賢鏡 明一二、三三、全羅南道、丁晉燮女 男延 明三九、一〇生 男延 明三九、一〇生 男延 明三三、四生

源俊

從四位勳四等、朝鮮總督府中樞院 參議、京畿道在籍 君は京城府西小川町の出身にして安政二年三月を以て生れ明治三十三年中樞院議官となり次で内閣院種收課長に補せられしが同三十四年退職して漢城府判官に任ぜらる其後軍部協同隊參謀元帥府秘書局長を経て同三十七年軍制議定官に擧げられ參謀部第二局長に任ぜられ翌年憲兵司令官に就任し同三十九年進明女學校長に轉じ後典務司長新明學校長等に任ぜられ退きて閑地に在りしが大正十年四月中樞院參議に任ぜられ今日に至る(京城府昌昌洞一七六電光化門一〇〇三)

元應常

正七位、朝鮮總督府中樞院參議、金融組合長、醫師、京畿道在籍 妻惠 明一五、五五、忠清南道、朴時和女 男容寬 明四四、四生、京城法學專門學校在籍

元憲

君は京城府安國洞人元世亨の四男にして明治十六年十一月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す同元年千葉醫學專門學校を卒業し直に京城府に德濟醫院を開業同九年京城府協議會員となり同時に京城道評議員に擧げられ京城商業會議所特別評議員金融制度調査委員に兼ねしが昭和二年中樞院參議に擧げられ今日に至る山林會及都市研究會常任幹事朝鮮生命保險會社事務取締役鐵道金融組合長を兼ね衛生狀況調査の爲め内地及南北滿洲の各地方を巡遊せしことあり讀書園藝を趣味とす家族は尙一男一女あり(京城府八洞洞五二電光化門一三八)

元朝江

林邊信用購買販賣組合長、屏東信 高雄州在籍 妻姚氏 明二四、四生 女海 大四年生、臺南長老女學校在學 女珠 大八年生、臺北第三高女在學 君は高雄州人阮達天の二男にして明治二十三年一月を以て生れ大正三年總督府農事試驗場を卒業後直に林邊庄長たり父達天の下に役場事務に携はり大正十二年林邊庄助役に推擧され昭和三年庄長に拔擢さる此の間武徳會より有功章州知事より銀盃一個を受けたる事あり昭和六年林邊信用組合長に當選す翌年庄長を辭任して事業界に専念す現時屏東信託會社及び高雄青果各會社の重役たり家族は尙二男一女あり(高雄州東港郡林邊竹子脚二一九)

源善右衛門

八木善、水引紙製品商 京都府在籍 母ハナ 長女 妻タミ 長女 男善一 大元、一一生

源俊

從四位勳四等、朝鮮總督府中樞院 參議、京畿道在籍 君は京城府西小川町の出身にして安政二年三月を以て生れ明治三十三年中樞院議官となり次で内閣院種收課長に補せられしが同三十四年退職して漢城府判官に任ぜらる其後軍部協同隊參謀元帥府秘書局長を経て同三十七年軍制議定官に擧げられ參謀部第二局長に任ぜられ翌年憲兵司令官に就任し同三十九年進明女學校長に轉じ後典務司長新明學校長等に任ぜられ退きて閑地に在りしが大正十年四月中樞院參議に任ぜられ今日に至る(京城府昌昌洞一七六電光化門一〇〇三)

ケ之部 元、阮、玄、源、嚴

(※印は姻族關係)

ケ三

ケ之部 嚴

嚴 昌 燧

從五位勳五等、朝鮮總督府社會課長、平安南道在籍

君は平壤府の出身にして明治二十三年七月を以て生る同四十年宮内府掌禮院典補に任じ其後宮内府主事李王職屬平安南道江東郡書院平安南道書記を経て同十年道理事官に進み平安南道に勤務し同十三年安州郡守となり昭和四年中樞院通譯官兼同書院總督府事務官朝鮮史編修會幹事となりしが昭和九年一月朝鮮總督府事務官兼中樞院書記官を拜命し朝鮮總督府社會課長に就任して今日に至る(京城府書院書院會三號元化門九三五)

嚴 添 壽

昭和三十二年、新竹製糖株式會社、大湖信用組合理事、大湖庄監事、大湖郡在籍

君は臺南市の出身にして明治十七年五月十日を以て生る幼時より和漢の學を修め明治三十八年初めて阿羅羅西上野九塊厝に於て同昌公司改良糖廠を經營し専ら製糖業に従事し又臺南市近郊に於て養魚池の經營に著手し爾來二十有餘年に及びたり大正十五年大湖庄協議員に擧げられ昭和四年新竹州警備與調查委員に同五年新竹州協議員の要職に任命され更に新竹州同風會評議員及び大湖郡同風會評議員に依りてこの外前記各會社の重役たり(新竹州大湖郡大湖庄)

ケ之部 嚴

ケ四

コ之部

小足 良男

愛知縣在籍

君は愛知縣人張錦雄の長男にして明治三十四年六月四日を以て生れ先代兵衛の養子となり大正三年家督を相續す養家より養に白粉製造業を營む家族は尙妻康子及弟辰四郎(明四二、二生、早稻田大學在學)あり(名古屋市中區小林町六二電中三三四)

小秋元三八吉

滋賀縣在籍

君は滋賀縣人小秋元俊策の長男にして明治四年三月八日を以て生れ大正二年家督を相續す明治二十八年獨逸協會學校を卒業し日本大學講師警務監學校教授等に歴任し現時前記各會社の重役たり、家族は尙三女百合(大一一、八生)は長崎縣人深水貞吉に同族(同二八、三三)は新潟縣人川端恭三に嫁せり(長岡市臺町電二一)

小畔 四郎

從七位勳五等功五級、朝鮮郵船株式會社、近海郵船株式會社、東京府在籍

君は長野縣人小秋元俊策の長男にして明治四年三月八日を以て生れ大正二年家督を相續す明治二十八年獨逸協會學校を卒業し日本大學講師警務監學校教授等に歴任し現時前記各會社の重役たり、家族は尙三女百合(大一一、八生)は長崎縣人深水貞吉に同族(同二八、三三)は新潟縣人川端恭三に嫁せり(長岡市臺町電二一)

コ之部

小足、秋、畔、晴、網、池

※印は姻族關係

コ一

妻 正 秋 明一五、九生、愛知、多木英之丞

男 正 秋 大六、九生

女 正 秋 大六、九生

君は舊長岡藩士小畔定太郎の三男にして明治八年十二月二十三日を以て生れ大正三年兄龜太郎方より分れて一家を創立す夙に横濱商業學校を卒業し直に日本郵船會社に入り香港上海各支店及東京本店に勤務し後近海郵船會社神戸事務所長に轉じ朝鮮郵船會社取締役たり其間日清日露の兩役に際し軍需品輸送に従ひし功により功五級勳章を下賜せらる首領の研究に興味あり又養に内國通運會社事務取締役たり長女なみ(明三九、二生、跡見女學校出身)は滋賀縣人福島烈に嫁せり(三三三〇)神戸市神戸區山本通四ノ一二三電連合三三三三)

小晴 壽

正五位勳四等、耶馬溪鐵道事務

君は兵庫縣人小晴雄の二男にして明治十二年六月二十五日を以て生れ大正十二年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學工學部機械科を卒業し鐵道作業局に入り同四十四年帝國鐵道技術師に任じ大正八年歐米各國へ視察のため出張を命ぜられ同十一年歸朝す後鐵道省運輸局運輸課車務課送員兼幹事を命ぜられ同十二年東京鐵道局運輸課長に補し關東大震災の際臨時震災救護事務局事務官に任ぜらる後辭して同十四年耶馬溪鐵道會社事務取締役就任し現在に及ぶ趣味として讀書畫あり家族は尙三男吉久(大一一、四生)三女春子(明四、三三)四男吉雄(同七、七生)あり長女嘉代子(明四四、七生)は兵庫縣人堀田保次郎に嫁せり(中津市豊田町一丁目電二四三)

小網 源太郎

魚問屋業、東京府在籍

君は東京府人小倉竹光の二男にして明治十八年八月を以て生れ先代源太郎の養子となり大正十三年家督を相續し前名安太郎を改め製名す家業を承けて魚問屋業を營む家族は尙四女梅子(大九、二生)あり養叔父竹次郎(明六、一生)は東京府土族永安方幹の養子となり當主たり(四四五三B一六五)東京市京橋區木挽町一ノ二三電連七九七)參照||永安方幹の項

妻 源五郎 明二四、九生、東京、田邊熊次郎

男 源五郎 大一一、二生

女 源五郎 大六、八生

君は東京府人小倉竹光の二男にして明治十八年八月を以て生れ先代源太郎の養子となり大正十三年家督を相續し前名安太郎を改め製名す家業を承けて魚問屋業を營む家族は尙四女梅子(大九、二生)あり養叔父竹次郎(明六、一生)は東京府土族永安方幹の養子となり當主たり(四四五三B一六五)東京市京橋區木挽町一ノ二三電連七九七)參照||永安方幹の項

小網 たか

小網商店、酒造業、兵庫縣在籍

君は兵庫縣人岸本恒太郎の妹にして明治八年五月十二日を以て生れ昭和五年夫の家督を相續し小網商店と稱し酒造業を營む(三八二八B二〇九)兵庫縣武庫郡御影町一里塚一〇九三電連影五四〇二)

小池 卯一郎

從五位、宇治川電氣營業課長、福井縣在籍

小池家は徳川の初より福井縣下大野町に定住して藩公御用達を務め往時は紙屋と稱して機業を營みしが當主に至り葉煙草製造を創め事業制度開始以來元賣捌を業としたるも元賣制度廢止と共に廢業し閑地に在りて餘生を送る君は當主末五郎の長男にして明治二十四年三月を以て生れ神戸高等商業學校を経て大正三年東京高等商業學校專攻科を卒業し同年文官高等試驗に合格す直に大阪商船會社に入り久しく歐米に在り同九年歸朝

コ之部 小池

同十一年中橋徳五郎の秘書役に擧げらる昭和二年同氏
の商工大臣に親任せらるる君亦同大臣秘書官に任ぜ
らる現時宇治川電氣會社營業課長たり家族は尙長女愛
子(大一二、五生)二女恭子(同一四、一〇生)弟健三郎
(明三一、二生)同妻つね子(同三九、八生)福井、正
津彌三(八妹)及其二子妹しつ(大六、七生)あり同こ
(明三四、三生)大野高女出身は福井縣人日本醫大出
身酒井勝に嫁し弟龍次郎(同二九、九生)金澤醫專出
身は同縣廣瀨家を相續し同妻澄子(同三一、一〇生)
との間に三男二女あり妹冬及弟信夫(同三六、一生)
は各分家せり(兵庫縣武庫郡本山村野寄中山田一二六
電御影四三五一)
參照 湯川又夫の項

小池 音一 東京建設局取締役
東京府士族
妻 明九、四生、東京、士、綠賀與助
妻 明三九、八生、靜岡、川口茂之三
女、共立女子專門學校出身
君は東京府士族小池幸忠の長男にして明治三十三年十
二月を以て生れ大正十四年家督を相續し現時東京建設
會社取締役たり東京鋼板工業田島工業各會社の重
役たりしことあり家族は尙長女(明四二、一生)同は
る(同四五、二生、共立女子專門學校出身)あり(東京
市王子區稻付町五ノ八四三)

小池 寛 關東軍特務部員
長野縣在籍
妻 明三二、六生、長野、堀内桂造六
男 泉 大一〇、一生
君は長野縣人小池龜次郎の三男にして明治二十一年三
月を以て生れ大正八年京都帝國大學法科大學政治學科
を卒業し義に郡山合同銀行常務取締役たりしことあり
現時關東軍特務部員たり家族は尙長女妙子(大一一、九
生)兄理智(明一八、一生、現戸主)同妻しを同二
〇、一〇生、長野、林藏(二女)及其子女あり弟信夫
(同二六、一生)同千里(同三〇、二生)は各分家し妹み
や(同三二、一生)は長野縣人北原實に嫁み(同四
三、七生)兄理知(尙長女)は東京府人鈴木義一に嫁せり

小池 恵吉 東京府在籍
妻 明一八、一生、茨城、新井善三
母 明一八、一生、長女
君は東京府人小池清一の長男にして明治十三年三月を
以て生れ昭和三年家督を相續す家主たり家族は尙弟寛
次(明一六、八生)同妻清子(同二二、九生)同訓(同三
三、七生)兄理知(尙長女)は東京府人鈴木義一に嫁せり

小池 厚之助 小池證券取締役社長、東京イ
シ工業取締役、王子製紙監
査役、小池代表社員
東京府在籍
妻 明一〇、一生、東京、堀越卯
太郎、小池出資社員
母 明三六、八生、鹿兒島、山
内一、御茶の水高女出身
昭八、六生
當家は先代國三より顯る國三は甲府市の舊家淺川友八
の五男にして小池家に入り其家督を相續す歳十三にして
若尾逸平の商店に入り後東京に出で東京株式取引所
仲買人となり曾て仲買人を代表して渡米實業團に加は
る次で同取引所理事東京商業會議所議員帝國經濟會議

小池 堅治 從三位勳三等、前第二高等學校教
授、東京府在籍
妻 明二六、三生、大分、武田乙
次郎長女
男 明四五、三生
女 明三三、三生
君は福井縣士族吉田傳七の三男にして橋本正治の弟吉
田一の兄なり明治十一年四月を以て生れ先代佐一郎
の養子となり同三十五年家督を相續す同三十六年東京
帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業し同年第七高等學
校造士館教授に任ぜられ同四十年第二高等學校教授と
なる現時閑地に在り大正十年獨逸語及獨逸文學研究の
ため獨逸瑞佛に留學せり家族は尙二男昭(大五、二生)
三女和(同九、七生)四女素(同四、一〇生)あり(仙
臺市清水小路五〇)
參照 橋本正治、吉田一の項

小池 新太郎 新炭商
東京府在籍
妻 明二五、七生、東京、本橋久八長
女 明四〇、一生
男 明四四、三生、長男正太郎妻、愛
子、三木紀三二女
男 新三郎 明四三、一生
男 友司 大三、四生
君は東京府人清水國太郎の二男にして明治十二年六月
十九日を以て生れ同三十七年小池新太郎の養子となり
大正七年家督を相續し前名三郎を改め現に新
炭商を營む家族は尙六男光(大六、七生)七男健次(同
一四、一生)あり長女婦美子(明四一、七生)は分家

小池 誠吉郎 北越新報社(舊常務取締役、新潟新
報社)取締役、新潟縣士族
妻 明八、三生、新潟、士、青木小太
郎妹
男 明二七、四生、長女ミチ夫、新潟
女 明三一、二生、養子重太郎妻
君は新潟縣士族小池喜三郎の長男にして明治元年十一
月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時北越新報社
常務取締役にして新潟新聞社取締役を兼ね家族は尙六
女(大一一、〇生)孫重一(同八、五生)養子重太
郎(長男)同登志雄(同一四、二生)同三男(同武)昭
三、一生、同四男(同一四、二生)同三女(明三六、一〇生)
は新潟縣人名兒耶武夫に嫁せり(長岡市東神田町電一
二四〇)

小池 貞吉 大阪府在籍
君は東京府人清水國太郎の二男にして明治十二年六月
十九日を以て生れ同三十七年小池新太郎の養子となり
大正七年家督を相續し前名三郎を改め現に新
炭商を營む家族は尙六男光(大六、七生)七男健次(同
一四、一生)あり長女婦美子(明四一、七生)は分家

小池 佐平 南海紙業(舊事務取締役
和歌山縣在籍)
妻 明一四、六生、和歌山、宮崎伊兵
衛長女
男 佐一郎 明三七、二生
男 佐二郎 明三八、九生
男 克巳 明四四、二生、泉尾鐵工所勤務、
日本大學出身
女 郁子 大二、二生
君は和歌山縣人野尻善吉の三男にして明治十一年九月
十五日を以て生れ先代佐兵衛の養子となり昭和二年家
督を相續し前名利吉を改む現時南海紙業會社の事務取
締役に任ぜられて和歌山日本除毒會社の監査役た
り家族は尙四男(大八、一生)あり(和歌山縣日高郡
藤田村電一五一)

小池 重 醫學博士、醫師
妻 明二三、二生、東京、士、渡千城
女 明一〇、六生
君は千葉縣人小池三左衛門の三男にして明治七年三月
を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同三十六年
東京帝國大學醫學科を卒業し大正五年醫學博士の學
位を受く義に香雲堂醫院院長呼吸器科上氣道科主
任として二十五年在職傍ら東華生命保險會社及堀ノ内
葬場事務顧問たり昭和三年開業し一般診療に従事し
下谷區杉山病院顧問たり家族は尙長女三重子(大一一、
三生)あり(一六二)東京市麹町區三番町六ノ一〇電九
段二七九一)
參照 渡千城の項

小池 仁郎 正五位勳三等、衆議院議員(北海
道選出)、漁業、北海道在籍
妻 明一、二生、北海道、士、中
野永太郎二女
男 明三七、三生
女 明六、六生
君は新潟縣人小池太一郎の二男にして慶應二年五月を
以て生れ先代吉平の養子となり明治二十三年家督を相
續す漁業を營む大正四年以來衆議院議員に當選する事
七回に及び國民同盟に所屬し現に其任に在り義に北海
道會議員根室水産會會長同漁業組合理事北海道水産會
帝國水産會副會長米穀統制調查會委員根室日報社長た
り曾て支那を視察す長女愛(明四二、一生)及二女信
(同四四、六生)は他に嫁せり(東京市芝區白金三光町
三七九電高輪三三〇〇)
參照 中野浩の項

小池 四郎 衆議院議員(福岡縣選出)、著述業
東京府在籍
妻 明三三、一生、茨城、大塚信民長女
君は東京府士族小池漢の四男にして明治二十五年三月

小池 新太郎 新炭商
東京府在籍
妻 明二五、七生、東京、本橋久八長
女 明四〇、一生
男 明四四、三生、長男正太郎妻、愛
子、三木紀三二女
男 新三郎 明四三、一生
男 友司 大三、四生
君は東京府人清水國太郎の二男にして明治十二年六月
十九日を以て生れ同三十七年小池新太郎の養子となり
大正七年家督を相續し前名三郎を改め現に新
炭商を營む家族は尙六男光(大六、七生)七男健次(同
一四、一生)あり長女婦美子(明四一、七生)は分家

小池 貞吉 大阪府在籍
君は東京府人清水國太郎の二男にして明治十二年六月
十九日を以て生れ同三十七年小池新太郎の養子となり
大正七年家督を相續し前名三郎を改め現に新
炭商を營む家族は尙六男光(大六、七生)七男健次(同
一四、一生)あり長女婦美子(明四一、七生)は分家

コ之部 小池

(※印は姻族關係)

(※印は姻族關係)

妻 ミサヲ 明一五、六生、大阪、岡本丑之助
男 武男 明四三、一〇生
男 貞男 大六、五生

小池 なか 地主
妻 長春 大一一、四生、東京、小池金四郎

小池 縫三郎 大阪府在籍
妻 タニ 慶應三、二生、大阪、毛利エン姉

小池 一 四日市銀行常務取締役
妻 國子 明二、二生、東京、西村小市七

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 充彦 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

帝國大學法科大學政治學科を卒業し日本銀行に入り取
名古屋銀行に轉じ更に諸戸殖産會社に入り同社事務取
締役たりしも現時四日市銀行常務取締役たり家族は尙

小池 半平 諸機械製作業
妻 フサ 明一六、一〇生、大阪、村田政雄

小池 久雄 上伊那銀行常務取締役
妻 住子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

小池 義郎 昭和解行大阪支店長代理
妻 孝子 明三、一〇生、長野、森亨六女

村上彦十三男)及其子女あり姉よし(同二、一〇生)
は長野縣人有賀啓太郎弟九郎に嫁し叔父源太郎(慶
應元、七生)は分家せりA二二〇(長野縣上伊那郡伊那
町五五五五電伊那一〇二)

小池 寶三郎 静山山代表取締役、住友支店
妻 コシナ 明二、五生、廣島、土、箱田半

小池 正晃 正四位勳四等、男爵、醫學博士、
妻 直子 大六、五生、女子學院在籍

小池 正晃 正四位勳四等、男爵、醫學博士、
妻 直子 大六、五生、女子學院在籍

小池 正晃 正四位勳四等、男爵、醫學博士、
妻 直子 大六、五生、女子學院在籍

小池 正晃 正四位勳四等、男爵、醫學博士、
妻 直子 大六、五生、女子學院在籍

小池 正晃 正四位勳四等、男爵、醫學博士、
妻 直子 大六、五生、女子學院在籍

小池 正晃 正四位勳四等、男爵、醫學博士、
妻 直子 大六、五生、女子學院在籍

小池 正晃 正四位勳四等、男爵、醫學博士、
妻 直子 大六、五生、女子學院在籍

君は東京府人小泉太郎の弟にして明治二十七年八月一日を以て生れ同四十二年家督を相続す地主たり家族は尙長女和江(昭二、六生)二女美津子(同四、七生)三女幸枝(同八、九生)あり(東京市澁野川區田端町三ノ一〇七)

小泉金之助 東京府會議員、小泉園、料理旅館、東京府在籍

君は東京府人小泉喜三郎の長男にして明治十七年四月一日を以て生れ昭和九年家督を相続す小泉園と稱し料理旅館業を営む現時推されて東京府會議員たり家族は尙長女桂子(昭八、一生)孫玲子(同七、五生)養子勝治(長女)亡弟源七(妻よし)(昭二、〇九生)婿玉、中田莊助(五女)ありA七五一(東京市荒川區尾久町三ノ二六四八下谷三八〇五)

小泉國五郎 皮革商、東京府在籍

君は東京府人小泉新藏の長男にして明治三十三年四月二十三日を以て生れ同四十年先代祖父七五郎の後を承け家督を相続す手廣皮革商を営む家族は尙三男眞澄(大、四生)四男滋(昭四、一生)は各分家し姉(昭二、六、五生)叔父敬太郎(同二、八、八生)群馬茂木直次郎(長男)と共に姉を同三、八、四生)同夫繁作(同三、二、三生)新潟、渡部國次郎(三男)も亦共に各分家し妹房子(同四、〇、二生)は東京府人渡邊谷五郎に嫁せりA三三〇(東京市淺草區今戸町一ノ一一ノ三電淺草九五九)

君は東京府人小泉定次郎の長男にして明治五年十一月を以て生れ同四十五年家督を相続す夙に操縦界に入り静岡日報自由新聞各記者九州新聞經濟新聞各社長となり又四谷區會議員東京市會議員東京商業會議所議員大連株式會社取締役等に當りて明治四十五年以來現時前記會社の重役たり家族は尙長女(昭九、六、七生)府立第六高女(昭五、五、八生)五男新策(同二、一、九生)六男淳作(同三、一、〇生)七男汪(同二、一、五、八生)孫昭三、五生、長男經一(長男)同汪(同五、三、三生)同長女)あり長女清子(昭四、五、五生)府立第六高女出身)は東京府人白井哲夫長男大助に嫁せり三男二虎三郎(大、三、八生)は分家し三女文子(昭九、七、七生)は静岡縣人佐々木常藏の養子となり庶子仲五(昭一、〇、一、〇生)は同縣人小泉よしの家督を相続し妹(昭二、三、一、〇生)は同縣人小泉定次郎の家督に入れりA三〇七(東京市麻布區廣尾町三四電高輪四八九〇) 參照II白井哲夫の項

小泉國次郎 大阪魚販取締役、大阪府在籍

君は大阪府人小泉國松の四男にして明治二十年十一月九日を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す現時大阪魚會社取締役たりA五二八(兵庫縣武庫郡精道村豐産屋三二一六)

小泉啓三 小泉製菓取締役、小泉宅代表社員、滋賀縣在籍

君は東京府人小泉嘉兵衛の長男にして明治二十七年一月二十二日を以て生れ大正三年家督を相続す同七年早稲田大學商科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙長女昭子(大九、二生)二女淑子(昭一、〇、六生)三女郁子(昭二、一、二生)の外弟孝三(昭三、七、一、一生)同昌三(昭四、一、七生)あり妹ひさ(昭三、三、三、生)日本女大家政科出身)は滋賀縣人小林吟右衛門弟捨次郎に同わか(昭三五、三、生)は三重縣人小津六三郎弟延之助に嫁せり(神戸市灘區深田町四丁目電御影三三三三) 參照II小林捨次郎、小津六三郎の項

小泉源一 正五位勲五等、理學博士、京都帝國大學助教、理學部勤務、山形縣在籍

君は山形縣人小泉清次郎の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す現時東京電氣會社代表取締役たる外前記會社の重役たり兼に秋田電氣軌道會社社長眞珠島土地會社代表取締役たりしことあり(東京市神田區佐久間町河津下谷五二二)

月を以て生れ先代叔父清藏の養子となり昭和五年家督を相続す明治三十一年札幌農學校林學科を卒業し同四十二年更に東京帝國大學理科大學植物科選科を卒業す大正五年理學博士の學位を受け同八年京都帝國大學助教に任じ現に理學部勤務たり同十三年英米瑞西露露各國に留學を命ぜらるる家族は尙二男憲治(大九、一、一生)あり(京都市左京區下鴨宮川町六二)

小泉小太郎 青物商、東京府在籍

君は東京府人小泉萬太郎の長男にして明治三十三年四月二十六日を以て生れ昭和四年家督を相続す青物商を営む家族は尙長女和子(大、四、一、一生)二女久美子(同二、一、五、九生)姉し(昭二、七、一、〇生)ありA二四八B一一八(東京市本郷區駒込込込達達七電小石川一八七七)

小泉幸次郎 金澤商工會議所議員、羅紗洋服商、石川縣在籍

君は石川縣人延田五平の長男にして明治元年十二月を以て生れ同二十一年先代市太郎の死跡を相続す羅紗洋服商を営み金澤商工會議所議員たり兼に金澤市參事會に當りて長女清(昭二、七、六生)は新潟縣人太田豊二郎に二女愛子(昭三、二、四生)は石川縣人茂野仁太郎に三女文子(昭四、一、七生)は同縣人徳原智足に嫁せり(金澤市南町八五ノ一電二二九)

小泉策太郎 勳三等、三共印刷監査役、静岡縣在籍

君は滋賀縣人布施嘉七の長男にして明治十一年四月を以て生れ同三十五年先代重助の死跡を相続し前名森之助を改め襲名す吳服織物問屋業を営む傍ら三角興業會社外前記會社の重役たり家族は尙二男文助(大、六、五生)三男吉助(昭九、八、八生)四男圭助(昭一、三、四生)ありA一三九〇九B一八一(大阪府東區備後町三ノ一六電本町七〇七) 參照II※村田虎太郎の項

小泉尙助 小泉製菓取締役、兵庫縣在籍

君は滋賀縣人小泉助次郎の二男にして明治二十三年十二月を以て生れ大正八年兄良助方より分れて一家を創立す夙に東京高等工業學校機械科を卒業し現に小泉製菓會社取締役たり家族は尙長女信子(大、一、〇、五生)二男省三(昭二、一、一、一生)二女中子(昭一、五、三、生)あり(神戸市灘區大石二ノ四ノ一電御影二四四九)

小泉昌次 地主、東京府在籍

君は東京府人先代小泉喜左衛門の三男にして大正二年二月二十八日を以て生れ昭和七年家督を相続す地主たり家族は尙弟松雄(大、六、一、二生)あり七六一(東京市荒川區尾久町九ノ三〇〇八電下谷一三八)

小泉信三 經濟學博士、慶應義塾長兼同大東京府士族、松山出資社員

小泉三橋 從四位勲四等、檢事、弘前區裁判所、青森地方裁判所弘前支部檢事、秋田縣士族

君は秋田縣士族小泉重憲の叔父にして明治十二年八月を以て生れ同三十七年私立法政大學專門部法律科を卒業し翌三十八年判檢事登用試験に合格す同四十年判事に任じ大正二年檢事に轉じ福島縣長時佐賀鹿兒島山形各區同地方平區兼福島地方同支部下妻區兼水戸地方下妻支那七尾區兼金澤地方同支部檢事を經て現時弘前區裁判所兼青森地方同支部檢事たり家族は尙二男武男(大、八、一、一生)三男芳男(昭一、一、六生)亡兄重記妻ス

小泉重助 三角興業取締役、吉田屋吳服店、滋賀縣在籍

君は秋田縣士族小泉重憲の叔父にして明治十二年八月を以て生れ同三十七年私立法政大學專門部法律科を卒業し翌三十八年判檢事登用試験に合格す同四十年判事に任じ大正二年檢事に轉じ福島縣長時佐賀鹿兒島山形各區同地方平區兼福島地方同支部下妻區兼水戸地方下妻支那七尾區兼金澤地方同支部檢事を經て現時弘前區裁判所兼青森地方同支部檢事たり家族は尙二男武男(大、八、一、一生)三男芳男(昭一、一、六生)亡兄重記妻ス

年慶應義塾大學政治科を卒業し後同大學教授に任じ現に同塾々長兼同大學總長にして參松合資會社出資社員たり...

小泉新七

關東總務局長 京都府在籍 安政三、一〇生、京都、伴四郎兵衛...

小泉清吉

北海道多額納稅者、地主 北海道在籍 明治七、一〇生、新潟、兒玉幸悅郎...

君は神奈川縣人津久井熊藏の二男にして文久三年十月十五日を以て生れ先代喜兵衛の養子となり...

道入佐藤傳七庶子傳四郎に四女マサエ(同三三、一五)は新潟縣人水野常吉弟に嫁せり...

小泉清左衛門

地主 大阪府在籍 明二〇、一二生、滋賀、内田房吉...

小泉精三

滋賀縣在籍 滋賀縣在籍 明一七、一一生、兵庫、佐野春五...

小泉惣五郎

地主 東京府在籍 明八、九生、東京、淺香定知長女...

君は滋賀縣人小泉清左衛門の長男にして明治十一年七月を以て生れ...

小泉丹

教授、醫學博士、慶應義塾大學 醫學部助務、福島縣土族...

君は福島縣土族小泉忠武の長男にして明治十五年十一月を以て生れ...

小泉親彦

從四位勳二等、醫學博士、陸軍少將、醫務局長、福井縣土族...

君は故陸軍二等軍醫正小泉親正の三男にして明治十七年九月を以て生れ...

小泉萬五郎

地主 東京府在籍 明三三、一〇生、長女君夫、千葉、...

小泉興吉

地主 東京府在籍 嘉永四、九生、千葉、尖倉辰五郎...

小泉義親

甲府市會議員、山梨民友新聞社長 山梨縣在籍...

小泉平吉

文久元、二生 山梨、上野幸右衛門...

小泉六

從三位勳一等功四級、陸軍中將、帝國軍人後援會副會長...

小泉常春

地主 東京府在籍 明七、三三、東京、小泉清吉孫...

小泉猶次郎

東京市足立區會議員、金藏業 東京府在籍...

小泉仁作

新炭商 京都府在籍 明治一、一一、滋賀、三田村彦...

小泉又次郎

正三位勳二等、衆議院議員(神奈川縣選出)、横須賀市長...

小磯 石藏 地主
東京府在籍
妻 明七、一、生、東京、櫻井金五郎長
男 銀一郎、明三二、一〇生
女 明三二、八生、東京、飯島かね妹
女 明三九、一〇生
女 末代、明四二、一〇生
女 千代、大三、三三

君は東京府人小磯萬藏の二男にして明治四年一月十八日を以て生れ同十九年家督を相続す地主たりA三三二(東京市杉並區和泉町四八六電中野三五七八)

小磯 國昭 正四位勳一等功三級、陸軍中將、第五師團長、山形縣士族
妻 明二、一、生、新潟、牧口義矩妹
男 明四二、一、生、三菱重工業會社
女 敏子、大四、九生、新潟、九水技師長、眞貫貫一長女

君は山形縣士族小磯造の長男にして明治十三年四月を以て生れ昭和二年家督を相続す明治三十四年陸軍歩少尉に任じ昭和六年陸軍中將に擢進す其間歩兵第五十一聯隊長參謀本部課長陸軍航空本部總務部長陸軍省警備局長陸軍省軍務局長陸軍省參謀院幹事長陸軍次官等に歴補す昭和七年陸軍參謀長となり同九年第五師團長に補せらる(廣島市基町官舎電七六六)

小出 丑松 大阪府多額納稅者、鐵礦商、家主
大阪府在籍
妻 明三六、七、生、養兄源次郎長男
君は大阪府人小出市松の長男にして明治十年七月八日を以て生れ同十四年家督を相続す鐵礦商を營み家主たり養父家を以て知られ大阪府多額納稅者にして直接國稅四千七百四十二圓を納む家族は尙孫榮子(昭六一二生、養子太郎長女)庶子丑之助(大一一、二生、生母、大阪、香川タカ)同義夫(昭二、一、生、生母同上)あり養兄源次郎(明八、二生、高井清七三男)同妻チエ(同二七、九生、大阪、稻田福造妹)は其一男一女を伴ひ分家せり(大阪府南區安堂寺橋一ノ六一電船場三〇〇一)

小出 梅吉 正五位勳五等、臺北商業學校校長
新潟縣在籍
妻 明二五、六、生、廣島、木岡松次郎長女、東京音樂學校出身
男 梅雄、大九、五生、臺北一中在學
女 文子、大九、五生、日本女大在學

君は新潟縣人小出梅五郎の長男にして明治十七年十一月一日を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十七年神戶高等商業學校を卒業し甲府商業學校栃木縣立商業學校石川縣立金澤商業學校各教諭愛媛縣立八幡濱商業學校校長兼教諭臺灣總督府商業學校臺北商業學校各教諭等に歴任し現時臺北商業學校校長たり大正十年南支那及び英領香港に出張す家族は尙二女順子(大一一、二、一〇生)三女妙子(昭二、三、生)弟梅三郎(昭二、七、二生)同妻美惠(同三七、一、生、埼玉、小島助太郎長女)及其二男あり弟梅太郎(同二四、六、生)同妻アサノ(同三一、一、一、生、新潟、高橋清平姉)は其一男を伴ひ分家し弟梅作(同三三、二、生)は東京府人田中治郎の養子となれり(臺北市千歲町三ノ三三三電二〇六一)

小出 喜七郎 新潟縣多額納稅者、養産家
新潟縣在籍
妻 明二二、二、生、東京、太田宇吉郎長女
男 喜八郎、明三〇、七、生
男 喜八重、明三三、一、生

君は新潟縣人小出市藏の五男にして萬延元年六月を以て生れ明治十九年分れて一家を創立す養産家にして直接國稅千四百七十一圓を納め新潟縣多額納稅者に列す家族は尙孫喜一(大四、一、生、長男喜八郎長男)同喜次(同五、一、生、同二男)あり長女チエ(明一六、八、生)同夫尙吉(同六、二、生、廣島、横山卯三郎男)は其三子を伴ひ分家し四女カワ(同二五、七、生)は子爵奥田直元(五女シヅ子)同二七、一、二生は千葉縣人長谷川勝造に嫁し孫敬子(大七、七、生、長男喜八郎長女)は新潟縣人笹川ムメの養子となれり(新潟市古町通七番町四)

小出 三郎 從四位勳三等功五級、陸軍少將、松阪市長、三重縣士族
妻 明一〇、一、生
男 廣通、明三六、一、生
女 みさを、明四〇、七、生、三重、土、中井清太郎二女
女 古都、明四二、七、生

小出 四郎兵衛 大阪府在籍
妻 明三二、一、二、生、大阪、藤本平治郎六女
男 敏夫、昭五、一、生

君は大阪府人先代四郎兵衛の二男にして明治三十二年二月五日を以て生れ、大正十四年家督を相続し昭和四年前名捨三を改め襲名す現時家主たり家族は尙長女美枝子(大九、一、二、生)二女陽子(同三、四、生)三女順子(同二、一、一、生)四女博子(昭二、一、一、生)ありA四五五(大阪府天王寺區逢坂上之町五六)

小出 錠雄 前日本輕合金工業會社取締役
富田重郎の項
妻 明一、二、生、大阪、土、鈴木守藏妹
男 一、明四四、九、生
女 ツギ、明三三、三、生

君は靜岡縣人小出定富の長男にして明治六年十月を以て生れ大正八年家督を相続す明治二十八年東京高等工業學校機械科を卒業し日本輕合金工業會社取締役たりしも現時閑地に在り家族は尙妹とみ(大六、一、一、生)あり養妹あや(明三、一、四、生、靜岡、篠山資之(二女)は東京府人鶴見應辰に嫁し弟小太郎(同二二、二、一、生)同武司(同二八、一〇、生)は各分家し同定雄(大三、一、二、生)は分家弟武司の家籍に入れり(大阪府豊能郡南豊島村)

小出 英延 正三位、子爵、掌典
舊丹波國部藩
妻 明一八、一、生、子爵細川立興姪
男 英昌、大四、一、生

當家は小出左衛門尉持氏の後裔にして播磨守秀政に至り豊臣氏に仕へ泉州岸和田三萬石を食む夫より十世を經其間數回の變遷ありて丹波國國部二萬六千餘石の城主として先代英尚に至る君は其長男にして明治十一年七月十三日を以て生れ同十六年家督を相続し同十七年子爵を授けらる曾て、大正天皇御幼時御相手御付られし事あり現時掌典たり家族は尙四男英忠(大八、一、一、生)弟英經(明三一、一、一、生)同妻喜久子(同三六、一、一、生、東京、土、兒玉錦平(二女)及其子女あり妹鏡子(同二六、三、生)は子爵東風藏に同敬子(同二四、四、生)は子爵松平義爲に同泰子(同二五、八、生)は子爵大谷光熙叔父尊由に同惠子(同二九、一、一、生)は子爵黒田長敬に嫁し弟英輔(同三六、六、生)は鳥取縣士族岡崎長喜の養子となれりA二一五(東京市牛込區市谷藥王寺町五五電牛込三八五八)

小出 太治郎 資産家
大阪府在籍
君は大阪府人小出熊治郎の三男にして明治四十三年十月七日を以て生れ昭和七年分れて一家を創立す養産家たりA四五六(大阪府天王寺區谷町九ノ三四)

小出 庄兵衛 正八位勳六等、陸軍歩少尉、十層、港北土地各種取締役
愛知縣在籍
妻 明二〇、一〇、生、愛知、中村與右衛門妹
男 篤三、大五、一、生
女 秀子、大七、七、生

君は愛知縣人瀧定助同廣三郎の弟にして同六郎同義郎の兄なり明治十五年三月十五日を以て生れ先代同もの養子となり同二十一年家督を相続す現に前記各會社の重役にして兼に名古屋貯蓄銀行名古屋銀行各監査役たりしことあり家族は尙二男修三(大四、三、生)三男益三(昭二、三、生)ありA一八一七(名古屋市東區東町二ノ二電南五四七四)

小出 善兵衛 實商
大阪府在籍
妻 明一四、三、生、大阪、小出末次郎姉
男 良一、明三四、九、生、同志社大學法科出身
女 眞、明三八、四、生、長男良一妻、奈良河合源七郎長女
妻 眞、明三三、七、八、生、二女コマ、大阪浦濱松太郎二男
女 コマ、明四二、九、生、養子英一妻、樟蔭高女出身

小出家は大阪土着の農家にして數代庄屋を勤め先々代に至り實商に轉せし舊家なり君は先代善兵衛の長男にして明治十一年九月七日を以て生れ同二十七年家督を相続し前名良藏を改め襲名す親類たる實商を營み一般公共事業に盡す所多く兼に大阪市會議員に推舉せらる家族は尙孫和子(昭二、一、一、生、長男良一長女)同良行(同三、一〇、生、同長男)同善之(同六、一、一、生、同二男)同士郎(同八、七、生、同三男)同惠美子(同九、二、生、養子英一長女)ありA八〇一(大阪府天王寺區逢坂上ノ町一七七六電天王寺五五〇)

小出 英延 正三位、子爵、掌典
舊丹波國部藩
妻 明一八、一、生、子爵細川立興姪
男 英昌、大四、一、生

當家は小出左衛門尉持氏の後裔にして播磨守秀政に至り豊臣氏に仕へ泉州岸和田三萬石を食む夫より十世を經其間數回の變遷ありて丹波國國部二萬六千餘石の城主として先代英尚に至る君は其長男にして明治十一年七月十三日を以て生れ同十六年家督を相続し同十七年子爵を授けらる曾て、大正天皇御幼時御相手御付られし事あり現時掌典たり家族は尙四男英忠(大八、一、一、生)弟英經(明三一、一、一、生)同妻喜久子(同三六、一、一、生、東京、土、兒玉錦平(二女)及其子女あり妹鏡子(同二六、三、生)は子爵東風藏に同敬子(同二四、四、生)は子爵松平義爲に同泰子(同二五、八、生)は子爵大谷光熙叔父尊由に同惠子(同二九、一、一、生)は子爵黒田長敬に嫁し弟英輔(同三六、六、生)は鳥取縣士族岡崎長喜の養子となれりA二一五(東京市牛込區市谷藥王寺町五五電牛込三八五八)

四日を以て生れ同四十二年兄太左衛門方より分れて一家を創立す綿布商を営み大阪三品取引所取引員にして傍ら前記各會社の重役たり大阪府多額納税者に列し直接納税七千九百九十九圓を納む家族は尙原子幸世(大一一、七生、生母、中村たま) 鏡子(同四、七生、愛知、小島太左衛門孫)ありA一四三五一B一三〇六(大阪市東區南久太郎町二ノ一七電船場一六五〇) 參照II小島太左衛門の項

小島 榮吉

君は東京府人小島茂三郎の長男にして明治十九年十二月三日を以て生れ大正十三年家督を相續す地主たり妹くわ(明三八、七生)は東京府人小澤幸吉に同榮(同四四、一一生)は山口縣人岡崎常備に各嫁せりA五五〇(東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ八四二)

妻 慶應元、九生、東京、小林菊次郎
母 慶應元、九生、東京、小林菊次郎
妻 明二六、一〇生、東京、士、谷田部太郎妹
庶子 昭四、三三、生母、東京、稻葉ト

君は東京府人小島茂三郎の長男にして明治十九年十二月三日を以て生れ大正十三年家督を相續す地主たり妹くわ(明三八、七生)は東京府人小澤幸吉に同榮(同四四、一一生)は山口縣人岡崎常備に各嫁せりA五五〇(東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ八四二)

小島 鏡吉

君は東京府人小島茂三郎の長男にして明治十九年十二月三日を以て生れ大正十三年家督を相續す地主たり妹くわ(明三八、七生)は東京府人小澤幸吉に同榮(同四四、一一生)は山口縣人岡崎常備に各嫁せりA五五〇(東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ八四二)

妻 慶應元、九生、東京、小林菊次郎
母 慶應元、九生、東京、小林菊次郎
妻 明二六、一〇生、東京、士、谷田部太郎妹
庶子 昭四、三三、生母、東京、稻葉ト

十日を以て生れ大正八年家督を相續し前名正造を改め親名す紅屋と稱し化粧品小間物商を営む家族は尙四男大助(大八、八生)孫彌子(昭八、二生、長男平八長女)あり姉タマ(明八、四生)は和歌山縣土族増穂龍吉に妹スエ(同一一、一一生)は三重縣人福喜多精太郎弟婿に妹スエ(同一一、一一生)は和歌山縣人山本篤一郎に同榮(同三〇、八生)は兵庫縣人西島愛次に嫁せりA五一六B一八二(大阪府港區九條北通一ノ二電西三九二〇) 參照II福喜多精之助、山本篤一郎の項

小島 久太

君は兵庫縣人小島眞二の長男にして明治二十六年二月十七日を以て生れ大正七年家督を相續す大正六年明治大學政治經濟學部を卒業し同七年内務省に任ぜられし後退官す明治大學より應用社會學研究のため英獨へ留學を命ぜられて渡歐し同時に内務省より歐洲各國に於ける地方財政經濟狀況の調査を囑せられたり明治大學助教授となり同十二年内閣より衆議院選舉法調査會の事務英國選舉法の調査を囑せらるる同十三年歸朝後明治大學法學部教授を経て同大學政治經濟學部教授兼女子部幹事となり今日及ぶ義に東京市瑞託全國町村長會囑託たりし事あり家族は尙正巳(明三九、一〇生、海軍大尉)あり(東京市杉並區阿佐ヶ谷三ノ三) 參照II小島眞二の項

小島 憲

君は東京府人小島眞四郎の長男にして明治三十一年十月二日を以て生れ大正七年家督を相續す大正六年明治大學政治經濟學部を卒業し同七年内務省に任ぜられし後退官す明治大學より應用社會學研究のため英獨へ留學を命ぜられて渡歐し同時に内務省より歐洲各國に於ける地方財政經濟狀況の調査を囑せられたり明治大學助教授となり同十二年内閣より衆議院選舉法調査會の事務英國選舉法の調査を囑せらるる同十三年歸朝後明治大學法學部教授を経て同大學政治經濟學部教授兼女子部幹事となり今日及ぶ義に東京市瑞託全國町村長會囑託たりし事あり家族は尙正巳(明三九、一〇生、海軍大尉)あり(東京市杉並區阿佐ヶ谷三ノ三) 參照II小島眞二の項

君は愛知縣人先代勝之助の二男にして大正十二年十月十三日を以て生れ後家督を相續す小島屋と稱し藥種商を營む家族は尙姉麻子(大五、七生)同瀧子(同七、一〇生)ありA五四二B一七五(名古屋市西區傳馬町三ノ一八電本局六五九)

小島 勝彦

君は神奈川縣土族小島寛信の二男現戸主同久太の弟にして明治十六年四月二十二日を以て生れる同三十七年横濱商業學校を同四十四年米國紐約大學商科を各卒業し現時横濱正金銀行九ノ内出張所副主任たり家族は尙二女英子(大一一、八生)三女都子(同一一、七生)四女和子(昭四、一一生)ありA三三八七(東京市世田谷區上馬町三ノ九一四電世田谷二七三六) 參照II小島久太の項

小島 兼次郎

君は東京府人小島眞藏の長男にして明治十四年九月を以て生れ大正八年家督を相續す川崎銀行に入り庶務部長に累進し現時川崎銀行庶務部長にして前記會社の重役を兼ねる家族は尙二男孝夫(大八、一一生)三男保夫(同一一、一一生)ありA一八一八(東京市牛込區横寺町三七電牛込一七七一)

小島 兼太郎

君は兵庫縣人小島眞二の長男にして明治二十六年二月十七日を以て生れ大正七年家督を相續す大正六年明治大學政治經濟學部を卒業し同七年内務省に任ぜられし後退官す明治大學より應用社會學研究のため英獨へ留學を命ぜられて渡歐し同時に内務省より歐洲各國に於ける地方財政經濟狀況の調査を囑せられたり明治大學助教授となり同十二年内閣より衆議院選舉法調査會の事務英國選舉法の調査を囑せらるる同十三年歸朝後明治大學法學部教授を経て同大學政治經濟學部教授兼女子部幹事となり今日及ぶ義に東京市瑞託全國町村長會囑託たりし事あり家族は尙正巳(明三九、一〇生、海軍大尉)あり(東京市杉並區阿佐ヶ谷三ノ三) 參照II小島眞二の項

小島 孝太郎

君は東京府人小島眞四郎の長男にして明治三十一年十月二日を以て生れ大正七年家督を相續す大正六年明治大學政治經濟學部を卒業し同七年内務省に任ぜられし後退官す明治大學より應用社會學研究のため英獨へ留學を命ぜられて渡歐し同時に内務省より歐洲各國に於ける地方財政經濟狀況の調査を囑せられたり明治大學助教授となり同十二年内閣より衆議院選舉法調査會の事務英國選舉法の調査を囑せらるる同十三年歸朝後明治大學法學部教授を経て同大學政治經濟學部教授兼女子部幹事となり今日及ぶ義に東京市瑞託全國町村長會囑託たりし事あり家族は尙正巳(明三九、一〇生、海軍大尉)あり(東京市杉並區阿佐ヶ谷三ノ三) 參照II小島眞二の項

小島 憲

君は東京府人小島眞四郎の長男にして明治三十一年十月二日を以て生れ大正七年家督を相續す大正六年明治大學政治經濟學部を卒業し同七年内務省に任ぜられし後退官す明治大學より應用社會學研究のため英獨へ留學を命ぜられて渡歐し同時に内務省より歐洲各國に於ける地方財政經濟狀況の調査を囑せられたり明治大學助教授となり同十二年内閣より衆議院選舉法調査會の事務英國選舉法の調査を囑せらるる同十三年歸朝後明治大學法學部教授を経て同大學政治經濟學部教授兼女子部幹事となり今日及ぶ義に東京市瑞託全國町村長會囑託たりし事あり家族は尙正巳(明三九、一〇生、海軍大尉)あり(東京市杉並區阿佐ヶ谷三ノ三) 參照II小島眞二の項

君は群馬縣人國岸常吉の二男にして明治二十一年九月二日を以て生れ大正七年先代岩尾の入夫となり家督を相續す現時前記會社の重役にして義に日本光機鶴見瓦斯會社の重役たりし事あり家族は尙二女智子(大一一、七生)三女可子(同一一、五生)ありA九六九(横濱市鶴見區鶴見町三〇七電鶴見二〇六)

小島 勘一

君は東京府人小島金太郎の長男にして明治十八年十二月九日を以て生れ同三十三年家督を相續す地主たり家族は尙三男(大五、一一生)四男芳郎(同七、九生)五男逸郎(同一一、五生)六男隆郎(同一一、二生)七男七彦(昭三、四生)八男和男(同六、五生)あり長女雅子(明四二、三生)は東京府人平野彌次長男に姉清(同一一、〇八生)は同府人若井幸次郎に同登貴(同一一、二生)は同府人土屋貞三に妹菊(同二二、二生)は同府人河原崎謙吉に同敏(同二二、三三)は同府人伊藤祐次郎に嫁し弟愛次郎(同二七、五生)は分家せりA五七〇(東京市本郷區駒込林町一六一電小石川一三五六)

小島 喜三郎

君は東京府人小島眞五平の二男にして明治二十二年八月八日を以て生れ兄三太郎より分れて一家を創立す現時東京株式取引所取引員たりA四五七B一七一(東京市日本橋區兜町一ノ五電塚町二七〇六)

小島 幸吉

君は東京府人小島眞五平の二男にして明治二十二年八月八日を以て生れ兄三太郎より分れて一家を創立す現時東京株式取引所取引員たりA四五七B一七一(東京市日本橋區兜町一ノ五電塚町二七〇六)

小島 定吉

君は東京府人先代庄兵衛の二男にして安政三年八月十一日を以て生れ大正二年分れて一家を創立す金機業を營む三女和歌江(明三九、二生)は東京府人飯田仁吉に嫁せりA三〇八(東京市澁谷區向山町一〇〇電高橋一七六二)

小島篠三郎 井上支店、水商
母 明三、九生、東京、丸山銀藏長
女 明一、九生、東京、丸山銀藏長
君は東京府人小島篠三郎の長男にして大正五年三月を以て生れ昭和七年家督を相続し前名故男を改め襲名す井上支店と稱し水商を営む家族は尙幼節子(明四、二子)同正子(大元、八生)同市子(同三、九生)妹フツ子(同七、一一生)同喜代子(同九、九生)ありA三〇五(東京市麻布區新網町一ノ七二電赤坂一三八四)

小島周次郎

横濱商工會議所議員、朝鮮農林、眞崎大和船渠各役取締役、小島商店代表社員、横濱取引所取引員
母 明一〇、一〇生、神奈川、小島源
妻 次郎長女
明三八、八生、東京、内田慎太郎
女 二女、東京府立第一高女出身
男 明四、一〇生、一〇生

小島重太郎

辯護士、地主
妻 正三郎、八生、東京、本多喜平治姉
女 明四三、二生

小島昌治

地主
母 明二一、一〇生、東京、杉浦鐵五
妻 明二一、一〇生、東京、杉浦鐵五
女 明二一、一〇生、東京、杉浦鐵五

小島昌太郎

正五位勳四等、經濟學博士、京都帝國大學教授、經濟學部部長、立命館大學學部長、大阪府在籍
母 明二二、一〇生、京都、木村勤兵衛四女
妻 明二二、一〇生、京都、木村勤兵衛四女

小島新一

正五位勳五等、特許局事務官、特許局審判部長、茨城縣在籍
母 明二二、一〇生、東京、杉浦鐵五
妻 明二二、一〇生、東京、杉浦鐵五

小島專吉

新潟縣多額納稅者、山治近江屋、藥商、新潟縣在籍
妻 明四一、三三、新潟、栗山虎吉妹
女 明四一、三三、新潟、栗山虎吉妹

小島善之助

東京府在籍
妻 明四二、七生
女 明四二、七生

小島太左衛門

一宮商工會議所會頭、愛知縣多額納稅者、東海紡績社長、協同土油採取部長、東京住宅監査役、名古屋商會在籍
妻 明二〇、一〇生、長女しずゑ夫、愛知、箕浦庄吉三男
女 明二〇、一〇生、長女しずゑ夫、愛知、箕浦庄吉三男

小島勢三郎

兵庫縣在籍
妻 明三六、一〇生、兵庫、小島榮三妹
男 明四、五生

小島祐馬

正五位、文學博士、京都帝國大學教授、高知縣在籍
妻 明一五、八生、高知、深瀬菫寛姉
女 明一五、八生、高知、深瀬菫寛姉

小島清次郎

時計材料商
妻 文久三、八生、愛知、水野源作妹
養子 明二四、二生、養子とし夫、東京、松永壽一弟
養子 明三〇、三生、養子静吉妻、愛知、船垣秀吉長女
孫 保子 大八、一〇生、養子静吉長女
君は愛知縣人小島忠次郎の二男にして文久三年十月を以て生れ明治四十四年分れて一家を創立す時計材料商として知らるる家族は尙孫登貴(大一一、一〇生)養子静吉(二女)同晴子(昭二、一〇生)同静代(同四、七生、同四女)あり、東京市小石川區賀籠町六三電大塚八九八)

君は東京府人小島重兵衛の長男にして慶應二年二月八日を以て生れ同府人先代喜代吉の養子となり明治十六年家督を相続す辯護士として知られ地主たり長女つ(明二二、一〇生)は青森縣人吉町太郎に二女たつ(同二五、四生)は東京府人石川縣次郎長男市造に四女と(同三五、七生)は東京府人鈴木平吉三男鐵三郎に嫁し二男甚吉(同三八、五生)は同父重兵衛の養子となりA五二九(東京市向島區寺島五ノ一八電墨田四五五)

小島昌治

地主
母 明二一、一〇生、東京、杉浦鐵五
妻 明二一、一〇生、東京、杉浦鐵五
女 明二一、一〇生、東京、杉浦鐵五

小島昌太郎

正五位勳四等、經濟學博士、京都帝國大學教授、經濟學部部長、立命館大學學部長、大阪府在籍
母 明二二、一〇生、京都、木村勤兵衛四女
妻 明二二、一〇生、京都、木村勤兵衛四女

小島新一

正五位勳五等、特許局事務官、特許局審判部長、茨城縣在籍
母 明二二、一〇生、東京、杉浦鐵五
妻 明二二、一〇生、東京、杉浦鐵五

小島專吉

新潟縣多額納稅者、山治近江屋、藥商、新潟縣在籍
妻 明四一、三三、新潟、栗山虎吉妹
女 明四一、三三、新潟、栗山虎吉妹

小島善之助

東京府在籍
妻 明四二、七生
女 明四二、七生

小島太左衛門

一宮商工會議所會頭、愛知縣多額納稅者、東海紡績社長、協同土油採取部長、東京住宅監査役、名古屋商會在籍
妻 明二〇、一〇生、長女しずゑ夫、愛知、箕浦庄吉三男
女 明二〇、一〇生、長女しずゑ夫、愛知、箕浦庄吉三男

小島勢三郎

兵庫縣在籍
妻 明三六、一〇生、兵庫、小島榮三妹
男 明四、五生

小島祐馬

正五位、文學博士、京都帝國大學教授、高知縣在籍
妻 明一五、八生、高知、深瀬菫寛姉
女 明一五、八生、高知、深瀬菫寛姉

小島清次郎

時計材料商
妻 文久三、八生、愛知、水野源作妹
養子 明二四、二生、養子とし夫、東京、松永壽一弟
養子 明三〇、三生、養子静吉妻、愛知、船垣秀吉長女
孫 保子 大八、一〇生、養子静吉長女
君は愛知縣人小島忠次郎の二男にして文久三年十月を以て生れ明治四十四年分れて一家を創立す時計材料商として知らるる家族は尙孫登貴(大一一、一〇生)養子静吉(二女)同晴子(昭二、一〇生)同静代(同四、七生、同四女)あり、東京市小石川區賀籠町六三電大塚八九八)

小島勢三郎

兵庫縣在籍
妻 明三六、一〇生、兵庫、小島榮三妹
男 明四、五生

小島祐馬

正五位、文學博士、京都帝國大學教授、高知縣在籍
妻 明一五、八生、高知、深瀬菫寛姉
女 明一五、八生、高知、深瀬菫寛姉

君は英城縣人先代新平の長男にして明治二十六年二月九日を以て生れ昭和四年家督を相続す大正七年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に農商務局となり同年文官高等試験に合格す爾來農務局事務官農務省農務官工場監督官農務事務官農務局事務官農務省事務官農務省大工務局事務官農務省大工務局長等を経て昭和八年特許局事務官に任ぜられ現に特許局審判部長たりA一〇七(東京市澁谷區櫻丘町六三電青山二二三)

小島甚吉

東京米穀商取引所社員、地主
妻 八千代、一〇生、東京、飯島彌十
女 明四三、一〇生、東京、飯島彌十

小島甚太郎

工學博士、大阪製糖取締役、東京造肥料廠監査役
妻 明一四、一〇生、故貴族院議員大津淳一四三女、御茶の水高女出身
男 明三四、四生、農學博士、東京帝國大學農學部講師
男 明三五、五生、鐵道局技師、工學士

小島甚太郎

工學博士、大阪製糖取締役、東京造肥料廠監査役
妻 明一四、一〇生、故貴族院議員大津淳一四三女、御茶の水高女出身
男 明三四、四生、農學博士、東京帝國大學農學部講師
男 明三五、五生、鐵道局技師、工學士

小島新一

正五位勳五等、特許局事務官、特許局審判部長、茨城縣在籍
母 明二二、一〇生、東京、杉浦鐵五
妻 明二二、一〇生、東京、杉浦鐵五

小島專吉

新潟縣多額納稅者、山治近江屋、藥商、新潟縣在籍
妻 明四一、三三、新潟、栗山虎吉妹
女 明四一、三三、新潟、栗山虎吉妹

小島善之助

東京府在籍
妻 明四二、七生
女 明四二、七生

小島太左衛門

一宮商工會議所會頭、愛知縣多額納稅者、東海紡績社長、協同土油採取部長、東京住宅監査役、名古屋商會在籍
妻 明二〇、一〇生、長女しずゑ夫、愛知、箕浦庄吉三男
女 明二〇、一〇生、長女しずゑ夫、愛知、箕浦庄吉三男

小島勢三郎

兵庫縣在籍
妻 明三六、一〇生、兵庫、小島榮三妹
男 明四、五生

小島祐馬

正五位、文學博士、京都帝國大學教授、高知縣在籍
妻 明一五、八生、高知、深瀬菫寛姉
女 明一五、八生、高知、深瀬菫寛姉

小島清次郎

時計材料商
妻 文久三、八生、愛知、水野源作妹
養子 明二四、二生、養子とし夫、東京、松永壽一弟
養子 明三〇、三生、養子静吉妻、愛知、船垣秀吉長女
孫 保子 大八、一〇生、養子静吉長女
君は愛知縣人小島忠次郎の二男にして文久三年十月を以て生れ明治四十四年分れて一家を創立す時計材料商として知らるる家族は尙孫登貴(大一一、一〇生)養子静吉(二女)同晴子(昭二、一〇生)同静代(同四、七生、同四女)あり、東京市小石川區賀籠町六三電大塚八九八)

小島勢三郎

兵庫縣在籍
妻 明三六、一〇生、兵庫、小島榮三妹
男 明四、五生

年歸朝せり家族は尙二男明(昭二、八生)あり(山口市
中讀井三丁目電八三三)

小島 武次

帳簿印刷紙事務用品商
大阪府在籍
妻 イ 明二八、七生、養夫誠三郎三女
男 弘 八一、一一生

君は大阪府人堀内三郎の三男にして明治二十七年十
一月二十一日を以て生れ大正十三年先代誠三郎の養子
となり昭和七年養兄昌太郎より分れて一家を創立す
帳簿印刷紙事務用品商を営む家族は尙長女ヒデ(六一
四、四生)二女瑠子(昭四、二生)ありA二七四B一
八(大阪府南區九郎右衛門町二四電南二五八・二五九)
參照||小島昌太郎天野熊三の項

小島 長一

從七位勳六等、陸軍二等主計
兵庫縣在籍
妻 ヒロ 明一八、一一生、子爵西勝男姉
女 多壽 大元、一〇生
女 富喜子 大六、一一生

君は兵庫縣人小島長四郎の長男にして明治十四年七月
を以て生れ大正十三年家督を相続す日露役に従軍し陸
軍二等主計となる養家にして養子横濱正金銀行員た
り長女壽和(明四、二生)は兵庫縣人福井良夫に姉を
ん(同九、九生)は同縣人下山英五郎に姉を同一七、
一(二生)は同縣人澤野貞次郎に同季子(同二、七生)
は同縣人山口峰治郎に弟を三郎(同三、二生)は
分家せりA八二八(神戸市山本通五ノ七二電元町七二)
參照||子爵西勝男、小島勢三郎の項

小島 長藏

小島印刷社社長
東京府在籍
妻 雅之允 明三、一一生、和歌山、士、小池
男 初 夫 明二七、一〇生
男 露 明三五、一一生、長男初夫妻、東
明三三、七生、慶應義塾大學出身
男 榮 次 慶大經濟學部出身
男 孝 子 明四四、三三、二男榮夫妻、滋賀
川添孝藏長女、佛英和高女出身

君は東京府人吉岡勇平の二男にして慶應三年四月二十
生)は新潟縣人岩崎莊治郎第四郎作に嫁せり(臺北市御
成町二ノ二二)

小島 敏之

住友銀行信備後町支店長
兵庫縣在籍
妻 廣 子 明二七、一一生、養母八重五女
女 俊 子 大二、一一生

君は東京府人奥田格の三男農學博士同順の弟にして明
治十九年八月を以て生れ小島八重子の養子となり大正
二年分れて一家を創立す先是明治四十四年東京高等商
業學校を卒業し住友銀行に入り同行立賣場支店長を經
て現時信備後町支店長たりA七二一(兵庫縣武庫郡精道
村三條小里九二電屋二九〇四)
參照||奥田順の項

小島 友治郎

日本銀行營業局調査役
東京府在籍
妻 千代 女 明二九、二生、兵庫、村上春光四
男 豊 大一一、一一生

君は京都府人小島佐兵衛の七男にして明治十九年十二
月を以て生れ昭和八年分れて一家を創立す大正二年京
都帝國大學法科大學獨法科を卒業し直に日本銀行に入
り審査部調査役門司支店調査役本店検査役及營業局調
査役を経て昭和九年四月松江支店長となり後再び本店
營業局調査役を命ぜられて今日に至る家族は尙二男
茂(六一五、二生)ありA一九二(松江市殿町二八七電松
江八三一)

小島 友七

從七位勳六等、陸軍歩兵中尉、青
森商工會議所議員、津輕銀行、青
森起業、青森鐵道各取締
役酒類雜貨商、青森縣在籍
妻 やさ 衛二女
母 安政元、一一生、青森、西谷伊兵
郎一六、一一生、青森、梅津文四
明四二、七生、長男亡清助妻、青
森、月永長藏孫、弘前高女出身

コ之部 小(島)

日を以て生れ先代ふくの養子となり明治十六年家督を
相続す父勇平は福島縣藤田氏の出幕臣吉岡家に入り
表御座所人として幕府に出仕す後認められて萬延元年
改名長崎大坂の町奉行支配組頭等に歴任布衣の位に進
みしも維新の際主家の爲めに奔走し志を遂げて明治
三年刑死す君は秀英舎に入り新業を研鑽し後獨立し
て印刷業を営む實に本邦紙力印刷及押出チューブ印刷
の嚆矢たり大正八年之を株式組織に改め現に社長と
して社務に携はり本邦印刷界に於ける先驅者として重
きを爲す家族は尙孫昭子(昭六、二生)二男榮次長
女(同男藏(同八、七生、同長男)あり長女ハヤ(明二
五、六生、東京女學館出身)は東京府人森江有三に二女
文子(同三〇、七生、出身同上)は秋田縣人山下太郎
に嫁せりA二九〇〇(東京市芝區芝公園一四號一九電
芝一〇三三)
參照||松本幸一、森江有三の項

小島 長兵衛

正八位、陸軍三等主計、東京府多
額納稅者、尾張屋土地屋敷取締役、
尾張屋社員、計理士、尾張屋、土
地建物管理業、東京府在籍
妻 ハル 明一五、一一生、埼玉、山口萬藏
長女
男 盛 大三八、二生、先々代長兵衛長女
日本橋高女出身

君は東京府人笠木吉兵衛の弟にして明治二十七年六月
十二日を以て生れ大正十二年先代ハルの入夫となり家
督を相続し前名喜四郎を改め名を同六年早稲田大學
商科を卒業し尾張屋屋敷店を經營せしも震災後之を
廢し尾張屋と稱し土地建物管理業を営み傍ら前記各會
社の重役にして東京府多額納稅者を列し計理士たり家
族は尙長女洋子(六一四、六生)二女玲子(昭二、一〇
生)ありA四四四三(東京市日本橋區本町四ノ八ノ一電
濱花二五二八)
參照||濱山佐助の項

小島 常三郎

河市商店、鹽干物商
京都府在籍

君は京都府人小島伊助の二男にして明治十五年八月二
十九日を以て生れ同四十年兄伊之助方より分れて一家
を創立す河市商店と稱し鹽干物商を営む家族は尙庶子
徳子(大九、一一生、生母、橋本あき)同富久子(昭三、
六生、生母、同上)同基子(昭七、二生、生母、同上)
あり妹加代(明二六、三生)は滋賀縣人野口保に嫁せり
A五七一B一一八(京都市下京區朱雀分木町電下七〇
〇一)

小島 貞之丞

網絲商
愛知縣在籍
妻 ふさの 明二四、八生、小島吉五郎長女
男 貞之 明四一、七生

君は岐阜縣人小島安太郎の弟にして明治十三年十月九日
を以て生れ後分れて一家を創立す網絲商を営む家族は
尙六女房子(六一、一一生)二男博二(同四、五生)
三男和明(昭二、二生)孫榮(同九、二生、長男貞之長男)
あり長女婦美(明四四、一一生)は愛知縣人梅村昌三養子
安雄に嫁せりA五三三B七九(名古屋市東區宮町三ノ
六電東一六四五)

小島 龍二

從四位勳三等、臺灣總督府醫學專
門學校教授、東京府在籍
妻 周 明二四、三三、叔父鼎六長女
男 弘 大六、二生

君は東京府士族小島堅吉の長男にして明治十二年八月
三十一日を以て生れ同四十二年叔父鼎六方より分れて
一家を創立す同四十年京都帝國大學醫學部醫學科大學を卒
業し同大學助手臺灣總督府醫學教授兼同府防疫官兼
同府技師に歴任し現に同府醫學專門學校教授たり昭和
七年獨佛塊三ヶ國並に馬來聯邦に出張を命ぜらるる家族
は尙二男毅(六一、一一生)あり妹收(明二三、一一)

小島 龍二

從四位勳三等、臺灣總督府醫學專
門學校教授、東京府在籍
妻 周 明二四、三三、叔父鼎六長女
男 弘 大六、二生

君は東京府士族小島堅吉の長男にして明治十二年八月
三十一日を以て生れ同四十二年叔父鼎六方より分れて
一家を創立す同四十年京都帝國大學醫學部醫學科大學を卒
業し同大學助手臺灣總督府醫學教授兼同府防疫官兼
同府技師に歴任し現に同府醫學專門學校教授たり昭和
七年獨佛塊三ヶ國並に馬來聯邦に出張を命ぜらるる家族
は尙二男毅(六一、一一生)あり妹收(明二三、一一)

小島 豊俊

朝日海上火災保險取締役、神戸
海上運送火災保險取締役
兵庫縣在籍
妻 大 明三九、八生、三和銀行員、慶大
理財科出身
男 豊 明三九、一一生、二男豊夫妻、東京
平野勇造三女
男 正 子 明四〇、四生、神戸海上運送火災
保險會社員、神戸高商出身

君は大阪府人小島與兵衛の長男にして元治元年十一月
三日を以て生れ明治二年分れて一家を創立す現時前記
各會社の重役たり家族は尙孫美代子(昭二、一一生)二
男豊(大長女)同俊夫(同九、三生、三男豊長男)あり長
女タカ(明二四、二生)は兵庫縣人前川文三郎四男久吉
に二女フミ子(同二六、九生)は山口縣人刺賀文太三男
武雄に嫁せりA一〇八一(兵庫縣武庫郡住吉村梅ノ木
八三九電國影三三三〇)
參照||平野勇造の項

小島 虎太郎

家主
大阪府士族
妻 八重子 明三〇、六生、大阪、石田市松長女
男 榮一 大八、八生
女 富子 大五、六生

君は大阪府人丸尾あんの私生子にして明治二十一年八
月二十三日を以て生れ先代榮吉の養子となり大正十二
年家督を相続す家主たり家族は尙二男信二(六一二、二
生)二女正子(同二五、一一生)三女重子(昭五、六生)
ありA四八四(大阪府西成區岸松通一ノ三電天下茶屋
三三三三)

小島 智善

衆議院議員(福島縣選出)、辯護士
福島縣在籍
妻 シヅ 明二八、一〇生、山形、中里正道
叔母、齒科醫
男 明 明四三、一一生
女 隆子 明四二、一〇生

君は福島縣人小島民武の二男にして明治二十年一月を
以て生れ大正三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業
し現時辯護士たり昭和七年郷黨より推されて衆議院議
員に當選し現に立憲政友會所屬たり家族は尙二男吉俊
(六一五、一一生)三男大昭(昭二、七生)三女淑子(同四、
八生)あり二女たみ(大正二、一〇生)は福島縣人藤井正
吉長男武嗣に嫁し弟武敏(明二三、一一生)同妻セン(同
二六、九生、福島、宗像三郎平孫)は其四男二女を伴
ひ分家し同延雄(同二八、四生)は新潟縣人渡部セイの
入夫となり妹チヨ(同三四、七生)は千葉縣人泰野香
吉の養子となれり(福島縣西白河郡白河町)

(※印は姻族關係)

小島直三郎 小島商店代表社員、生絲商
父 傳兵衛 安政五、五生、現戸主
妻 かき 明二七、一、生、愛知、深田金次郎
男 正吉 大、四、九生
女 美喜 大七、一、生

君は滋賀縣人小島五兵衛の三男にして明治十七年十月二十日を生れ同四十二年兄三龜之助方より分れて一家を創立す鐵工業を營む三男明(大、三、九生)は分家せりA七二〇(大阪府此花區西島町二二四ノ二電土佐堀七七二七)

人正田貞一郎四男順四郎に嫁せり(東京市牛込區二丁崎町三三電午込五七七七)
參照II佐々木信綱男爵田宮宗朝永正三妻鹽原又策の項

小島彦三郎 愛知縣額納稅者、糸彦、生商
愛知縣在籍
妻 幸三郎 明二〇、一、生、長女照夫、愛知、後藤源七
女 照 明二、四、生、養子幸三郎長女
孫 美喜子 大、二、二、生、養子幸三郎二女
孫 茂子 大、三、一、二、生、養子幸三郎二女

小島誠 家主
大阪府在籍
母 フク 女 明二、一、生、大阪、三木宗兵衛長
妻 八重 女 明二、一、九生、東京、真田象三二
女 華子 大、九、一、生、東京、立第二女女出身

小島政八 正八位、原町田合同運送社長、小島量爲副社長、瀬谷銀行常務
務取締役、大正運送取締役
妻 マサ 治郎二女
女 サト 明四三、一〇生

小島松五郎 小島屋、覆物商
東京府在籍
妻 セン 女 明二、一、三、生、群馬、武谷文七長
女 喜美 大五、九生

母 コウ 明四、八生、京都、木村加代長女
妻 滋子 明三〇、一、一、生、奈良、油谷豊吉
女 謙 一 大、一、一、二、生

小島亮平 櫻田機械製造所常務取締役兼營業部長、東京府在籍
妻 フサ 明一三、四、生、養父七郎平二女
女 ミツ子 明三八、二、生、養子雅人妻、山口、齋藤清之助二女

小島棟吉 武揚堂、書籍商
東京府在籍
妻 みつ 女 明一六、一、生、愛知、加藤新吉長
男 武夫 明三七、六、生
男 文雄 大、二、九、生
女 八恵子 大七、七、生

小島勇之助 松竹キネマ取締役、香焼コーキ
ス監査役、京都府士族
妻 ちよ 明三三、一、生、宮城、田代進四郎
女 和 明 大七、二、生

小島祿郎 住友銀行櫻橋支店長
埼玉縣在籍
妻 けい 明七、二、生、埼玉、柴田忠明長女
跡見女學校出身
女 ふみ 明三四、一、生、埼玉、石川信二女

小島保二郎 三和銀行岡山支店長
山口縣在籍
父 弘 慶應三、二、生、現戸主

小島亮一 玉川、興服太物商
東京府在籍
君は東京府人先代定吉の長男にして明治四十二年一月二日を生れ大正十二年家督を相続す玉川と稱して興服太物商を營む家族は尙弟正雄(大、二、三、生)同基司(同六、七、生)あり姉澄子(明四一、一、生)は東京府人榮

小島和四郎 川清商店社長、三河セメント、本展酒造各監査役、酒商
愛知縣在籍
妻 壽夫 明三三、七、生、長女壽女夫、愛知
女 壽女 明三六、九、生、養子壽夫妻

小杉 音松 京都府在籍
 妻 はる 女 明二、一、生、京都、田中嘉助長
 男 英一 大二、九生
 君は京都府人小杉清九郎の二男にして明治十九年一月一日を以て生れ同二十三年家督を相続す家主として知らるる家族は尙二男泰造(大六、五生)四男清(昭五、三三)ありA四〇三(京都市中京區高倉通)夷川下體上一四四九

小杉五郎左衛門 北日本産業取締役、中外紡績
 妻 なか 門長女
 男 富太郎 明三六、一、生、滋賀、寺村友左衛門
 女 政次郎 明三七、一〇生
 君は滋賀縣人先代五郎左衛門の長男にして明治三十年十二月十日を以て生れ同三十五年家督を相続し前名政太郎を改め現時北日本産業中外紡績各會社の重役たる傍ら小杉合名會社の代表社員たり家族は尙孫誠市(昭四、六生、長男富太郎長男)あり妹千代(八一、七生)は分家し同(昭二、四、五生)は滋賀縣人西村與兵衛二男淺治郎に嫁せり(居宅)滋賀縣神崎郡北五個莊村大字龍田(店舖)京都市日本橋區堀留町二ノ四體一(遺花一二七)
 參照 西村與兵衛 小杉佐助 小杉佐右衛門の項

小杉 武司 正四位勳二等、陸軍中將
 妻 タニ 明二五、二、生、三重、士、河島嘉藏長女、英和女學校出身
 男 武彦 大二、一、生、慶大豫科在學
 女 翠 明四四、七、生
 女 茂 大五、六、生
 小杉家は近江源氏佐々木氏の後裔にして後越後に移り上杉家に仕へ會津を経て米澤に居住し以て維新に至る君は士族小杉忠誠の長男にして明治十三年三月六日を以て生れ同三十四年陸軍士官學校を卒業し翌年歩兵少尉に任じ同四十二年陸軍大學校を卒業し大正九年より同十年に互り歐米各國を遊歴し昭和三年陸軍少將に累進歩兵第十九旅團長陸軍歩兵學校附屬臺灣軍謀謀長由良要塞司令官等に歴補し同七年中將に進み同八年第十四師留守司令官となり同九年師團凱旋と共に退職す家族は尙四女登(八一、四生)二男喬彦(同二四、九生)五女長(昭二、九生)あり(東京市世田谷區東玉川町三六〇九)

小杉 佐七郎 英大少卿商
 妻 まき 文久三、一、生、滋賀、渡邊長兵衛
 男 恒治 大一一、六、生
 女 八重 大五、五、生
 君は大府人先代佐七郎の長男にして明治二十年八月一日を以て生れ大正十四年家督を相続し前名榮一を改め現時英大少卿商を営み堅實の商法に依りて愈々産を固め斯界に名あり家族は尙二男桂二(大一一、六生)三男英夫(同三三、九生)四女實子(同二五、四生)五女昭子(昭三、六生)あり弟磯太郎(明二五、四生)同妻輝英(同二八、三三)京都、梅林憲長女)は一子を伴ひ分家せりA二七九六二〇(大阪府東區安土町三ノ二體本局一八二三)
 參照 渡邊長兵衛 吉田金助の項

小杉 正二 小杉商店代表取締役、富山工船
 妻 しむ 女 明四、三、生、富山、南長右衛門二
 男 正幸 大五、一、生、早大専門部商科在學
 君は富山縣人小杉政吉の長男にして明治二十一年八月一日を以て生れ大正十二年家督を相続し海産物肥料商を営み現に前記各會社の重役たり家族は尙二男清次(大七、一〇生)長女節子(同二一、七生)妹せつ(明四四、四生)あり弟文造(同二九、一、生)は同妻す(同三四、一、生)富山、南伊左衛門孫)を同榮三(同三三、一、生)は同妻みさ(同四二、三、生)富山、菅谷清一郎(三女)及其一女を叔母みよ(同二五、一、生)は其二子を叔父清太郎(同二九、三、生)は同妻トメ(同三三、七、生)北海、山崎長太郎(三、生)を各伴ひ分家し妹みさを(同二四、一、生)は富山縣人堀源助二男健次に嫁せり(高岡市市川原町二九電六一七)
 參照 小杉佐右衛門 小杉五郎左衛門の項

小杉 仁兵衛 洋反物商
 妻 さの 明一四、一、生、養父善兵衛二女
 養子 榮之助 明二八、六、生、長女しげ夫、滋賀
 女 しげ 明三二、一、二、生、養子榮之助妻
 女 貞 大七、八、生
 女 恒子 大七、九、生
 君は滋賀縣人廣田七平の二男にして明治三年九月を以て生れ後先代善兵衛の養子となり同十六年家督を相続す洋反物商を営む家族は尙孫貞三(大一一、四、八、生)養子榮之助(長男)養弟善太郎(明一六、一、生)同妻美代(同二六〇九)

小杉 未醒 養家、春陽會代表者
 妻 ハル 明二〇、六、生、相良様吉長女
 男 百合 明四三、一、生
 女 一雄 明四三、一、生
 君は栃木縣人小杉富三郎の四男にして明治十四年十二月を以て生れ大正三年兄彦治方より分れて一家を創立す畫道を五百城文哉に學び日本畫家及び洋畫家として自由奔放の筆致を以て知られ春陽會代表者たり趣味として旅行庭球を好み又短歌を能くす家族は尙二男二郎(大四、三、生)三男三郎(昭二、四、生)あり(東京市澁野川區田端一五五電小石川六八九八)

小杉 善之介 タオル綿布商
 妻 はる 明二二、四、生、滋賀、森喜藏姉
 男 正一 大二、五、生
 君は滋賀縣人小杉孝太郎の弟にして明治十九年五月八日を以て生れ同三十一年家督を相続すタオル綿布商を営む家族は尙二男仁介(大四、一、生)三男善十郎(同三三、二、生)あり長女さだ子(同五、一、生)は滋賀縣人小杉雅七の死跡を継げりA一三二四B三七三(大阪府東區本町三ノ二八ノ一電本町九九四)

小杉 恭太郎 江東製氷、小菅商店各務社長、大
 妻 コスエ 明四、一〇、生、大阪、白杵智海妹
 男 一郎 大二、二、生
 君は大府人加藤市蔵の長男にして明治六年四月九日を以て生れ後母たかゝの死跡を相続す大阪屋と稱し藤製品製造販賣業を営み江東製氷會社社長の前記會社の重役たりA三一(東京市日本橋區横山町三ノ一二電遺花四九二)

小菅 金造 東京海上火災保險取締役、大
 妻 榮子 明二二、一、二、生、東京、士、向田
 男 太郎 大七、一、生
 女 政 大七、一、生、神戸女學院出身
 君は舊幕臣小菅榮五郎の二男にして明治十三年十一月二十一日を以て生れ昭和七年本家二男幸二郎の後を承け家督を相続す明治三十六年東京高等商業學校を卒業し直ちに東京海上火災保險會社に入り現時同社取締役兼大阪神戸各支店長にして前記會社の重役たり家族は尙三男鐵三郎(八一、一〇、生)あり長女濱子(明四二、七、生)神戸女學院出身)は東京府人村瀬義一弟逸三に二女俊(明四二、七、生)出身校同上)は兵庫縣人山口豊二長男總男に嫁せりA三七六六(神戸市灘區青谷三ノ六〇二電葎合六二四)
 參照 村瀬義一の項

小菅 丹治 伊勢丹取締役、小菅代表社員
 妻 めた 元治元、一、二、生、東京、金井又二
 君は東京府人先代伊勢丹の長男にして文久三年一月二日を以て生れ明治十六年家督を相続す伊勢丹と稱し菓子商を営む家族は尙孫包治(大五、八、生)長男金之助

君は千葉縣人小高菊治郎の長男にして明治二十三年十一月を以て生る...

小瀧喜七郎 正八位勳六等、岡崎市長、愛知縣在籍

君は愛知縣人にして明治五年五月十八日を以て生れ同三十二年土族小瀧銀治方より分れて一家を創立す...

小瀧四郎五郎 大泊商工會議所副會頭、米穀雜貨商、榑太在籍

君は大阪府人小瀧可逸の三男にして明治二十五年十二月を以て生れ...

小瀧無事郎 前日本陶器製造監査役、愛知縣在籍

君は鳥取縣人上山昇の弟にして明治十八年二月二十七日を以て生れ...

小谷 信行 正七位勳六等、鳥取縣會議員、鳥取市會議員、鳥取縣在籍

君は鳥取縣人小玉久治の長男にして明治十七年一月十日を以て生れ...

小玉 源一 太平商會、日加信託各取取締役、田村商會、晚香坡支店長、兵庫縣在籍

君は京都府人河原崎利兵衛の二男にして文久二年四月十六日を以て生れ...

小玉平太郎 正五位勳四等、判事、榑太地方裁判所長、岡山縣在籍

君は京都府人河原崎利兵衛の二男にして文久二年四月十六日を以て生れ...

て日本陶器會社監査役たりしが退きて現時閑地に在り讀書を趣味とす...

小竹市三郎 麻糸麻繩商、東京府在籍

君は新潟縣人小竹真次郎の長男にして慶應元年二月二日を以て生れ...

小竹 茂 日本興業銀行理事、東京府在籍

君は愛媛縣土族小竹重之助の二男にして明治十五年十月二十二日を以て生れ...

小竹 一郎 事業之日本社社長、萬里閣業務執行員、圖書出版、新潟縣在籍

君は岡山縣人小玉常吉の長男にして明治十年五月を以て生る...

小塚 貞義 前金澤電氣軌道社長、東京府在籍

君は富山縣人小塚貞徳の二男にして慶應元年九月四日を以て生れ...

小妻理之助 京都府多額納稅者、小妻宅代表社員、油商、京都府在籍

君は京都府人河原崎利兵衛の二男にして文久二年四月十六日を以て生れ...

小寺 敬一 兵庫縣多額納稅者、關西學院大學專門部高等商業學部教授

君は石川縣土族小寺宋休の二男にして元治元年三月を以て生れ...

小寺 敬孝 中央運送社社長、日本硬質陶器監査役、東京府在籍

時同社長にして大衆俱樂部實話物を發行し傍ら圖書出版業を營み...

小立鉦四郎 東京府多額納稅者、南江堂書店社長、日本書籍監査役、書籍出版業、東京府土族

君は神奈川縣人立田長藏の三男にして明治十五年十一月十八日を以て生れ...

小館保治郎 小館木材、青森造船鐵工所各社長、青森縣在籍

君は青森縣人小館善兵衛の二男にして明治十年七月を以て生れ...

小寺喜之介 大阪府多額納稅者、榮軒、すし商、大阪府在籍

君は兵庫縣人林榮吉の三男にして明治二十三年十一月を以て生れ...

小寺 敬一 兵庫縣多額納稅者、關西學院大學專門部高等商業學部教授

君は兵庫縣土族小寺成藏の長男にして明治二十七年六月二十九日を以て生れ...

小寺 敬一 兵庫縣多額納稅者、關西學院大學專門部高等商業學部教授

君は石川縣土族小寺宋休の二男にして元治元年三月を以て生れ...

小寺 敬孝 中央運送社社長、日本硬質陶器監査役、東京府在籍

君は石川縣土族小寺宋休の二男にして元治元年三月を以て生れ...

小寺 敬孝 中央運送社社長、日本硬質陶器監査役、東京府在籍

會社に入り大正八年退社後前田侯爵家財務部理事に就職し同十四年同家を退き現時中央運送會社社長にして日本銀行附屬會社監査役を兼ねるに金澤粉糖金澤電氣軌道魚介養殖汽車製造各會社の重役たりし事あり長女花(明二五、九生)は大阪府人妹尾喜代次に四女貞(同三八、一〇生)は醫學博士前田正文に嫁し二男二郎(同三三、一〇生)は外祖母久本シゲの養子となれり(東京市淀橋區西大久保一ノ四一〇電話四二九七三)

參照II妹尾喜代次の項

小寺 謙吉

從七位勳三等、陸軍騎兵中尉、兵庫縣多額納稅者、私立三田中學校理事、地主、兵庫縣土族

妻 貞子 明一九、七生、子爵中幸田武信長女

女 泰子 明四一、一〇生

小寺 朔次

タカ電池製作所、乾電池製造業、兵庫縣在籍

妻 よしの 明二二、四生、長野、濱村吉姉

男 誠一 明一五、八生

女 幸 明一七、二生

小寺 西二

慶應義塾大學普通部教員、兵庫縣在籍

妻 貞子 明三四、六生、兵庫、範多龍太郎長女、一五、四生

小寺 源吾

日華産業代表取締役、大日本紡績、日本レイコ各取締役、大阪商事(監査役)、兵庫縣在籍

妻 ひさ 明一四、一二生、兵庫、士、小寺敬一姉

男 大次郎 明四〇、一〇生、京大經濟學部出身

小寺 新一

臺灣新殖製茶、基隆炭礦各取締役、臺灣倉庫各監査役、東京府土族

妻 敏一 明一四、一〇生、岡山、佐々木良一妹

男 敏一 明一四、一〇生

小寺 房治郎

從三位勳二等、工學博士、工業試驗所技師、特許局技師、東京工業試驗所長、大阪府在籍

妻 正子 明一〇、八生、大阪、清水梅太郎長女、一五、七生、日本銀行員、經濟學士

男 昌 明四四、一二生、長男、勝昌、山口、田中清次郎長女

女 康 明四四、一〇生、京大帝國工業化學部研究員、理學士

小寺 又吉

正八位、陸軍工兵少尉、警口小寺製油所主、兵庫縣在籍

妻 繁子 明二七、四生、醫學博士中濱東一郎三女、醫學博士中濱東一君は舊三田藩士小寺泰次郎の四男にして小寺謙吉同壯吉は其兄なり明治十七年三月十五日を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す一高を以て同四十四年東京帝國大學工學部機械工學科を卒業し直ちに同國に留學する事滿三年歐洲大戦當時英國瑞典等に滞在する事一年半歸朝後滿洲小寺洋行の事業に關係する事十年小寺洋行副社長に神戶に小寺貿易會社を興し海外の貿易に従事し現時小寺洋行大連製油所主にして又警口小寺製油會社重役たり家族は尙二女敏子(大九、一〇生)ありA八一七(神戸市神戶區山本町二ノ二二二三宮一六六四)

參照II小寺謙吉、中濱東一郎、高高山正雄、長谷川久一、土方繁、渡邊祿太郎の項

小永井 熊藏

地主、東京府在籍

妻 葉子 明一一、五生、東京、矢島吉五郎長女

男 正吉 明三二、一〇生

女 孝太郎 明一六、三〇生

男 孝太郎 明一六、三〇生

女 鐵次郎 明一六、三〇生

小西 伊兵衛

藥種商、大阪府在籍

妻 信一 昭四、二〇生

男 信一 昭四、二〇生

小寺 元次郎

銅匠、地金商、大阪府在籍

妻 富子 明三六、二〇生、大阪、藤原伊太郎長女

男 純雄 大一一、二〇生

小浪 萬藏

金融業、東京府在籍

妻 みや 明六、一二生、東京、北島市五郎長女

男 源太郎 明三三、四生、長男、源太郎妻、崎玉、神谷彌平妹

女 敏子 明四三、七生

小西 梅太郎

日本帽子、昭和製糖各監査役、兵庫縣在籍

妻 ちよ 明一、二〇生、大阪、原耕藏姉

男 嘉雄 明三四、一〇生、日立製作所社員、工學士

女 千代 明三九、一〇生、長男、嘉雄妻、理學博士大幸男吉三女

男 政徳 明三八、一〇生、川西航空機會社社員、工學士

女 悦子 明四四、五生、橋本吉彦姉

男 尙雄 明四三、三〇生、大阪府農務課勤務

小寺 謙吉

從七位勳三等、陸軍騎兵中尉、兵庫縣多額納稅者、私立三田中學校理事、地主、兵庫縣土族

妻 貞子 明一九、七生、子爵中幸田武信長女

女 泰子 明四一、一〇生

小寺 朔次

タカ電池製作所、乾電池製造業、兵庫縣在籍

妻 よしの 明二二、四生、長野、濱村吉姉

男 誠一 明一五、八生

女 幸 明一七、二生

小寺 西二

慶應義塾大學普通部教員、兵庫縣在籍

妻 貞子 明三四、六生、兵庫、範多龍太郎長女、一五、四生

小寺 源吾

日華産業代表取締役、大日本紡績、日本レイコ各取締役、大阪商事(監査役)、兵庫縣在籍

妻 ひさ 明一四、一二生、兵庫、士、小寺敬一姉

男 大次郎 明四〇、一〇生、京大經濟學部出身

小寺 新一

臺灣新殖製茶、基隆炭礦各取締役、臺灣倉庫各監査役、東京府土族

妻 敏一 明一四、一〇生、岡山、佐々木良一妹

男 敏一 明一四、一〇生

小寺 房治郎

從三位勳二等、工學博士、工業試驗所技師、特許局技師、東京工業試驗所長、大阪府在籍

妻 正子 明一〇、八生、大阪、清水梅太郎長女、一五、七生、日本銀行員、經濟學士

男 昌 明四四、一二生、長男、勝昌、山口、田中清次郎長女

女 康 明四四、一〇生、京大帝國工業化學部研究員、理學士

小寺 又吉

正八位、陸軍工兵少尉、警口小寺製油所主、兵庫縣在籍

妻 繁子 明二七、四生、醫學博士中濱東一郎三女、醫學博士中濱東一君は舊三田藩士小寺泰次郎の四男にして小寺謙吉同壯吉は其兄なり明治十七年三月十五日を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す一高を以て同四十四年東京帝國大學工學部機械工學科を卒業し直ちに同國に留學する事滿三年歐洲大戦當時英國瑞典等に滞在する事一年半歸朝後滿洲小寺洋行の事業に關係する事十年小寺洋行副社長に神戶に小寺貿易會社を興し海外の貿易に従事し現時小寺洋行大連製油所主にして又警口小寺製油會社重役たり家族は尙二女敏子(大九、一〇生)ありA八一七(神戸市神戶區山本町二ノ二二二三宮一六六四)

參照II小寺謙吉、中濱東一郎、高高山正雄、長谷川久一、土方繁、渡邊祿太郎の項

小永井 熊藏

地主、東京府在籍

妻 葉子 明一一、五生、東京、矢島吉五郎長女

男 正吉 明三二、一〇生

女 孝太郎 明一六、三〇生

男 孝太郎 明一六、三〇生

女 鐵次郎 明一六、三〇生

小西 伊兵衛

藥種商、大阪府在籍

妻 信一 昭四、二〇生

男 信一 昭四、二〇生

小寺 元次郎

銅匠、地金商、大阪府在籍

妻 富子 明三六、二〇生、大阪、藤原伊太郎長女

男 純雄 大一一、二〇生

小浪 萬藏

金融業、東京府在籍

妻 みや 明六、一二生、東京、北島市五郎長女

男 源太郎 明三三、四生、長男、源太郎妻、崎玉、神谷彌平妹

女 敏子 明四三、七生

小西 梅太郎

日本帽子、昭和製糖各監査役、兵庫縣在籍

妻 ちよ 明一、二〇生、大阪、原耕藏姉

男 嘉雄 明三四、一〇生、日立製作所社員、工學士

女 千代 明三九、一〇生、長男、嘉雄妻、理學博士大幸男吉三女

男 政徳 明三八、一〇生、川西航空機會社社員、工學士

女 悦子 明四四、五生、橋本吉彦姉

男 尙雄 明四三、三〇生、大阪府農務課勤務

四月を以て生れ昭和五年家督を相続す...

小西嘉次郎

大阪府在籍 妻トヨ 明一三、一、小西要七長女...

小西和

妻 治子 明一五、一、一、海軍主計中將牧...

小西勝一

朝日新聞社事務取締役兼大阪朝日...

小西喜兵衛

小西安兵衛商店社長、日本フエ...

小西儀助

小西儀、小西儀助商店、大日本...

小西儀助

小西儀、小西儀助商店、大日本...

小西儀助

小西儀、小西儀助商店、大日本...

小西儀助

小西儀、小西儀助商店、大日本...

小西儀助

小西儀、小西儀助商店、大日本...

小西儀助

小西儀、小西儀助商店、大日本...

小西儀助

小西儀、小西儀助商店、大日本...

小西儀助

小西儀、小西儀助商店、大日本...

妻 コマ 明三、一、一、大阪、佐々木幸助...

小西要

正五位勲五等、盛岡高等農林學校...

小西龜吉

高松木材材取締役 妻 善太郎 明二五、五、生...

小西喜三郎

小西商店取締役、棉花商 妻 菊太郎 明三九、六、生...

小西久兵衛

大阪府多額納税者、次郎橋本舗、...

小西孝治

小西光澤堂本店社長、時計並眼鏡...

小西佐次郎

京都府多額納税者、關東織物商、...

コ之部 小(長、島、華、早、林)

(※印は姻族關係)

コ四〇

小長谷新太郎 日本曹達糖取締役兼支配人、葡萄酒山縣取替役、硬化油販賣監督、静岡縣在籍

小早川眞登 正五位、陸軍歩兵少尉、長野縣書所顧問、廣島縣在籍、長野縣商工會議所顧問、廣島縣在籍

小早川常雄 京三製作所事務取締役、白石工業各務取締役、廣島縣在籍

小島元三郎 日和商會事務局長、兵庫縣在籍

小早川四郎 正三位勳二等、男爵、宮中顧問官、毛利公爵家一門

小早川彦一 朝日ビルディング取締役兼支配人、大阪府在籍

小華和忠士 正五位勳四等、獸醫學博士、北海道帝國大學教授、北海道在籍

小林愛三 大阪變壓器事務取締役、西島變壓器取締役、大阪府在籍

小林宇之吉 地主、東京府在籍

小林朝之助 小間物商、大阪府在籍

小林市松 大黒屋、菓子商、東京府在籍

小林卯三郎 京都土地興業取締役、京都府在籍

小林亥三郎 醬油商、東京府在籍

小林巖 正四位勳三等、理學博士、東北帝國大學教授、理學部長、東京府在籍

小林宇之吉 地主、東京府在籍

小林一三 東京電燈社長、阪神急行電鐵取締役、飯山、山陽中央電氣、日黒浦田電鐵、東京横濱電氣各務

小林巖 正四位勳三等、理學博士、東北帝國大學教授、理學部長、東京府在籍

小林宇之吉 地主、東京府在籍

コ之部 小(林)

(※印は姻族關係)

コ四一

小林一三 東京電燈社長、阪神急行電鐵取締役、飯山、山陽中央電氣、日黒浦田電鐵、東京横濱電氣各務

小林巖 正四位勳三等、理學博士、東北帝國大學教授、理學部長、東京府在籍

小林宇之吉 地主、東京府在籍

君は東京府人小林助左衛門の長男にして文久二年十二月十三日を以て生れ明治十二年家督を相続す地主たり...

小林 采男

君は奈良縣人小林藤右衛門の長男にして明治二十七年一月を以て生れ昭和四年家督を相続す大正八年東京帝國大學法政科を卒業し...

君は東京府人小林忠兵衛の長男にして明治二十七年四月二十二日を以て生れ同三十九年家督を相続す地主たり...

小林 英

君は東京府人小林勝四郎の長男にして明治三十八年八月三十日を以て生れ昭和八年伯父彌之助の跡を継ぎ家督を相続す...

君は東京府人小林勝四郎の長男にして明治三十八年八月三十日を以て生れ昭和八年伯父彌之助の跡を継ぎ家督を相続す...

小林 盈一

君は東京府人小林勝四郎の長男にして明治三十八年八月三十日を以て生れ昭和八年伯父彌之助の跡を継ぎ家督を相続す...

君は東京府人小林勝四郎の長男にして明治三十八年八月三十日を以て生れ昭和八年伯父彌之助の跡を継ぎ家督を相続す...

小林 勝太郎

君は東京府人小林勝四郎の長男にして明治三十八年八月三十日を以て生れ昭和八年伯父彌之助の跡を継ぎ家督を相続す...

小林 錡

君は愛知縣人小林秀吉の二男にして明治二十一年三月三日を以て生れ大正二年兄茂方より分れて一家を創立す...

小林 鎌太郎

君は東京府人小林六三郎の二男にして明治八年三月三日を以て生れ同二十三年家督を相続す東京府人製造會社取締役たり...

君は東京府人小林六三郎の二男にして明治八年三月三日を以て生れ同二十三年家督を相続す東京府人製造會社取締役たり...

君は山梨縣人小林五右衛門の二男にして明治十一年三月を以て生れ同三十八年先代はつよの入夫となり家督を相続す...

小林 榮次郎

君は福岡縣人小林永三郎の二男にして明治十五年二月を以て生れ大正七年兄武一郎より分れて一家を創立す...

君は長野縣人小林吉成の長男にして明治三十七年三月を以て生れ昭和七年家督を相続す同六年東京帝國大學經濟學部を卒業し...

小林 營篤

君は長野縣人小林吉成の長男にして明治三十七年三月を以て生れ昭和七年家督を相続す同六年東京帝國大學經濟學部を卒業し...

君は長野縣人小林吉成の長男にして明治三十七年三月を以て生れ昭和七年家督を相続す同六年東京帝國大學經濟學部を卒業し...

小林 龜治郎

君は東京府人小林吉郎の長男にして明治十二年一月三日を以て生れ同四十二年家督を相続す祖業を承けて土地家屋の經營に當り...

小林 龜太郎

君は兵庫縣人先代忠兵衛の長男にして慶應元年二月十一日を以て生れ明治十七年家督を相続す鮎の茶屋と稱し料理業を營む...

小林 完一

君は山梨縣人小林彦太郎の長男にして明治十一年九月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治三十一年慶應義塾高等科を卒業し...

小林 喜七郎

君は新潟縣人小林富次郎の長男にして明治三十二年十月二十六日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す資産家たり...

小林 嘉平治

君は三重縣人山川眞源の二男にして明治九年一月を以て生れ後先代嘉平治の養子となり同四十四年家督を相続す...

小林 海音

君は滋賀縣人山本藤右衛門の長男にして明治十五年十月を以て生れ後先代藤右衛門の養子となり同四十四年家督を相続す...

小林 角太郎

君は長野縣人にして明治十七年六月二十一日を以て生れ大正十二年家督を相続す...

小林 米子

君は山梨縣人小林彦太郎の長男にして明治十一年九月を以て生れ大正十三年家督を相続す...

小林 完三

君は兵庫縣人小林文藏の三男にして明治二十四年十月二十六日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す資産家たり...

小林 喜一

君は新潟縣人小林富次郎の長男にして明治三十二年十月二十六日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す資産家たり...

小林 喜七郎

君は新潟縣人小林富次郎の長男にして明治三十二年十月二十六日を以て生れ大正五年分れて一家を創立す資産家たり...

萬喜 明一五、二生、鳥取、士、安田二郎
 正夫 明三五、一生、從七位、海軍少將
 初子 明四〇、一生、神奈川、士、古屋道太郎長女、實踐女學校專門部出身
 英夫 明四〇、一生、正七位、海軍主計大尉、海軍經理學校出身、海軍主計
 多喜 明四四、四生、神奈川、士、徳田壽太郎長女、實踐女學校出身
 輝夫 明四一、一生、東大醫學部醫學科在學

君は鳥取縣士族小林哲夫の長男にして明治五年三月を以て生れ同二十六年家督を相続す凡に海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ累進して海軍中將に陞る其間新高艦長臨時青島要港部大港要港部長出雲艦長舞鶴鎮守府參謀長第三水雷戰隊司令官佐世保鎮守府參謀長第一遣外艦隊司令官等に歴補す家族は尙孫喜子(昭七、九生、二男英夫長女)あり長女登喜(昭三、一、一生、府立第三高女出身)は鳥取縣人海軍少佐北浦豊男に嫁せり(東京市澁谷區宮下町一)

小林 絹治 衆議院議員(兵庫縣選出)
 兵太郎 安政元、八生、現戶主
 慶應元、一生、兵庫、堀内彦二郎
 明二七、一生、兵庫、福岡清次
 昭三、一生
 昭四、一生

君は兵庫縣人小林兵太郎の二男にして明治二十一年二月二十日を以て生る米國カリフォルニア大學政治科同大學院法科を卒業し米國法學士の學位を受く後中央新聞主筆編輯長となり辭して滿鐵會社に入社し秘書役參事兼支店長本社庶務課長となり又瑞西國シムネーラに於て開催の國際聯盟總會臨時會議に於ける帝國代表者團員候補昭和七年兵庫縣より選ばれ衆議院議員に當選し現に立憲政友會に屬す家族は尙三女メリ子(大九、一〇生)四女エミ子(同二二、二生)五女ヘレン(同三一、一〇生)六女フミ子(同二五、六生)二男正己(昭一、四生)七女愛子(同五、三生)三男萬治(同六、三

小林 健次郎 藥種商
 明七、一〇生、岐阜、後藤貞治妹
 賀、眞島廣吉弟
 明三三、七生、養子米作妻
 明一七、七生、神奈川、木村八五
 明三二、九生、北海道、鈴木幾太

君は福井縣人小林善右衛門の二男にして明治六年九月七日を以て生れ同三十五年兄善右衛門方より分れて一家を創立す藥種商を營む家族は尙孫靜子(大一一、一〇生、養子米作長女)同善彦(昭二、一〇生、同長男)同米治(同六、六生、同二男)あり(東京市日本橋區本町四ノ三電日本橋一七九六)

小林 賢藏 從五位勳五等、海軍教授、海軍兵學校教官、福島縣在籍
 天保一三、三三、現戶主
 明二一、四生、福島、吉川キツ姉
 明一五、一〇生

君は福島縣人小林吉五郎の長男にして明治十九年三月を以て生る大正四年帝國大學理科大學理論物理学科を卒業し同年海軍教授に任じ海軍兵學校教官に補せられ現に其任に在り(練習艦隊司令官附海軍技術師を兼ね家族は尙長女惠子(大九、五生、弟川キツ妹)及其三子あり弟善右衛門(同二五、九生)は福島縣人成田岸太二男岸八の養子となり姉トヨ(同二四、二生)は同縣人小沼磯平に嫁せり(廣島縣安藝郡江田島村海軍兵學校官舎)

小林 權七 資産家
 明元、九生、東京、宇田川吉平妹
 明三六、九生、東京、雨宮久太郎長女
 昭三、一〇生

君は東京府人先代權七の二男にして明治三十三年十二月一日を以て生れ大正九年家督を相続し前名眞二を改め襲名す資産家たり家族は尙二女利恵子(大一一、九生)あり弟昭八(昭三八、一〇生)同妻きみ(同四〇、九生、東京、雨宮久太郎二女)及其一子に共に分家し姉つね(同二三、七生)は東京府人木久兵衛に嫁せり(二四、五二)東京市淺草區諏訪町一電淺草八八一

小林 次郎 從五位勳五等、貴族院書記官兼内務事務官、貴族院庶務課長
 慶應元、三三、現戶主
 萬延元、二生、長野、石井廣吉
 明三〇、一二生、東京、菊岡吉太

君は長野縣人小林利和の二男にして明治二十四年八月を以て生る大正五年文官高等試験に合格し同六年東京帝國大學法科大學を卒業し司法官試補となり次で神繩縣警視廳理事官貴族院守衛長兼貴族院書記官農商務省記官等に歴任し大正十年歐米に出張を命ぜらる同九年十一月以來貴族院事務局速記課長たりしが昭和六年庶務課長に轉じ現時前記の官職に在り家族は尙二男庸二(大一一、〇三、三男保民(同二〇、三三)長女美津子(昭二、二生)あり弟三郎(昭二六、一〇生)は分家せり(東京市花原區小山町四九五電高輪七三〇七)

小林 幸太郎 蜂須賀侯爵家々令
 明九、三三、千葉、大久保水五郎長女
 明二五、九生、長女政子夫、埼玉
 芳野市五郎二男

君は京都府人小林幸三郎の二男にして明治二十二年六月二十日を以て生れ大正五年兄孝太郎方より分れて一家を創立す義に東洋棉花會社取締役たり家族は尙二男孝次(大一一、四、八生)あり(八四七)京都市左京區聖護院月頓美町一七電上一六一六)

小林 作五郎 福岡縣多額納稅者、福岡縣醸造試驗所、筑前宮鐵道各種社長、小林本店代表社員、酒造業
 安政六、一生、福岡、士、永松實之三女

君は福岡縣人小林作五郎の二男にして安政三年四月七日を以て生れ明治四年家督を相続す酒造業を營む福岡縣多額納稅者にして直接國稅三千八百六十圓を納め前記各會社の重役たり家族は尙孫幸子(昭二、七生、二男啓邦長女)あり二女サダ(昭二七、二生)は福岡縣人堀三太郎長男寛平に三女シカ(同三一、一〇生)は長崎縣人大池源二に妹アサ(文久元、四生)は福岡縣人田中猪三吉に嫁し孫道治(大四、一〇生、二男啓邦長男)は同縣人小林の養子となれり(福岡縣糟屋郡宇美町四〇七七)參照三太郎察長野友傳の項

小林 紫朗 從五位勳六等、鐵道技師、建設局計畫課勤務、神奈川縣士族
 明二、四生、現戶主
 明一七、七生、神奈川、木村八五
 明三二、九生、北海道、鈴木幾太

君は東京府人小倉憲次郎の弟にして明治二十九年三月を以て生れ大正七年小島林陽太郎の養子となる同八年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し直に鐵道院に入り雇技師を経て同十年鐵道技師に任じ東京建設事務所勤務を命ぜらる現時建設局計畫課勤務たり昭和三年在外研究員を命ぜられ札幌市に滞在同五年マドリッドに於て開催の國際鐵道會議協同會第十一回會議に代表として參列被仰付家族は尙五男稔(昭四、一〇生)あり(東京市大森區馬込町東一ノ一〇八四)

小林 茂紀 地主
 長野縣在籍
 明三八、八生、長男信雄妻、長野
 明三三、一〇生

君は東京府人小林傳次郎の弟にして明治三十三年三月二十四日を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す地主として知らる(大六九〇)東京市澁谷區榮通二ノ六電番山八三九一)參照三太郎傳次郎の項

小林 四郎 正五位勳五等、判事、東京控訴院部長、佐賀縣在籍
 安政四、三三、現戶主
 文久元、八生、福岡、士、松室農吉長女
 明三六、一二生、福岡、高木陸雄

君は佐賀縣人小林三郎の四男にして明治二十三年八月を以て生れ大正六年叔父芳郎の養子となる同四年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し檢事に任じ東京地方兼同區裁判所檢事に補せられ尋で判事に轉じ東京地方兼同區裁判所檢事を經て同十三年東京地方裁判所部長に補任せられ現時東京控訴院部長たり茲に陪審制度視察のため歐米に出張を命ぜらる其間巴里に於ける國際航空私法會議に帝國委員として參列す家族は尙二男庸二(昭一四、八生)三男芳彦(昭二、一〇生)あり(東京市杉並區中道町一三電萩窪三七一六)

小林 治助 小林登代表社員、製紙原料商
 大阪府在籍
 大正三、三三、六月十七

君は大阪府人小林鹿藏の長男にして大正三年六月十七

小林 俊次郎 正四位勳三等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務
 兵庫縣士族
 明二六、一〇生、高知、士、森春吉二女

君は兵庫縣士族故工學博士小林泰藏の弟にして明治十

二年九月を以て生る同三十八年東京帝國大學工科大学機械工學科船舶工學科を卒業三隻造船所に入り同四十四年九州帝國大學工科大学講師となり翌年同助教に任じ同時に機械工學研究の爲め獨逸米各國に留學を命ぜらる大正四年同大學教授に任ぜられ同六年工學博士の學位を受く昭和三年機械工業視察の爲歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙二男俊彌(大九、二生)亡兄泰藏(同三七、一生、現戸主)及其妹あり姉カツ(同八、一生)は東京府人松本順次郎に嫁信(同四二、八生、亡兄泰藏二女)は同府人松井義徳に嫁せり(福岡市藥院出口小森町一五電三九〇)

小林 淳二 大阪府在籍
 祖父 みね 安政四、一〇生、大阪、小林治助
 母 やま 明二五、一生、大阪、小林鹿藏長

小林 順一郎 正五位勳四等功五級、砲兵大佐
 東京府在籍
 妻 ミミ子 明二三、八生、佛國、フエルトラ
 テンス三女

小林 正一郎 日本銀行松本支店長
 群馬縣在籍
 父 新吉 文久三、一生、群馬、土、佐藤六
 平三男、現戸主

小林 順一郎 正五位勳四等功五級、砲兵大佐
 東京府在籍
 妻 ミミ子 明二三、八生、佛國、フエルトラ
 テンス三女

君は東京府人小林保四郎の長男にして明治十三年一月三日を以て生れ同三十五年先代ツネの後を承け家督を相續す夙に軍籍に入り大正十三年陸軍砲兵大佐に陞任し豫備役に編入せらる家族は尙二女あり(大一一、二生)庶子順子(昭六、一〇生、生母、東京、市川文子)同芳子(同八、一〇生、生母同上)ありA四六六(東京市世田谷區深澤町二ノ一二五九電世田谷三二八〇)

君は群馬縣人小林新吉の長男にして明治二十四年三月を以て生る大正五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し直に日本銀行に入り大正十二年倫敦勤務を命ぜられ同十五年歸朝調査局調査役名古屋支店調査役支店長を経て現時同行松本支店長たり家族は尙長女多恵子(大一一、一〇生)二女喜久子(昭四、五生)弟金次郎(明二八、四生)同妻きせ(同三二、一〇生、群馬、白田多賀作姉)及其子女の外弟房三郎(同三二、一〇生)同妻キタ(同三三、七生、栃木、中野金太郎姉あり)妹せん(同二六、五生)は群馬縣人山田純二に同(同三〇、一〇生)は同縣人吉川寛に同(同三五、一〇生)は同縣人牧野象五郎に同(同三八、一〇生)は同縣人富所彌三郎に嫁せり(松本市片端町一七四電九二八)

小林 正藏 正五位勳四等、特許局技師、化學氣部化學課長、東京府士族
 妻 田鶴 明一九、九生、富山、井内外二姉
 養子 彦五郎 明三〇、三生、父正藏五男
 婦 文子 明四二、八生、養子彦五郎妻、富山、井内齊次郎二女

小林 庄次郎 泉屋、陶器商
 大阪府在籍
 庶子 順藏 明四三、三生、生母、京都、山口
 婦 操 明四三、二生、庶子順藏妻、大阪山下仁兵衛孫

小林 正藏 正五位勳四等、特許局技師、化學氣部化學課長、東京府士族
 妻 田鶴 明一九、九生、富山、井内外二姉
 養子 彦五郎 明三〇、三生、父正藏五男
 婦 文子 明四二、八生、養子彦五郎妻、富山、井内齊次郎二女

小林 庄次郎 泉屋、陶器商
 大阪府在籍
 庶子 順藏 明四三、三生、生母、京都、山口
 婦 操 明四三、二生、庶子順藏妻、大阪山下仁兵衛孫

小林 庄平 久星酒造代表取締役
 滋賀縣在籍
 母 はつ 明五一、一生、滋賀、萩田善兵衛長
 妻 喜子 明四一、九生、滋賀、藤田大吉三女、彦根高女出身

小林 省三郎 正五位勳二等、海軍少將、駐滿海軍部司令官、神奈川縣在籍
 妻 糸子 明二六、二生、東京、伏野景秀妹
 男 太郎 大八、六生、神奈川縣立一中在學
 女 綾子 大八、二生、東京家政學院本科出身
 女 紀子 大五、九生、東京家政學院本科出身

小林 拾次郎 巽商事、モーターボート商會各務監察役、機械商、東京府在籍
 妻 ムメ 明一〇、一〇生、養父彌助長女
 男 昌 明四〇、一〇生
 女 千代子 明四四、七生

小林 砂吉 正四位勳二等、陸軍法務官
 東京府在籍
 妻 みね 明一四、三三、岩手、樋口直二女
 男 喬 明三六、五生
 男 弘 明四一、三三

小林 清吉 大黒屋、料理業
 東京府在籍
 妻 みき 明三二、一〇生、埼玉、大澤幸三郎四女

君は滋賀縣人唐子普松の二男にして明治十七年三月四日を以て生れ先代彌助の養子となり同四十四年家督を相續す機械商を営み傍ら前記會社の重役を兼ね芝區第一方面委員たり家族は尙二男重治(大四、一生)三男重成(同八、一生)ありA五九七B一五三(東京市芝區濱松町二ノ四電三一八五)

小林 信次郎 藥種商
 愛知縣在籍
 妻 はる 明三、一〇生、養父長男長女
 養子 あい子 大二、七生、愛知、小林龍男二女
 君は愛知縣人原伊兵衛の二男同東三郎の弟にして文久二年五月七日を以て生れ先代はるの入夫となり明治二十七年家督を相續す藥種商を営む養妹かね(明六、六生、養父長男二女)は分家し甥長次郎(同三六、七生、養妹かね私生子)は愛知縣人中村次郎の養子となれりA五六八(名古屋市東區京町三ノ四三電東一六五五)

小林 甚助 名古屋米穀取引所取引員
 愛知縣在籍
 妻 うた 明一六、二生、愛知、柴田要助二女
 男 隆之助 明三四、一生
 女 綾 明三七、六生
 男 貞 明四〇、五生
 男 惠之助 明四一、六生、慶大高等部出身、明治藥專在學
 男 昇之助 明四二、二生、北大理學部在學
 女 富美 明四五、三三、第一市立高女出身

小林 裕美 大八、六生、第一市立高女出身
 女 敬之助 大八、六生、第一市立高女出身
 女 民 大八、六生、第一市立高女出身
 君は愛知縣人先代甚助の長男にして明治七年十月十三日を以て生れ同二十四年家督を相續し前名徳次郎を改め徳名す夙に市立名古屋商業學校を卒業し現時名古屋米穀取引所取引員たりA三四九B七六(名古屋西區鹽町三ノ三四電南三八四〇)

小林 壽美太 東洋製菓監査役、菓子卸商
 大阪府在籍
 妻 タメ 明三〇、三三、岡山、大久保卯左衛門二女
 男 健吾 大八、一〇生
 女 由子 明四四、一〇生
 女 佐嘉恵 大四、一〇生

小林 助次 東京ホテル、旅館業
 東京府在籍
 妻 よし 明二七、三三、静岡、古谷政芳妹
 男 元 大二、五生
 君は東京府人小林七兵衛の三男にして明治二十一年三月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す現に京品ホテルと稱し旅館業を営む家族は尙二男貞(大五、八生)一四、三三、二女美子(昭三、二生)三女三江子(同六、一〇生)妹むめ(明二八、五生)ありA四五一(東京市芝區高輪南町二五電高輪八七三)

小林 捨次郎 丁吟商店取締役、織物問屋業
 滋賀縣在籍
 妻 ひさ 明三三、三三、滋賀、小泉啓三妹
 君は滋賀縣人現戸主小林吟右衛門の弟にして明治二十六年十月を以て生る大正七年慶應義塾大學理財科を卒業し織物問屋業を営み現に丁吟商店取締役たり

林合名會社社員にして滋賀縣多額納税者たりしことありA二二一〇(東京市日本橋區福留町一ノ一三電浪花三〇〇〇)

君は新潟縣人小林長平の五男にして明治十六年九月を以て生れ大正八年兄長平より分れて一家を創立す明治三十六年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍少將に累進す其間海軍大學校を卒業し爾來横須賀鎮守府參謀利根風翔加賀赤城各艦長航空本部教育部長等に歴補して霞ヶ浦航空隊司令となり現職に轉ず

小林清三郎 栗林商船、芝浦運輸各務取締役
東京府在籍
妻 多津 明二五、六生、石川、士、梅五十
七長女

男 一郎 大元、一一生
君は新潟縣人小林久治の弟にして明治十四年十二月六
日を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す現時栗林
商船芝浦運輸各務取締役たり家族は尙三男修(六七、
三生)あり(東京市澁谷區代々木上原町一〇九一)

小林誠一 小林製菓所、菓子商
東京府在籍
妻 利光 昭二、一〇生
男 利光 昭二、一〇生

小林 誠一 從三位勳一等功五級、海軍大將、
軍事參議官、廣島縣土族
妻 慶應三女 一一生、廣島、士、末森
慶藏長女 明二二、八生、廣島、士、吉村彰
アヤ 三女

小林 誠一 從三位勳一等功五級、海軍大將、
軍事參議官、廣島縣土族
妻 慶應三女 一一生、廣島、士、末森
慶藏長女 明二二、八生、廣島、士、吉村彰
アヤ 三女

小林 誠一 從三位勳一等功五級、海軍大將、
軍事參議官、廣島縣土族
妻 慶應三女 一一生、廣島、士、末森
慶藏長女 明二二、八生、廣島、士、吉村彰
アヤ 三女

小林善太郎 富橋村長、兵庫縣多額納稅者、兵
庫銀行頭取、播磨電氣鐵道株式會社
長、旭木村長、兵庫縣在籍
妻 善太郎 明二六、一〇生、兵庫、小林當三
郎三女
男 善太郎 明二六、一〇生、兵庫、小林當三
郎三女

小林宗之助 正五位勳三等、海軍少將、海軍省
人事局長、長野縣在籍
妻 せつ 明二七、一一生、長野、小林益長
女 淑子 明二七、一一生、長野、小林益長
女 淑子 明二七、一一生、長野、小林益長

小林宗之助 正五位勳三等、海軍少將、海軍省
人事局長、長野縣在籍
妻 せつ 明二七、一一生、長野、小林益長
女 淑子 明二七、一一生、長野、小林益長
女 淑子 明二七、一一生、長野、小林益長

小林宗之助 正五位勳三等、海軍少將、海軍省
人事局長、長野縣在籍
妻 せつ 明二七、一一生、長野、小林益長
女 淑子 明二七、一一生、長野、小林益長
女 淑子 明二七、一一生、長野、小林益長

小林宗之助 正五位勳三等、海軍少將、海軍省
人事局長、長野縣在籍
妻 せつ 明二七、一一生、長野、小林益長
女 淑子 明二七、一一生、長野、小林益長
女 淑子 明二七、一一生、長野、小林益長

の二回に亘り國際聯盟軍船會議に隨員を命ぜらる(東
京市澁谷區原宿二ノ一七〇ノ一三電青山四七一八)

小林 惣作 兵庫縣多額納稅者、日の出、料理
業、兵庫縣在籍
妻 千代 明一〇、九生、兵庫、澤田宇市妹
明二〇、八生、福井、山田七左衛
門二男
男 千代 明四三、一一生、養子末吉妻、兵庫
澤田俊夫姉

小林 惣作 兵庫縣多額納稅者、日の出、料理
業、兵庫縣在籍
妻 千代 明一〇、九生、兵庫、澤田宇市妹
明二〇、八生、福井、山田七左衛
門二男
男 千代 明四三、一一生、養子末吉妻、兵庫
澤田俊夫姉

小林 惣作 兵庫縣多額納稅者、日の出、料理
業、兵庫縣在籍
妻 千代 明一〇、九生、兵庫、澤田宇市妹
明二〇、八生、福井、山田七左衛
門二男
男 千代 明四三、一一生、養子末吉妻、兵庫
澤田俊夫姉

小林 惣作 兵庫縣多額納稅者、日の出、料理
業、兵庫縣在籍
妻 千代 明一〇、九生、兵庫、澤田宇市妹
明二〇、八生、福井、山田七左衛
門二男
男 千代 明四三、一一生、養子末吉妻、兵庫
澤田俊夫姉

小林 惣作 兵庫縣多額納稅者、日の出、料理
業、兵庫縣在籍
妻 千代 明一〇、九生、兵庫、澤田宇市妹
明二〇、八生、福井、山田七左衛
門二男
男 千代 明四三、一一生、養子末吉妻、兵庫
澤田俊夫姉

武之助 明四二、一一生
君は東京府人先代瀧次郎の長男にして明治十一年八月
二十五日を以て生れ同三十八年家督を相続す家主たり
家族は尙二男達也(大五、一〇生)庶子勳(昭三、四生、
生母、東京、佐野すゑ)ありA三九五(東京市日本橋區
蛸塚町二ノ一四)

小林 泰一郎 勳八等功七級、沖繩縣多額納稅者
土木建築請負業、沖繩縣在籍
妻 サイ 明二二、一一生、岡山、龜井善太
郎二女
男 利雄 明四二、六生、東京醫學出身
富貴子 明四二、一一生、長男利雄妻、岡
山、片桐彌三郎四女

小林 武次郎 金牛商會取締役會長、東京株式
取引所取引員、東京府在籍
妻 鏡子 明四〇、三生、東京、本多虎吉妹
華 大、一四、三生
君は東京府人小林庄太郎の弟同虎三郎の兄にして明治
二十七年九月二十三日を以て生れ大正十三年分れて一
家を創立す同十年慶應義塾大學理財科を卒業し同年
金牛商會の設立せらるゝや推されて監査役となり後ち
取締役會長に擧げられ現在に至る尙東京株式取引所一
般取引員たり家族は尙長女たつ(六一、一〇生)三男夾
いと(同一二、六生)二男素(同一五、一〇生)三男夾
(昭三、八生)三女多基子(同五、二生)ありA八六二〇
B一四一〇(東京市麻布區本村町二二三電高輪七二三
四)

小林 武次郎 金牛商會取締役會長、東京株式
取引所取引員、東京府在籍
妻 鏡子 明四〇、三生、東京、本多虎吉妹
華 大、一四、三生
君は東京府人小林庄太郎の弟同虎三郎の兄にして明治
二十七年九月二十三日を以て生れ大正十三年分れて一
家を創立す同十年慶應義塾大學理財科を卒業し同年
金牛商會の設立せらるゝや推されて監査役となり後ち
取締役會長に擧げられ現在に至る尙東京株式取引所一
般取引員たり家族は尙長女たつ(六一、一〇生)三男夾
いと(同一二、六生)二男素(同一五、一〇生)三男夾
(昭三、八生)三女多基子(同五、二生)ありA八六二〇
B一四一〇(東京市麻布區本村町二二三電高輪七二三
四)

小林 武次郎 金牛商會取締役會長、東京株式
取引所取引員、東京府在籍
妻 鏡子 明四〇、三生、東京、本多虎吉妹
華 大、一四、三生
君は東京府人小林庄太郎の弟同虎三郎の兄にして明治
二十七年九月二十三日を以て生れ大正十三年分れて一
家を創立す同十年慶應義塾大學理財科を卒業し同年
金牛商會の設立せらるゝや推されて監査役となり後ち
取締役會長に擧げられ現在に至る尙東京株式取引所一
般取引員たり家族は尙長女たつ(六一、一〇生)三男夾
いと(同一二、六生)二男素(同一五、一〇生)三男夾
(昭三、八生)三女多基子(同五、二生)ありA八六二〇
B一四一〇(東京市麻布區本村町二二三電高輪七二三
四)

小林 武彦 大日本麥酒會社常任監査役兼監査部
長、千葉縣土族
妻 恒 明二二、九生、東京、逸見順二姉
明三三、六生、横濱正金銀行大阪
支店勤務
男 芳子 明三八、四生、長男正妻、東京、
高橋高長女
明三五、一一生、樺太工業會社員
早大出身
明四一、一一生、森永製菓會社員
明四四、七生、慶大在學

小林 武彦 大日本麥酒會社常任監査役兼監査部
長、千葉縣土族
妻 恒 明二二、九生、東京、逸見順二姉
明三三、六生、横濱正金銀行大阪
支店勤務
男 芳子 明三八、四生、長男正妻、東京、
高橋高長女
明三五、一一生、樺太工業會社員
早大出身
明四一、一一生、森永製菓會社員
明四四、七生、慶大在學

小林 武彦 大日本麥酒會社常任監査役兼監査部
長、千葉縣土族
妻 恒 明二二、九生、東京、逸見順二姉
明三三、六生、横濱正金銀行大阪
支店勤務
男 芳子 明三八、四生、長男正妻、東京、
高橋高長女
明三五、一一生、樺太工業會社員
早大出身
明四一、一一生、森永製菓會社員
明四四、七生、慶大在學

小林 武彦 大日本麥酒會社常任監査役兼監査部
長、千葉縣土族
妻 恒 明二二、九生、東京、逸見順二姉
明三三、六生、横濱正金銀行大阪
支店勤務
男 芳子 明三八、四生、長男正妻、東京、
高橋高長女
明三五、一一生、樺太工業會社員
早大出身
明四一、一一生、森永製菓會社員
明四四、七生、慶大在學

小林 辰男 正五位勳四等、理學博士、東京帝
國大學教授、航空研究所員
妻 幸 明二三、九生、兵庫、安井成吉妹
同山縣土族
君は岡山縣人小林定太郎の長男にして明治十九年八
月二十八日を以て生れ昭和六年家督を相続す大正七年
東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し同大學助
教授に任じ同九年歐米各國へ出張を命ぜらる同十三年
理學博士の學位を授けられ東京帝國大學教授に任ぜら

小林 辰雄 地主
妻 嘉永六、一一生、東京、鹽下庄兵
衛長女
助養子 明二九、六生、東京、小林安之
助三女
男 安雄 大、一三、八生

小林 辰雄 地主
妻 嘉永六、一一生、東京、鹽下庄兵
衛長女
助養子 明二九、六生、東京、小林安之
助三女
男 安雄 大、一三、八生

小林 辰雄 地主
妻 嘉永六、一一生、東京、鹽下庄兵
衛長女
助養子 明二九、六生、東京、小林安之
助三女
男 安雄 大、一三、八生

小林 辰雄 地主
妻 嘉永六、一一生、東京、鹽下庄兵
衛長女
助養子 明二九、六生、東京、小林安之
助三女
男 安雄 大、一三、八生

小林 辰藏 武州銀行、武州貯蓄銀行、埼玉酒
造各務取締役、埼玉縣在籍
妻 ケエ 慶應二、三生、埼玉、島海市平長
女
男 昇作 明二〇、六生、辯護士、法學士
明二三、三生、長男昇作妻、埼玉
秋山甚蔵四女、東京女子美術義
科出身
明三一、一一生
明三四、六生
明三九、四生
明四四、一一生、長男昇作長女
大、一八、八生、長男昇作二女
大、一六、六生、長男昇作三女
登茂枝 大、一八、一一生、長男昇作四女
孫 靜枝 大、一八、一一生、長男昇作四女

君は愛媛縣人西野聰の弟にして明治十九年八月十八日...

小林藤右衛門 きん藤ビルディング取締役、きん藤漆器商、東京府在籍...

小林藤次郎 家主、東京府在籍、慶應三、一、生、東京、今泉周造...

小林直太郎

水直、果實商、東京府在籍、明二七、一、生、東京、坂井與市妹...

小林德生

三井生命保險部仙臺支店長、島根縣土族、明二九、七、生、島根、田代岩之助...

君は島根縣土族小林豊萬の二男にして明治十九年二月...

小林德太郎 資産家、東京府在籍、明一三、一〇、生、埼玉、濱田庄吉...

小林富次郎 ライオン石鹼、小林商店各社社長、東京府在籍、明一三、一、生、新潟、馬場善十...

君は東京府人白石藤兵衛の四男にして明治七年七月二十...

小林八右衛門

山梨縣多額納税者、山梨富士井銀、明一六、一、生、山梨、長谷川源之...

小林直次

加能合同銀行常任監査役、石川縣在籍、安政四、一〇、生、伯曾父清兵衛長女...

君は新潟縣人小林喜助の四男にして明治七年四月を以...

君は愛媛縣人小林源太郎の三男にして明治二十四年六月...

小林虎之助 三井物産桑港出張所長、愛知縣在籍、萬延元、八、生、現戶主...

君は愛知縣人小林源太郎の三男にして明治二十四年六月...

小林直次

加能合同銀行常任監査役、石川縣在籍、安政四、一〇、生、伯曾父清兵衛長女...

小林直次

加能合同銀行常任監査役、石川縣在籍、安政四、一〇、生、伯曾父清兵衛長女...

君は石川縣人小林伊三郎の二男にして明治十九年四月...

及弟秀治郎(明二七、二、生、理學士)同妻千代(同三七、六、生、東京、福原修長女)あり姉はつ(同二七、二、生)...

小林直太郎 水直、果實商、東京府在籍、明二七、一、生、東京、坂井與市妹...

小林中 山梨縣多額納税者、石和銀行、東京府在籍、明二七、一、生、東京、坂井與市妹...

小林八右衛門 山梨縣多額納税者、山梨富士井銀、明一六、一、生、山梨、長谷川源之...

小林直次 加能合同銀行常任監査役、石川縣在籍、安政四、一〇、生、伯曾父清兵衛長女...

小林直太郎 水直、果實商、東京府在籍、明二七、一、生、東京、坂井與市妹...

小林中 山梨縣多額納税者、石和銀行、東京府在籍、明二七、一、生、東京、坂井與市妹...

小林八右衛門 山梨縣多額納税者、山梨富士井銀、明一六、一、生、山梨、長谷川源之...

小林直次 加能合同銀行常任監査役、石川縣在籍、安政四、一〇、生、伯曾父清兵衛長女...

横濱支店長に抜擢せらるる後前記辻紡績會社に轉じ現に其取締役たり家族は尙二男次郎(大十四、五生)あり姉梅(明二、一一生)同夫庸次郎(元治元、五生)岡山、井上清次郎(二男)は其二子を伴ひ分家し姉(明五、六生)は岡山縣人北村謙吉に同光(同一〇、四生)は同縣士族入江鼎に嫁せりA一四〇(横濱市神奈川區臺町一五電本局三〇一)

小林 松助

從四位勳三等、理學博士、東北帝國大學教授、東京帝國大學教授、理學部勤務、宮城縣在籍

妻 明二八、六生、京都、藤井永向四女、京都府立第二高女出身

女 淑子 昭三、四生

小林 道生

正四位勳二等、陸軍中將、愛知縣士族

母 安政六、三生、石川、福島タニ二

妻 秀 明一九、一一生、愛知、岩田高慶長

養子 四男治 明三八、九生、長野、赤羽甚五郎

君は愛知縣士族小林弘道の長男にして明治十年七月を以て生れ大正九年軍醫を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し直ちに名古屋松坂屋呉服店に入り同店東京營業部長上野銀座静岡各支店營業部長常務取締役を経て現時事務取締役たる外前掲各會社の重役たり家族は尙三男邦彦(昭五、七生)あり弟次郎(明二四、四生)同友三郎(同一七、二生)同富(同一三、三三)妹とら(同一六、五生)は各分家し叔父八百助(萬延元、八生)も亦同妻つじ(慶應元、四生、橋爪甚四郎三女)及其子女と共に分家し長男良雄(大六、六生)は前記保太郎の養子となり姉いの(明一六、五生)は三重縣人山崎寅藏長男善八郎に叔母たつ(文久三、一一生)は同縣人山崎寅藏之助に嫁せりA一八九〇(東京市豊島區巢鴨三ノ三電大塚三九一)

小林 彌太郎

百足屋商店社員、東京府在籍

母 明三、一一生、静岡、土、淺生藤

妻 マス 明二八、二生、東京、松岡甲子郎

小林 安右衛門

地主、東京府在籍

妻 みね 明二七、一一生、東京、杉浦三次郎四女

養子 三郎 大一一、九生、東京、小林傳治六

小林 行昌

芝浦製作所社員、東京府在籍

妻 やす 明四二、二生、武部欽一妹、三輪

男 昌一 明四〇、年生、三輪田高女出身

小林 康治

芝浦製作所社員、東京府在籍

妻 枝 明二二、二生、武部欽一妹、三輪

男 道子 明四五、七生、府立第二高女出身

小林 光政

正五位勳六等、埼玉縣書記官、内務部長、栃木縣在籍

君は栃木縣人小林長蔵の長男にして明治二十五年一月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す角和商會と稱し東京株式取引所短期貨物取引員にして東京府多額納税者に列し又前期會社の取締役として知らるA九三、八五、一五九、五(東京市日本橋區兜町二ノ二五電芝場町二〇六九)

小林 光三

池田屋、佛壇商、大阪府在籍

妻 とも 明五、七生、兵庫、鹽谷伊三郎妹

女 敏子 明二八、四生、先々代猪之助長女

小林 宗晴

東京府在籍

妻 さわ 明一九、二生、千葉、鈴木元之市

小林 明傳

從五位勳五等、判事、大阪地方裁判所判事、新潟縣在籍

妻 サダ 明二九、三生、新潟、小林林蔵長女、新潟高女出身

小林 八百吉

朝日興業代表取締役、松坂屋専務取締役、三輪商店取締役、三重縣在籍

父 庄藏 安政四、四生

小林 芳三

東京府在籍

妻 つね 明二六、三生、養父與四郎養子

小林 頼雄

正五位勳四等、辯護士、山梨縣在籍

妻 とし 明一五、九生、長野、山田二郎姉

小林 與四郎

吉田屋、白米商、東京府在籍

妻 やす 明二六、三生、養父與四郎養子

小林 頼雄

正五位勳四等、辯護士、山梨縣在籍

妻 とし 明一五、九生、長野、山田二郎姉

小林 宗晴

東京府在籍

妻 さわ 明一九、二生、千葉、鈴木元之市

小林 明傳

從五位勳五等、判事、大阪地方裁判所判事、新潟縣在籍

昭二、二生
君は高知縣人小松金三の二男にして明治十六年八月を以て生る同四十年京都帝國大學理工科大學を卒業し同大學助教に任じ大正四年理學博士の學位を受く同五年米佛及瑞西各國へ留學し歸朝後同大學教授に任じ現に理學部勤務たり家族は尙長女里子(大、二、二生)二女道子(同、三、一〇生)三女園子(同、一、一〇生)二男洋二(昭六、二生)あり(京都市左京區下鴨高木町六一)

三菱商事支店長
福岡縣士族

明三、八生、長崎、青木勝三郎

明一、一五、九生

君は福岡縣士族小松小太郎の長男にして明治二十三年一月十五日を以て生れ大正五年家督を相続す大正二年神戸高等商業學校を卒業し同年三菱合資會社に入社し本店倫敦支店に勤務し同十年三菱商事會社に轉じ大阪支店に勤務し同十五年大阪支店副社長昭和六年名古屋支店支店長同九年二月支店支店長となり今日に至る家族は尙長女美代子(大、一、三、二男)二男(昭四、六生)三男(同、七、一〇生)あり弟進(明二、二、昭四、六生)福岡縣人古賀嘉助に同婚(同三、二、六生)は同縣人久保山彌平に同婚(大、二、三、三生)も同縣人岡邦太郎の各養子となり妹正子(明三、八、三生)は同縣人三宅武次に嫁せり(紐育市三菱商事會社支店内)

從志

鹿兒島縣士族

慶應三、二生、鹿兒島、士、島

千代子

藏長女、學習院女學部出身

明二、七、一〇生、陸軍少將山口圭

大、二、一〇生

當家は小松内大臣重盛の孫高清の後にして其孫清重

大岡國編院の地頭職となり孫彌義氏と稱す後重長

の時島津氏に臣事し封を薩州吉野に移し小松氏と改稱す

帶刀清隆に至り藩の老職に任じ元治元年給御門の變に禁衛門を守護して長兵を擧げ後廢されて參與職總裁

局顧問兼外國事務局判事仰付けられ維新の鴻業を翼賛す

子清直孫帶刀相繼ぎ帶刀明治二十九年祖父の勳功に

信子(同四一、一生)は京都府人渡利源人に嫁し妹三七子(同三七、二生)は分家せりA二二三B一五二(尼崎市西本北通三ノ八一電八)

正三位勳一等、侯爵、海軍大佐、軍令部出仕、貴族院議員

北白川宮家御一門

明二、九、一〇生、公爵島津忠永

明二、九、九生

君は故大勳位陸軍大將北白川宮能久親王の第四子北白川宮能久王竹田宮恒徳王の叔父伯爵上野正雄の兄にして明治二十一年八月十二日を以て生れ同四十三年七月

情願に依り一家を創立し小松の姓を賜ひ華族に列し侯爵を授けらる同年十二月海軍少尉に任じ海軍砲術學校

同水雷學校同大學校を卒業して海軍大佐に陞り軍令部

出仕被仰付現に其職に在り其間薩摩河内宗谷鞍馬朝日

の諸艦乗組分隊長第二水雷戰隊參謀軍令部參謀五

十鈴長門各副長殿島巡洋隊各艦長等に補せらる兼に

軍事研究の爲め英國に留學し昭和二年歸朝す家族は尙

二男登久(大、一、〇、七生)長女舒子(同、一、二、七生)あり

A二二四(京都市澁谷區常盤松町一〇二電青山五)

上野正雄公伯爵島津忠永伯爵有馬頼寧伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

參照北白川宮家、竹田宮家、公島津忠永、伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

參照北白川宮家、竹田宮家、公島津忠永、伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

參照北白川宮家、竹田宮家、公島津忠永、伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

參照北白川宮家、竹田宮家、公島津忠永、伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

參照北白川宮家、竹田宮家、公島津忠永、伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

參照北白川宮家、竹田宮家、公島津忠永、伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

參照北白川宮家、竹田宮家、公島津忠永、伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

參照北白川宮家、竹田宮家、公島津忠永、伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

參照北白川宮家、竹田宮家、公島津忠永、伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

參照北白川宮家、竹田宮家、公島津忠永、伯爵

爵甘藷寺受長伯爵二荒芳徳伯爵保科正昭

依り華族に列し伯爵を授けらる先代重春は帶刀の弟にして經國銀行頭取其他諸會社の重役に就す君其後を享く君實は侯爵西郷從德男爵村上從義西郷實二の弟に當り明治十六年一月を以て生れ大正十四年選定に依り先代重春の後を相続し侯爵仰付けらるる侯爵西郷從德を継いで同四十一年農商務省海外實業講習生を命ぜられ英國及歐洲に留學同十四年米國を経て歸朝し馬政局に奉職主簿官兼主馬寮御用掛たりしも現時閑地に在り先代重春姉ハナ(明一、八、八生)は子爵脇坂安之に嫁せり(京都市澁谷區上通四ノ四一電青山八四七)

孝行

正五位勳六等、農林技術、米穀局調査課長、京都府在籍

門四女

明三、〇、四生、岡山、海野幸秀妹

純一郎、大九、二生

君は京都府人小松純爾の長男にして明治二十三年三月十一日を以て生れ同三十八年家督を相続す大正三年東京帝國大學農科大學を卒業し同七年農商務技術士に任じ同技術師に進み爾來食糧局大阪出張所長大阪米穀事務所長等を歴補し農林技術師となり東京米穀事務所長經濟更生部參事等を歴て現時前記の職に在り家族は尙長女悦子(大、一、二、二生)三男孝男(昭四、一、二、二生)同女悦子(同、六、一、一〇生)四男行雄(同、九、二、二生)ありA一五二(京都市中野區本町通五ノ一九電中野四六五)

留吉

王子製紙販賣部販賣課長兼輸出係長、東京府士族

安政六、二生、宮城、小松友輔長

明二、一、〇生

君は群馬縣人杉山卯三郎の四男にして明治十九年二月十四日を以て生れ先行はるの養子となり大正十五年家督を相続す風に加島銀行に入り明治四十二年轉じて富士製紙會社に入社上海出張所主任販賣部副部長を経て昭和四年販賣部長となり同八年王子製紙會社に合併と共に引續き同社販賣部長兼輸出係長たり(東京市杉並區高圓寺四ノ六一八電中野三四八)

博美

正五位勳五等、朝鮮總督府判事、京城覆審法院部長、高知縣士族

慶應三、五生、高知、和田耕作二

明三、九、一〇生、高知、士、前田弘長女

君は高知縣士族小松自美の長男にして明治二十四年三月月を以て生れ同四十三年家督を相続す大正四年京都帝國大學法科大學法科を卒業し同年司法官試補となり更に朝鮮總督府司法官試補に轉じ同六年同府判事に任じ海州釜山各地方法院大邱覆審法院各判事に歴補し昭和四年高等法院判事に補し同七年現職に轉ず家族は尙弟勝美(明三、八、八生)妹泰枝(同、四、一、一〇生)あり同延子(同、二、七、一〇生)は廣島縣人大阪商船會社船長伊藤善吉に同昌子(同、三、〇、一〇生)は同縣人著述家門田重雄に嫁せり(京都市大和町三ノ七八電本局二八三三)

武右衛門

勳七等功七級、富山縣多額納稅者、水橋銀行取締役、富山縣在籍

安政六、五生、富山、高田助助長女

明一、六、一〇生、富山、高井文治

君は靜岡縣人小松酒造三郎の二男にして明治十九年三月を以て生る同四十四年米國ハバロアを卒業し(東京市澁谷區新井宿一ノ二三七〇電大森一九〇二)

忠五郎

小松屋、雜穀卸商、東京府在籍

明一、九、二生、東京、養父忠五郎

長女

明一、九、一〇生

君は埼玉縣人石川忠右衛門の二男にして明治十二年八月十九日を以て生れ同二十七年小松家の養子となり後養父忠五郎の名を襲ひ前名金次郎を改む大正十年養父忠五郎より分れて一家を創立す雜穀卸商を營み小松屋と稱し知らるる家族は尙二男忠三(大、九、三、三男)正夫(同、一、一、九生)四女ふみ子(同、一、四、九生)あり長女きよ(明三、八、二生)は東京府人種谷藤藏三男兼太郎に嫁せりA一九二B一六四(京都市京橋區三ノ六ノ六電京橋一七六四)

貞

尼崎木管製作所代表社員、大日本木管工業監査役、日本紡織木管工業組合理事、木管製作業、兵庫縣在籍

明一、七、三、三、京都、關定長女

明一、七、三、三、京都、關定長女

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

倍一

正四位勳二等、第四高等學校長、長野縣在籍

明一、二、五、五、東京、高瀬瀨郷妹

明一、二、五、五、東京、高瀬瀨郷妹

君は長野縣人小松倍一の長男にして明治六年九月を以て生れ大正八年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し岐阜縣大垣中學校山口縣豊浦中學校各教諭靜岡縣掛川中學校石川縣金澤第一中學校各校長福岡縣立中學校第五高等學校教授松江第六水戸各高等學校長に任じ現時第四高等學校長たり家族は尙六女小夜子(大、一、一、六生)あり長女しづ(明三、五、四生)は靜岡縣人望月專一に嫁せり(金澤市茨木町電六三三)

已之助

地主、京都府在籍

明二、七、八、八、京都、小松多吉長女

明二、七、八、八、京都、小松多吉長女

君は高知縣人小松文太の長男にして明治十年九月十日を以て生れ同三十四年家督を相続す同三十五年東京高等工業學校を卒業し現時小松合資會社の代表社員にして兼に日本石油會社技師たり家族は尙妹はな(明二、二、五生)あり姉かの(慶應三、一、一〇生)同夫金七(文久元、八生、山形、小形市右衛門二男)は其一子に伴ひ分家し、弟金太郎(明一、九、二、二生)は其家籍に入り姉つね(同三、二生)は其一女を伴ひ弟太蔵(同、一、四、五生)同妻せき(同、二、〇、二、二生、京都、朝倉早太郎)は其一女を伴ひ各分家し叔父定吉(安政二、一、一〇生)も亦分家し妹とも

德太郎

小松代表社員、山形縣在籍

明二、一、六、六、東京、瀨島猪之丞妹

明二、一、六、六、東京、瀨島猪之丞妹

君は山形縣人小松文太の長男にして明治十年九月十日を以て生れ同三十四年家督を相続す同三十五年東京高等工業學校を卒業し現時小松合資會社の代表社員にして兼に日本石油會社技師たり家族は尙妹はな(明二、二、五生)あり姉かの(慶應三、一、一〇生)同夫金七(文久元、八生、山形、小形市右衛門二男)は其一子に伴ひ分家し、弟金太郎(明一、九、二、二生)は其家籍に入り姉つね(同三、二生)は其一女を伴ひ弟太蔵(同、一、四、五生)同妻せき(同、二、〇、二、二生、京都、朝倉早太郎)は其一女を伴ひ各分家し叔父定吉(安政二、一、一〇生)も亦分家し妹とも

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

武夫

明三、七、一〇生

君は富山縣人小松武次郎の長男にして明治十二年五月を以て生れ同二十二年家督を相続す現時水橋銀行取締役に任じ直接納稅七百二圓を納め二女タメ(明四、三、列)は富山縣人黒田義弘に嫁せり(同、一、四、五生)は同縣人藤木治郎に同婚(同、二、二、八生)は同縣人金子清太郎に嫁し弟定次郎(同、一、八、五生)同妻アヤ(同、二、八、三、三、富山、山村清秀四女)は其一子に伴ひ分家し弟武五郎(同、二、〇、二、二生)も亦分家せり(富山縣新川郡東水橋町)

學校長たりしも昭和七年之を退き同校名譽教授の稱號を授けられ今日に及ぶ(東京府北多摩郡小金井村小金井一八一)

小南又一郎

從四位勳三等、醫學博士、京都帝國大學教授、醫學部勳務、京都府在籍

妻 敏 明二〇、四生、岐阜、田口哲一郎

男 吉男 明四二、一一生

男 次夫 大元、一一生

君は京都府人小南鶴一郎の長男にして明治十六年七月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十一年京都帝國大學醫學部卒業し同大學助手助教岡山醫學科大學同大學附屬醫學部教授に歴任し大正十三年京都帝國大學教授醫學部勳務に轉じ同九年醫學博士の學位を受け同年法醫學研究の爲英佛瑞各國に留學を命ぜられ更に昭和九年三月歐米へ出張を命ぜらるる家族は尙三男光夫(大六、二生)弟金九(明二二、一一生)同妻幾奈(同二七、九生)岐阜深谷竹三郎長女)及其一男あり(京都市左京區田中岡町三八)

小峯茂之

醫學博士、帝國種痘所主任、王子醫院、小峰病院各院長、醫師、東京府在籍

妻 はる 明一七、四生、伊藤金右衛門長女

男 善茂 明四〇、一一生

女 桃 大三、三生

君は東京府人大島研三の長男にして明治十六年十一月二日を以て生れ小峰家に入り大正三年分れて一家を創立す凡に東京帝國大學醫學科大學に精神醫學を學び同十二年醫學博士の學位を授けらる現時王子醫院小峰病院各院長及前記會社の重役にして小峰研究所理事瀧野川區醫師會長たり三男春善(明四五、二生)は東京府人大島シマの養子となり長女雪子(同四三、一一生)は佐賀縣人金原種一長男種光に嫁せり(一九六九(東京市瀧野川區上中里町一五六)小石川五三三)

小峯正象

金融業、東京府在籍

妻 サク 明一五、七生、神奈川、金澤榮助長女、小峰洋紙店採取取締役

小宮市太郎

東京市向島區區會議員、地主、東京府在籍

妻 みね 明三七、八生、東京、小宮仁三郎

男 執利 昭二、七生

君は東京府人小宮市五郎の長男にして明治三十二年五月二十二日を以て生れ同四十四年家督を相續す地主にして現時東京市向島區區會議員に擧げらるる家族は尙二男健司(昭五、二生)妹あい(明四〇、一〇生)あり妹いね(同三六、八生)は東京府人横山啓三に嫁せり(四六一(東京市向島區吾妻町西一三三))

小宮悅造

正五位、醫學博士、熊本醫科大學教授、東京府在籍

妻 重 明二六、七生、東京、吉川きん孫

男 喜美 大八、一一生

女 喜 大八、一一生

君は山梨縣人小宮新藏の二男にして明治十九年十二月一日を以て生れ大正六年分れて一家を創立す同三年東京帝國大學醫學科大學醫學科を卒業し同十一年醫學博士の學位を受く同十三年熊本醫科大學教授に任ぜられ現在に至る家族は尙二女米(大一〇、八生)二男正文(同一二、四生)あり(熊本市内坪井町六〇)

小宮勝太郎

東京市荒川區區會議員、地主、東京府在籍

妻 やの 門長女

妻 あき 明一九、八生、東京、小野銀次郎

妻 幾三 明三七、五生、長女みつ夫、東京

妻 みつ 明四一、一一生、養子幾三妻

君は東京府人小宮勘太郎の長男にして明治十三年五月十八日を以て生れ大正八年家督を相續す地主にして推

小宮賢三郎

東京府在籍

妻 英治 明二〇、四生、東京、横川相姉

女 直子 明四五、二生

君は東京府人小宮吉五郎の長男にして明治十八年七月二十六日を以て生れ昭和三年家督を相續す地主たり家族は尙四男善四郎(大六、一〇生)二女サキ子(同九、三三)三女アヤ子(同一三、五生)あり繼母かね(明一五、九生、東京、高橋重養母)弟長左衛門(大五、一〇生)同次郎三郎(同八、二生)は共に分家せり(六五〇(東京市本所區横川橋三ノ三九))

小宮次郎

東京市電氣鐵道局電氣技師、技師長、東京府在籍

妻 サト 慶應元、七生、大阪、松本楚文長

妻 貞 明二一、五生、養父親文長女

妻 正智 大六、一一生、福岡、士、勝正憲

妻 三男 三男

君は福岡縣土佐佐々木加太郎の二男にして明治十三年十一月を以て生れ先代親文の養子となり大正十一年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し現時東京市電氣鐵道局電氣技師長に任ぜられ目黒蒲田電氣鐵道池上電氣鐵道各技師長を兼ね(四六一(東京市豊島區駒込五ノ九六)八電大塚四八八〇)

小宮次郎七

勳七等、東京府會議員、東京市會議員、東京府在籍

妻 かめ 明二四、四生、東京、鈴木榮次郎

妻 秀雄 明四三、一一生

女 喜久 明四四、一一生

小宮仁三郎

東京府在籍

妻 よね 明六、九生、東京、石井源太郎長

妻 作次郎 明四〇、六生

女 てつ 明二八、八生

君は東京府人小宮作兵衛の長男にして明治三年九月三十日を以て生れ同四十二年家督を相續す地主たり二女十子(明三一、八生)は東京府人酒井乙次郎長男市郎に嫁す(明三一、八生)は東京府人小宮市太郎に妹あり(同一二、八生)は同府人岩崎三郎に嫁せり(七五一(東京市向島區吾妻町西二四六))

小宮孫兵衛

東京府在籍

妻 義雄 明四九、八生、千葉、松丸賢吉養

妻 義三郎 明四五、四生

妻 榮三郎 大三、九生

君は東京府人先代新太郎の長男にして明治十九年十月八日を以て生れ昭和八年家督を相續す地主たり家族は尙四男祥安(大六、一一生)長女裕子(同九、一〇生)二女秋子(同一三、二生)あり(三七五(東京市本所區業平橋四ノ二ノ六))

小宮三保松

從三位勳二等、錦鶏間祿、神奈川縣士族、慶應元、三生、東京、士、杉山孝

妻 ヤス 明二八、三三、從五位、大藏省銀行検査官、法學士

妻 久子 明三六、五生、二男暢妻、海軍大

妻 暢 明三六、五生、二男暢妻、海軍大

君は山口縣士族小宮久左衛門の長男にして安政六年五月を以て生れ明治三十六年家督を相續す同十七年東京帝國大學法學部法律學科を卒業し同十九年歐洲に留學を命ぜらるる同二十三年檢事に任じ東京始審裁判所詰となり後貴族院審議院各書記官内閣書記官兼同法制局參事官に歴任し同二十六年官を辭し辯護士となる同二十八年一月再び仕官して檢事に任ぜられ東京控訴院大審院各檢事に歴補し同三十二年統監府參事官に轉じ尋で李

小宮信太郎

地主、東京府在籍

父 喜多郎 萬延元、九生、東京、小宮金次郎

妻 むめ 明二三、一〇生、東京、松島春吉

妻 和 明三三、一一生、長女ふみ夫、東京

妻 ふみ 明四三、八生、養子和妻

妻 ナツ 大三、六生

妻 しげ子 大八、二生

君は東京府人小宮喜多郎の長男にして明治十六年十月三日を以て生れ大正十一年家督を相續す地主たり家族は尙四男芳太郎(大一一、六生)五男進太郎(昭八、一一生)孫宗太郎(同八、八生、養子和長男)あり(五九二(東京市豊島區堀之内町三六))

小宮誠一

神奈川縣多額納稅者、小宮製服店

妻 直子 明一九、六生、戸板女學校校長青木

妻 あさ子 姉

當家は川崎市土着の商賈として顯る先代隆太郎氏に與服商を創め今日の基礎を拓けり先代隆太郎其後を承け合名會社小宮製服店を経營し當時京濱間唯一の百貨店として知らる又川崎町長郡會議員同議長同町會議員に擧げらるる君は其の長男にして明治四十二年二月十三日を以て生れ昭和八年當家十三代の家督を相續す地主たり併し合名會社小宮製服店社員にして神奈川縣多額納稅者に列し直接國稅八千五百九圓を納む家族は尙姉サネ(明三一、八生)同夫莊七(同二五、一一生)神奈

王職大官に任ぜられし後官を退き現時閑地に在り...

小宮勇三郎

三勇商店代表取締役、雜貨商

君は東京府人先代勇三郎の三男にして明治二十七年三月...

小室 一平

八木商店取締役

君は京都府人小室利七の長男にして明治十三年十一月...

小室 要

正四位勳三等、醫學博士、長崎醫科大學教授、徳島縣在籍

君は京都府人小室利七の長男にして明治十三年十一月...

君は園田實の三男にして明治十四年三月を以て生れ後...

小室 翠雲

正五位、帝國美術院會員、日本南畫院同人、邦畫家、群馬縣在籍

君は群馬縣人小室牧三郎の長男にして明治七年八月を...

小室 俊夫

三菱重工業株式會社古屋航空機製作所 發動機部設計課長、東京府在籍

君は先々代信夫より顯る信夫孫末の風雲に乗じ回天の...

小森 一郎

九木、材木商

君は東京府人小森喜兵衛の長男にして昭和二年八月を...

小森市太郎

兵庫縣在籍

君は福岡縣人小森熊太郎の弟にして明治十五年十二月...

小森喜太郎

字佐美、料理業

君は東京府人先代三藏の長男にして明治十一年十月十日...

小森 國平

土木建築請負業

君は愛知縣人與角三郎の弟にして明治二十一年八月二十四日...

會社取締役三井合名會社參事兼役員君は其長男にして...

小室 文夫

前朝日レゾール事務取締役

君は東京府人小室三吉の弟にして同俊夫の叔父なり...

小室 由三

正五位勳五等、第八高等學校教授

君は山形縣人小室由成の三男にして明治二十年七月...

川町三電四谷七〇〇

參照 西岡竹次郎、鶴岡庄七の項

小森 政之

從五位勳五等、辯護士

君は京都府人小森政之の三男にして明治十七年一月...

小森 吉郎

境川運河會社員

君は大正府人小森理三郎の長男にして萬延元年二月十日...

小森 房次郎

金物商

君は東京府人小森房次郎の長男にして明治十一年八月二十四日...

君は京都府人先代庄右衛門の二男にして明治十八年八月十七日を以て生れ大正六年家督を相続す...

小谷野 傳藏

君は埼玉縣人坂倉重平の三男にして明治十六年一月を以て生れ先代やの養子となり大正元年家督を相続す...

小屋 光雄

君は新潟縣人小柳文四郎の長男にして明治十七年七月を以て生れ大正九年家督を相続す...

小柳 喜代

君は新潟縣人小柳文四郎の長男にして明治十七年七月を以て生れ大正九年家督を相続す...

小柳 光雄

君は新潟縣人小柳文四郎の長男にして明治十七年七月を以て生れ大正九年家督を相続す...

として在任三十九年間に及びし昭和九年之を辭す曾て支那印度南洋漢洲方面及滿鮮臺灣樺太を視察せり...

小屋 良吉

君は大分縣人小屋精吉の二男にして明治十九年九月八日を以て生れ大正八年兄惣吾方より分れて一家を創立す...

小柳 寛一

君は東京府人小柳久三の長男にして明治二十二年一月を以て生れ大正十五年家督を相続す...

小柳 氣太

君は新潟縣人熊倉玄周の長男にして明治三十一年十一月を以て生れ小柳柳三郎の養子となり大正六年分れて一家を創立す...

小山 一郎

君は故華頂の重臣先代泰交の長男にして明治十七年十一月を以て生れ後家督を相続す...

に奉職し現時國學院大學慶應義塾大學各教授たり農に文學博士の學位を授けらる長女節子(明三五、七生)は宮城縣人農林省事務官横山敬教に嫁せり...

小柳 周吉

君は新潟縣人大久保周太郎の長男にして明治十四年九月二十四日を以て生れ同三十八年先代タカの養子となり昭和八年家督を相続す...

小柳 牧衛

君は新潟縣人小柳文四郎の長男にして明治十七年七月を以て生れ大正九年家督を相続す...

小柳 政一

君は新潟縣人小柳文四郎の長男にして明治十七年七月を以て生れ大正九年家督を相続す...

小山 悦之助

二十六日を以て生れ同三十二年家督を相続す地主たり家族は尙五男正雄(大一一、一、生)孫裕子(昭五、一、生)長男孫市長(同陽子)同(七、一、生)同(二、一、生)...

人加藤莊太弟武一に同サク(同三八、四生)は同縣人澁谷清五郎長男七郎に嫁せり(新潟市西大畑町)

小柳米治郎

君は新潟縣人小柳金藏の長男にして明治十九年五月十六日を以て生れ大正十年家督を相続す...

小山 一徳

君は岡山縣人現戸主小山左文二の甥にして明治十九年一月十日を以て生れる同四十四年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し...

小山 一篤

君は岡山縣人現戸主小山左文二の甥にして明治十九年一月十日を以て生れる同四十四年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し...

小山市五郎

君は東京府人小山源兵衛の二男にして明治七年十一月を以て生れ後家督を相続す...

小山 悦之助

君は新潟縣人小柳文四郎の長男にして明治十七年七月を以て生れ大正九年家督を相続す...

男 丈夫 明四三、一生
君は岡山縣人先代藤次郎の二男にして明治三十年十月二十一日を以て生れ同十二年家督を相続す同二十七年東京高等師範學校を卒業後福井縣師範學校主事母校教諭を経て陸軍士官學校教官たること多年後之れを辭し現時著述に専念し兼ねて啓明學園主として小兒兒童の教育に力を盡す家族は尙四男弘志(大一〇、一生)五男正志(同一三、一生)三女昭子(昭二、一生)及男一徳(明一九、一生)同妻喜代(同二九、一生)岡山、有森新吉長女)あり妹周(同一〇、一生)は岡山縣人野上源造に嫁せりA六五〇(東京市豊島區長崎町三ノ四一七二)啓明學園豊島區長崎町三ノ四一四一電落合長崎五三一)

小山三次郎

地主
東京府在籍
慶應二、六生、東京、平田四郎兵衛長女
妻 明三〇、三生、東京、座間元治郎

小山三郎

從四位勳三等、臺灣總督府交通局長、鐵道部改良課長兼同工務課長、東京府在籍
妻 明二二、九生、東京、柏村三千雄
男 政孝 大元、九生、九州帝國大學在學
女 保子 大元、四生、府立第三高等女學校出身

命ぜらる妹種(明二一、一生)は愛知縣人島田義治に嫁せりA一〇三(臺北市泉町一ノ一電二二)
參照 島田義治の項

小山重右衛門

九五商店社長、小諸庶民信用組合長、砂糖小麥粉味噌油商
長野縣在籍
妻 明一八、五生、長野、西澤深志姉
男 威雄 明三八、七生、九五商店取締役
女 雪子 明四三、一生、長男威雄妻、東京
男 達雄 明四二、一〇生、青山學院英文科出身

小山正之助

東洋銀行理事、名古屋銀行理事、滿洲取引所理事、名古屋銀行理事、日本大學商學部講師、東京府在籍
妻 明二二、八生、東京、士、三宅美
男 元一 大八、二生
女 榮子 大六、五生

小山千代吉

地主
東京府在籍
妻 明一六、八生、東京、岸田靜太郎
男 壽々 明三九、五生
女 若子 明四二、七生、長男壽々妻、東京
男 守太郎 明四四、一一生
女 壽江 大六、四生

小山忠兵衛

小山忠兵衛商店代表社員、賣藥化粧品商、大阪府在籍
妻 明四三、七生
男 隆子 明四三、七生

小山恒男

醫師
大阪府士族
妻 昭四、八生

女明江子(大一〇、五生)ありA二四四八(東京市本郷區駒込上富土前町一〇八電大塚五二九〇)

小山松壽

正五位勳三等、衆議院議員(愛知縣選出)、名古屋新聞社(株)社長、責任社員重役會長、長野縣在籍
妻 明一七、一〇生、岡山、士、森一兵衛
女 千鶴子 明四四、五生
女 百合子 大三、一〇生

小山介藏

從四位勳二等、陸軍少將
山口縣在籍
妻 安政五、七生、兵庫、士、渡邊均
長女 明一八、一生、山口、福田文之助

小山善五郎

吳服商
神奈川縣在籍

小山禎三

千代田生命保險(互)取締役
長野縣在籍
妻 明一七、一生、長野、佐藤尾之
男 龍太郎 明三七、一一生
女 夏子 大四、七生

小山傳治

東京建物監査役
東京府在籍
妻 明三七、二生、安田銀行員、早大
男 三郎 明三三、二生、安田銀行員、早大

小山富藏

萬富、村木商
東京府在籍

妻 キク

明三〇、九生、東京、荒井喜輔六
君は神奈川縣人草山助八の弟にして明治二十七年一月を以て生れ昭和五年先代善五郎の養子となり同七年家督を相続し前名房丸を改め與名ヲ與服商を營む家族は尙長女良子(昭五、七生)あり姉フジ(明二五、八生)は分家せりA九二二(横濱市神奈川區神奈川町二ノ四六)

小山谷藏

正五位勳四等、衆議院議員、和歌山縣選出、和歌山縣在籍
妻 明一八、四生、栃木、早川覺兵衛
長女 神奈川縣立高女出身

小山爲吉

從四位勳四等、公證人
宮城縣在籍
妻 明一九、八生、宮城、手島雄八郎

妻 三

大七、一一生
君は宮城縣人小山達五郎の二男同爲助の弟にして明治八年八月を以て生れ同三十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直ちに司法官試験となり熊本地方若松區裁判所判事に任ぜられ後宮城縣古川郡便局長となり又辯護士を開業せしが大正八年再び判事に任じ爾來小樽區裁判所判事長浦和區監督判事高崎區監督判事高崎支部長同區監督判事高崎支部長等を経て釧路地方裁判所部長となり昭和七年三月之を

妻 三

大七、一一生
君は宮城縣人小山達五郎の二男同爲助の弟にして明治八年八月を以て生れ同三十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直ちに司法官試験となり熊本地方若松區裁判所判事に任ぜられ後宮城縣古川郡便局長となり又辯護士を開業せしが大正八年再び判事に任じ爾來小樽區裁判所判事長浦和區監督判事高崎區監督判事高崎支部長同區監督判事高崎支部長等を経て釧路地方裁判所部長となり昭和七年三月之を

て生れ同四十三名家督を相續す同三十一年明治大學を卒業し同三十四年判事官試用試験に合格司法官候補となりしも同三十六年退官して辯論士特許律師を開設す大正七年更に官界に入り判事に任ぜられ札幌地方裁判所判事兼同區裁判所判事に補せらるる爾來岩内區廣田區山田區長野地方裁判所判事に補せらるる内區廣田區各裁判所判事に補せられ昭和五年各裁判所判事に轉じ現時前記の職に在り家族は尙二男通久(大六、九生)三男泰三(同九、一)四男雄四郎(同二、三)の姉妹は(明一七、四生)あり長女智恵子(同四三、六生)女子美術學校專門部出身は千葉縣人大家憲哉長男憲清に嫁せり(長崎縣壱岐郡武生水町武生水區裁判所内電一九)

久我 常通

從四位、侯爵、貴族院議員
舊公卿家
庶子 通 顯 明三六、一〇生、生母、東京、鬼頭まさ、正五位
嫡子 通 顯 明三八、四生、庶子通顯妻、東京
養子 信 成 大元、八生、京郡、久我通俊長女
庶子 通 利 大元、八生、生母、東京、鬼頭まさ

久我 通保

從三位勳四等、男爵
久我侯爵家分家
妻 シヅ 明一四、八生、山口、士、朝枝信
男 通 政 明三四、一〇生、正五位、法學士
女 通 武 明三五、九生、女子學藝院出身
女 通 禮 明四三、四生
女 通 子 大八、九生

木暮武太夫

衆議院議員(群馬縣選出)、群馬縣多額納税者、伊香保ケイブル鐵道取締役、旅備業、群馬縣在籍
妻 キヨ 慶應元、五生、群馬、士、堤金之
母 明二七、四生、群馬、井田金七妹
男 欽 一 大七、三生

當家は村上天皇の皇子其平親王の子太政大臣源房の世なり其孫關白雅實に至りて久我と稱す夫より二十三世を経て大納言敏通に至り皇室の式儀を執り徳大寺烏丸諸卿と謀り王政復古の大業を企てたりしも未だ熱せずして死す後二世を経て從一位勳一等建通に至る先代通久は其長男にして戊辰の役大和國津和野東北遊擊將軍となり各地に轉戦して功あり後陸軍省に出仕し明治十七年侯爵を授けらるる爾來元老院議員貴族院議員宮中顧問官東京府知事秩父縣總裁御所々長等に歴任し爵位勳位被付從一位勳一等に叙せらるる君は其男にして男爵北島義郎の再從兄なり明治六年二月七日を以て生れ大正十年父の隠居に依り家督を相續し爵位被付けらるる現時貴族院議員にして火曜會に屬す家族は尙孫誠通(大一五、一)生、庶子通顯長男(同美子昭六、一)生、同長女(同ます江子(同七、一)生、同二女)あり庶子通秀(明四〇、九生、生母、東京、鬼頭まさ)は

君は故從一位勳一等久我通久の男にして侯爵久我常通の弟なり明治十一年十月六日を以て生れ同二十一年一家を創立し特旨を以て華族に列し爵位を授けらるる君は從從出仕典典等に歴任す家族は尙六女英子(大一一、四生)孫政子(昭七、一〇生、長男通政長女)あり長女賢子(明三三、二)生、是東京府人松島藩に三女純子(同四三、八)生、是同府人菊本俊二に嫁し三男通忠(同四五、七)生、是分家し四男通誠(大四、一)生、是岐阜縣人森川つきの養子となり(東京市澁谷區幡ヶ谷本町二ノ三一八)
參照 侯爵久我常通侯爵久我子爵松浦清宗男爵津守通秀五十嵐佐市の項

木暮家は武田家の遺臣にして天正年間伊香保に上着し世々郷士として名あり先代武太夫伊香保鐵道組合取締役を擧げられ同温泉發展の爲めに盡す處からず藍綬褒章を賜り又明治二十三年の初期以來衆議院議員に當選すること七回に及び日清事件の功に依り御章章附銀盃を賜ひ日露事件の功に依り勳四等に叙せられ晩年病篤き時從五位に叙せらるる君は其長男にして明治二十六年二月を以て生れ大正十五年家督を相續し三井銀行に改め製菓同年慶應義塾理財科を卒業し前記各會社に入りしが之を退き家族業を繼承し傍ら前記各會社の重役にして大正十三年以來群馬縣より推されて衆議院議員に當選すること四回現に立憲政友會に屬す又國産振興委員並に關稅調査委員會委員被付けられ選ばれて伊香保温泉組合長にして群馬縣多額納税者たり家族は尙長女定子(大一一、七)生、二女甲子(同一一、一)生、三女秀子(昭二、三)生、四女勝子(同五、一)生、伯母(昭一)生、同長女(同ます江子(同七、一)生、同二女)あり(嘉永元、三生)あり叔父三郎(慶應二、二)生、是東京府

人稻波登カネの入夫となり從妹マチ(明一二、六生、伯母(昭一)生)は同府人小林縣兵衛長男莊之助に嫁し弟又勝(同三五、一)生、慶大出身)は分家し現に明治生命保險會社に勤務すA二〇〇〇B二七〇(群馬縣群馬郡伊香保町電一〇四一)
參照 稻波登三郎、井田金七の項

君は群馬縣人木村三郎の長男にして明治二十二年十一月九日を以て生れ大正六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現時前記各會社の重役にして義に郡山通運會社重役の外國通運會社郡山駐在員たりしことあり家族は尙長女喜代子(大九、一〇)生、二女和子(同三、一)生、二生あり(兵庫縣武庫郡精道村蘆屋古屋敷二三六)
參照 木村三郎の項

行に轉じ紐育に在動し大正十四年以來中央電力會社の重役たりしが同社の京濱電力會社と合併するに到り爾後京濱電力會社監査役たり又昭和九年日滿亞細亞鐵道株式會社を創立し其專務取締役就任同時に日滿亞細亞鐵道株式會社の社長を兼ねて現在に至る義に日本製鐵會社常務取締役たりしことあり家族は尙二男昭八(一一、七)生、二女小枝子(同一一、八)生、三男健昭八(八二四)
參照 木村貞長、木村貞二の項

仙臺合同運送株式會社取締役、大阪合同運送株式會社取締役
群馬縣在籍
父 三四郎 明元、八生、現戶主
妻 トヨ 明三〇、五生、東京、廣池千九郎長女

須川信用購買組合監事
群馬縣在籍
妻 たみ 明五、四生、群馬、笠井雄也姉
男 忍 一 明一四、四生
婦 ソウ 明一九、七生、長男忍一妻、東京
男 四郎 明三二、八生
孫 忠 夫 明四〇、四生、孫忠夫妻、群馬、西山昭吉三女
孫 なみ 明四四、八生、長男忍一長女
孫 恒子 大六、二生、長男忍一三女
君は群馬縣人木村三郎の長男にして安政六年九月を以て生れ明治二十二年家督を相續す同二十二年早稻田大學法政科を卒業し現時須川信用購買組合監事にして義に利根銀行取締役たり家族は尙孫君子(大一一〇、三)生、長男忍一(四女)同初江(同二二、一)生、四男四郎長女(同尚子)昭四、一〇生、同二女(三男)昭三(明二二、五)生、同妻サト(同二三、六)生、横田ノブ(私生子)は共に分家し長女とし(同二五、一〇)生、群馬縣人見城熊吉二男約治に二女しやう(同二九、三)生、は同縣人見城熊吉長男義に嫁し(同九、五)生、は同縣人信木小三郎に同ゆき(同二〇、一〇)生、は同縣人見城源造に嫁せり(群馬縣利根郡新治村須川一八)

秋田木村縣常務取締役、秋田運轉倉庫、北秋木村、船田電氣各株式會社取締役、日本アライウィッド監査役
東京府在籍
妻 鶴子 明三三、八生、東京、鹽入太輔二女、立教高女出身
男 貞 嘉 大一一、〇生
女 亮子 大四、五生
女 亮子 大六、八生
女 貞子 大八、八生
君は貴族院議員木村貞長の二男同貞一郎の弟にして明治二十二年十月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す同二年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業し現時秋田木村會社常務取締役たる外前記諸會社の重役たり家族は尙四女輪子(大一一、三)生、二女ありA一三二〇(東京市澁谷區榮樂町一〇電青山三三九七)
參照 木村貞長、木村貞一郎の項

群馬縣選出
農務、群馬縣在籍
妻 くま 明三、六生、養父三四郎四女
男 榮 雄 明二二、一〇生
女 英 明三一、一〇生
男 九郎 明四〇、二〇生
君は群馬縣人片貝清逸の三男にして明治元年八月を以て生れ先代三四郎の養子となり同十九年家督を相續し養名す同二十六年東京專門學校法政科を卒業し農務を管み郡會議員同議長同議長同議長同議長を經て大正九年以來衆議院議員に當選する事五回現に立憲民政黨に屬し義に鐵道會議員簡易生命保險積立會運用委員會委員被付列國議會同盟會議及萬國議會商會會議に列席し昭和八年九月勳四等に叙せらるる會て群馬縣農工銀行重役及上野日日新聞社長たりし事あり現時日刊上野新聞社長たり家族は尙三女秀子(大一一、四)生、四生あり養妹たけ(同一一、八)生、は群馬縣人桑原竹治郎養弟友に嫁せり(東京市四谷區南町一〇電四谷一七二)

日滿亞細亞鐵道株式會社取締役、京濱電力監査役、滿日亞細亞鐵道株式會社監査役、東京府在籍
妻 貞 長 安政六、九生、現戶主
男 百合子 大七、八生、學習院在學
君は貴族院議員木村貞長の長男にして同貞二の兄なり明治二十一年二月二十七日を以て生れ大正二年東京帝國大學法政科大學經濟學科を卒業し日本銀行より朝鮮銀行に轉じ紐育に在動し大正十四年以來中央電力會社の重役たりしが同社の京濱電力會社と合併するに到り爾後京濱電力會社監査役たり又昭和九年日滿亞細亞鐵道株式會社を創立し其專務取締役就任同時に日滿亞細亞鐵道株式會社の社長を兼ねて現在に至る義に日本製鐵會社常務取締役たりしことあり家族は尙二男昭八(一一、七)生、二女小枝子(同一一、八)生、三男健昭八(八二四)
參照 木村貞長、木村貞二の項

正三位勳一等、法學博士、錦鶏間祇儀、貴族院議員、東京府士族
妻 小百合 明四、二生、東京、士、新宮涼園妹
男 貞一郎 明二一、二生
女 滿佐子 明四三、一〇生、女子學藝院出身
君は舊鹿兒島藩士木村清生(昭一)の長男にして安政六年九月を以て生れ後家督を相續す明治十三年東京帝國大學法政學科を卒業し文部省御用掛となり同十五年國法學行財政學研究の爲獨逸に留學を命ぜられハイデルベルグ大學に於てドクトル・フランクローン・フレイムホルム博士の學位を受け更に普魯の內務文部地方廳郡市役所

生、同長女(同前子)同四、一生、同二女同久子(昭二、三生、同三女あり妹ヤス(明五、六生)は福岡縣八下澤龍吉に同ツチ(同八、九生)は同縣人古賀徳太郎に養子三千歌(同三六、一一生、崎玉、野間章三三女、跡見女學校出身)は東京府人山根吉三に嫁し弟達朗(同二、一一生)は分家せり(臺北市大正町二ノ一)

古賀 峯一 正五位勳三等功五級、海軍少將、軍令部第二部長、東京府在籍
妻 八重 長女、明三、四、三、生、東京、小林愛太郎

古賀 行倫 正三位勳二等、退職檢察官
妻 かつ 明一七、九生、静岡、市河彦三妹
男 勝 明三三、九生
男 千代松 明四二、四生
女 幸子 大五、一〇生

古賀 行倫 正三位勳二等、退職檢察官
妻 かつ 明一七、九生、静岡、市河彦三妹
男 勝 明三三、九生
男 千代松 明四二、四生
女 幸子 大五、一〇生

古賀 行義 正五位勳四等、廣島文理科大学教授、熊本縣立第一高女出身
妻 トシ 明三七、八生、熊本、吉村和七二

古賀 行義 正五位勳四等、廣島文理科大学教授、熊本縣立第一高女出身
妻 トシ 明三七、八生、熊本、吉村和七二

古賀 行倫 正三位勳二等、退職檢察官
妻 かつ 明一七、九生、静岡、市河彦三妹
男 勝 明三三、九生
男 千代松 明四二、四生
女 幸子 大五、一〇生

古賀 行倫 正三位勳二等、退職檢察官
妻 かつ 明一七、九生、静岡、市河彦三妹
男 勝 明三三、九生
男 千代松 明四二、四生
女 幸子 大五、一〇生

古島 一雄 正五位勳三等、貴族院議員、兵庫縣在籍
妻 ヤナ 明八、四生、長崎、士、品川健吉
男 一 明四〇、一一生
女 明三二、八生、福岡、榮藤仁三郎

古島 一雄 正五位勳三等、貴族院議員、兵庫縣在籍
妻 ヤナ 明八、四生、長崎、士、品川健吉
男 一 明四〇、一一生
女 明三二、八生、福岡、榮藤仁三郎

古島 安二 名古屋棧橋倉庫社長、名岐自動車道開業、東邦證券保有、住信電氣、日本自動車道、伊豆電力、新電力、長浦海園、土地各取、新電力、長浦海園、土地各取、新電力、長浦海園、土地各取

古島 安二 名古屋棧橋倉庫社長、名岐自動車道開業、東邦證券保有、住信電氣、日本自動車道、伊豆電力、新電力、長浦海園、土地各取、新電力、長浦海園、土地各取

古島 宮次郎 大正製材工業社長、土木建築請負業、東京府在籍
妻 フジノ 明二二、一一生、長崎、津山鶴藏

古島 宮次郎 大正製材工業社長、土木建築請負業、東京府在籍
妻 フジノ 明二二、一一生、長崎、津山鶴藏

古島 安二 名古屋棧橋倉庫社長、名岐自動車道開業、東邦證券保有、住信電氣、日本自動車道、伊豆電力、新電力、長浦海園、土地各取、新電力、長浦海園、土地各取

古島 安二 名古屋棧橋倉庫社長、名岐自動車道開業、東邦證券保有、住信電氣、日本自動車道、伊豆電力、新電力、長浦海園、土地各取、新電力、長浦海園、土地各取

古賀 行倫 正三位勳二等、退職檢察官
妻 かつ 明一七、九生、静岡、市河彦三妹
男 勝 明三三、九生
男 千代松 明四二、四生
女 幸子 大五、一〇生

古賀 行倫 正三位勳二等、退職檢察官
妻 かつ 明一七、九生、静岡、市河彦三妹
男 勝 明三三、九生
男 千代松 明四二、四生
女 幸子 大五、一〇生

古賀 行倫 正三位勳二等、退職檢察官
妻 かつ 明一七、九生、静岡、市河彦三妹
男 勝 明三三、九生
男 千代松 明四二、四生
女 幸子 大五、一〇生

古賀 行倫 正三位勳二等、退職檢察官
妻 かつ 明一七、九生、静岡、市河彦三妹
男 勝 明三三、九生
男 千代松 明四二、四生
女 幸子 大五、一〇生

古島 安二 名古屋棧橋倉庫社長、名岐自動車道開業、東邦證券保有、住信電氣、日本自動車道、伊豆電力、新電力、長浦海園、土地各取、新電力、長浦海園、土地各取

古島 安二 名古屋棧橋倉庫社長、名岐自動車道開業、東邦證券保有、住信電氣、日本自動車道、伊豆電力、新電力、長浦海園、土地各取、新電力、長浦海園、土地各取

古島 安二 名古屋棧橋倉庫社長、名岐自動車道開業、東邦證券保有、住信電氣、日本自動車道、伊豆電力、新電力、長浦海園、土地各取、新電力、長浦海園、土地各取

古島 安二 名古屋棧橋倉庫社長、名岐自動車道開業、東邦證券保有、住信電氣、日本自動車道、伊豆電力、新電力、長浦海園、土地各取、新電力、長浦海園、土地各取

古城 菅堂 朝鮮土地信託、東省實業、朝鮮火災海上保險各取締役、朝鮮取引所理事、朝鮮商業銀行監査役、朝鮮殖産銀行監査役、大分縣在籍
妻 貞 明一五、一〇生、父玄洲五男
男 都幾江 國分象太郎長女
男 菅也 明四四、一〇生、養子貞長男

古城 菅堂 朝鮮土地信託、東省實業、朝鮮火災海上保險各取締役、朝鮮取引所理事、朝鮮商業銀行監査役、朝鮮殖産銀行監査役、大分縣在籍
妻 貞 明一五、一〇生、父玄洲五男
男 都幾江 國分象太郎長女
男 菅也 明四四、一〇生、養子貞長男

古城 鴻一 正五位勳五等、京都高等工藝學校教授、熊本縣在籍
妻 須惠興 明二四、一〇生、熊本、士、虎口
男 鴻介 大三、二生

古城 鴻一 正五位勳五等、京都高等工藝學校教授、熊本縣在籍
妻 須惠興 明二四、一〇生、熊本、士、虎口
男 鴻介 大三、二生

古城 貞吉 東洋大学教授、文學部支那哲學文學部主任、慶應義塾大學文學部講師、熊本縣在籍
妻 竹 明一〇、三生、熊本、士、鹽津信

古城 貞吉 東洋大学教授、文學部支那哲學文學部主任、慶應義塾大學文學部講師、熊本縣在籍
妻 竹 明一〇、三生、熊本、士、鹽津信

古城 菅堂 朝鮮土地信託、東省實業、朝鮮火災海上保險各取締役、朝鮮取引所理事、朝鮮商業銀行監査役、朝鮮殖産銀行監査役、大分縣在籍
妻 貞 明一五、一〇生、父玄洲五男
男 都幾江 國分象太郎長女
男 菅也 明四四、一〇生、養子貞長男

古城 菅堂 朝鮮土地信託、東省實業、朝鮮火災海上保險各取締役、朝鮮取引所理事、朝鮮商業銀行監査役、朝鮮殖産銀行監査役、大分縣在籍
妻 貞 明一五、一〇生、父玄洲五男
男 都幾江 國分象太郎長女
男 菅也 明四四、一〇生、養子貞長男

古城 鴻一 正五位勳五等、京都高等工藝學校教授、熊本縣在籍
妻 須惠興 明二四、一〇生、熊本、士、虎口
男 鴻介 大三、二生

古城 鴻一 正五位勳五等、京都高等工藝學校教授、熊本縣在籍
妻 須惠興 明二四、一〇生、熊本、士、虎口
男 鴻介 大三、二生

古城 貞吉 東洋大学教授、文學部支那哲學文學部主任、慶應義塾大學文學部講師、熊本縣在籍
妻 竹 明一〇、三生、熊本、士、鹽津信

古城 貞吉 東洋大学教授、文學部支那哲學文學部主任、慶應義塾大學文學部講師、熊本縣在籍
妻 竹 明一〇、三生、熊本、士、鹽津信

古城 菅堂 朝鮮土地信託、東省實業、朝鮮火災海上保險各取締役、朝鮮取引所理事、朝鮮商業銀行監査役、朝鮮殖産銀行監査役、大分縣在籍
妻 貞 明一五、一〇生、父玄洲五男
男 都幾江 國分象太郎長女
男 菅也 明四四、一〇生、養子貞長男

古城 菅堂 朝鮮土地信託、東省實業、朝鮮火災海上保險各取締役、朝鮮取引所理事、朝鮮商業銀行監査役、朝鮮殖産銀行監査役、大分縣在籍
妻 貞 明一五、一〇生、父玄洲五男
男 都幾江 國分象太郎長女
男 菅也 明四四、一〇生、養子貞長男

古城 鴻一 正五位勳五等、京都高等工藝學校教授、熊本縣在籍
妻 須惠興 明二四、一〇生、熊本、士、虎口
男 鴻介 大三、二生

古城 鴻一 正五位勳五等、京都高等工藝學校教授、熊本縣在籍
妻 須惠興 明二四、一〇生、熊本、士、虎口
男 鴻介 大三、二生

古城 貞吉 東洋大学教授、文學部支那哲學文學部主任、慶應義塾大學文學部講師、熊本縣在籍
妻 竹 明一〇、三生、熊本、士、鹽津信

古城 貞吉 東洋大学教授、文學部支那哲學文學部主任、慶應義塾大學文學部講師、熊本縣在籍
妻 竹 明一〇、三生、熊本、士、鹽津信

古平金次郎 東京府在籍 妻 幸太郎 明三〇、四生、養父太藏長女...

古武彌四郎 正四位勳三等、醫學博士、大阪帝國大學教授、醫學部勤務...

古村清太郎 佐賀縣會議長、旭商事社長、南茂安村産業組合長...

古森幹枝 從三位勳二等、辯護士 廣島縣在籍 妻 重俊 明四〇、一一生、經濟學士...

古門九一郎 大阪府在籍 妻 精一郎 明一五、九生、大阪、服部孝祐二...

古門林太郎 大分縣在籍 妻 利子 明一四、四生、長野、山崎玄伸二...

古門九一郎 大阪府在籍 妻 重俊 明四〇、一一生、經濟學士...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

古門林太郎 大分縣在籍 妻 利子 明一四、四生、長野、山崎玄伸二...

古門九一郎 大阪府在籍 妻 重俊 明四〇、一一生、經濟學士...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

古平金次郎 東京府在籍 妻 幸太郎 明三〇、四生、養父太藏長女...

古武彌四郎 正四位勳三等、醫學博士、大阪帝國大學教授、醫學部勤務...

古村清太郎 佐賀縣會議長、旭商事社長、南茂安村産業組合長...

古森幹枝 從三位勳二等、辯護士 廣島縣在籍 妻 重俊 明四〇、一一生、經濟學士...

古門九一郎 大阪府在籍 妻 精一郎 明一五、九生、大阪、服部孝祐二...

古門林太郎 大分縣在籍 妻 利子 明一四、四生、長野、山崎玄伸二...

古門九一郎 大阪府在籍 妻 重俊 明四〇、一一生、經濟學士...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

古門林太郎 大分縣在籍 妻 利子 明一四、四生、長野、山崎玄伸二...

古門九一郎 大阪府在籍 妻 重俊 明四〇、一一生、經濟學士...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

兒島嘉助 大阪商工會議所議員、大阪美術俱樂部社長、書畫竹菫商...

五生、山口、士、品川(一長女)及其子女と共に分家... 參照 男爵福原邦樹、兒玉政介(乃木元智の項)

兒玉 秀雄

從二位勳一等、伯爵、貴族院議員... 妻 サワ 明一、四生、伯爵寺内壽一、妹 廣福忠康、從五位、日本郵船會社、經濟學士

兒玉 政介

正五位勳四等、奈良縣知事... 妻 ウ 明三、四生、東京、工藤警長女

兒玉 益彦

日本タンカー船務取締役、兒玉商店、海運業、鹿兒島縣在籍

兒玉 魯一

正五位勳四等、南洋廳書記官... 妻 ミサ 慶應二、二生、福岡、兒玉男三郎

兒玉 右二

衆議院議員(山口縣選出)、著述業... 妻 タケ 文化八、五生、山口、士、周布八

兒玉 龍

從三位勳三等功五級、男爵、陸軍砲兵大佐、長崎縣華族

湖龜與三郎

大阪府在籍... 妻 トミ 慶應元、五生、大阪、細見謙之助

籠手田 龍

從三位勳三等功五級、男爵、陸軍砲兵大佐、長崎縣華族

兒玉 昌平

從四位勳四等、日本車輛製造社東京支店支配人、茨城縣在籍

兒玉 弘

兒玉商店代表社員、肥料並砂糖卸商、熊本縣在籍

二女)及其子女同友雄(同一四、一〇生)同常雄(同一七六生)同國雄(同一九、九生)同八郎(同一二四、四生、滿鐵社員、工學士)同妻壽滿(同一三、一〇生、山口、山根太郎)及其子女弟九一(同一二六、八生、從五位、內務書記官、法學士)同妻幸子(同一三六、一〇生、男爵大森住一)及其子女弟(天保一四、四生)あり

兒玉 政介

正五位勳四等、奈良縣知事... 妻 ウ 明三、四生、東京、工藤警長女

兒玉 益彦

日本タンカー船務取締役、兒玉商店、海運業、鹿兒島縣在籍

兒玉 魯一

正五位勳四等、南洋廳書記官... 妻 ミサ 慶應二、二生、福岡、兒玉男三郎

兒玉 右二

衆議院議員(山口縣選出)、著述業... 妻 タケ 文化八、五生、山口、士、周布八

兒玉 龍

從三位勳三等功五級、男爵、陸軍砲兵大佐、長崎縣華族

湖龜與三郎

大阪府在籍... 妻 トミ 慶應元、五生、大阪、細見謙之助

籠手田 龍

從三位勳三等功五級、男爵、陸軍砲兵大佐、長崎縣華族

兒玉 昌平

從四位勳四等、日本車輛製造社東京支店支配人、茨城縣在籍

兒玉 弘

兒玉商店代表社員、肥料並砂糖卸商、熊本縣在籍

胡慶森

芝浦製作所取締役兼研究所長、胡慶森、神奈川縣在籍

三女)あり長女須藤子(明四〇、八生、御茶の水高女出身)は木村進に嫁せりA二八二(東京市豊島區目白町三ノ三五六五電大塚二〇四)

胡慶森

芝浦製作所取締役兼研究所長、胡慶森、神奈川縣在籍

黃金井晴正

芝浦製作所取締役兼研究所長、黃金井晴正、神奈川縣在籍

幸顯榮

勳三等、貴族院議員、臺灣總督府評議員、彰化銀行取締役、臺北商製水各社取締役、龍江信用組合長

兒玉 昌平

從四位勳四等、日本車輛製造社東京支店支配人、茨城縣在籍

兒玉 弘

兒玉商店代表社員、肥料並砂糖卸商、熊本縣在籍

湖龜與三郎

大阪府在籍... 妻 トミ 慶應元、五生、大阪、細見謙之助

籠手田 龍

從三位勳三等功五級、男爵、陸軍砲兵大佐、長崎縣華族

兒玉 昌平

從四位勳四等、日本車輛製造社東京支店支配人、茨城縣在籍

兒玉 弘

兒玉商店代表社員、肥料並砂糖卸商、熊本縣在籍

胡慶森

芝浦製作所取締役兼研究所長、胡慶森、神奈川縣在籍

二日を以て生れ大正六年兄猛生方より分れて一家を創立す明治十四年法政大學政治科を卒業し...

後藤謙三

第一銀行本店審査第一課長 兵庫縣土族 妻 明三、三三、東京、士、村井知...

君は兵庫縣土族後藤謙三の四男にして明治二十一年二月五日を以て生れ同十四年神戸高等商業學校を卒業し...

後藤源七

井筒源商店、ミシン縫商 妻 明一、二、生、岐阜、森章三郎...

君は愛知縣人先代源七の二男にして明治十五年十月を以て生れ同二十年家を相続し...

後藤幸三

名古屋商工會議所議員、名古屋鐵道、名古屋自動車製造所、大日本...

父 安太郎 安政六、一、生、現戸主 妻 はな 明二、一、生、愛知、八木平兵衛...

後藤耕造

從五位勳六等、北海道廳部長、學務部長、愛知縣在籍 妻 明三、一、生...

君は愛知縣人にして明治二十七年九月三十日を以て生れ大正八年文官高等試験に合格...

後藤しん

志美津、天賦羅商 妻 清子 明四、一、生、東京、清水久三...

君は東京府人後藤俊正の三女にして明治二十七年四月一日を以て生れ昭和八年分れて一家を創立す...

後藤昌平

從七位、後藤代表社員、醫師 妻 信子 明三、一、生、東京、齊田利右衛門...

君は東京府人後藤昌文の長男にして明治二十四年七月を以て生れ同四十一年家を相続す...

後藤省三

從四位勳三等、檢察、福島地方裁判所檢察正、岐阜縣在籍 妻 とめ 明一、五、四、生、愛知、櫻山延一郎...

君は岐阜縣人豊田勘作の養子にして明治十四年七月を以て生れ先代庄太郎の養子となり大正二年家を相続す...

後藤周藏

南洋護謄事務取締役、後藤物産會社主、貿易商、東京府在籍 妻 ナミエ 明三〇、五、生、福岡、士、戸島貞...

君は福岡縣人後藤貞治の三男にして明治十四年九月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す...

後藤周藏

南洋護謄事務取締役、後藤物産會社主、貿易商、東京府在籍 妻 ナミエ 明三〇、五、生、福岡、士、戸島貞...

君は大分縣人後藤靜の四男にして明治八年六月一日を以て生れ同三十八年家を相続す...

後藤正治

正四位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、航空研究所員、東京府在籍 妻 かく 明三〇、一〇、生、養母みね四女...

君は宮城縣人小野寺數右衛門の三男にして貴族院議員藤澤純之輔は養父に當る...

後藤城四郎

醫學博士、田端病院院長、醫師 妻 やちよ 明二、四、三、生、養父省吾長女...

君は宮城縣人小野寺數右衛門の三男にして貴族院議員藤澤純之輔は養父に當る...

後藤信治

日本活動寫眞採取役 妻 勝造 大六、五、生 妻 マサ 大三、二、生...

君は兵庫縣人後藤勝造の孫にして同鐵二郎の甥なり明治十五年五月十日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す...

後藤 進三 後藤産産會社員
 母 明一〇、二生、愛知、八木平兵衛三女
 君は愛知縣人後藤増平の三男にして明治四十一年十二月二十三日を以て生れ昭和八年慶應義塾大學法學部を卒業し現時後藤産産會社員たり家族は尙兄増平(明三三、一〇生、現戸主)あり姉ひる(同二九、六生)は山梨縣人横山正雄に同貞子(同三一、一〇生)は大阪府人櫻井義男に嫁し兄増吉(同二六、四生)同妻秋子(同三四、九生)は共に分家せりA五八九(名古屋市中區住吉町一ノ一八電中一四)

後藤 新十郎 後藤産産會事務取締役、日本ライオン土地產取締役、名古屋株式取引所取引員、愛知縣在籍
 母 明一七、一〇生、愛知、森鏡藏長
 妻 明四一、一〇生、愛知、鈴木虎之助四女
 男 光彌 昭四、三生

後藤 正逸 家主、愛知縣士族
 母 明一四、一〇生、愛知、菊地政四郎姉
 妻 眞佐 明三六、五生、愛知、後藤藤太郎養子
 男 昭雄 昭四、三生
 君は愛知縣人先代新十郎の長男同富太郎の甥にして明治三十五年七月十六日を以て生れ昭和七年家督を相続し前名幸平を改め現時名古屋株式取引所一般取引員にして前記各會社の重役たり家族は尙妹清子(大五、三生)同照香(同九、一〇生)同美香(生年月同上)あり妹富美枝(明四〇、三生)は愛知縣人内務省社會局事務官非井章に同生(同四二、一〇生)は東京府人住友銀行員法學士田中克己に嫁し同多滿枝(同四四、一〇生)東京府女子師範出身)は愛知縣人菊川菊治郎の養子となれりA三七九〇B八六八(名古屋市中區住吉町一ノ一電中一一二)

後藤 太助 三河セメント採取取締役、後藤銅器店主、銅器商、愛知縣在籍
 妻 敬子 明三一、四生、愛知、岩田房吉養子
 男 肇 大五、一〇生
 君は愛知縣人後藤太七の長男にして明治二十五年三月七日を以て生れ大正十三年家督を相続し祖業を繼承し銅器商を營み傍ら前記會社の重役たり縣下の多額納税者に列し又名古屋市會議員同參事會たりし事あり家族は尙二男勝(大七、一〇生)長女美代子(同九、九生)二女春子(同一一、五生)三男敏男(同一一、五生)四男正(昭三、九生)あり妹豊子(明二七、一〇生)は東京府人澤田竹治郎に同秋子(同二九、九生)は愛知縣人長尾淳二に嫁母たか(安政三、八生)は同縣人今井清吉に嫁せりA七二八(名古屋市中區西長町四ノ五電本局一〇一五二〇一六)

後藤 多喜藏 從四位勳四等、門司市長、東京府在籍
 妻 桃 子 明二六、三生、岩手、阿部浩二女
 男 洗 明四四、一〇生
 君は福岡縣人後藤増藏の四男にして明治十五年十一月十五日を以て生れ昭和八年明男方より分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時門司市長たり家族は尙二男潮(大八、三生)あり(門司市門司市役所内)

後藤 達也 米國貿易支配人、岡山縣在籍
 母 松野 文久三、八生、岡山、榎木虎太郎妹
 妻 貴志野 明二七、二生、岡山、榎木虎太郎長女
 男 正明 大九、二生

月二十六日を以て生れ大正三年家督を相続す家主たり家族は尙長女愛子(昭二、一〇生)二男哲雄(同六、一〇生)庶子節子(同八、八生)生母、愛知、真村富子(妹正子大二、二生)ありA四六三(名古屋市中區南伊勢町二ノ一〇電中一六三〇)

後藤 佐彦 正四位勳五等、前南海鐵道取締役、東京府士族
 妻 田 鶴 明二二、一〇生、東京、池田保兄四女
 男 英 夫 大一一、〇生
 女 純 子 大六、三生

後藤 清文 名古屋通信社、通信廣告取扱業、愛知縣在籍
 妻 兼 平 安政二、二〇生、岐阜、紀岡善吉三女
 母 安政四、五生、先代兼治三女
 妻 壽々子 大五、三生、愛知、松波盛治二女
 君は岐阜縣人後藤兼平の孫にして明治四十三年六月を以て生れる名古屋通信社と稱し通信廣告取扱業を營む家族は尙姉とし(明四一、九生)妹佳那(大二、二〇生)ありA六三四(名古屋市中區富士塚町一ノ二電東二九七)

後藤 清郎 岩手日報社理事兼主筆、岩手縣在籍
 妻 夕 子 明三三、一〇生、鹿兒島、村原兼雄妹、三輪田高女出身
 男 力 大一一、〇生
 君は岩手縣人後藤直助の三男にして黒部鐵道會社取締役役後藤清造の弟なり明治二十二年十一月二十一日を以て生れる大正六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し翌七年報知新聞社に入り以て木鐸界に投ず爾來大阪

後藤 忠次郎 東京市瀧野川區會議員、地主、東京府在籍
 妻 常 吉 明元、三生、現戸主
 男 常 久 大九、一〇生
 女 美智子 大六、一〇生
 君は東京府人加藤竹次郎の四男にして明治二十三年三月十六日を以て生れ大正二年後藤常吉の養子となる地主たり現に東京市瀧野川區會議員に擧げらるる家族は尙三女悦子(大一一、五生)ありA四四七(東京市瀧野川區田端町一〇電小石川六三六)

後藤 忠治郎 高島屋飯田、關西染工場各取締役、住江織物監査役、京都府在籍
 妻 健 一 明三六、一〇生
 男 多滿子 明四〇、四生、長男健一妻、京都
 男 敏 雄 明四〇、三生
 男 仲 三 明四四、二生
 男 律 三 大二、六生
 女 備 三 大三、七生

後藤 恒太郎 角高株式店、名古屋株式取引所取引員、愛知縣在籍
 妻 ひ 子 明二二、三生、愛知、村瀬しづ妹
 君は愛知縣人後藤長右衛門の長男にして明治十二年四月四日を以て生れ大正三年家督を相続す現時名古屋株式取引所短期取引員にして角高株式店と稱す義に鳴神土地會社監査役たりし事ありA九三九B三三二(名古屋市中區南伊勢町二ノ二電中一六二二)

後藤 誠一 後藤産産婦人科院、醫師、愛知縣在籍
 妻 一 子 明一三、一〇生、大阪、村上武兵衛二女
 男 壽 明四一、二〇生
 女 タカ子 明三九、六生
 女 シゲ 明四二、四生
 男 直 明四五、八生
 男 和 弘 大二、八生
 君は愛知縣人後藤恭造の長男にして明治十年十二月五日を以て生れ同三十四年家督を相続す醫師にして後藤産産科院を經營す家族は尙九男成明(大一一、八生)弟達(明一九、五生)同妻す(同二七、七生、愛知、森五三郎二女)及其子女ありA一〇一一(名古屋市中區武平町五ノ一電東四九九)

後藤 績 共同毛織代表取締役、後藤毛織株式會社取締役、東京府在籍
 妻 愛 子 明二八、六生、故貴族院議員和田維四郎三女、學習院女學部出身
 男 眞 固 大一一、二〇生
 女 逸 子 大八、五生
 君は元兵庫縣網干町の舊家なりしが先代與平治に至り江戸に轉住す先代想作は明治八年故森有禮の清國全權公使として赴任するや伴はれて北京に赴き米人ハリーントンに師事して毛織染色學を修む歸朝後府下大井町に毛織工場を設立し偶々日清日露の役に際會するや軍需品を製造し巨額の利を得ず後營業を株式組織に改め毛織界に貢獻する處少から晩年に至り縁故を以て生れ昭和四年家督を相続す現に英國リノ大學を卒業し現時前記各會社の重役たり弟藤五郎(明三七、六生、後藤毛織會社取締役、後藤藤五郎商店主)同廣

後藤 長左衛門 伊勢屋、藥種商、東京府在籍
 妻 雅 明四四、四生、東京、細田安兵衛四女、川村女學院出身
 君は東京府人後藤長左衛門の三男にして明治四十二年三月を以て生れ兄長左衛門の跡を承け家督を相続し前名錦を改め現時祖業を繼承し伊勢屋と稱す家族は尙長女敬子(昭八、一〇生)ありA二三四八(東京市日本橋區本町二ノ七電日本橋一八〇二)

後藤 常吉 地主、東京府在籍
 妻 忠次郎 明二三、三生
 女 美 子 明四三、八生
 男 峯 雄 大三、四生
 女 美 惠子 大六、八生
 君は東京府人矢島秋右衛門の二男にして明治元年三月五日を以て生れ同十三年先代常吉の養子となり同十九年家督を相続す地主たりA一六五二(東京市瀧野川區田端町一〇電小石川六三六)

